

Historical Library of Matsue City 13

March 2020

MATSUE SHISHI KENKYU No.11 Research of Matsue City's History

- Achievements and issues of the Matsue City History compilation project INOUE Hiroshi (1)
Oto and garanto in Izumo region KITAMURA Riko (5)
Survey on the distribution of Stone with carved seal in Matsue Castle walls (1) – East stone wall of Naka Kuruwa – OKAZAKI Yujiro • NORIOKA Minoru • IITUKA Yasuyuki • TOKUNAGA Takashi (27)
Excavation Survey of Historic Site Matsue Castle (3) – Honmaru Dokou – OKAZAKI Yujiro (37)
History, structure and the materials of the stone wall beneath Tsukimi Yagura, Matsue Castle TOKUNAGA Takashi • SAWADA Yoshihiro • SHINGU Atsuhiro (51)
A Catalog in “Gunson Maps and Region maps” “History of Matsue City” – Following survey after the interim report – OYA Yukio • UESUGI Kazuo (65)
About the Gorinto of attributed Sasaki Takatsuna that is located in Matsue • Zenkoji OKAZAKI Yujiro • NISHIO Katsumi • INATA Makoto • KINOSHITA Makoto • HIGUCHI Hideyuki (81)
Examination and Plan to prepare of Matsue City Archives Historical Sources Compilation Section (93)
History of Matsue City History Compilation Project
– Main activities during the entire period of the Project, April 2007 – March 2019 Historical Sources Compilation Section (117)

松 江 市
Matsue City

Suetsugu, Matsue-city, Shimane-pre, Japan

ISBN978-4-904911-54-9
C3321 ¥1500E

松江市
定価（本体1500円【税別】）



松江市歴史叢書
13

Historical Library of Matsue City

松江市歴史叢書13

2020年3月

松江市史研究 11号

- 『松江市史』編纂事業の成果と課題 松江市史編集委員会委員長 井上寛司 (1)
出雲地方における御頭・伽藍頭 – オコナイ系行事の検討 – 喜多村理子 (5)
松江城の石垣刻印分布調査について (1) – 中曲輪東面石垣 – 岡崎雄二郎・乗岡 実・飯塚康行・徳永 隆 (27)
史跡松江城の発掘調査 (3) – 本丸土坑 – 岡崎雄二郎 (37)
松江城月見櫓下石垣と石材について 徳永 隆・澤田順弘・新宮敦弘 (51)
『松江市史』史料編 11「絵図・地図」の「郡村図・地籍図」目録
– 中間報告以降の調査を受けて – 大矢幸雄・上杉和央 (65)
松江・善光寺に所在する伝佐々木高綱五輪塔について 岡崎雄二郎・西尾克己・稻田 信・木下 誠・樋口英行 (81)
松江市文書館（仮称）の検討と整備構想 史料編纂課 (93)
松江市史編纂事業のあゆみ
– 市史編纂全期間における主な活動 (H19.4.1 ~ R2.3.31) 史料編纂課 (117)



「出雲國島根郡六十五区美保関図面」(鶴鶴修一家蔵)(部分)

松江市

松 江 市

は　じ　め　に

松江市では、平成19年（2007）から始まった「松江開府400年祭」を契機に、「松江市史の編纂」「松江城国宝化推進室の設置」「松江歴史館の開館」など、歴史史料の調査研究体制を整えてきました。「松江城天守の国宝指定」や、国宝指定の決め手となった「祈祷札の発見」は目に見える大きな成果ですが、その他にも、『松江市史』の計画的な出版を含め、松江市域の歴史に関する調査研究が多くの研究者と連携して進められ、その成果は『松江市歴史叢書（市史研究）』など、各種の出版物や市史講座などで逐次紹介されてきました。

松江市史編纂事業を通して明らかのように、松江市域の最大の特徴は、古代から現代にいたるまで、出雲地域、島根県の政治権力の中枢が置かれた場所ということであり、そのため、松江市域には松江城をはじめ、まだまだ驚くほどの貴重な歴史史料が残されています。

松江市史の出版は、当初の計画をほぼ予定通り達成し今年度で終了しますが、松江市では、これまでどおり地域に埋もれている貴重な史料、松江市保管の歴史的公文書など、松江市域の歴史史料の調査・研究を引き続き進めてまいりたいと思います。

さて、今号では市史編纂事業を終えるにあたり、市史編纂事業の成果と課題を総括し、市史編纂事業の継続機能をもつ松江市文書館（仮称）の整備検討の経過、松江市史編纂事業のあゆみ（全期間における主な活動）を紹介しました。また、自然環境、絵図・地図、松江城、民俗、石造物に関する研究成果を掲載しています。

今後とも、この「歴史叢書」に対し、多くの地域史研究者のご参加をいただくことで、松江の歴史が一層明らかになるとともに、その成果が未来に向かって歩む人々の生き様に大きな示唆を与えてくれることを願ってやみません。

2020年3月

松江市長 松浦正敬

松江市史編纂体制図

役割		役割									
区分	編集委員会	市史編纂全般に関わる基本的事項の協議					市史編纂の成果を市民に還元していく事項の協議				
編集委員会	・市史全体の編集 ・必要な史料(資料)の調査・整理 ・市史各巻の編集	・住民、行政、専門研究者、専門研究者で構成する。	・田坂郁夫	◎ 藤岡大拙	・安部登	・乾隆明	・引野道生	委員	・安部巳園枝	・川島英美子	・萬谷典子
編集委員会	・必要な史料(資料)の調査・整理 ・市史各巻の編集	・高安克己	・田坂郁夫	◎ 大日方克己 ・佐藤信 ・西尾克己	○ 井上寛司	・小林准士	・竹永三男	・大矢幸雄	・西尾克己	・喜多村正	
編集委員会	・必要な史料(資料)の調査・整理 ・市史各巻の編集	・高安克己	・田坂郁夫	◎ 大日方克己 ・佐藤信 ・西尾克己	○ 井上寛司	○ 小林准士 ・岸本寛 ・鳥谷智文 ・東谷智 ・三宅正浩 ・渡辺浩一	・竹永三男	・大矢幸雄	・西尾克己	・喜多村正	
部会	・編纂事業の具体的な内容企画・立案 ・各部会の部会長で構成する。	・田坂郁夫	・勝部昭	○ 井上寛司	○ 小林准士	・竹永三男	・大矢幸雄	・西尾克己	・喜多村正		
部会	・市史各巻の内容を検討 ・必要な史料(資料)の調査・整理 ・市史各巻の編集	・田坂郁夫	【自然環境】	【原始古代史】	【中世史】	【近現代史】	【絵図・地図】	【松江城】	【民俗】		
部会	・市史各巻の内容を検討 ・必要な史料(資料)の調査・整理 ・市史各巻の編集	・田坂郁夫	◎ 藤岡大拙	◎ 井上寛司 《考古専門部会》 ○ 澤田順弘 ・高安克己 ・小暮哲也 ○ 田坂郁夫 ○ 佐藤仁志	○ 井上寛司 ・西尾克己 ・丹羽野裕 ・平石光 ○ 大日方克己 ・佐藤信 ・平石光 ・野々村安浩 ・森田喜久男	○ 小林准士 ・岸本寛 ・鳥谷智文 ・東谷智 ・原慶三 ・山田康弘 ・山田吉雄 ・宇喜多専四郎 ・梶山美果子 ・多久田友秀 ・佐々木倫朗 ・西島太郎 ・石田俊	◎ 大日方克己 ○ 伊藤康宏 ○ 居石正和 ○ 龍川泰治 ○ 鬼嶋淳 ○ 渡辺浩一 ・伊藤昭弘 ・宇野田尚哉 ・梶山美果子 ・多久田友秀 ・佐々木倫朗 ・西島太郎 ・石田俊	◎ 大矢幸雄 ○ 伊藤康宏 ○ 居石正和 ○ 龍川泰治 ○ 鬼嶋淳 ○ 渡辺浩一 ・伊藤昭弘 ・宇野田尚哉 ・梶山美果子 ・多久田友秀 ・佐々木倫朗 ・西島太郎 ・石田俊	◎ 大矢幸雄 ○ 川村博忠 ・高安克己 ・上杉和央 ・鬼嶋淳 ・乾隆明 ・内田融 ・阿部志朗 ・安高尚穂	◎ 西尾克己 《城郭史G》 ○ 中井均 ・松谷信裕 ・山上雅弘 ・先山徹 ・堀田浩之 ・岡崎進二郎 ・『文獻』歴史地誌G ○ 和田嘉有 ・渡辺理絵 ・堀田浩之 ・足立正智 ○ 河原莊一郎 ・渡邊正巳 ・伊藤孝一 ・西島太郎 ・安高尚穂 ・中野茂夫 ・渋川真一 ・花谷浩 ・佐々木倫朗 ・大矢幸雄	
執筆者	※市史各巻の執筆を行ったため、 部会の専門委員と部分執筆を行う執筆者で構成する。 ※市史各巻の執筆を行ったため、 部会の専門委員と部分執筆を行う執筆者で構成する。 ※市史各巻の執筆を行ったため、 部会の専門委員と部分執筆を行う執筆者で構成する。	・田坂郁夫	・徳岡隆夫 ・入月俊明 ・三瓶良和 ・古川寛子 ・会下和宏 ・渡邊正巳 ・谷永 守 ・金森弘樹 ・桑原弘道 ・桑原正樹 ・淀江賢一郎 ・松田隆嗣 ・尾原和夫 ・戸田謙史 ・山口勝秀 ・山内生 ・宮崎慶子 ・井上雅仁 ・斎藤浩二	・池淵後一 ・松尾光晶 ・横田修一郎 ・林広樹 ・酒井哲弥 ・田中秀典 ・新宮敦弘 ・山根克彦 ・森 茂見 ・越川後樹 ・岩田貴之 ・大浜洋治 ・林 成多 ・前田泰生 ・桑原友春 ・富川康之 ・柳浦正夫 ・野津貴章 ・清家 泰 ・河原莊一郎 ・斎藤浩二	・伊藤康宏 ・森本幾子 ・要木純一 ・山根正明 ・中野賢治 ・下房俊一 ・山根克彦 ・森 茂見 ・桑原弘道 ・桑原正樹 ・淀江賢一郎 ・松田隆嗣 ・尾原和夫 ・戸田謙史 ・山口勝秀 ・山内生 ・宮崎慶子 ・井上雅仁 ・斎藤浩二	・矢野健太郎 ・内田融 ・奥野千鶴 ・廣瀬清志 ・中安恵一 ・豊一 ・原一 ・常松隆嗣 ・仲野義文 ・藤原進高 ・伊藤孝一 ・西島太郎 ・安高尚穂 ・中野茂夫 ・渋川真一 ・花谷浩 ・佐々木倫朗 ・大矢幸雄	・山谷明後 ・松下孝昭 ・大矢幸雄 ・板垣貴志 ・内田和義 ・井口隆史 ・谷口憲治 ・中間由紀子 ・保永利 ・中野茂夫 ・工藤泰子 ・勝部昭 ・喜多村理子	・西島太郎 ・安高尚穂 ・中野茂夫 ・渋川真一 ・花谷浩 ・佐々木倫朗 ・大矢幸雄			
専門部会	・市史編纂事業の事務的統括 ・編集委員等専門研究者の支援 ・市、付帯出版物の作成・出版 4. 文化運動の推進(講座やシンポジウムなど)	（松江市職員、スポーツ財團職員は未掲載）	43	13	11	21	24	10	22	12	

『松江市史』編纂事業の成果と課題

松江市史編集委員会委員長 井上寛司

1. はじめに

松江藩の開府400年及び松江市政120周年を記念して、2009年度から10年間の予定で進められてきた『松江市史』編纂事業は、2019年度末を以て無事終了することとなった。

本事業で得た成果をより豊かなものとし、そしてそれらをより有効に今後に活かしていくためにも、本事業が担った意義・成果と今後に残された課題を明確にしておくことは極めて重要だと考えられる。

編集委員会での議論を踏まえながら、私なりの理解に基づいて若干の総括を試みることとしたい。

2. 『松江市史』編纂事業の意義と成果

主な論点として次の10点余りを指摘することができよう。

1. 厳しい財政状況の中にあって、松江市長を始めとする松江市当局や市民の皆さまのご理解とご支援により、通史編5巻、史料編11巻、別編2巻、計18巻という大部な市史の編纂が可能となったこと。

「何のために、どのような市史を作るのか」という、市史編纂の意義と目的については、行政・市民と研究者の3者による事前の協議（「松江市史検討委員会」答申）で確認されたところであるが、行政当局が真摯にその趣旨を受け止め、実行に移すよう努められ、また市民の皆さまも温かくそれを見守り、ご支援いただいたことで、本事業が軌道に乗り、今日を迎えるに至った。関係各位のご理解とご尽力に改めて深く敬意と感謝の意を表したい。

2. 当初の松江市当局や市民への約束通りに、予定された計画を完遂する運びとなったこと。

子細に見ると、主として財政的な事情から計画の一部を変更したところも認められるが（当初計画した19巻の内、指定文化財・建造物などの史料編1巻を削減し、あるいは2018年度終了予定を1年遅らせたことなど）、基本的には当初予定した通りに事業を終了する運びになったと評価できる。これは、各専門部会の部会長を初めとする編集・執筆委員や編纂課職員の皆さまのご協力とご努力の賜物であり、改めて深く感謝申し上げたい。

3. 島根県における初めての本格的な自治体史が完成する運びとなったこと。

ここにいう「本格的な自治体史」とは、次のような諸条件を整えたものをいう。①松江市など当該地域内の悉皆調査と全国的な視野に立った史料の収集活動を踏まえたものであること。②地域住民の目線に立って、地域の側から日本全体や世界を捉え返すとともに、その中に地域を位置付け、地域の持つ全体的な特徴を明確にすること。③刊行は、通史編のみならず、その根拠となる史料をまとめた史料編とセットをなすものであること。こうした条件を備えた島根県内の自治体史としては『宍道町史』（通史編2冊、史料編1冊、史料目録2冊）があり、『松江市史』はそれに次ぐものであるが、旧郡域を超える文字通り本格的で大規模な自治体史としては『松江市史』が最初だと評価できる。

4. 松江市域内の悉皆的な史料調査によって、多数の新出文書を含む、膨大な文書（絵図等を含む）の存在が確認され、また全国的な視野に立った調査によって、これまた膨大な数の松江・島根地域関係史料（同上）が収集されたこと。

新たに発見された史料の中には、市の文化財の指定を受けたものや松江城国宝化のための決め手となるものなど、貴重なものも多数含まれており、松江市の文化財行政を大きく前進させる重要な役割を担

うことにもなった。

5. 本事業を推進するために、東北から九州に至る、約180名にも及ぶ全国の研究者に編集委員・専門部会委員・執筆委員などとしてご参加いただき、学術的にも高いレベルの市史編纂を行うことが可能となつたこと。

こうした全国的な規模での各分野の専門研究者とのネットワークの構築は、今後の松江市にとって極めて重要な意味をもつもので、大きな財産でもあると評価することができよう。

6. 以上（とくに3と4）の結果として、島根・松江地域史研究全体のレベルが大きく底上げされ、前進したと評価できること。

とりわけそれが顕著なのは近世史、及び松江城、絵図・地図などの分野だということができよう。

7. 市史の編纂過程を通じて、原始・古代・中世・近世・近現代の各時代、及びそれら全体を通じての松江市域の持つ歴史的な特徴や重要性が明確となってきたこと。

完成された『松江市史』は、「国際文化観光都市」の名に恥じない、その内容を知る格好の案内書としての位置を占めることになったということができよう。

8. 市史の本体のみならず、多様な付帯出版物や、140回に及ぶ市史講座の定期的開催やシンポジウム、松江市史ウェブサイトの松江市史PLUS・松江市史編纂コラムを始めとする多様な機会・媒体を通して、市史編纂の過程で得られた研究の成果を広く、分かりやすく市民に還元するよう努め、成果をおさめることができたこと。

9. その結果、本事業の過程を通して、松江市民や島根県民の松江市の歴史に対する興味・関心が大きな高まりを見せ、また松江市に対する愛着も大きな広がりと深まりを見せたと考えられること。

10. 本事業の終了に当たっては、この間に収集されてきた歴史文書と、行政機関などで保管されている現用文書とを合わせて整理・保存・活用するための施設として、新たに「松江市文書館（仮称）」を設立すること、併せてそこでは市史編纂事業を新たな形で継承・発展させていくことが検討され、「松江市文書館（仮称）整備構想」（本紙93ページ以下参照）が策定されることで、将来への展望と具体的な活動内容・方向性が明確なものとなつたこと。

11. 以上のような、本事業全体を成功に導く要因の1つとして、各専門部会の部会長を始めとする編集・執筆委員の皆さまの積極的な本事業へご協力とともに、その活動を下支えする、しっかりととした編纂室体制が整えられ、その機能が最大限に発揮されたこと。

一般的にいって、自治体史の編纂室は次のような3つの機能や側面を合わせ持つことが重要と考えられる。①専門的な知識と技術を持って編纂事業を支え、推進する研究補助的な機能と役割。②市民・地域住民の種々の意見や要望をくみ上げ、これを編纂事業に反映する、いわば市民の代表、ないし窓口としての役割。③市民・研究者と行政当局三者間の日常的な連絡・調整や事務的処理、あるいは情報の収集・整理・発信などを含め、編纂事業全体の効果的でスムーズな進展を推進する、編纂事務局としての機能と側面。松江市の場合、宍道町での経験や教訓を活かすことによってこれに関わる高い到達点を示したことは、全国的にも大いに注目されるところといってよいであろう。

12. 以上に指摘した全体が、島根県における自治体史編纂の1つのモデルケースというべきものとして、ここに蓄積されたノウハウが今後島根県史や市町村史などの自治体史編纂を進めていく際の、かけがえのない重要な共有財産となっていくのは疑いないところと考えられること。

3. 今後に残された課題と留意点

この点において、まず何より重要なことは、最終年度を迎えた本事業を滞りなく完遂するよう努める

ことにある。同時に、本事業終了後の活動内容を見据え、それに向けた準備を進めるよう心懸けることも重要である。

今後の活動という点では、とくに次の4点が重要だといえよう。

その第1は、行政と専門家とで協議・検討を進めた「松江市文書館（仮称）」の設立を間違いなく実現すること、そのためにも設立（市庁舎の建て替えとの関連もあって、具体的な内容は現状ではなお未定）と運用に向けた諸準備を滞りなく進めることにある。

諸準備という点では、とくに次の点が重要となろう。
①松江市史編纂事業が終了する前（2019年度中）に、歴史文書と現用文書の整理・保存・活用という、文書館の設立を念頭に置いた新しい組織についての検討を進め、文書館の設立にスムーズに移行できるよう、体勢を整えること。
②中・長期的な展望に立ちつつも、市庁舎建て替えまでの当面の間、緊急避難的に仮の中間書庫を設けるなどして現用文書と歴史文書の保存・管理に遺漏がないよう努めること。とくに、市庁舎建て替えにともなう現用文書の移動の間に、その所在が分からなくなる危険性も高まると予測されるところから、それを回避するよう努めることはとりわけ重要となろう。
③総務部など関係部署とも連携しながら、文書館の設立に向けた条例や諸規程の制定に取り組むこと。
④文書保存・廃棄の選択基準や選択方法などについての検討を進めること。
⑤編纂課職員のスキルという点でも、アーキビストの資格取得や必要な研修の受講など、文書館の設立に対応できる条件を整えるよう努めること。

第2に、新設文書館の今ひとつ重要な任務として市史編纂事業の継承と新たな形での発展があることを踏まえ、その具体化に向けた取り組みを進めることも重要である。そしてこの点では、とくに次のこと留意しておく必要であろう。

(1) 松江市域内の悉皆的史料調査（必要に応じて島根県全域及び全国にも対象を広げる）は未だ道半ばであり、引き続き系統的で自覺的な作業を進めていく必要がある。この表記は、前項（意義と成果）第3点と矛盾しているようであるが、古代・中世を除く近世・近現代史、とりわけ近世史分野に関しては、残念ながら未だ初步的な段階に留まっていると考えざるを得ない。加えて、急激な過疎化と社会全体の流動化の進行の中で、失われゆく歴史資料は跡を絶たず、早急の対応が強く求められている。また、近世・近現代史分野の史料に関しては、史料編としての取りまとめ（解読と活字化）が、同じく大きく立ち後れおり、この点の克服も早急に取り組むべき重要な課題といえる。

(2) これらの新たに収集された史料を用いて、松江地域のさらなる歴史分析（調査・研究）を進めていくことも重要である。そのためにも、客員研究員制度を新設するなどして、市史編纂事業を通して構築された全国の研究者とのネットワークを活かしていくよう努めることも重要となろう。

(3) 2019年度末を以て市史の本体は完成する運びとなったが、その内容を分かりやすく市民に伝えるという点では、未だ多くの課題が残されたままとなっていて、早急にその具体化と実行に努める必要がある。そのため、市史の内容をテーマごとに分かりやすく読み解いた「ふるさと文庫」を始めとする多様な付帯出版物や、同じく多用な形での副読本、あるいは市史の全体を取りまとめた「松江地域史事典」の編纂なども検討の必要があろう。しかし、それらと並んで、あるいはそれ以上に重要だと考えられるのは、市史の内容そのものをより分かりやすく伝える独自の方法を編み出していくことにある。その1つは、市史そのものを用いた学習会で、執筆者によるより踏み込んだ記述内容の説明や、市民の皆さんからの質問に答える形での市史の読み込みなど、独自の新たな方向を追求していくことが求められるであろう。それは、これまで行ってきた「松江市史講座」を新設の「松江市文書館（仮称）」に相応しい形に衣替えし、新たな形で再出発を図っていくこととも密接に連動し合っている。

(4) 以上に指摘した、新設文書館での種々の取り組みは、いずれも「市民・地域住民こそが地域史学

習の主体」との理念に基づいて進められるもので、その理念を目に見える形で具体化していくことも重要となる。上述した「『松江市史』を読む会」を始めとする多様な学習サークルやボランティア活動の組織化あるいはレファレンス機能の強化など、市民・住民への直接的な学習支援体制の構築が求められるであろう。

第3に、新設の「松江市文書館（仮称）」が既存の松江歴史館や松江市立図書館・松江市まちづくり文化財課（埋蔵文化財調査室を含む）・松江城調査研究室・各種地域資料館、あるいは島根県立古代出雲歴史博物館・島根県古代文化センター・島根県埋蔵文化財調査センター・島根県立図書館（郷土資料室）・島根県公文書センターなどとそれぞれどのように機能を分担し、連携し合ってくのか、この点を明確にするよう努めていくことも重要である。また、「松江市文書館（仮称）」は高度で専門的な知識と技術を持つ職員の配置を不可欠とすることに鑑みるならば、将来的には上記以外の島根県や県内他市の専門職員との人的交流なども視野に入れた柔軟な対応なども必要となってくるであろう。

最後に、前項（意義と成果）の最後に指摘したこととも関わって、10年余に及ぶ松江市史編纂事業の全体を記録に止め、事業内容と成果を他の自治体史編纂事業との比較の中で検証しうる材料として全国に提供するとともに、市史編纂事業のノウハウが島根県全体の共有財産となるよう、冊子にまとめておくことも重要である。『宍道町史』の編纂後に取りまとめられた『プロジェクト『宍道町史』をつかった人々と支えた人々』（2005年3月）は、その重要な参考となろう。

（いのうえ ひろし 島根大学名誉教授）

出雲地方における御頭・伽藍頭

—オコナイ系行事の検討—

喜多村理子

1. はじめに

近畿地方、とくに滋賀県の各地では、正月から3月にかけて地域住民が大餅や造花、野菜の生御膳などの特別な供物を堂宇に供えて地域の安全と五穀豊穣を祈念する行事が行われる。これらの行事は各地で様々な名称で呼ばれるものの、オコナイと呼ぶことが多く、民俗学ではこれらの行事をオコナイと総称している。オコナイについて、日本民俗大辞典には「村内の豊作・大漁・安全などを祈願して1~3月に行われる行事。行とも書く。籠や順番で決められた頭屋・頭人を中心に、巨大な鏡餅や掛餅、造花による莊嚴、乱声、牛玉宝印の授与などが特徴的に見られる」と説明されている⁽¹⁾。

この説明に間違いはないが、頭屋・頭人は廃止され、大餅も小さくなってしまった所も多い。乱声や牛王（玉）宝印の札については、密教寺院の年頭行事にみられるもので、寺院が密教から他宗に改宗した場合、堂宇の管理が密教寺院から他宗寺院に変わった場合には伝承が途切れることが多い。

また、堂宇で行われるオコナイと同じように、宮座が特別な鏡餅を神社に奉納する行事もオコナイと判断され、堂宇で行われるものと寺オコナイ、神社で行われるものと宮オコナイと通称する。宮オコナイの場合、寺オコナイと同じ形態の鏡餅を献上しながらも、神道に準じた行事を伴うため、そのことがオコナイの行事内容をさらに多様にした。特別な餅を奉納する、仏前神前に特別な供物や飾りを供える、乱声を行う、牛王宝印を供えてから配る、神名帳を読み上げる、歩射を行う、田植えの予祝を行う、芸能を奉納する、鬼が登場する、火祭りをする、勧請縄を張る、綱引きをする等々、多様な行事を取り込んで今日に至っている。その名称も既述のようにオコナイと呼ばれることが多いものの、実際には様々な呼称が用いられている。このようにオコナイの内容と呼称は多様であるため、現行の民俗でもってオコナイを定義することは難しい。

出雲地方東部では、正月から2月にかけて特別な大餅をつくって堂宇や神社に担ぎ上げる行事が各地で行われているが、民俗学ではこれもオコナイ系行事と判断している。ただ、オコナイが行事名になっている所は松江市では島根町加賀別所などに限られ、平たい大きな鏡餅が行事の象徴となることから、オモツアン・オオモツアンと通称される。これらの多くがオトウ（御頭・御当・御塔・御禱）と記録されていることから、まずはオトウの検討から始めてオコナイの問題整理の一歩としたい。

2. オコナイの文献

そもそもオコナイという言葉はどういう意味であろうか。オコナイという言葉が登場する文献としてたびたび引用されるのが、『三宝絵』と『今昔物語』の記述である。984年に成立した『三宝絵』の「修二月」の箇所には以下のように書かれている⁽²⁾。

此月ノ一日ヨリ、モシハ三日、五夜、七夜、山里ノ寺々ノ大ナル行也。^{おこなひ}ツクリ花ヲイソギ、名香ヲタキ、仏ノ御前ヲカザリ、人ノイルベキヨイルゝコト、ツネノ時ノ行ニコトナリ。ソモ／＼キヌヲキザメル花シ、テスサビノタハブレカトウタガハシク、香ヲタクニホヒ、ナサケノタメカト覚レド、皆仏ノ御教ニシタガフナリ。

上記の『三宝絵』にある「ツクリ花ヲイソギ」とは、造花を作つて仏に供える準備をするという意味

であり、「イルベキ」はイタヅキ（労き）ではないかと指摘されている⁽⁴⁾。このことから、山里の寺々で二月に幾晩もかけて盛大なオコナイが行われ、そこでは絹を切って造花をつくり名香を焚いて仏前を飾っているが、そのときの人々の労力は普段のオコナイとは違っているという意味になる。オコナイは修二会に限らず、「ツネノ時ノ行」があるという。

『今昔物語集』（12世紀前半成立）卷第19の「以仏物餅造酒見蛇語」には以下のように、山で修業した僧侶が摂津国に帰郷して、正月初めの修正会に導師となって「行餅」を多くもらったとある⁽³⁾。

今昔、比叡ノ山ニ有ケル僧ノ、山ニテ指ル事無カリケレバ、山ヲ去テ、本ノ生土ニテ、摂津ノ国
[] ノ郡ニ行テ、妻ナド儲テ有ケル程ニ、其ノ郷ニ自然ラ法事ナド行ヒ、仏經ナド供養スル
ニハ、多クハ此ノ僧ヲ呼懸テ、講師ナドヲシケリ。才賢キ者ニハ無ケレドモ、然様ノ程ノ事ハ心
得テシケレバ、修正ナド行ニモ、必ズ此ノ僧ヲ導師ニシケリ。其ノ行ヒノ餅ヲ此ノ僧多ク得タリ。

オコナイについて、柳田国男は本来は「行法の儀」と説明し⁽⁵⁾、中澤成晃は大きなオコナイと平常の小さなオコナイがあったが、オコナイといえば修正会・修二会のオコナイのみを意味するようになったと指摘した⁽⁶⁾。つまり、修正会・修二会の加持祈禱に民間人の関与が特別に深かったが故に、密教寺院が衰退した後もオコナイが民俗的変化を伴いつつ定着したものと思われる。

3. 伯耆国大山寺の御頭

オモツアンの資料をみると、かつては御頭・御当・御塔・御禱・大禱などと書かれていた地域が多い。このオトウと関連するのではないかと思われる行事が、伯耆大山の近世資料に登場する。

大山は西楽院を中心に三院谷で構成され、中門院は大日如来を祀る大日堂、南光院は釈迦如来を祀る釈迦堂、西明院は阿弥陀如来を祀る阿弥陀堂であった。「大山寺本院西楽院要用雑録」（本田家蔵本）には、中門院・南光院・西明院それぞれの「給知諸役給」の中に、修正会田は1万石で「年行事収之」と書かれており、御頭田は高2万石で「当番収之」と書かれている⁽⁷⁾。つまり、各院には修正会田と御頭田があった。

宝永7年（1710）以降、大山寺は近江坂本の滋賀院のお抱え寺となったため、滋賀県坂本の叢山文庫に大山寺関係資料が保管されている。その中の「御条目并里坊屋敷御判物写」には、法度や定の中に「御頭」が記録されている⁽⁸⁾。

* 寛永9年8月7日「伯州大山年中行事諸法度事」

一 正月御頭、二月涅槃会、卯月仏生会并祭礼、六月長講会千部読経、八月引声、霜月大師講等平均可令勤仕、若無拠故障之儀於有之者役者中江可断申事

* 寛文8年申ノ月日「大山寺掟」

膳部

一 御行如有來

一 御頭神前作法如有來、但振廻ハ二汁五菜吸物一肴三種酒三反菓子一色（以下略）

* 元禄10年5月朔日「定」

一 正月御頭如往古院々法式供物万端不改旧例丁寧可相務事

* 宝永2年3月15日（定）

一 正月御頭如旧例院々法式供物丁寧可相務事

* 宝永7年4月7日「定」

一 正月御頭如旧例院々法式供物丁寧可相務事

以上から、大山の寺で「正月御頭」が行われていたことが窺えるが、上記資料だけではどのような内

容か分からぬ。近刊の坂田友宏編著『大山と三徳山 その信仰と行事』には、「大山西楽院年中行事」の翻刻が掲載されている⁽⁹⁾。この資料は明治36年に田中景瑩が筆写したもので、坂田によれば、記載内容から原本は宝永7年から宝暦7年（1752）の間に記録されたものと判断できるという。年末から正月10日まで次のような記述がみられる。

12月23日、経寿院・法明院・普明院・安楽院・本覚院・妙泉院へ正月5日の「御行料理人」の件を代官・留守居が依頼した。24日、一山から御鏡餅仕立人3人、餅花付3人、承仕3人、餅搗人足9人が出仕して、大輪鏡22枚・中輪鏡22枚・手取餅87枚・餅花16本をつくった。28日、御本社と下山社、本坊の正月飾りをした。30日、三院より西楽院分の修正会勤番の書付が届けられた。節分については年内においても春においても、三院それぞれが出仕し、御本社、下山社、本坊廻り豆打をした⁽¹⁰⁾。

1日、歳徳神・大黒天・竈の神・春の神に朝雜煮餅、晩に御膳を供えた。

2日、汗入郡5か村が「御行料理」と蓬・うとめ・土筆を持参した。3日、巳刻に料理人6人が出勤して「御行料理」の献立を定め、晩方に丸山の里坊屋敷の者が「御行働」に登ってきた。4日、未明より料理人6人が出勤。学頭代3人、年行事3人が出仕して、「御本社御行之飾物」を拵えた。本社へ明朝供える御供、御膳は本坊にて手代が拵えた。一山からそれぞれ見舞いに来た。

5日、丑刻より料理人が出勤。高つきの五膳を内陣へ供えた。献上された牛王・巻数・鳥取への札類などを本社へ供えた。本社開帳、卯刻に一山惣中大般若転読、本社別当は内陣にて祈禱勤行し、留守居・代官も参詣した。勤行後、一山惣中出仕して客殿で一汁三菜、酒を戴いた。学頭代・料理人・通人はこの饗應が済んだ後に出来て料理を戴き、留守居・代官も同座で戴いた。本社別当は献上の御祈祷札を持参、中門宮仕が牛王を持参した。正月飾り、鏡餅は昼に撤収し、歳徳神の鏡餅を年男に1枚、中間頭へ1枚を下され、惣中間どもや台所働きに上った出入りの者どもへ手取餅を1枚ずつ下された。

6日には西楽院に中門院と西明院から御頭の案内の使僧が来た。以下は7日の西明院御頭の様子である。

- 一 西明御頭之社エ未明ニ留守居、代官參詣、古より西明は早朝之案内者不來候
- 一 西明頭番獻上之品 牛王壹枚、頭文、鏡餅壹枚
 御支配エ之牛王壹枚持參
- 一 今日、手代エ大輪鏡餅壹枚宛被下、年礼ニ里エ下候節、白米五升、酒式升樽被下候
 小者エ大輪鏡壹枚、白米五升宛被下候
- 一 三組大庄屋年頭、扇子三本入、白米式升ツヽ持參、台所にて喰繼、三方、雜煮、酒ヲ出ス、
 茶之間エ出、目見相済候後、大輪鏡餅壹枚、酒式升入壹樽宛、台所ニ而被下、大庄屋後見之者、扇子式本入持參候、被下物ハ無之候、同座ニ而饗應斗也
- 一 三大庄屋、并後見之者共、出仕之間ニ而、一汁三菜之御料理被下、酒三遍核式ツヽ、式遍目より大盃取、核出、留守居、代官より盃事有之
- 一 坊領村惣百姓エ、台所にて夕飯被下、一汁式菜、酒式遍、但し家壹軒より壹人宛來候、先年
 は切餅壹ツ宛被下候得共、是は享保十八年より不被下候

8日には「中門御頭之社」へ未明に留守居と代官が参詣した。「中門頭番」が献上したのは、牛王1枚、頭文1通、直礼餅1枚、神酒1瓶、菓子1折で、牛王1枚は御支配へ持參した。

10日には、「南光御頭之社」へ未明に留守居と代官が参詣した。「南光頭番」が献上したのは、牛王1枚、頭文1通、粽2個、菓子1折で、牛王1枚は御支配へ持參した。

文中の「留守居」は滋賀院から派遣された大山の最高責任者で、「代官」は滋賀院から派遣された寺

領支配の責任者であった。「本坊」は政務を取り仕切る西楽院で、中門院・西明院・南光院の各院から出される「学頭代」が加わって大山統治を行なった。「年行事」は各院の諸々の役務を担当していた。御行料理人を出した経寿院と法明院は中門院谷、普明院・安楽院は南光院谷、本覚院は西明院谷に属していたが、妙泉院はどの谷であったのか不詳である。寺領は汗入郡の5か村（汗入組）、会見郡の7か村（中組）、日野郡の6か村（山手組）であった^⑩。

上記「大山西楽院年中行事」には、正月5日の行事は「御行」と書かれている。本社すなわち大智明権現社（本地地蔵）の修正会をオコナイと呼び、汗入郡5か村がオコナイ料理等を献上し、僧侶が中心となって飾り付けを行なった。7日の「西明御頭之社」は西明院の利寿権現社（本地文殊）、8日の「中門院御頭之社」は中門院の靈像権現社（本地觀世音）、10日の「南光御頭社」は南光院の金剛童子社（本地薬師）を指し、その年頭行事はオトウ（御頭）と呼ばれ、村人の頭番が品々を献上したことが分かる。

特に、西明院御頭の時には頭番から鏡餅が献上されたが、これは御頭田の収穫米で作られたものであろう。手代へ大輪鏡1枚ずつが下され、年礼に里に下りる時には、白米5升・酒2升が下された。小者には大輪鏡1枚・白米5升ずつ下された。3郡の大庄屋は扇子・白米2升ずつを持参して、本坊の台所で雑煮や酒肴を戴いた。お目見えが済んだ後には、大輪鏡餅1枚・酒2升ずつが台所にて下された。大庄屋後見の者は扇子を持参し、お下がりではなく、同座で饗應を受けるだけであった。三大庄屋と後見の者は出仕の間に、一汁三菜の料理を戴き、留守居・代官から盃事を受けた。坊領村の惣百姓は1軒から一人ずつ登山して、台所にて夕飯一汁二菜・酒2杯を戴いた。以前は切餅1枚宛下されていたが、これは享保18年から取りやめたという。

大山寺の「御行」と「御頭」については、汗入郡坊領村に居住する大庄屋中津尾家の文書の中にも記録が残されている。「諸事御用覚帳」（宝暦五乙亥年）には、正月3日に例年の通り料理物を届け、7日には坊領村中が御祝儀に登ったと記され、寛政8年正月に中津尾茂右衛門に届いた本坊手代中の書状にも、「例年之通り御登山可被成候、且又百姓共茂大音杯不致登山いたし候様ニ」と書かれている^⑪。

このように各院の御頭では、頭番が品々を献上した。特に西明院御頭では、大庄屋や村人が年礼のために登山して饗應をうける儀礼も行われていた。10日の条には南光院御頭の記述の後に、「此節二、三日之間、一山向々エ御行、御頭等相済候ニ付、出仕有之、台所ニ而茶、烟草盆、火鉢出ス」とある。一山がそれぞれ御行、御頭を済ませて出仕するので台所に茶・煙草盆・火鉢を出すという意味であろう。大山寺において御行の修法と御頭の修法とがどのように異なっていたのか、今の処分からない。

4. 出雲地方のオトウの民俗

出雲地方の民俗行事オトウは、大山の大智明権現社の修正会に続いて各院で行われた御頭と文化的に共通のものであろう。オトウは神仏習合的な行事で、寺だけではなく、神社でも行われている。以下に、その事例を紹介したい。なお、紙幅の都合から次の点については記述を省略する。

*かつては、トウヤ・トウニンは四足二足を食せず葬儀に参列しない、女人禁制、餅搗きは両親健在の者に限るなど厳しい禁忌があったが今日では廃れたという点、行事後に餅を切り分けて講中に配るという点は、各地に共通するので基本的に省くが、一部の事例では記述する。

*講中の戸数、組織の仕組、準備、式次第などの詳細は省く。

①松江市八雲町東岩坂の星上寺オトウ（御塔・御当・御頭）

星上寺にて正月17日（現在は成人の日）に行われる行事は、オモツツアンと呼ばれる。大幣を掲げる

東ノ上座	本願名	2町6反7畝27歩	上ハ小三田下繩手ら小川迄、東具祖畠田下迄
	佐藤次名	3町3反2畝21歩	上ハ中村名繩手切、下ハ折坂堤上迄
	中ノ村名	2町6反9畝8歩	上ハ松之前繩手切、下ハ佐藤次名境迄
	平次郎名	3町4反3畝3歩	上ハ四わへ上繩手西中溝、下小三田なわけ切
	太郎丸名	3町3反4畝9歩	四わへ上繩手ら不メ上

東ノ中座	上川原名	3町3反3畝15歩	上ハ茂次右衛門前繩手ら奥
	畠中名	2町7反8畝3歩	兵助田ら川切ニして鑓溝奥迄
	戸波名	4町7畝15歩	清右衛門田ら伯母ヶ迫繩手切、下ハ戸波後城ヶ迫迄
	下川原名	3町8畝12歩	上ハ茂右衛門前繩手切、下ハ下川原前繩手迄
	権ノ神名	3町2反9畝11歩	上ハ喜蔵前繩手ら川切原前宮田井手迄、夫らうばか迫繩手ら奥

東ノ山分	大谷名	西ノ上座	神納名	西ノ山分	一ノ原名
	向名		大日名		二ノ原名
	広岡名		下本田名		田中名
	別所 八つ口名		青木名		越路名
	本郷ノ八つ口名		上本田名		源大夫名
	別所名		宝屋名		清大夫名
	足立名		具租名		福谷名
	伊豆名		鍛冶屋名		
	八つた 三田名		兵衛次名		
	和田名		公文分名		
	和田名		東ノ保人名		
	小原名		西ノ保人名		

図1 星上寺大餅を奉納する座と名（「星上大餅御當年請取渡シ書記帳」より作成）



図2 東上座・東中座・西上座の名の推定位置

トウヤが先頭に立って山を登り、堂に供える大餅にも榊と御幣を取り付けるなど、神仏習合の要素が伝えられる行事で、地元では「大餅神事」とも呼ばれる。近世資料をみると、御塔・御当・御頭と様々な字が充てられているので、ここではオトウと表記することにしたい。この行事の歴史と変遷についてはすでに拙稿で論じたが¹³、掲載した図が小さくて分かりづらいとの指摘を受けたので、紙幅の都合で掲載しなかった図もあわせて紹介しながら、ここに改めて座と名の説明をしたい。

八雲町東岩坂本郷に鎮座する毛社神社（近世には豊大明神）神主が書き継いできた「星上大餅御當年請取渡シ書記帳」（寛文6年～平成10年）から、次のことが明らかとなった。東上座・東中座・東山分・西上座・西中座・西山分の六座を「六塔」といい、各座は表のように名で構成されていた（図1）。この名が毎年順番で大餅を奉納した。近世の検地帳ではこれらの名は字名としてほとんど登場せず、一致する字名があっても僅かな面積にしか過ぎない。しかしながら、東上座と東中座の名は2町6反～4町余の面積と認識され、しかも「上ハ～繩手切、下ハ～迄」というように藩政時代においても区画が明瞭であった。ただ、該資料は東上座と東中座の祓いを担当する毛社神社神主が記録したものなので、他の座の名がどの程度の広さであったのか、残念ながら記述がない。

明治22年に作成された切図の字名、地元に伝えられる字名から、東上座と東中座の名は東岩坂村本郷（東本郷）、東山分の名は東岩坂村別所、西上座と西中座の名は西岩坂村本郷（西本郷）、西山分の名は西岩坂村桑並というように、凡そ近世村の区分通りであることが分かる。図2は、東上座と東中座の名、西上座の名の位置を示したもので、東上座の本願名・平次郎名・太郎丸名・佐藤次名・中ノ村名は東岩坂川西岸、東中座の戸波名・権ノ神名・下川原名・上川原名・畠中名は東岩坂川東岸にあった。一方、西上座の神納名・青木名・下本田名・上本田名・大日名は、意宇川西岸の神納・青木・元田と、意宇川東岸の小坂明神（磐坂神社）が鎮座する大日にあった。したがって、西中座の各名は意宇川東岸において大日より下流域に開かれた田であったろうと思われる。

東岩坂村本郷では、毎年東上座の5名と東中座の5名が順番にトウニンを出して祭礼奉仕をしていたが、時々具祖名など他の座の名の役目も果たしていた。享保4年（1719）、西上座から6年毎に神納名を、西中座から6年毎に具租名、11年毎に兵衛次名、21年毎に保人名を、東山分の座から12年毎に三田名の役目を受けることが決まった。つまり、西上座の回り順で神納名がトウを給わる時には西岩坂村ではなく、東岩坂村本郷の名として奉仕することになったのである。このような協議の背景には、東座と西座の区分が、東岩坂村と西岩坂村の区分と一致していなかった事情が挙げられる。

上記のように神納名は西上座に属していた。ところが、神納という場所は西岩坂村ではなく、東岩坂

村に含まれていたことは、万治2年（1659）の「意宇郡東岩坂村内神納御檢地帳」（広島大学附属図書館所蔵）が存在することから明らかである¹⁴。神納が東岩坂村のどこにあったのかについては、万延元年（1860）の「意宇郡村絵図」（布野家旧蔵・明治大学所蔵）が参考になる（図3）。東岩坂村絵図の中に「神納輪」が書かれているが、これは藩が田租算定のために便宜的に区画した田で、神納名ではない。神納名は、絵図の左下に「大庭村、大草村」と記入された所より上の場所である。ここは、明治時代に東岩坂村から日吉

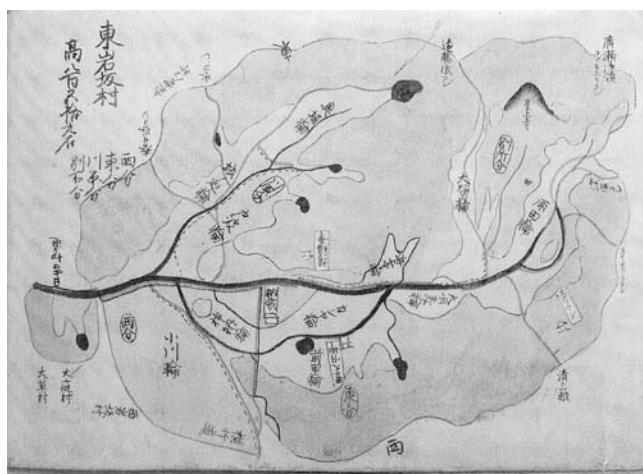


図3 東岩坂村の絵図（万延元年意宇郡村絵図）

村に編入された所で、明治22年の日吉村切図で「字神納」と記されている。字神納の切図に記載された幾つもの字名が「意宇郡東岩坂村内神納御檢地帳」に登場する字名と一致するので、檢地帳の「神納」はこの場所であったことが明らかである。つまり、意宇川西岸のこの場所に神納名があったと判断する¹⁵⁾。

「具租」は図2に記した通りで、東岩坂村に含まれていた。また、三田も万治2年の「意宇郡東岩坂村本郷御檢地帳」に登場する字名である。兵衛次名と保人名の位置は不明であるが、11年毎に兵衛次名、21年毎に保人名のトウニンを受けるようになったのは、これらの名、あるいは名の一部が東岩坂村本郷に含まれていたからであろう。近世の村切後に座が成立していたならば、当初からこれらの名は東座に入っていたはずであり、座が近世の村切より以前に成立していたことは明らかである。

名は、平安後期から中世において荘園や国領の年貢収納単位であり、領主側の年中行事や法会・神事の執行に不可欠な公事夫役の収納単位であった。西中座には公文分名があるが、「公文」は荘園の検田や年貢公事夫役の徵収にあたった者であり、公文の給田に由来する名ではないかと思われる。これらの名がすべて星上寺の寺領であったか否かは不明であるが、少なくとも寺院の勢力が衰退してからでは、周辺村落が行事に奉仕する形態を作り出すのは困難ではないかと考える。「忌部総社神宮寺縁起」(忌部神社文書)によれば、星上寺は四十余もの坊を抱える真言宗寺院であったが、安徳天皇養和元年(1181)に熊野天狗山などの僧徒神人らが国司屋敷とともに全山焼き討ちしたことにより、寺運は衰退した。きっかけは、天皇の思し召しにより国中の勅願所や祈願所に不動尊と經典が奉納されることになった際に、出雲国司が星上寺を優遇したことから、他勢力の怒りを招いたことによる。但し、この縁起は後世に作成されたもので衰退年代の信憑性は確かとはいえない。

慶安3年(1650)と延宝2年(1674)の「東岩坂村本郷御檢地帳」および「東岩坂村別所御檢地帳」

を見ると、本郷には御役御免屋敷として「六畝 地下中頭屋敷式間」(慶安3年)、「六畝 星上等人式人」(延宝2年)とあり、別所には「五畝 神主二郎左衛門 三畝 頭人屋敷壱間地下中」(慶安3年)、「五畝

星上承仕 三畝 星上等人」(延宝2年)と書かれている(図4・5)¹⁶⁾。すなわち東本郷には地下中のトウニン屋敷が2軒あったこと、別所には星上天神に仕える神主屋敷と地下中のトウニン屋敷1軒があったことが分かる。つまり、各座毎に3畝の地下持ちのトウニン屋敷があった。

祭事に奉仕する中心人物をトウニン、あるいはトウヤと呼ぶ。頭人・塔人・等人、頭屋・当屋・塔家など様々な漢字があてられる。文化4年(1807)、東本郷の東上座では太郎丸



図4 東本郷の検地帳
慶安3年(左)・延宝2年(右)

図5 別所の検地帳
慶安3年(左)・延宝2年(右)

名のトウニンから本願名のトウニンへ、東中座では畠中名のトウニンから戸波名のトウニンへとトウ渡しが行われたが、この年には兵衛次名の役目も受けることになっていた。そこに次のような書き込みがみられる。

兵衛次ニ田四ヶ所有之、十一年目ニ相当リ右四ヶ所ヘ順番ヲ以受取申議定、文化四卯年三十一年目ニ相談ヲ以忠蔵受取、後年之格合ニハ相成不申、以後議定之通四ヶ所順番四十一年目受取申事也

つまり、兵衛次名には四ヶ所の田があり、11年毎にトウニンを出すので、それぞれの田の持ち主は41年目にトウニンを受けることになっていたが、例外的に忠蔵が31年目に受けることになったという。

また、文化12年には、松江横浜の六助が上川原名の^{くじ}闇取でトウニンに決ましたが、村外地主である六助は、観音様へ正米4斗を献上する他は何もしないと申したので、代わりに年寄仁兵衛と庄屋助右衛門が一年間精進潔斎と「当開き」を務めたと書かれている。トウビラキとは、餅を献上して村人を招いて祝いの座敷を開くことである。

これらの記述から、名には幾つもの田があり、その所有者が順番あるいは闇でトウニンになり、トウニンは1年間精進潔斎に励み、大餅をつくって奉納したという様子がわかる。『雲陽誌』（享保2年）には鏡餅は6枚、『出雲鍬』（18世紀半ば）には3石3斗の鏡と記されているので、1枚の鏡餅は5斗5升位であろうか。弘化3年（1846）に別所の山根家が奉納した餅は、1枚7斗7升の大きさで、餅棒担ぎは10名だった^⑦。時代により大きさは多少異なったであろうが、藩政期にはかなりな大きさの鏡餅であったことは確かである。

現在の星上寺オトウでは、寺の奥の院だったとされる那富乃夜神社（藩政期には星上天神）に天神餅を、堂宇の仏に大鏡餅を奉納した後、次の当番組が餅を持って下り、新しいトウヤ（今は集会所）の庭の一画に砂を敷いて清め、大鏡餅や天神餅で使用した榊・竹・縄などでもって「観音の座」を拵える。トウヤは観音の座を毎朝拝むが、藩政期にはトウニン屋敷に観音の座を設けて一年間祀ったのではないかと想像する。祓い清められた場所で行わねばならない餅つきや餅がらみもトウニン屋敷で行われたのではないだろうか。

明治時代の社寺上知令をきっかけに星上寺は廃寺となつたが、地元民の願いにより曹洞宗寺院として復興した。廃寺から復興までの間、オトウは1年たりとも行事を絶やすことなく続けられた。現在は別所、東本郷の餅が奉納される。

②松江市八雲町の田村神社七日塔

旧暦正月七日に行ったので「七日塔」といい、かつては神仏混合の行事であったことが窺われる。現存する最も古い資料は、明治8年2月11日（旧暦正月7日）から記録された「田村神社七日塔順開帳」であるが、星上寺オトウにおいても社寺上知令の影響で明治8年に村組がトウニンを選出する形に変更したことを考えると、当地でもこの時から秋吉地区の各組がトウニンを選出する形態になり、該帳を記し始めたと考える。各組が餅を飾り付けて拝殿に奉掛し、祈願のあと直会をして、直会の最中に神主が竹槍突き、歩射、田打ちと田植えの模擬を行う。新トウニンが川に下りて禊を行つてからトウ渡しとなる。トウ渡しの時に、トウニンが隠し持つて干柿を周囲の氏子たちが奪い合う。餅下ろしの時には、旧トウニン側が拝殿から奉掛の縄をひっぱって、堂外で待ち構える新トウニン側になかなか渡さない。下ろした餅は新トウニン側の子供が背負つて走り去るが、その餅を目がけて境内の参拝者たちが雪玉を投げつける（図6）^⑧。

③松江市大庭町の淨音寺オトウ（御頭）

大庭町の淨音寺（真言宗）は、「神魂御社頭控」に「淨音寺為神宮寺上者守旧例供僧役不可有懈怠之

事」と書かれているように、もとは神魂神社の神宮寺であった^⑯。「淨音寺先代ら諸役之事」（慶長20年霜月12日）には、「一正月伊弉册御神前 供僧役、一同十八日神宮寺 御頭、一正五九月 大般若・・・」とあり、正月18日に神宮寺御頭が行われていたことが分かる^㉑。

この神宮寺御頭にあたる行事が、新暦1月18日に行われるオモッタアンである。団原・中の島・黒田畠（うね）・長者原・向山・大庭西の6地区が大餅を奉納していたが、2014年から長者原と向山、2015年から大庭西が廃止した。大餅を奉納することを「お餅上げ」と呼ぶが、神宮寺講の講員が減少した団原は3升、黒田畠は5升の大きさである。竹を組んで餅を支え、竹の先に榊を結び付けて、33個の小餅を入れたシボを取り付ける（図7）。

昭和50年頃までは、餅上げのトウヤと世話焼きだけが若松を歌いながら堂内に入り、大餅を立て、ウツギの牛王串（白米と大豆を紙に包んで折り、ウツギを割って挟み、「牛王」と墨で書く）を講員の人数分ほど供えた。千手院住職のお勤めの後、小餅を内陣から外陣に向かって撒き、それを参詣者が拾った。トウヤと世話焼きは僧侶とともに賑やかに酒を酌み交わし肴を食し、その間次のトウヤと世話焼きは堂の外で待っていて、餅が下りると宿に持ち帰った。餅は切り分けて、榊と牛王串とともに配った。現在では牛王串を作る地区はない。

④松江市秋鹿町の高祖寺奥の院（大日堂）オトウ（御頭）

大餅は井神・本谷・中組・山中から奉納されていたが、戦後に中組と山中の餅が廃止となった。1998年に子供餅が新たに加わって3枚になった。御頭行事保存会編『おもっつあん 秋鹿大日堂行事復活二十五周年記念集』（2002年）が刊行されているので、該行事の詳細は省くが、村人による大鏡餅の奉掛（図8）、高祖寺住職の勤行、藤原姓を名乗った願文の読み上げ、ウツギで机を叩く乱声、餅下ろし、ケヒョウ（花餅）と牛王串配りというように、新春に密教寺院と民間人が協力して地域と人々の安寧と五穀豊穣を祈る修正会の典型例である。童子が長押に上がって大餅を下ろすと、男衆がそれを受け取り、堂外に担ぎ出して堂の周囲をまわった後、山を下りてゆく様は壯觀である。

⑤松江市古志町の野間観音オトウ（御頭）

野間観音堂については『雲陽誌』（1717年成立）には天台宗遍照寺の抱えと記録されているが、寛政8（1796）年辰4月の池尻家文書には「瑞龍院抱」と記録されていることから、その管理は天台宗寺院から曹洞宗寺院へと移ったことが分かる。同文書には、野間組17人が交替で堂田を耕作し、その収穫米でもって正月18日の会式に奉納する4升餅や布施や料理をまかなっていることが書かれている。この堂田の耕作は1989年の大改正まで続けられた。現代に至るまで野間のオトウは17戸の男性で構成され、願文には1年間に亡くなった人の名を削除し、誕生した子の名を書き入れて祈願する。大改正までは、講の加入順に10～13歳頃にイリダマリ（相宿）を務め、10～13年位経ってからレイビラキ（本宿）を務め、さらに10～13年後にザナミ（相宿）の三役を務めた。大きな平たい円形餅と小さな円形餅を重ねてウツギの枝を載せて栗の木で挟んだものを、3人の宿がそれぞれ担いた。読経が始まると三役は伽藍さんと呼ばれる所に行って供物を供える。願文読み上げの最中に若者が棒で堂を叩くが、これは乱声である。詳細は拙稿参照のこと^㉒。

⑥松江市薦津町阿弥陀堂オトウ（御禱）

この阿弥陀堂は『雲陽誌』には遍照寺の抱えで、正月14日・18日に法会があり、牛玉串を壇上にあげて祈り、村人がそれを害虫除けとして畠に立てると書かれている。現在も周辺の4地区の講中の当番が、餅を奉掛して遍照寺を招いてオトウを行う。願文の開き禱と給わり禱の名前は、福井姓の家は藤原姓、福田姓の家は勝部姓で読み上げられる（図9）。奉掛の餅を給わり禱の背中に落とし、給わり禱は後ろを振り返ることなく持ち帰る。かつては開き禱が餅を担ぎ上げる時には宿から堂まで無言のまま裸

足で歩いた。今日でも女人禁制を続ける。詳細は拙稿参照のこと^⑦。

⑦松江市上佐陀の長福寺（観音堂）オトウ（御頭）

長福寺は『雲陽誌』に雲州觀音札所第二十七番とあるが、のちに千光寺（曹洞宗）が隣地に移って長福寺を管理したため、札所の名前は千光寺（現在は瑞龍院が管理）に変わった。1月17日（現在は日曜日）に長福寺の観音堂でオトウが行われる。講中は上佐陀の10軒で、みな千光寺の檀家である。参加資格は10軒の家の男性で、1軒の家から若い者と当主というように2世代や兄弟の加入も認められる。ひとび講中にいると、よそに転居しても参加資格を失うことはない。講中は家によって左座と右座に分かれ、堂内で分かれて座った。願文では井田家1軒のみが藤原姓を名乗り、ほかは桂木姓を名乗る。左座と右座がそれぞれ大餅1枚、花餅1本、大豆1俵、牛王7本を献上すると願文に書かれている。左座、右座のトウヤが中心になってそれぞれ餅を作った。餅は平たい鏡餅で、藁菰で囲い、ハナノキとモロモキで覆って、栗の割木で挟み、ランドセルのように背負えるように藁でつくったニカワとセナカツ（背中あて）を取り付けた。栗の割木は毎年同じものを使うが、座の中で葬儀があると新調した。かつては、餅は3升ぐらいであったが、昭和50年頃は1升餅になっていた。どちらかの宿で左座と右座が集まって昼食をとり、昼食後に観音堂に向かうが、餅を背負うのは左座と右座のトウヤの長男であった。堂内に鏡餅を奉掛けし、花餅（藁シボに小餅を沢山いれる）、牛王（札を挟んだウツギとハナノキを束ねる）、ベッショを祭壇に供えた。ベッショとは白米で炊いたご飯で、重箱に詰めて供え、御頭が終わった時に皆が掌に受けて戴いた。最後に花餅を堂内に撒き、皆がそれを拾った。牛王は苗代に立てた。堂には当時の餅を担いだ時の割木・ニカワ・セナカツ・餅枠・ハナノキとモロモキ・花餅の藁シボ・牛王が保管されている（図10）。

⑧遍照寺の松尾オトウ（御禱）と吉岡オトウ（御禱）

下佐陀の遍照寺（天台宗）の本尊は大きな十一面觀音菩薩である。この觀音に対して二つの講中によるオトウ（御禱）が行われるが、一つは松尾姓が多いので松尾オトウ、もう一つは吉岡姓が多いので吉岡オトウと通称されている。薦津の阿弥陀堂と同様に禁忌が厳しかった。

【松尾オトウ】上佐陀と下佐陀上の住民で、どういう系統で講中を作ったのか不明。トウニンは4名で、オトウの最中に住職が願文読み上げる前に籤で決められる。これを「給わり禱」、または「禱給わり」という。その4名の話し合いで1軒が宿となる。1月17日がオトウの日。

オトウの前に、各戸が白米3合ずつ持ち寄って宿で昼食をとり、住職を招待して雑煮を出した。昭和33年（1958）から宿での昼食を止めた。大餅の餅がらみは平成24年（2012）までで、以下のように行っていた。トウニン人は4升の糯米で餅を搗き、平たい円形の餅4枚、花餅（小餅）40個をかたどる。大餅はウツギの割木を交叉させ、ハナノキ2本を渡して円形の餅1枚を載せ、その上にハナノキ2本を載せて、交叉させたウツギの割木で餅を挟む。新しい襦藁でニカワとセナカチ（背中あて）を作つて取り付けた（図11）。藁でシボを2本作り、その中に小さな餅20個ずつ入れた。これを花餅と呼んだ。牛王は、お札をウツギの割れ目に挟んだもの2本、ハナノキ2本、1メートル位の長さのウツギの枝2本を束ねたもので、これを講員の人数分ほど作る。

本堂の十一面觀世音菩薩の前に4つの大餅、花餅、牛王、御神酒、小豆飯（重箱に白飯を詰めてその上に小豆の煮たものを載せる）、願文銭（願文銭と表書きした金封）を供える。願文では全員が藤原姓を名乗り、開き禱はそれぞれ「大豆一袋、大餅壹枚 花餅二十枚 牛王二十本 花二十把」を供えることになっている。願文の最後に「敬白」というと、参加者は牛王を本堂の床に叩きつけて音を出す。大きな音をたてることで悪魔退散になるという。最後に、給わり禱が小豆飯を本尊と脇仏に少しづつ差し上げる。開き禱と給わり禱が神酒を酌み交わしてトウ渡した後、講員全員が小豆飯を掌に戴いて食す



図6 田村神社の七日塔



図7 浄音寺の御頭



図8 秋鹿大日堂の御頭



図9 薦津の御禱



図10 長福寺の御当



図11 松尾御禱 松尾守男氏提供



図12 順具寺の御当

る。

【吉岡オトウ】上佐陀と下佐陀上の14戸が講中となり、1月18日（今は日曜日）に遍照寺でオトウをする。オトウの前に、トウニン2名が米3升ずつ集め、講員は各自の膳を持ち寄り宿で昼食をとった。当日の食事については、昭和33年から勤めた前住職の話では、元住職から吉岡オトウの宿に昼食を招かれると大根のサイコロを投げつけられるという話を聞いて、自分は招かれることを止めたという。昭和36年（1961）から宿での食事が廃止になった。大餅の餅がらみは松尾オトウと同じで、2名のトウニンが1枚ずつ背負った。藁シボに花餅を詰めることも、牛王花木も同じ。願文で読み上げる姓も、松尾オトウと同様にみな藤原姓、願文に書かれる供物も松尾オトウと同じである。松尾オトウとの違いは、願文を読み上げたあと餅を香炉の煙であぶることで、住職が指示した訳ではなく、講中の言い伝えから行われている。

⑨下佐陀上の阿弥陀堂オトウ（御禱）

1月15日（今は成人の日）、前かがみ（屋号）と南（屋号）の系統の家が講中となっている。両家とも転出したが、13戸がオトウを伝えている。大餅ではなくオソナエ（重ね餅）を供える。祈願文の名前は特定の姓ではなく、供物は「花米一袋」のみを読み上げる。

⑩鹿島町北講武の順具寺オトウ（御当・御塔）と八幡オトウ（御塔）

北講武の柏・西谷では、氏神の多久神社に餅を担ぎ上げる八幡オトウと、今は現存しない順具寺のオトウを行う。多久神社は今は南講武だが、もとは北講武に鎮座していた。西谷はもと柏村の中に含まれていたが、戸数が増えたために独立した。順具寺と多久神社のオトウは、鏡餅の飾り、宿や当番の選出やトウ渡しの方法、餅投げが共通している。

【順具寺オトウ】1月に柏と西谷が別々に行う。西谷は簡略化されているため、願文に書かれた献上物を忠実に守っている柏について報告する。毎年順番で、宿・先宿・一番当・二番当が出て、4軒が祭事の当番となる。宿になる家順は予め決められており、先宿は来年宿を務める人が任じられる。以前は宿で行っていたが、現在は集落センターを会場とする。トコに「十六大善神」の掛軸をかけ、鏡餅2枚、花餅（戸数分）、大豆20合、午王（戸数分）、供膳を供える。大餅は木枠に挟んで、ニレ（ネレとも呼ぶ）の木枝で覆い、餅の下には藁で編んだザブトンをあてて担ぐことができるようする（図12）。牛王は、クサビの木（ウヅキ）に中折を小さく切ったものを挟み小枝とともに藁で結わえたものである。昼前に各戸が白米1升を持って集まる。南正寺（曹洞宗）住職が読経と願文読み上げを行い、大般若転読を行う。願文には、「大豆一袋」は各戸から、全体では「大餅二枚、花餅廿一枚、午王廿一本」を献上する形になっている。大般若転読の最中に、二人の「お経持ち」がそれぞれ口にシバ（ニレの葉）をくわえ、転読された教本1冊を載せて各戸を回り、無言のまま仏壇・神棚・恵比須棚の前で教本を頭上に捧げて一礼して立ち去る。49日までの忌中の家は、「お経持ち」の訪問を遠慮している。

祈念が終わると、長い青竹の先の割れ目にお札を挟んでサンダ藁をさしたものを作り、これは、ムラに悪霊が入り込まないように、ムラ境3か所に立てる魔除けの札である。各人は「大般若御守」「十六大善神守護」のお札を受け取る。

座敷では、宿と当番が接待役となり、湯豆腐・白菜のおひたし・味噌汁・清酒が出され、最後にはご飯が椀に山盛りにして出る。食後にトウ渡しを行う。今年の先宿（来年の宿）が大餅を担ぎ、今年の宿・一番当・二番当が押して送り出そうとし、それを来年の先宿・一番当・二番当が押し戻そうともみ合う。最後には、来年側が押し切られて大餅を受け取る形となり、今年の先宿は来年の宿として送られる。次に、来年の一番当が大餅を担いで、今年の宿・一番当・二番当に押して送られ、それを来年の宿（今年の先宿）・来年の先宿・来年の二番当が押し戻そうともみ合い、最後には押し切られて来年側に

送られる（図13）。お下がりの大餅を切り分け、一人ひとり投げ渡す。最後に小さく切り分けた餅とサイコロに切って餅取り粉をまぶした大根とを混ぜて、座敷に撒いて競って拾いあう。柏の境に魔除けの札を立てて終わりとなる。各家は牛王を畠に挿して虫除けとする。

【八幡オトウ】2月25日と決まっていたが、現在は日曜日に行う。現存する資料のうち最も古いのは、「講武正八幡御塔願文箱」と表書され、底に「天保十三年寅正月」と書かれた木箱で、八幡宮にて順具寺オトウと同様に願文が読み上げられていたことが分かる。

柏と西谷が交替で宿と当番を出す。集会所に集まり、ヨシ竹での的を作りカラスの絵をかける。弓1本、矢10本つくる。3升の平たい鏡餅の飾りつけは順具寺オトウと同じ。

当日、鏡餅2組を床の間に据え、オゴク（白いご飯を詰めた重箱）、神酒、洗米を供える。新しい宿・当番が訪れ、古い宿・当番の給仕を受けながら、酒肴を戴く。八幡オトウにつきものご馳走は鯨の入った煮ナマスと鯨の味噌汁で、最後に白いご飯を山盛りにした飯碗が出される。新しい宿・当番の6人、古い宿・当番4人が大餅を奉納するために神社に向かう（図14）。古い当番2名は全戸の接待のために残る。神社に到着すると、鏡餅2枚、弓矢・オゴク・神酒を供えて祭典が行われる。お下がりの神酒、オゴク、洗米を頂いた後、歩射をする。まず宮司が西を向いて「山」と言いながら矢を放ち、周りの人々が「川」と逆のことを言う。次に宮司が東を向いて「川」と言いながら矢を放ち、周りの人々が「山」と逆のことを言う。そのあと、宿と当番が順番に次々との的をめがけて矢を放つ。

神社で祈念が行われている間、全戸が会場を訪れ、オトウのご馳走を戴く。神社で祈願を終えた人たちが戻り、鏡餅は床の間に据えられる。新しい宿と当番が上座に座る。旧宿は祭典が無事に終了したことを報告し、お下がりの神酒とオゴクを各人に配る。オゴクは掌に載せて戴く。トウ渡し方法は順具寺オトウと同じ。餅配りは、1枚を六等分した餅を新宿と新当番に投げ渡し、1枚の切餅を各人に投げ渡し、最後に端餅と大根のサイコロを座敷に撒いて人々が拾い合う。

⑪松江市鹿島町上講武のオトウ（御当）

近年まで、1月5日は毘沙門院（松尾堂）、1月8日は大乗寺（釈迦さん）、1月9日は圓福寺（毘沙門堂）、1月10日は地蔵福王寺（虚空藏さん）、1月12日は丹森院真不老寺（まぶろうじ、間広堂）、1月17日は東觀音寺（石築堂）と西觀音寺（立花堂）のオトウが行われていた。現存する堂宇は立花堂だけなので、他のオトウは常楽寺境内の毘沙門堂でそれぞれ行っていた。願文では1軒のみが源姓を名乗り、他はみな藤原姓を名乗り。「大餅二枚、華餅二十枚」と読み上げるが、大餅も花餅も供えられることはない。オソナエ（重ね餅）または米、白団子、ご飯（オボク）を供える程度。平成26年（2014）から正月5日に7講が境内の毘沙門堂に集まって合同でオトウを行うことに改正。毘沙門堂は狭くて全講員が入るのは無理なので、各講の当番だけが参加するかたちになった。

⑫松江市鹿島町古浦のオトウ（御頭）

古浦には奥の堂、中の堂、浜の堂があり、それぞれの講中が1月から2月にかけて成相寺住職を招いてオトウを行った。藩政期や明治期の資料を見ると、各堂の講員は対座（大座とも）と仏殿（仏前とも）に分かれ、それぞれの座が4名ずつの堂役人と、「開頭」と「給頭」を出していったことが分かる。明治時代に成相寺住職が提出した「仏堂受持届」をみると、浜の堂の由緒沿革については「創立年代不明ナルモ宝曆十四年ノ記録ニ往古ヨリ今ニ至ル間断ナク佐陀奥院成相寺ヨリ之ヲ修シ云々ノ願文アリ、（略）毎年旧正月七日御頭ト云フ修正会ノ法会ヲ修行シ、皇帝陛下ノ聖寿万歳国家安泰万民豊樂講中安全大漁満足子孫繁栄ノ祈念ヲナシ、対座仏殿ノ堂役毎年八名宛奉仕スルヲ恒例トシ」とある。中の堂の由緒沿革には、「応永年間ヨリ佐太社奥院延林山成相寺ヨリ奉仕シ、（略）毎年正月二日御頭修正会ノ法会ヲ修シ」とある⁶⁰。

浜の堂の願文は全員が藤井姓で、明治17年の願文には「大餅壱枚、花餅壱枚、牛王串百本」とあるが、現在は小さな重ね餅を供えるだけである。中の堂の願文では全員が物部姓で、明治11年にの願文には「大餅一枚・花餅弐拾枚・牛王弐拾本」があるが、ここも現在は重ね餅を供える程度である。牛王はゴワ串と呼び、「牛王宝印」の札を挟んでいたが、廃止された。

奥の堂では、仏殿と対座のそれぞれの宿で堂役人が大きな餅を作りて餅がらみをし、餅は堂に供えられた。「堂開き」の会食は宿で行っていた。1990年頃に宿での餅つき・餅がらみ・堂開きを廃止して簡略化し、その20年後には行事そのものを廃止した。

⑬松江市鹿島町片句の薬師堂オトウ

現在は簡略化して行われるが、宮本常一が昭和17年にまとめた『出雲八束郡片句浦民俗聞書』に報告されている²⁰。薬師堂は氏神境内にある小さな堂で、かしら頭が薬師堂、中頭と若頭が氏神の世話をする。正月2日にかしら頭が村中を招いて酒盛りをした。3日に若頭の家で径1尺5寸ほどの大餅を2枚つくり、4日に4本の横木を餅に絡めて榦またはシキミをつけて堂の柱に吊った。これを餅飾りと呼んだ。午後、3名の頭（開き頭と呼ぶ）は、3名の新頭（タマリ頭と呼ぶ）のもとに七度半の使いを出した。堂内では東側に開き頭、西側にタマリ頭が座り、禪慶院（曹洞宗）住職が読経、願文を読み上げ、男子全員の名前を読み上げた。1枚の餅を下ろして、タマリ頭の若頭が担いで裸足で振り返る事なく自宅に帰るが、その時皆がかちどきの声をあげた。自宅の床に餅を供えてから再び堂に戻ると、トウ渡しが行われる。その後、沢山の栗の木の箸（ミタマバシと呼ぶ）を堂外に撒き、村人は競うように拾って仏前に供えた。残りの大餅は開き頭が持ち帰るが、それぞれの開き頭の家では世話になった親戚に膳を出した後、開き頭を中心にして円陣をつくり、歌を歌いながら踊り、最後に開き頭を胴上げして下ろした。

⑭松江市鹿島町手結の大日堂オトウ

昭和50年代に大餅奉納を廃止、禪慶院（曹洞宗）住職が正月2日に大日堂で読経するだけである。宮本常一の上記聞書によれば、安達姓は仏殿座、他の姓は秦座に属することになっており、トウヤには頭ダマリ・中頭・三度の頭があった。頭ダマリは6歳～10歳までの子供で、11月に頭年寄6名（各座から3名ずつ）が氏神の頭となる頭ダマリの人選をするが、最後は神主による御籤で決まる。頭ダマリは、11月30日の祭礼から1年間勤めると、頭年寄を招いて祝宴を行なった。中頭は頭ダマリを務めた順にだいたい30歳～40歳頃の者が務めた。中頭の家で頭年寄6人が餅搗きを行ない、12月28日に大日堂に4合餅を奉納、正月2日に住職に読経してもらい、中頭は頭年寄を招いてトウビラキした。三度の頭の役目はよく分からぬが、頭ダマリ・中頭・三度の頭を勤めると、頭年寄になる資格を得たという。

⑮松江市鹿島町宮内の神宮寺（観音堂）オトウ（御頭）

1月12日（今は日曜日）に行う。真言宗成相寺住職が読経と願文読み上げの間「牛王！」と大声を出し、参拝者はそれに呼応して「牛王！」と言いながら常緑樹の枝葉で堂を叩く。いわゆる乱声である。ただし、供物は菓子と茶だけで餅は供えない。

⑯松江市荘成町荘の寿福寺オトウ（御頭）

1月4日（今は日曜日）、荘の阿弥陀堂（寿福寺）で成相寺住職を招いてオトウが行われる。かつては、オトウの時は祭り宿をトウビラキと呼び、来年務める人をトウダマリと呼んだ。祭り宿5人は2種類の護符を作る。田に立てる護符は、大根の輪切りを彫り泥をつけて紙に判を押し、サイコロに切った餅1個を包んで割竹に挟む。畠に立てる護符は、「壽福寺牛王」と書いた紙を割竹に挟む。御膳をすえ、3個の丸餅、牛王を供えて経をあげ、願文を読む。住職が3回ほど「牛王！」と大声を出すと、お参りの人々が「牛王！」と呼応して堂の床や壁を手でたたく。各家に一組ずつ護符を配る。



図13 順具寺御当



図14 八幡御塔



図15 布自伎美神社の御当



図16 月光寺大禱 松本岩雄氏提供



図17 宇由比神社のオトビラキ神事



図18 寿福寺の堂餅引き



図19 善福寺の餅さし

⑯松江市上東川津町嵩山の布自伎美神社オトウ（御当）

上東川津と下東川津の6地区が、扇形・御鏡形・宝珠形の餅を担いで奉納した。古くは何俵もの大きな餅で、積雪の中で大きな餅を担ぎ上げる様子が絵馬に描かれている（図15）。現在は餅の奉納は見られない。

⑰松江市邑生町の月光寺オトウ（大禱）

虚空蔵菩薩をまつる月光寺は、現在地より山側に建立されていたが、昭和23年（1948）に公会堂兼生活改善センターを建築するとき現在地に移築された。邑生は20戸の小集落で、特定の4軒が交替でトウヤを務め、各トウヤに関係する家々がその手伝いをするという仕組だったが、平成24年から1～3組の各組が順番に当番を務める形となった。1升5合の大餅2枚、藁シボ2本、オソナエ（1升の重ね餅）、御供米、牛王串2本を供える（図16）。大餅はハナノキで覆い、一つは栗の木、一つはウツギの木で挟む。藁シボには小餅が詰めてあり、これを御玉餅と呼ぶ。御玉餅は1升5合分つくり、各家に配られる。牛王串は「牛王」と書いて判を押した和紙を、1本はウツギの木、1本は栗の木に挟んだもの。以前は、各家がウツギと栗の牛王串、あわせて2本を頂いて、苗代の水口に立てて豊穣を祈った。正午近くになると、大通寺（真言系単立宗）住職と各家が訪れ、当番組が用意した昼食を戴く。

食後にお経を読み上げる。願文には「奉懸大餅二枚、御花米一袋宛、御花餅三十三枚、牛王串六十六本」と供物が書かれ、各家の代表者が「藤原〇〇」というように藤原姓で読み上げられる。また、その年の祈願児として新生児から小学生までの児童の名前と干支が読み上げられる。読経の最中に、住職が「牛王」と大声を出すと、両手にハナノキ（またはハナノキとシブキ）を持った住民が一斉に机を叩いて葉を落とす。いわゆる乱声である。これを5回繰り返す。この所作には鳥追い、悪魔祓いの意味が込められているといい、子供たちの行事だった。

⑲松江市上本庄町川部のオトウ（御当）

川部では、年間祭事（秋祭、荒神祭、トンド、オトウ）を務めるトウヤがオトウの行事も行う。4組が交替で当番組となり、トウヤと世話人を出す。大通寺住職を招いて、上の堂と下の堂で祈願する。願文には「毎年於長田寺長福寺本尊御宝前修正月会奉勤修願文次第」とあるので、長田寺と長福寺の修正会であることが分かる。『雲陽誌』には、「觀音堂 真言宗なり長福寺といふ」と書かれているが、長田寺については記載がない。現在の供物は1升の重ね餅と白米1升だけだが、願文では「奉掛大餅二枚、御華餅百参拾參枚、牛王串百参拾參本、御華米 壱袋宛」と読み上げられるので、以前は大餅を奉掛け、沢山の花餅と牛王串を供えていたことが分かる。

⑳松江市野原町の常福寺オトウ

常福寺のオトウであったが、現在は墓地脇の堂宇で行う。小さな餅と牛王串を供えて、清安寺（曹洞宗）住職が拝む。参加者は牛王串をもらい、田畠に立てる。

㉑松江市西尾町西谷のオトウ（御当）

1月に氏神の天神神社と薬師堂のオトウを行う。神社のオトウでは、5升餅1枚をつくって星上寺オトウのように担いで上がった。社殿には大餅、神楽殿には御伽羅餅おきやらを奉納して、社殿でオトウを行ったあとに、神楽殿で御伽羅祭りをしていた。御伽羅祭りは疫病が流行した時に行うようになったという。オトウの大餅は平成22年に廃止した。薬師如来のオトウは、1升の重ね餅と御膳を供える程度である。

㉒松江市宍道町小松の宇由比神社オトビラキ神事

宇由比神社にて1月21日に行われる行事は「お戸さん」「御戸開き」と呼ばれる。その行事内容から「お戸さん」はオトウであり、「御戸開き」はトウヤが餅を奉納して祝うオトビラキであると推測される。6組が1年交替で支配組となり、神社と長源寺の世話をする。支配組内から御戸宿が選ばれ、その

家長が支配長となる。

オトビラキの前に、神社境内と御戸宿の屋敷入口にオハケを立て注連縄を張る。6升の御鏡餅を竹で挟み、榦や紙幣をつけた注連縄で飾り、担い竹に取り付ける。餅を担ぐのは両親健在の支配組の子供であったが、少子化の現在では大人が代役を務める。当日には、まず御戸宿で神主の左右に担い役の男子が座り、組の者が座る。祝いの座敷を終えて、鏡餅を担いで神社に上がる（図17）。餅は本殿向拝正面に吊るし、神事を行う。

㉓その他のオトウ

松江市域では、その他にも浜佐田町（円光寺）、鹿島町南講武下組（阿弥陀堂）、島根町大芦海鳥（阿弥陀堂）・北垣（宝寿寺）・別所（觀音堂）・垣内（阿弥陀堂）などで餅・御膳・酒を供えてオトウが行われる。円光寺では大きな餅が奉納されたが、廃止となった。

松江市宍道町下白石の高宮神社オトウ（御頭祭）は、鼻高面と獅子が各戸を訪れて土足のまま縁側から玄関へと通ることによって厄除けされるという民俗を伴う。

松江市以外では、島根半島の出雲市坂浦と唯浦のオトウが注目される。

㉔オトウ以外の名称

島根県雲南市三刀屋多久和の寿福寺（曹洞宗）で2月に行われる「堂餅引き」、同市吉田町上山の善福寺（曹洞宗）にて2月に行われる「餅さし」は、オトウと同類のものである。

多久和の堂餅引きは「堂餅落とし」とも呼ばれ、山伏姿の先達を先頭に旗、上組の餅、下組の餅、その他の供物が列をなして觀音堂に向かい、堂内にて僧侶の読経（図18）、大数珠くりが行われる。餅1枚は直径80センチ、15キロの重さで、上組の餅には「上」、下組の餅には「下」と墨書される。5年一度行われる堂餅落としの時には、大餅は吊るされ上組と下組とが争って相手の大餅を早く落とそうとする。最後に採灯護摩供が行われる。寿福寺はかつては天台宗の寺院であった。

上山の善福寺の餅さしは、古くから定められた9軒が順番にトウヤを務める。堂に上るのはトウヤ筋の家に限られる。読経の後に、有志が1斗5升の大餅とバランスのために取り付けた3升の小餅を何度も片手で持ち上げる（図19）。天保11年の資料が現存するが、それ以前から行われていたと考える。

5. 伽藍頭の民俗

松江市美保関に鎮座する美保神社の社家横山家が所蔵する「御祭礼年中行事」（寛文十年庚戌改帳）には、「美保大明神御祭礼之次第」の冒頭に次の記述がみられる。

一 正月二日 祭始伽藍頭之事
御明一頭 繩打二頭 花立三頭 酒わかし来頭
神主出立ししはりゑほしハ京極折也
一年神主ハ白張ゑほしハ常之通ニス

伽藍頭の行事がどのようなものであったのか、この記述だけでは不詳であるが、美保明神において年頭に神仏習合の行事が行われていたことが窺える。

美保関周辺地域には、伽藍頭、伽藍祭、伽藍さんと呼ばれる行事が行われており、これらが美保明神の「伽藍頭」と共通するものであったと考える。行事は廃止されたり簡素化されてしまったが、以下にその民俗を説明したい。

①松江市美保関町諸喰の伽藍さん

諸喰は戸数25軒の漁村で、海岸近くに奢母智神社が鎮座し、集落の中に明音寺（浄土宗）と伽藍社の祠がある。毎年東と西の組が交互にトウヤを出していた。トウヤは「一の頭」と「二の頭」である。ト

ウヤを決めるのは正月10日トウビラキの座敷の最中で、かりに西組がトウビラキを主催すれば、東組が籤を引いて決めた。

注目されることは、トウヤが氏神と伽藍社の両方を祀ることである。1年間、氏神と伽藍社を拝み、1月10日のトウビラキが終ると、一の頭の妻が裾模様のある黒の紋付着物を着て、頭に綿帽子を被り、前帯を垂らした姿で氏神と伽藍社に参り、伽藍社に五穀豊穣・大漁満足の願いが込められた男女の作り物を供えた。その夜には新旧トウヤが氏神で宮籠りをした。翌日の寺で伽藍さんの会式を行うが、これをオコナイという。割木で大きな御鏡餅と小さな御鏡餅を挟んで供え、住職が読経して出雲国神名帳と願文を読み上げた。村人はゴワゴシと呼ばれる牛王串をもらって畠に立てた。以上の行事内容と近年の変化については拙稿を参照していただきたい⁴⁹。

それでは何故、トウヤは氏神と伽藍社を祀るのか。奢母智神社本殿の棟札調査から、最も古い棟札は天正6（1578）年戊寅年9月1日のもので、祀られているのは「文殊童子」であることが分かった（図20）。それに続く慶長2（1597）年9月13日、慶長17（1612）年8月20日、寛永2（1625）年2月12日、慶安4（1651）年2月14日の棟札でも、祀られているのは文殊童子なのである（図21）。ところが、貞享元（1684）年の棟札には「文殊童子」は「奢母智神」が訛ったものであると書かれている（図22）。

すなわち、1683年までは神社で本地垂迹の仏を祀っていたが、貞享元年に神社から仏を排除し、奢母智大明神を中心とした祭祀に移行させた。それでは排除された文殊童子はどうなったのであろうか。諸喰では、明音寺の鎮守とされている伽藍社は文殊童子を祀ると伝承されていることから、文殊童子は神



図20 天正六年戊寅
歳九月一日の
棟札

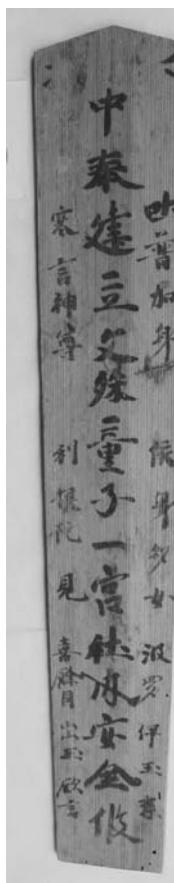


図21 慶安四年辛卯式月十四日の棟札
の表と裏



図22 貞享元歳甲子
極月十五日の
棟札

社から伽藍社に遷されたと判断できる。このような経緯から、諸喰の伽藍祭のトウヤは氏神と伽藍社の両方を拝んでいたと考えられる。

②松江市美保関町笠浦の伽藍さん

1月4日の伽藍祭は、常福寺の六角堂で行われていた。昭和57年頃、保育園を建設するために六角堂を取り壊し、薬師如来を墓地下の地蔵堂に移した。現在、伽藍祭は地蔵堂の中に祀られる薬師如来の前で行われる。導師には千酌の蓮花寺住職を招く。平成18年までは、トウヤ1名・副トウヤ1名、当番10名（当番は家順）が世話をしたが、その後役員が行うようになった。宝前に中折を敷いてその上に、大根を舟形にくりぬいて白大豆を入れたもの、腹合わせの鯛1対、小餅二つ、塩辛・清酒・白米・塩を載せる。トウヤの時代には一重ねの一升餅を供えて、行事が終わると上の餅を住職に、下の餅を切り分けて各家にお札とともに配付していたが、廃止された。

僧侶が「日本惣神社名簿」を読み上げて、日本中の神々に天下泰平・大漁満足・海上安全・五穀豊穣・福寿延長・子孫繁栄を祈り、読経する。寺総代は「修正願文名簿」を読み上げ、「御花米一袋右志者」と言ってから、「藤原長家」「藤原立花」「藤原上家」「藤原重次」「平上家」を姓にして、各家の世帯主の名前を読み上げる。「藤原長家」52軒、「藤原立花」49軒、「藤原上家」5軒、「藤原重次」3軒、「平上家」6軒である。本家が「藤原長家」ならば、分家も「藤原長家」になる。

各家は家族の人数分の小餅（丸い平餅）を持ってお参りして僧侶に献じ、お供えのハナノキ、護符、一升餅を切り分けたものを戴いた。護符は、大根に印の印を彫って泥に浸して判を押した札を竹に挿したもので、畑に立てると病害虫除けになるといった。伽藍祭のお下がりのハナノキは、コリゾメの日に山から採取してきた柴と茅とともに11日のクアゾメ（鍬初め）に田の水口に立てて拝んだ。

③松江市美保関町千酌の伽藍さん

現在は蓮花寺の本堂の端に阿弥陀如来と脇菩薩が安置されおり、1月4日午後にその宝前で行う。ゴワブシの札に「泉福寺宝印」の判が押されるので、泉福寺の修正会であったと思われる。家順で4軒が当番となる。四角の大根（大きめ）2個、四角の大根（小さめ）2個、大豆、小豆、海苔、ゴボウ2個、四角の人参2個、セリを折敷に載せて供え、住職が供物を指して「これは大六法（おおろっぽう）と申します。これは小六法（ころっぽう）と申します。これはおおまめと申します。これはこまめと申します。これはノリヒメと申します。これはゴンボウと申します。これはニンジンと申します。これはセリと申します」と申し上げる。

読経の後、当番が「修正願文名簿」を読む。「御宝前、大円鏡並びに神酒を献上し奉る。西方無量寿如来、東方持国天王、北方多聞天王、南方增長天王。御花米一袋御花餅一枚右志者」と言って、世帯主の氏名を読み上げるが、それぞれの氏名の前に「藤原重次」、または「平上家」をつける。藤原重次は123名、平上家は2名につけるが、何故そのような区別があるのか不明である。「大円鏡」とあるので、古くは大きな鏡餅を供えたのであろう。また、「御花米一袋御花餅一枚」とは、各家が、正月縫い初めの時に縫った和紙の袋に米少々とモロモキ（ウラジロ）を入れ、丸餅一つをもってお参りしたことを指している。参詣者はゴワブシを戴いて畑に立てた。また、伽藍祭の帰りには堂の周囲に生えている茅の穂花12本を採取して、11日のオタウツアン（お田打ちさん）の時に水口に立てて、鍬を打った。現在では参詣者の姿もなく、ゴワブシも参加する当番と役員が戴くのみである。当番が伽藍祭で祈禱した「般若札」を配布することは、現在でも行われている。

④松江市美保関町菅浦の伽藍さん

1月3日、阿弥陀堂に大豆・大根ナマス・清酒・ハナノキを供えて行う。以前は曹洞宗北禅寺だったが、同寺が無住となってからは常楽寺住職を招いて読経してもらう。牛王串で床を叩き、それを田打ち

の時に苗代に立てた。現在は牛王串を作らない。

⑤松江市美保関町雲津の賀門式

古くには伽藍社があったと伝えられ、覚源寺（浄土宗）境内の地蔵堂で行われた賀門式は、伽藍社の行事であったと思われる。家順で3軒を御籤の対象として一の頭と二の頭を選び、別の家順で4人の六日の頭が選ばれ、このトウヤたちが氏神と寺の行事に関わるという仕組であった²⁰。昭和40年頃は以下のように行われていたが、その後廃止された。

年末に一の頭の家で賀門式の餅を搗き、大餅4枚、ブン（分）の餅、ゴワノミ（牛王の実）餅をつくる。大晦日に六日の頭が地蔵堂に集まり、タラの木とハナノキでもって大餅を挟む。1月4日、六日の頭が「賀門です」と戸別訪問して、一年間の生死を確認して宗門帳を改める。6日、村人が和紙と賽銭を持って寺参りをすると、六日の頭が和紙に「南無地蔵堂 牛王宝印」と墨書して大根の切り口にベンガラをつけて判を押してウツギの枝にさして渡す。午後、六日の頭のうち中心となる家に全戸主が集まり、初寄り合を行ない、その最中に神職は神社にて一の頭と二の頭の御籤をひいて、その結果を報せる。初寄り合の場でトウ渡しが行われる。各人は家に戻ってから再び地蔵堂の前に集まり、住職が読経して、出雲国神名帳と男子全員の名前が書かれた宗門帳を読み上げる。六日の頭が「奉納南無地蔵堂宝印」と大声をあげながら、大根にベンガラをつけて板に押す。この行事が終ると、六日の頭はトンドの世話をする。トンドの後の宴会で、トウヤたちは村人の額に墨で×を書いた。

⑥松江市八束町大根島のガラントウ（伽藍禱）

大根島に点在する堂宇では1月中に講員が集まり、僧侶に読経してもらう。波入の各堂（東福寺・当福寺・西福寺）では重ね餅を供えて、曹洞宗全隆寺住職が読経して願文を読み上げるが、これを「伽藍禱」と呼ぶ。

遅江の当楽寺では大きな円形の餅を供え、全隆寺住職が願文読み上げをする時に、講員が堂の床や壁を叩く。この行事をヤラヤラと通称しているが、「伽藍願文」と表書きされた古い箱が保管されているので、この行事もガラントウと判断できる。同じく遅江の勝福寺と円通寺では、臨済宗観音寺住職が読経して願文読み上げをする。ここでも講員が木枝で堂を叩くが、これをヤラヤと通称している。

6. 結　び

出雲地方において民俗学の視点からオコナイと判断される行事の多くは、オトウと呼ばれる。オトウで読み上げられる願文には「修正会」と書かれている。オトウという呼称は山陰地方に限らない。例えば、滋賀県湖北では己高山鶴足寺を中心とした御頭が行われていた。

大山寺では大智明大権現社の修正会を「御行」、各院の修正会を「御頭」と呼び、神仏に特別な供物を献上して法会を行っていた。特に、各院の御頭は頭番が牛王・頭文・餅や粽を献上し村人が年礼にあがって振る舞いを受けるなど、寺院と村人との深い繋がりが見られ、民俗学がオコナイと判断する行事である。

御頭は、社寺が祭事に際して人々に頭役でもって奉仕させたことから行事名となったと考えられ、頭役で奉仕する者は時代により変遷した。星上寺オトウの場合、藩政期には座の名の田の所有者がトウニンに選ばれていた。六座と名の成立は近世の村切以前であったことは明らかだが、何時頃に成立したのかは分からぬ。平安後期から中世にかけて名は、年貢収納の単位であり、領主側の法会・神事を執行する際の公事や奉仕の単位でもあったことを考えると、星上寺の勢力が盛大であった時代にこのような組織が形成されたと思われるが、残念ながらそれを証明する一次資料はない。中世には名の徵税機能は次第に失われ、さらに近世に入ると村請制となつた。検地帳をみても、名の田は星上寺領地でもなく、

また名と同じ字名がごく一部にみられるだけであるから、名は制度上明らかなものではなかった。しかし、人々の意識の中には明確にどこからどこまでが名の田であるか認識されていた。ところが、明治時代の社寺上知令をきっかけとして、村組がトウニンを出して大餅を奉納する仕組に改正された^①。

今日では村組や講が籤あるいは順番でトウヤを出す形態が多いが、星上寺オトウの変遷を考えると、かつては違った仕組で運営されていた所も多かったのではないかと考える。ただ、村組単位で奉仕する仕組になる時期は、区々であったろう。

野間觀音御頭の場合は、もともとの野間の構成戸である17軒の家に生まれた男子が誕生順に毎年1名ずつ講中に加入し、1989年の大改正まではイリダマリ、レイビラキ、ザナミの役目を果たした。この三役を果たした者が座敷でお客として接待され、加入順に座るという、臍次階梯的な要素を有していた。寛政8年の文書にも17戸が交替で堂田を耕して会式を行なっていることが記されているので、この仕組はこの頃にはすでに成立していたと考えられる。このような臍次階梯的な仕組は、手結の大日堂御頭においても見られたようである。

オトウの多くが、特徴的な円形の平たい大餅を奉納していた。奉納の仕方も古式は奉掛であったろう。奉掛けた餅を落とすことを行事の重要な要素としているのが、秋鹿大日堂の御頭行事、薦津阿弥陀堂の御禱、多久和の寿福寺の堂餅落としてある。餅を落とす意味とは何だろうか。民俗的には、奉掛けしで祈禱してもらうことで呪力が込められた餅が落され、それを受け取ったタマワリトウ（新頭）が餅を持ち帰り村人に切り分けることで、人々は新しい生命や福をいただくことができると解釈できる。

賣布神社文書元亀3年（1572）の「橋姫大明神縁起」には、本地仏は薬師如来で、正月8日の御頭では頭人衆が8斗の大餅を神前に、餅・鏡・散米を薬師如来に供えると記されている^②。1670年頃の美保神社では年頭に伽藍の御頭が行われていた。このように神仏混合の行事として、御頭や伽藍頭の民俗が地域に広く定着していた時代があった。

現在、オコナイ系行事の多くが廃絶、あるいは簡略化されている中で、星上寺オトウでは既述のように神仏習合の要素を現代に伝えている。北講武では、順具寺オトウと八幡オトウに供える餅は同じ形態で、氏神社に保管されている天保13年の箱には「正八幡御塔」と表書されている。仏教の構造物を指す「塔」が神社の行事名として使われている点は、田村神社の七日塔も同じである。諸喰の棟札は、当地の氏神社の祭神が近世初めには文殊童子であったことを示している。

神社におけるオモツアンは、紙幅の都合により報告が十分にできなかつたが、上記以外にも八幡町の平濱八幡宮と高良神社、竹矢町の大門稻荷神社と手間天神、大草町六所神社境内の天神社、吉志原の山代神社（行事は廃止）、東津田の鷹日神社などでみられる。これらの多くが神仏習合時代のオコナイ系行事だったか、或いはその影響を受けて同様の行事を取り入れたものではないかと考える。

謝 辞

調査地の皆様に大変お世話になりました。美保神社様、中津尾直己氏、福代宏氏には資料利用にあたってご配慮を賜りました。諸喰の奢母智神社棟札調査は、石原久夫氏ほか地元の皆様にお世話になりながら松江市史料編纂課と実施させていただきました。皆様に心から御礼申し上げます。

注

- (1) 『日本民俗大辞典 上』吉川弘文館、1999年。
- (2) 『三宝絵 注好選』新日本古典文学大系31、岩波書店、校注者馬淵和夫・小泉弘・今野達、1997年。
- (3) 『今昔物語集四』新日本古典文学大系36、岩波書店、校注者小峯和明、1994年。

- (4) 前掲『三宝絵 注好選』では、「人ノイルベキヲイルゝコト」について、他の写本には「人の伊多豆木（いたづき）に入るゝ事」、「入人力事」とあることから、イタヅキの誤りではないかと指摘している。
- (5) 柳田国男「年中行事覚書」
- (6) 中澤成晃『近江の宮座とオコナイ』岩田書院、1995年、178頁。
- (7) 南波睦人編『大山寺本院西楽院要用雑録』、1996年12月。
- (8) 叢山文庫滋賀院蔵「御条目并里坊屋敷御判物写」。里坊屋敷については、「大山寺本院西楽院要用雑録」の中に、万治3年胤海僧正の時代に丸山村において里坊屋敷を寺々へ下されたと書かれている。
- (9) 田中景瑩筆写「大山西楽院年中行事」は愛知県西尾市立図書館蔵。翻刻は、坂田友宏編著『大山と三徳山 その信仰と行事』今井出版、2019年3月、253～310頁。
- (10) 節分の豆撒きは、12月晦日と春分の前日と両方行なっていたことが分かる。
- (11) 役職については、大山町誌編纂委員会編『大山町誌』(昭和55年、278～279頁)を参照する。
- (12) 中津尾家文書「諸事御用覚帳」(宝暦五年正月吉日)、同文書「本坊手代中書状」(寛政八年正月三日)。
- (13) 拙稿「星上寺大餅行事—山陰地方におけるオコナイの一考察—」『山陰民俗学会七十周年記念論集 山陰の暮らし・信仰・芸能』山陰民俗学会編2019年
- (14) 広島大学附属図書館には、広島国税局旧蔵の意宇郡東岩坂村の検地帳が保管されている。
- (15) 現在の地図では、「神納」は意宇川東岸に記入されることが多いので注意を要する。
- (16) 注14と同じ。
- (17) 前掲拙稿27～28頁。
- (18) 七日塔の詳細は『八雲村の祭祀俗』(八雲村教育委員会、昭和56年)を参照のこと。
- (19) 北島廣孝の花押がある文書で、正保年間頃に書かれたと考えられている(『出雲意宇六社文書』島根県教育委員会、平成12年復刻、292頁)。
- (20) 同上『出雲意宇六社文書』259頁。
- (21) 野間観音堂オトウの詳細は、拙稿「山陰地方におけるオコナイの分布と事例報告—星上寺(別所)・薦津阿弥陀堂・野間観音—」(『山陰民俗学会七十周年記念論集 山陰の暮らし・信仰・芸能』山陰民俗学会編、ハーベスト出版、2019年)を参照のこと。池尻家文書については小林准士氏にご教示いただいた。
- (22) 薦津阿弥陀堂オトウの詳細は注21の拙稿を参照のこと。
- (23) 成相寺住職の池本智海が公的機関に提出するために書いた報告の控えと思われる。
- (24) 宮本常一『出雲八束郡片句浦民俗聞書』(アチックミューゼアム刊、1942年2月)
- (25) 拙稿「山陰のオコナイ系行事—諸喰の伽藍さんと星上寺大餅行事の関係史料—」(『山陰民俗研究』22号、2017年3月)
- (26) 美保関町誌編さん委員会編『美保関町誌』1986年
- (27) 注13拙稿40～41頁。
- (28) 松江市史編集委員会編『松江市史 史料編4 中世II』(2014年)、451～452頁

(きたむら りこ 鳥取短期大学非常勤講師)

『松江市歴史叢書12(市史研究10)』(2019年3月)の訂正

誤 正

9頁・10頁の図 (右) → (左)

26頁8行目 爲清 → 景清

松江城の石垣刻印分布調査について（1）

—中曲輪東面石垣—

岡崎雄二郎・乗岡 実・飯塚康行・徳永 隆

1. はじめに

松江城の石垣には現在1000を超す様々な刻印が見られる⁽¹⁾。刻印の存在に初めて注目したのは、恩田清（当時松江市教育委員会嘱託）であった。昭和42年頃に石垣に生えていた草木が伐開されると、早速分布調査を行った⁽²⁾。その後、築城史研究会の採択調査⁽³⁾や島田成矩氏の論考⁽⁴⁾があるが、全体的に網羅したのは平成11（1999）年度の松江市教育委員会の調査（未報告）によるものである。

そして平成11年度のデータを基本にして、ここ数年松江市まちづくり文化財課の担当者（飯塚康行、徳永隆）と松江市史松江城部会の専門委員（乗岡実、岡崎雄二郎）が刻印の集中する城内の石垣について、より詳細な分布調査を行ってきた。その成果は、『松江市史』別編「松江城」などにまとめているが、その基本となる詳細な刻印分布図などについては明示できなかった⁽⁵⁾。そこで今回は、中曲輪東面石垣の刻印分布状況について報告するものである。

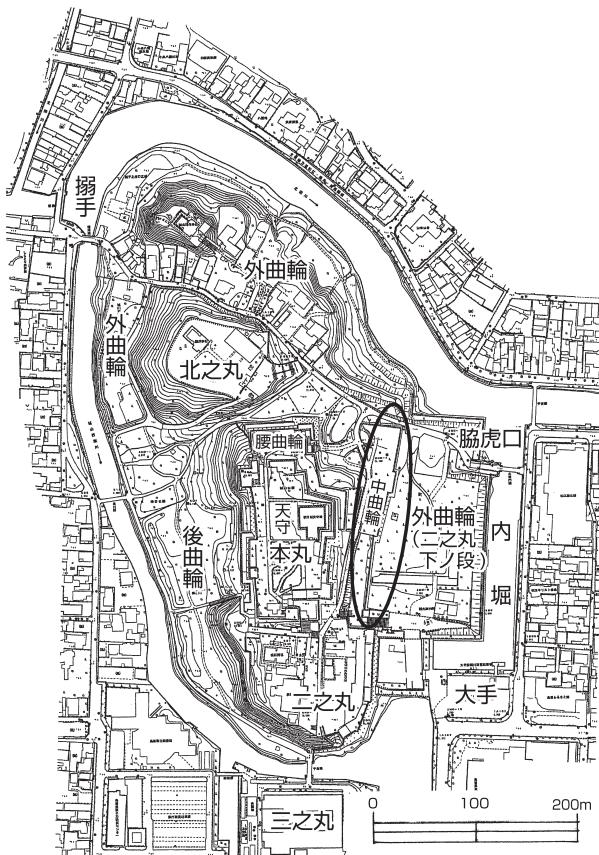


図1 中曲輪東面石垣位置図



写真1 中曲輪東面石垣
横矢掛けを南から見る



写真2 築石近景
D10面（9区）



写真3 「鱗」文



写真4 「の」字文

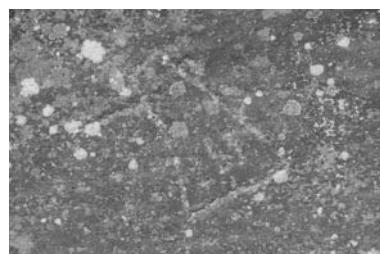


写真5 「鉄」文



写真6 「地紙形に一」文



写真7 「雁」文



写真8 墨書 「雁」文



写真9 「□に大」文



写真10 「輪違」文



写真11 「星」文



写真12 複数の刻印を刻んだ
築石 (の+星+の)

2. 石垣各面の刻印分布状況

中曲輪東面石垣は、全長約184m（上辺）、高さ約7m（南部）、約9m（中央部～北部）あり、中曲輪と外曲輪（二之丸下ノ段）を画する南北に長い石垣で、途中に横矢掛けが3か所ある。石材は殆どが和久羅山デイサイト（通称大海崎石^{おおみざき}）で、色調は灰色と薄桃色の2種がある。自然石や割石の乱積みで築城当初の姿をよく残している。但し、最北部は出隅から南へ32.3m（上辺）にわたり石垣修理工事により積み直しを受けている⁽⁶⁾。

以下に述べる刻印分布図の石垣面の名称は、平成28年度に松江市まちづくり文化財課が行った松江城全体の石垣3次元測量の図面に記載されているものである⁽⁷⁾。

D10面 長さ上辺69.6m、高さ7m前後の南北に長い石垣である。南部には7種20個の刻印が見られるが、1種最大6個（雁文）で特に多い刻種はない。その北側には鱗文（24個）と「の」字文（17個）の多い区域がある。その北側は鉄文（7個）が多い。その北側は「地紙形に一」文が29個と圧倒的に多い区域があり、入隅に近くなると雁文（12個）が目立つ。結果として、5つの集中区域（8～12区）に分けられそうである。

D11面 横矢掛けの南面石垣である。「の」字文（18個）と「□に大」文（7個）が多い。

D12面 南の出隅から北の入隅までの長さ約44mの石垣である。南の出隅付近は「の」字文（12個）、鱗文（4個）と続く。その北は鱗文（55個）が独占している。その北（中央部）は鉄文（17個）が独占している。北側入隅までは、輪違文（8個）が目立つ。

D13面 南の横矢掛け南面は、輪違文2個、鉄文1個と少ない。

D14面 「地紙形に一」文が81個と圧倒的な数で占められている。1個の築石に2つの刻印が見られるのもも3個ある。北の出隅下部に新たに雁文が登場してくることが注意される。

D15面 横矢掛けの北面である。雁文と「地紙形に一」文が混在しているが、雁文が下部に多く、「地紙形に一」文が上部に多い。

D16面 全長上辺約43mだが当初の姿を残しているのは、南の入隅から約10.7mの区間で、そこから北

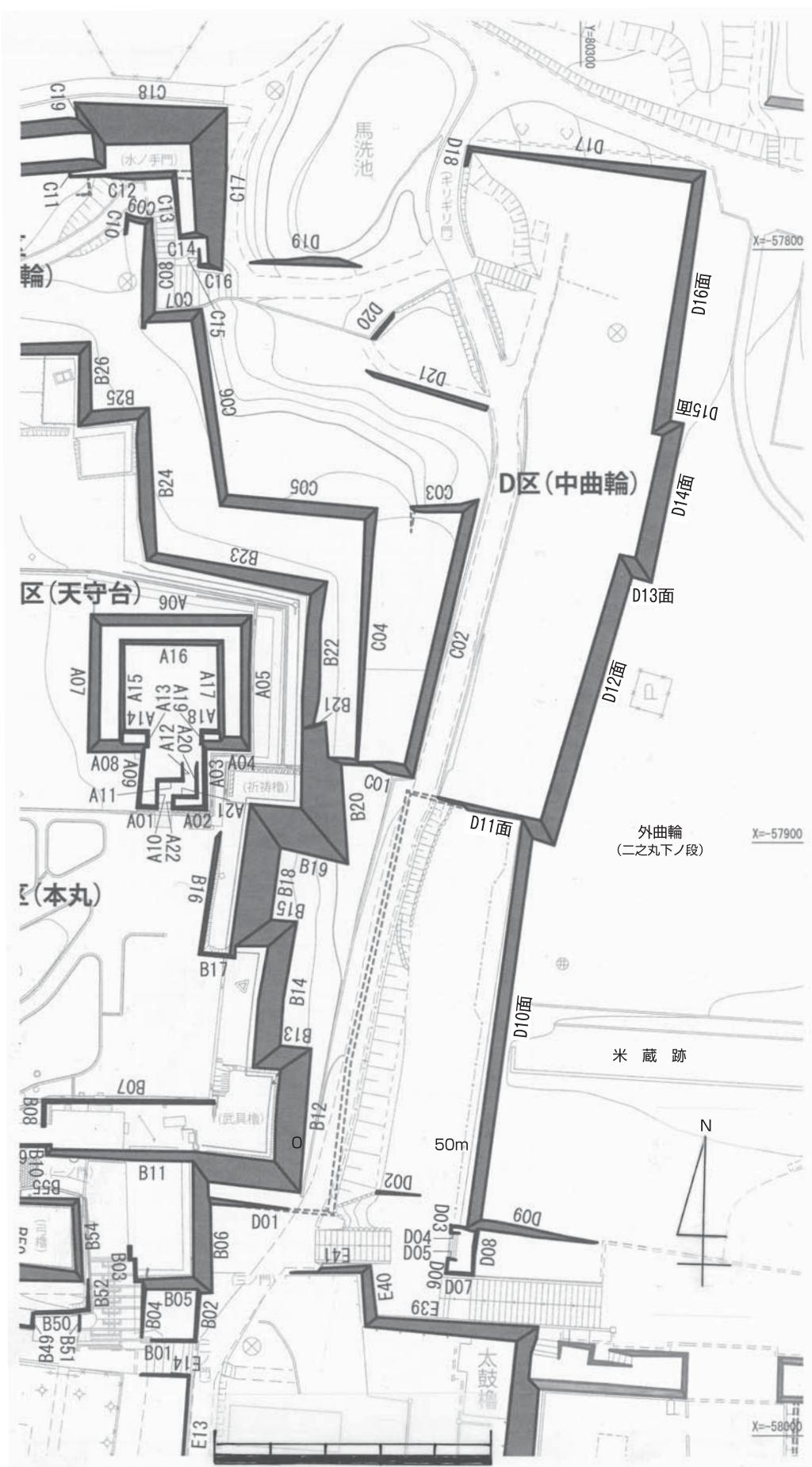


図2 中曲輪東面石垣 D10～D16面配置図

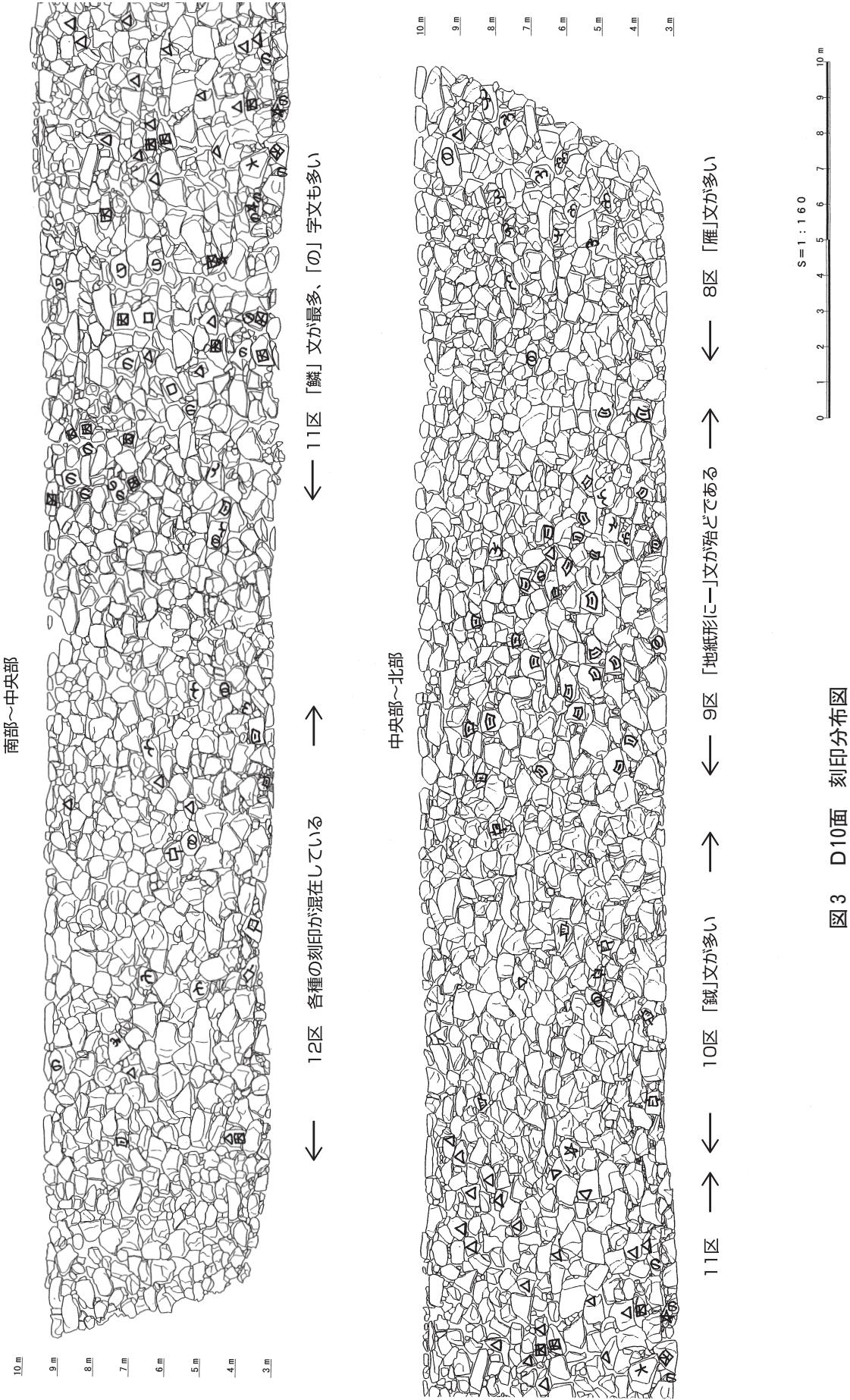
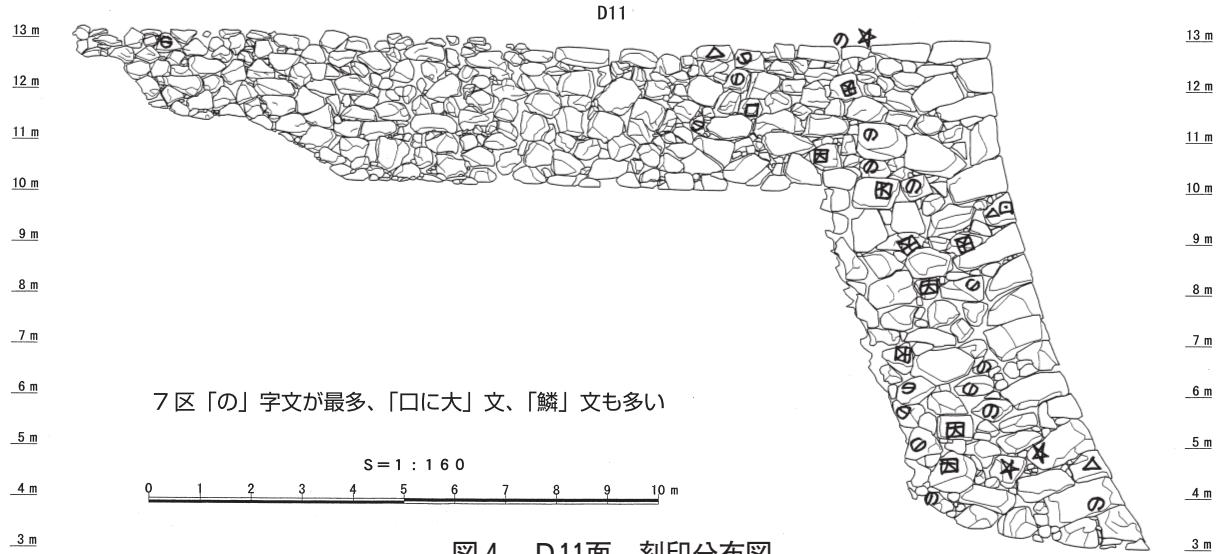


図3 D10面 刻印分布図



側出隅まで上辺約32.3m区間は平成13～14年度において鳥取県西部地震に係る災害復旧工事として修理しており、新補石が混ざり変更されている。修理前の調査では「地紙形に一」文と「鱗文」が多い。

3. 刻印分布の特徴と区の抽出

同じ刻印種が際立って多く集中する区域や、横矢掛けの出隅部分は同じ石工集団が同時に積上げていったこと、石垣築石の重なり具合の観察から、D11面からD16面が先に構築され、D10面が後で構築されたと考えるのが妥当であると考えた場合、D10面からD16面は、北から南へ1区～12区の合わせて12の区域に区分できる。

以下、重複するが各区の刻印分布の特徴を述べる。(第3～7図参照)

- 1区 D16面の北部から中央部で、災害復旧部分である。「地紙形に一」文(6個)と鱗文(3個)が比較的多い。
- 2区 D16面の南部で入隅までの部分からD15面の下部、D14面の北部の下部である。「雁」文が14個と多い。他は「地紙形に一」文(1個)があるだけである。
- 3区 D14面の中央部から北部出隅の上部、D15面の上部である。「地紙形に一」文が87個でほぼ独占している。
- 4区 D14面の南部出隅からD13面を経由してD12面の北部までの部分である。「輪違」文が14個が多い。
- 5区 D12面の中央部で、「鉢(まさかり)」文(17個)が独占している。
- 6区 D12面の南部で、「鱗」文(55個)が独占している。
- 7区 D12面の南部出隅からD11面の入隅から西部までの区間である。「の」字文(30個)が最も多く、「□に大」文(13個)と「星」文(9個)も多い。
- 8区 D10面の北部である。「雁」文(12個)が多い。
- 9区 D10面の8区の南側で、「地紙形に一」文が29個で圧倒的に多い。
- 10区 D10面の9区の南側で、「鉢」文(7個)が比較的多い。
- 11区 D10面の10区の南側で、「鱗」文(24個)が北側から中央部にかけて多く、「の」字文(17個)も南側から中央部にかけて多い。中央部では両者が混在していることから、さらに分割できそうである。

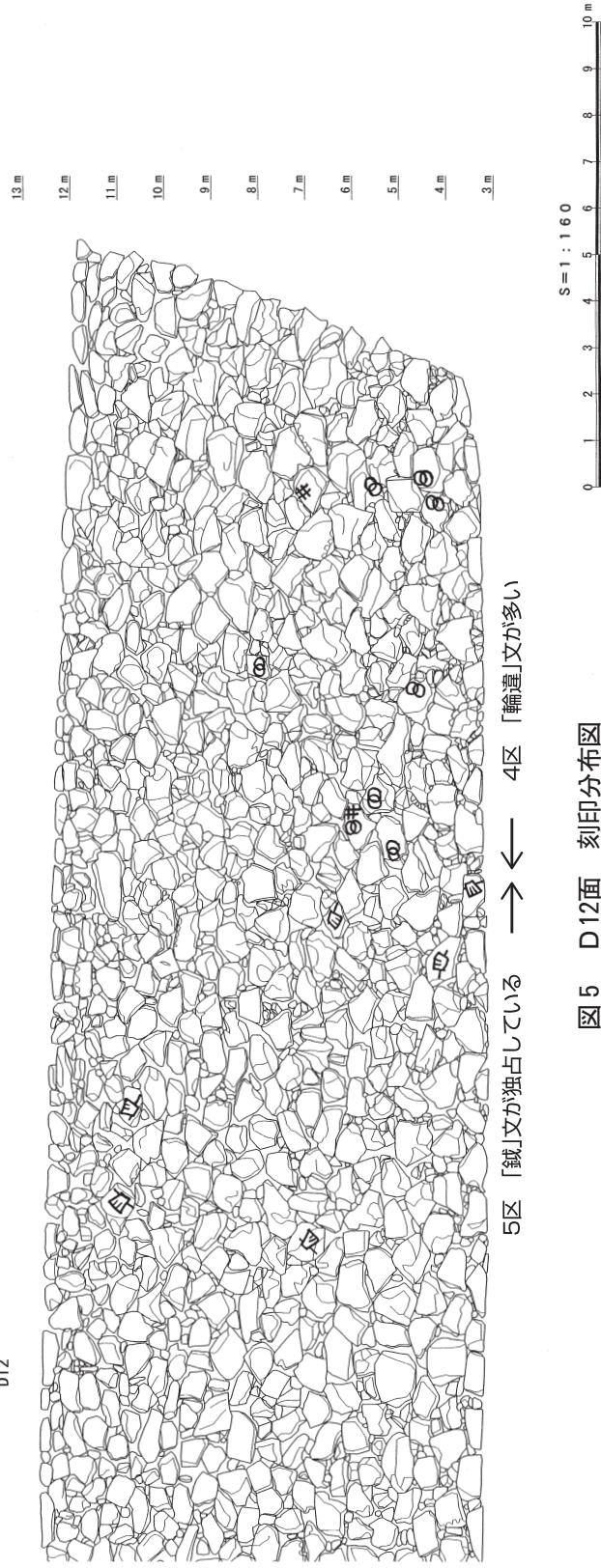
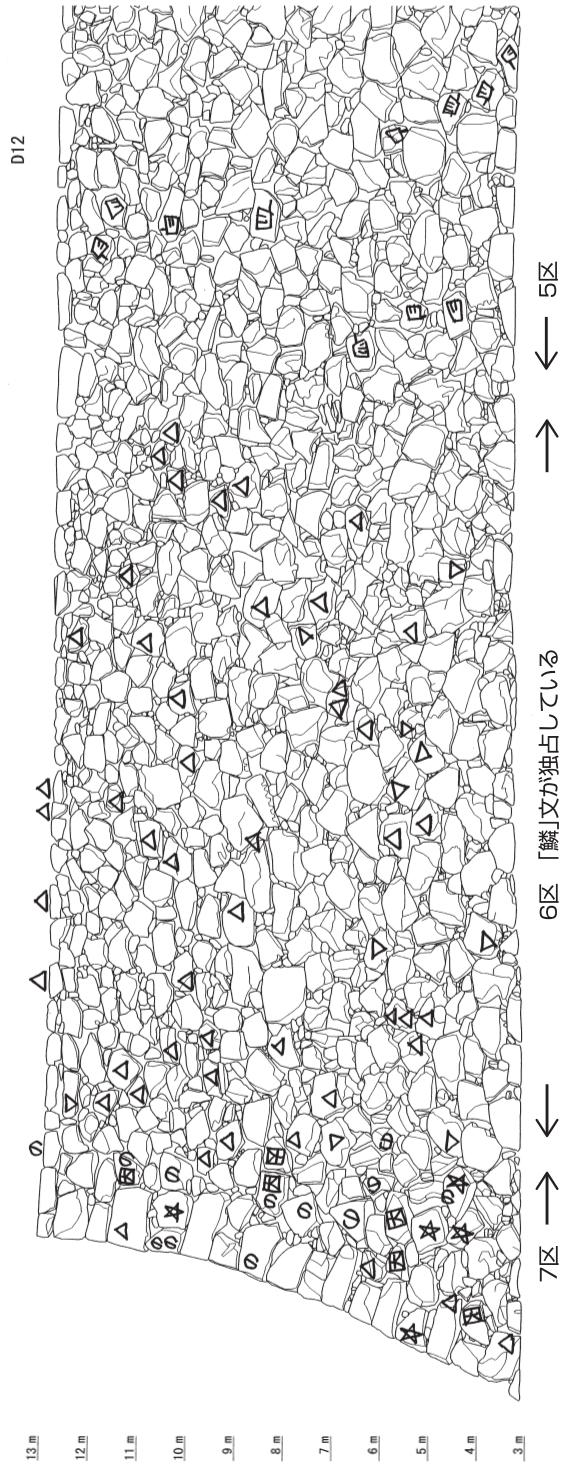
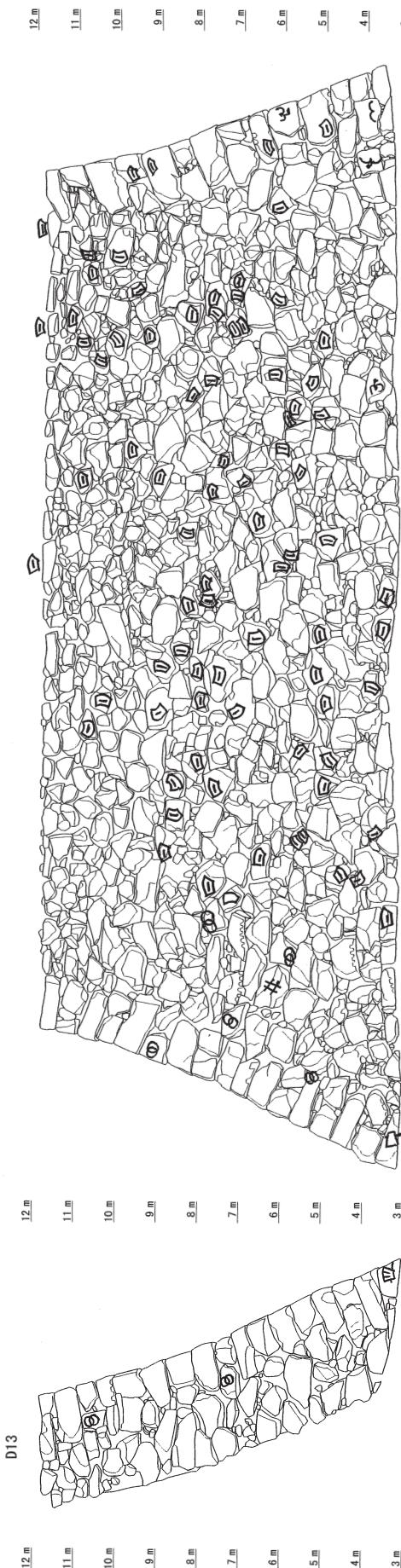


図5 D12面 刻印分布図

5区 「鉢」文が独占している → ← 4区 「輪違」文が多い



D13 → ← 3区 ← 下2区

(33)

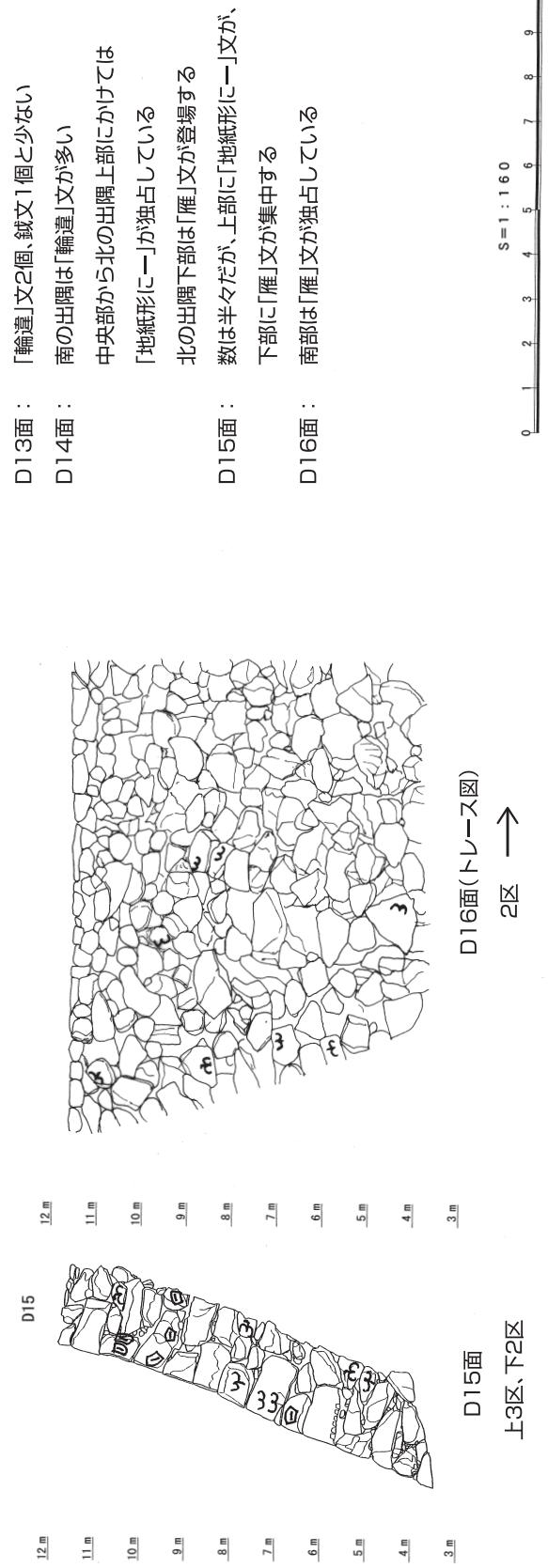
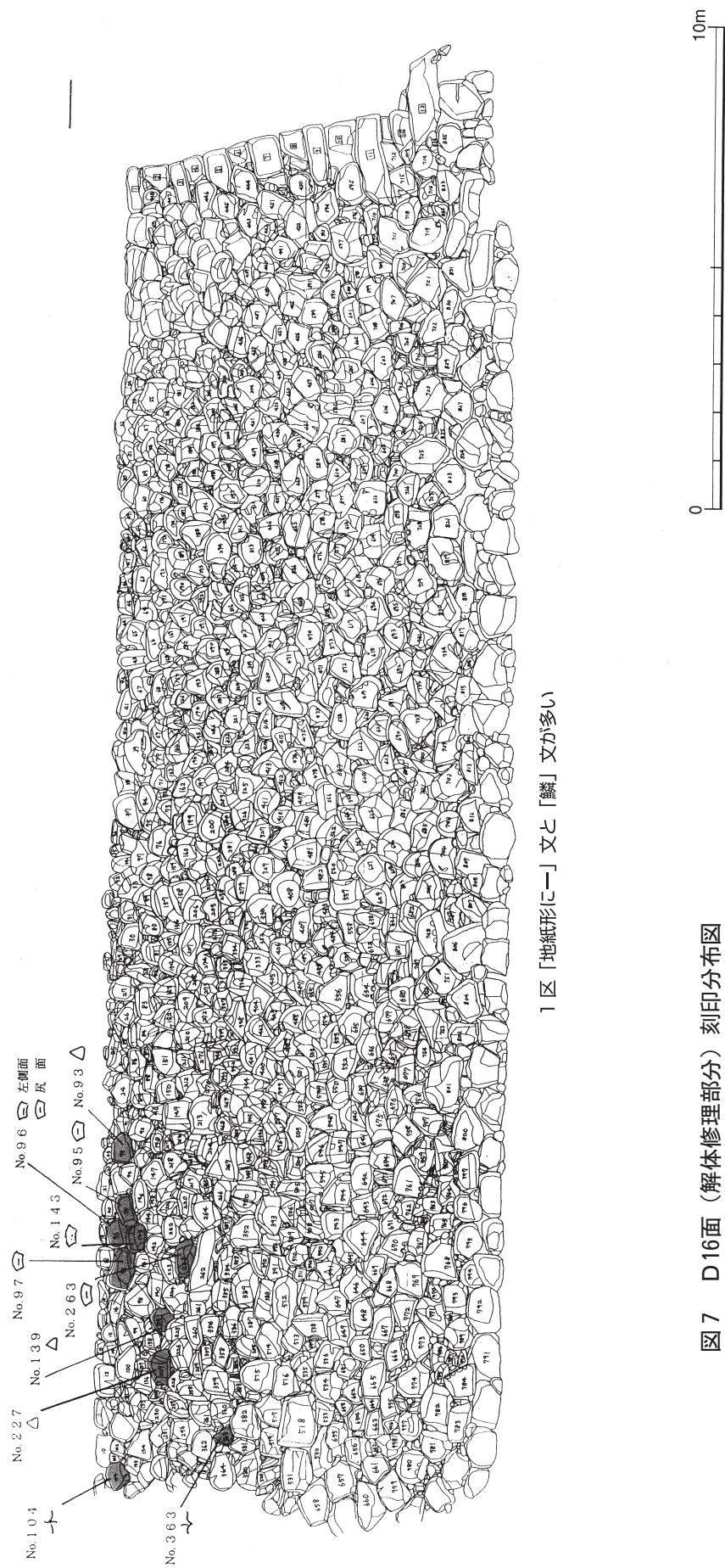


図6 D13～D16面 刻印分布図



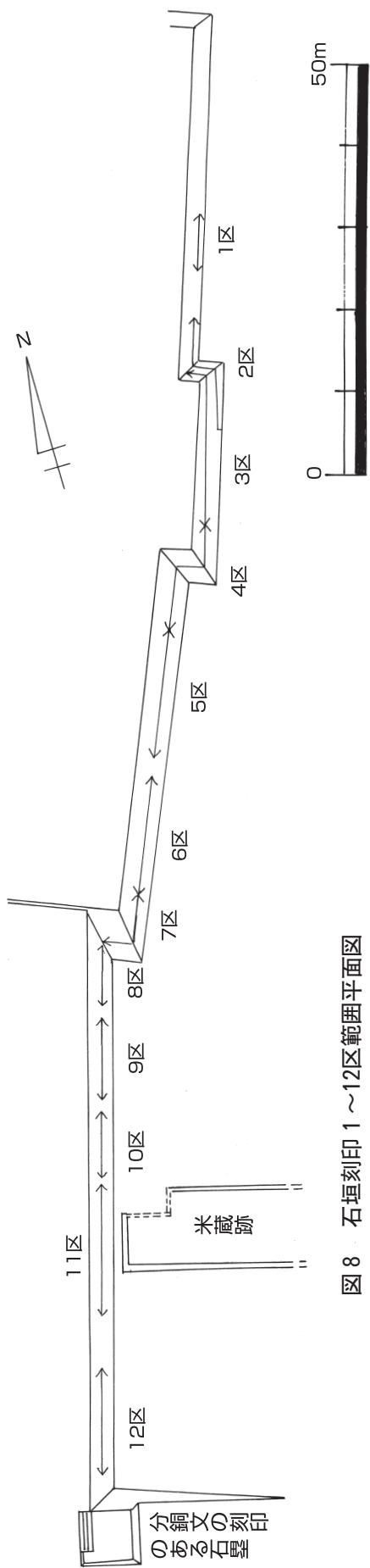


図 8 石垣刻印 1 ~12区範囲平面図

松江城 中曲輪東面石垣 刻印別数量一覧表

種類	12区	11区	10区	9区	8区	7区	6区	5区	4区	3区	2区	1区	計
地紙形に一 鱗 (△うろこ)	3	2		29							87	1	6
□に大	4	24	1	2	1	7	55						97
□に・	1	12				13							26
□						1							1
井		2											3
鍼 (まさかり)	3		7							17	2		29
輪違	2	1	1	1	1						3		3
「の」字	1	17		1	1	30							50
雁	6	2		4	12						5	14	2
大		2											45
星		3	1	1	1		9						2
計	20	65	10	38	15	61	55	17	19	92	15	11	418

※ この表は『松江市史』別編「松江城」(平成30年3月) 及び『史跡松江城石垣綜合調査報告書』(平成30年3月) 以降、令和元年12月までの調査データに拠る。

※ 各区は、同じ種類の刻印が集中して確認できる区間を示し、図では矢印で表現したがその境界は不明な箇所が多い。

※ 数字の太字は、各区の中で比較的多数の刻印種を示した。

※ 9区には築石の表面に雁文が1個認められるが、墨書きはこの表に含んでいない。

※ 12区は、調査時の刻印記入写真が不鮮明のため、石垣立面図(刻印分布図)に記入できなかつたものがある。

図 9 中曲輪東面石垣各区刻印別数量一覧表

あるが現時点では一括する。

12区 D10面の南部で両側に刻印の無い区間がある。各種の刻印が混在している。

次に刻印種別の数量を見てみると、

- (1)「地紙形に一」文が計128個で一番多い。しかも、3区と9区で際立って多い。
- (2)次に多いのは「鱗」文で計97個、6区と11区で多く、6区では独占している。
- (3)「雁」文と「の」字文は50個前後で第2グループの感がある。
- (4)横矢掛けの部分は、北から2区は「雁」文、4区は「輪違」文、7区は「の」字文が多いことが分かる。

4. まとめ

中曲輪東面石垣では、各種刻印が無秩序に分布するのではなく、特定の刻印種が集中して見られる範囲のあることが分かった。その範囲の広がりを「区」として抽出したが、特定の刻印種の分布は石垣の上下方向に変化するのではなく、各区は南北の水平方向に展開する。数量表では区ごとに刻印種の内訳を示したが、厳密な意味での区境は不明瞭である。

石垣面で実際に界線が確認できるわけではなく、刻印をもつ石材の空白域に漠然と区境が想定できるケースも多い。したがって、大縮尺の立面図では区境の線引きを無理に行わず、注記で表すに留めた。松江城の刻印は、腰曲輪の水ノ手門跡周辺や外曲輪の東内堀石垣などでも数が多く、今後も詳細な分布調査を進めていく。

注

- (1)『松江市史』別編「松江城」資料編第4節刻印と墨書参照
- (2)恩田清「松江城の石墨とその刻印（上）（中）（下）」（昭和42年8月11日～13日島根新聞文化欄）で15種、138個の刻印を紹介している。
- (3)昭和53年8月、藤井重夫と倉井一三が現地調査し、5か所で14個の刻印を採択している。
- (4)「堀尾吉晴 松江城築城国主・中老」平成7年で、18種の刻印を紹介し、築城に際し協力・支援した堀尾氏の親族や親密な関係にあった武将の家紋類を感謝の印として刻んだと結論づけた。
- (5)乗岡実「石垣と瓦から読み解く松江城」（松江市ふるさと文庫19、2017年3月、松江市）乗岡実「三 石材の刻印と墨書」『松江市史別編1 松江城』（第二章松江城の石垣第二節石垣の構造と改修）「第四節刻印と墨書」（松江市史別編1 松江城、第十章石材・石垣・瓦調査資料、平成30年3月、松江市）
- (6)『史跡松江城石垣修理報告書（鳥取県西部地震災害復旧事業）（保存修理一般事業）』2007年3月、松江市教育委員会
- (7)『史跡松江城石垣総合調査報告書』松江市、平成30年3月

（おかげ ゆうじろう 元松江市教育委員会参事）

（のりおか みのる 元岡山市文化財課長）

（いいつか やすゆき 松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課長）

（とくなが たかし 松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課埋蔵文化財調査室主任）

史跡松江城の発掘調査（3）

—本丸土坑—

岡崎雄二郎

1. 調査に至る経緯

史跡松江城内本丸南部にある城山公園管理事務所は、同公園の管理と入場券の発売所を兼ねて、昭和45年（1970）1月に松江市商工観光課が建築したものである。平成8年度に至り、この管理事務所が狭隘となったことから、同じ幅で西側に3m増築することになった。予定地は、国の史跡指定地内であるため、現状変更の許可を得なければならないが、あらかじめ遺構の有無を確認し、史跡の保護に万全を期するよう許可の条件が付された。

そこで同年7月～8月の内、4日間を要して、岡崎らが発掘調査を行なったものである。調査面積は東西2.7m、南北5.15mで、面積は13.905m²である。

2. 略 史

松江城の築城工事は、慶長12年（1607）から同16年（1611）までの5年をかけ堀尾忠晴治世の時、完成したと伝える。標高26mの亀田山の最高所に本丸を置き、四重五階の複合天守を建て、南に二之丸、内堀を隔てて三之丸を、北に北ノ丸、東に外曲輪（二之丸下ノ段）を、本丸周囲に腰曲輪、外曲輪、後曲輪などを配置した。

調査地点は、本丸の南部にあって、東側に一ノ門、弓櫓が、西側に坤櫓があり、石垣上にそれらを繋ぐ多門が廻る。「松江城縄張図」などの絵図で見ても建物などない部分である。

なお、松江城は、昭和9年5月1日に国の史跡に指定され、戦後昭和30年代頃から石垣修理、昭和46年度以降は「史跡松江城環境整備計画」により石垣修理に加えて発掘調査、環境整備、無関係な施設の撤去、櫓の復元などが実施してきた。

天守は、戦前までは国宝であったが、「文化財保護法」の制定に伴い昭和26年5月10日付けで「重要文化財 松江城天守」に改称された。昭和25～30年度にかけて全面解体修理、その後防災施設設備工事などを実施してきた。平成24年（2012）5月、松江神社で天守の祈祷札が再発見されたことにより、平成27年（2015）7月8日

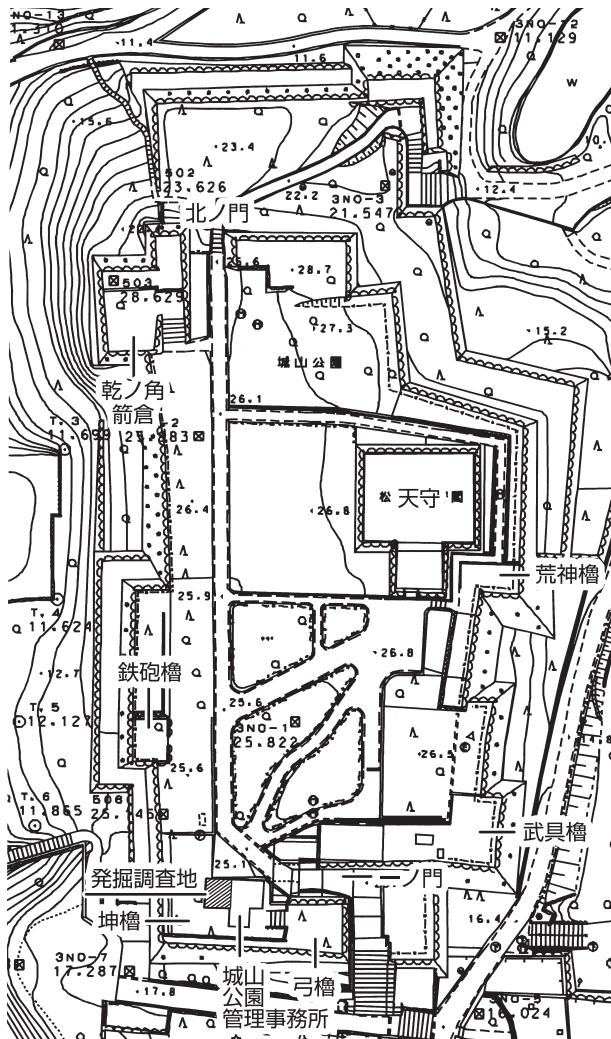


図1 発掘調査地点位置図

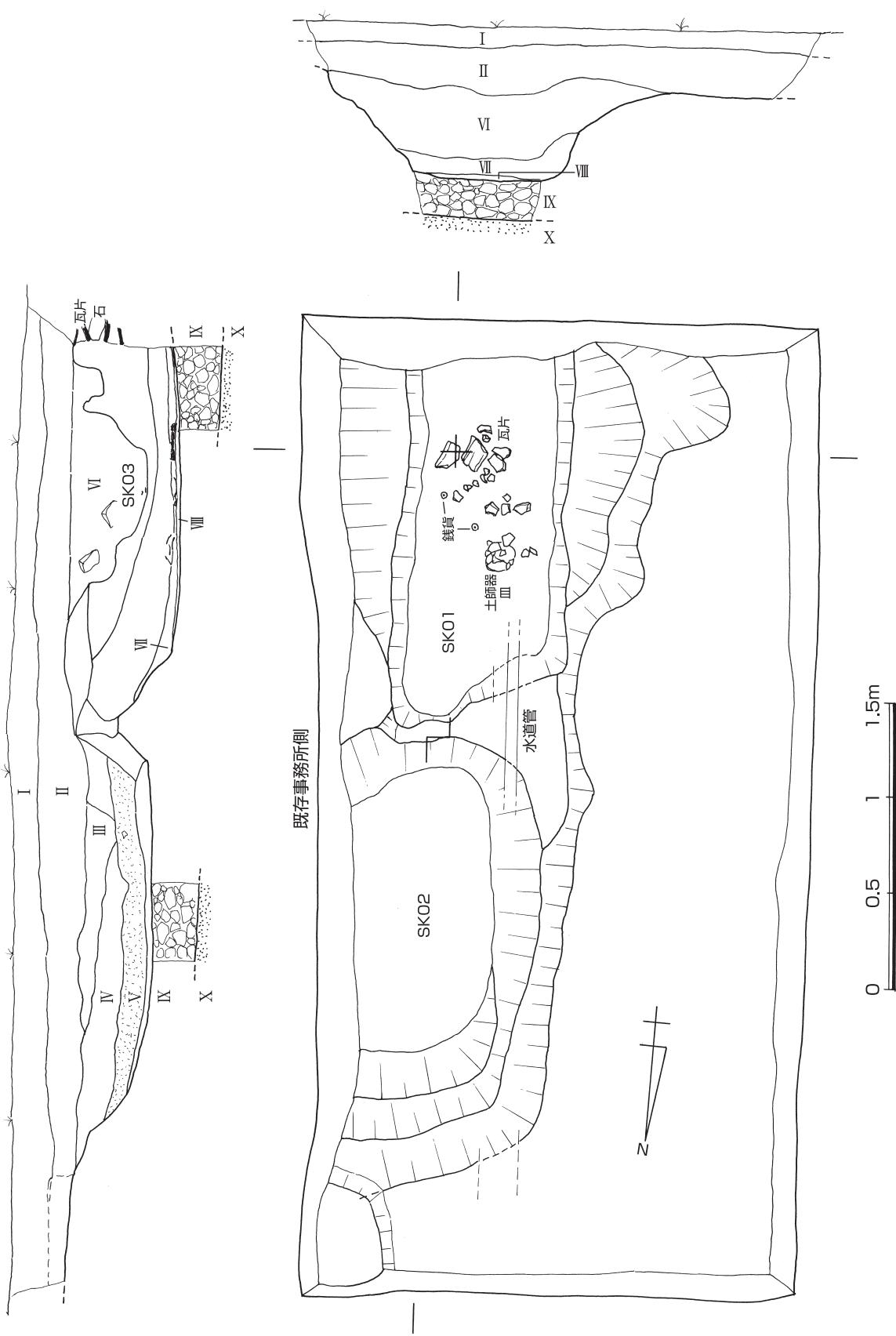


図2 発掘調査成果図

付けで国宝に指定された。

3. 調査の概要

共通の土層

第Ⅰ層（表土層）は、厚み10～20cmを測り、上部は砂利や小礫（バラス）と瓦片を多く含み非常に締まった暗褐色土である。水道管や電気の配管が縦横に交差していた。明治時代以降の公園整地土層と考えられる。

第Ⅱ層は、瓦片や丸い断面の鉄釘、若干の土師器皿の破片を含む褐色土層である。明治時代以降の土層である。

SK01

平面形は、南北に長い隅丸の略長方形を呈し、東西約0.7m、南北1.9m以上、深さ最大57cmを測る。第IX層の中途まで掘りこまれており、底面はほぼ平坦である。

第Ⅲ層から唐津焼の陶器皿の口縁部破片が出土した。17世紀前半のものである。（図7-11）

第VII層は、白色の砂岩ブロックをまじえる褐色土層である。厚み8cmを測り、SK01の底面に近い。第VII層の下部から瓦片、礫石のほか、ほぼ完形品のもの2個を含む土師器皿の破片と銭貨が集中して出土した。土師器皿は、手づくねの京都系の皿である。

第VIII層は、第VII層の下にあって、厚み1～2cmの薄い黒色土層である。炭が含まれており、何かを燃やした形跡がある。

出土品の内、土師器皿は完形品として伏せて置いてあったもの2個（図7-1, 2）、やや大きな破片4個体、その他数十片がある。銭貨は、全体が分かるものが2枚あるが、いずれも銹化が著しく、原形を留めていない。他に破片が4点ある。銭種は不明。



写真1 表面のバラスをとる



写真2 左：SK02 右：SK01



写真3 SK01 南方を見る



写真4 SK01 土師器皿出土状況

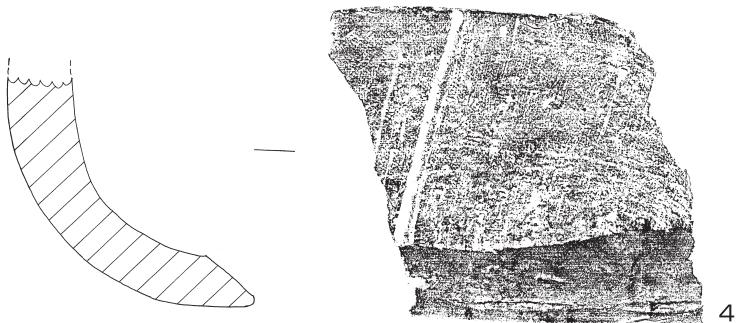
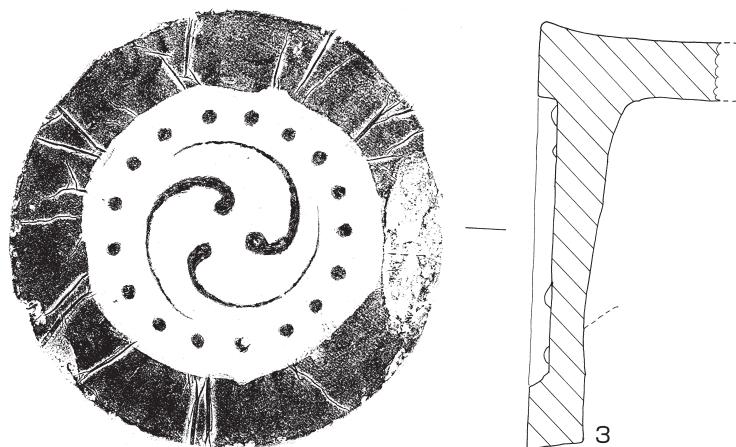
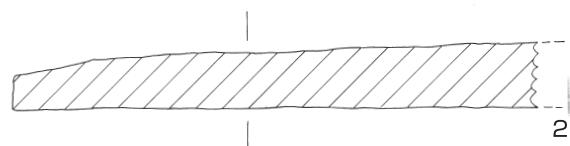
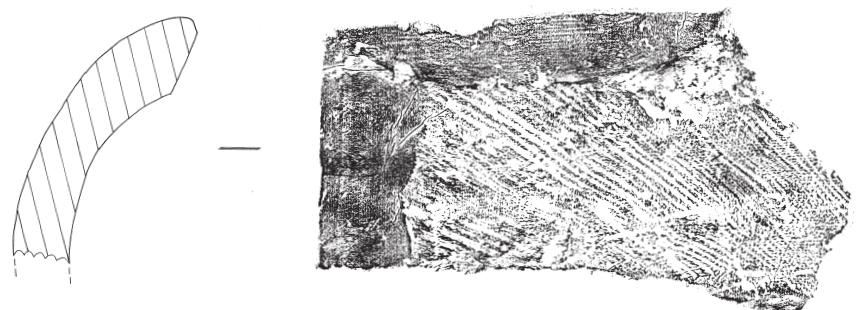
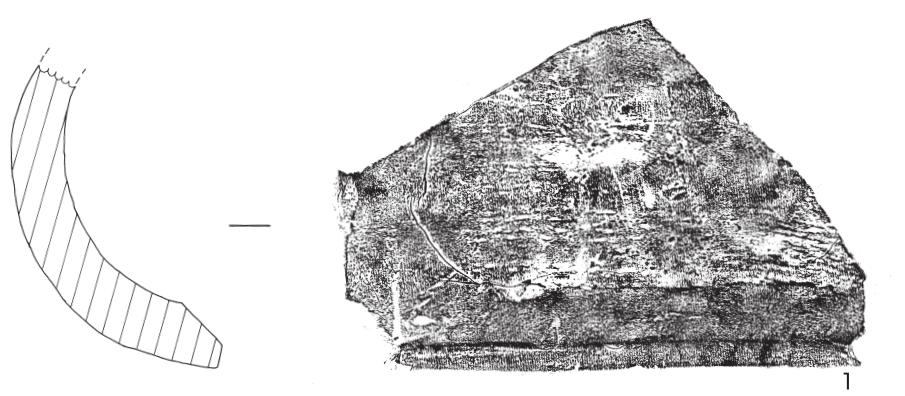
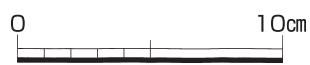


図3 瓦実測図 (1)



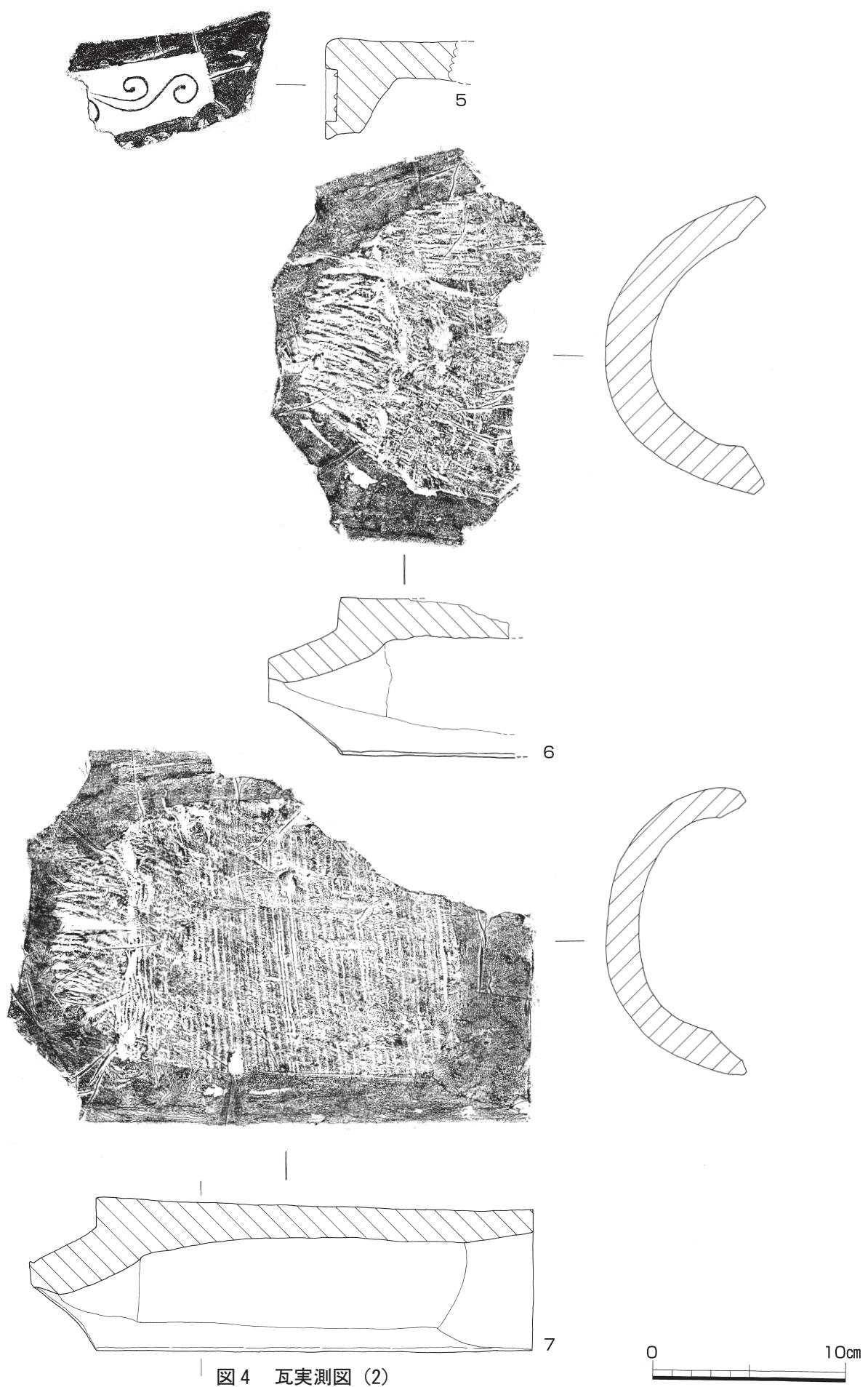
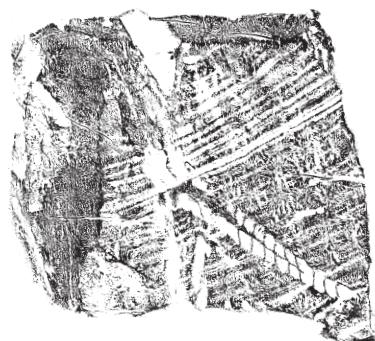
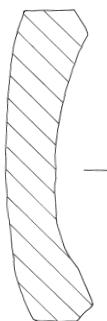
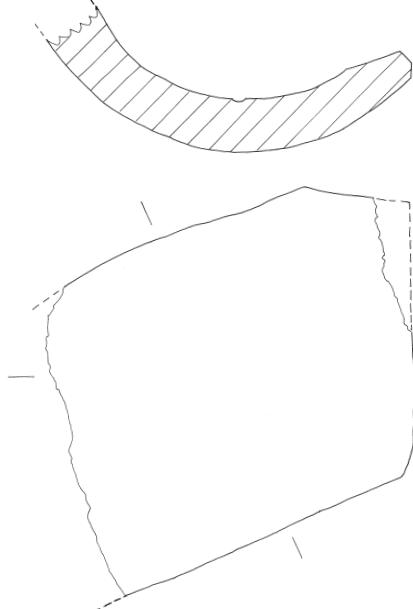
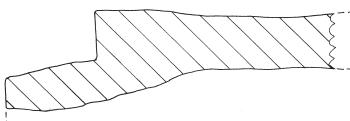
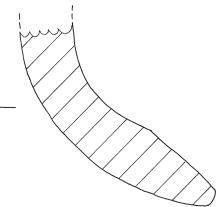
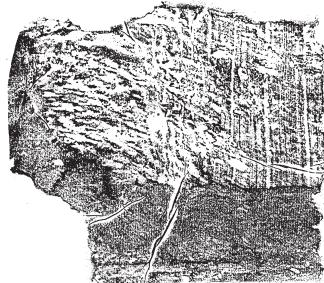
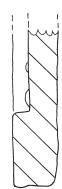
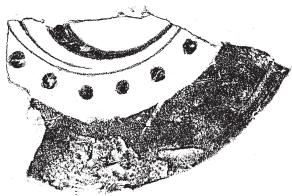
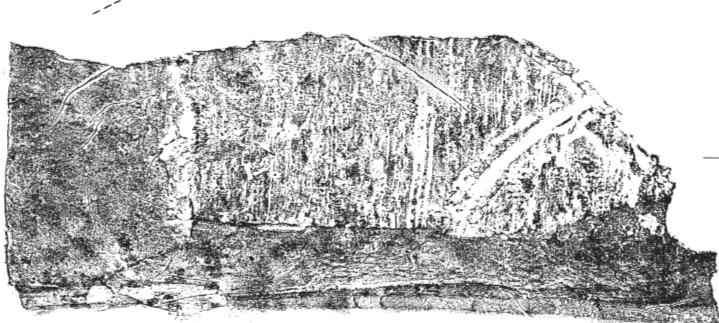


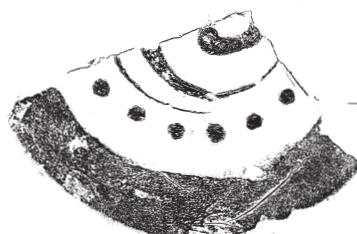
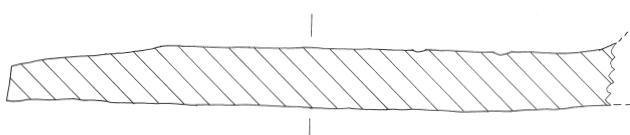
図4 瓦実測図(2)



10



11



12



図5 瓦実測図(3)

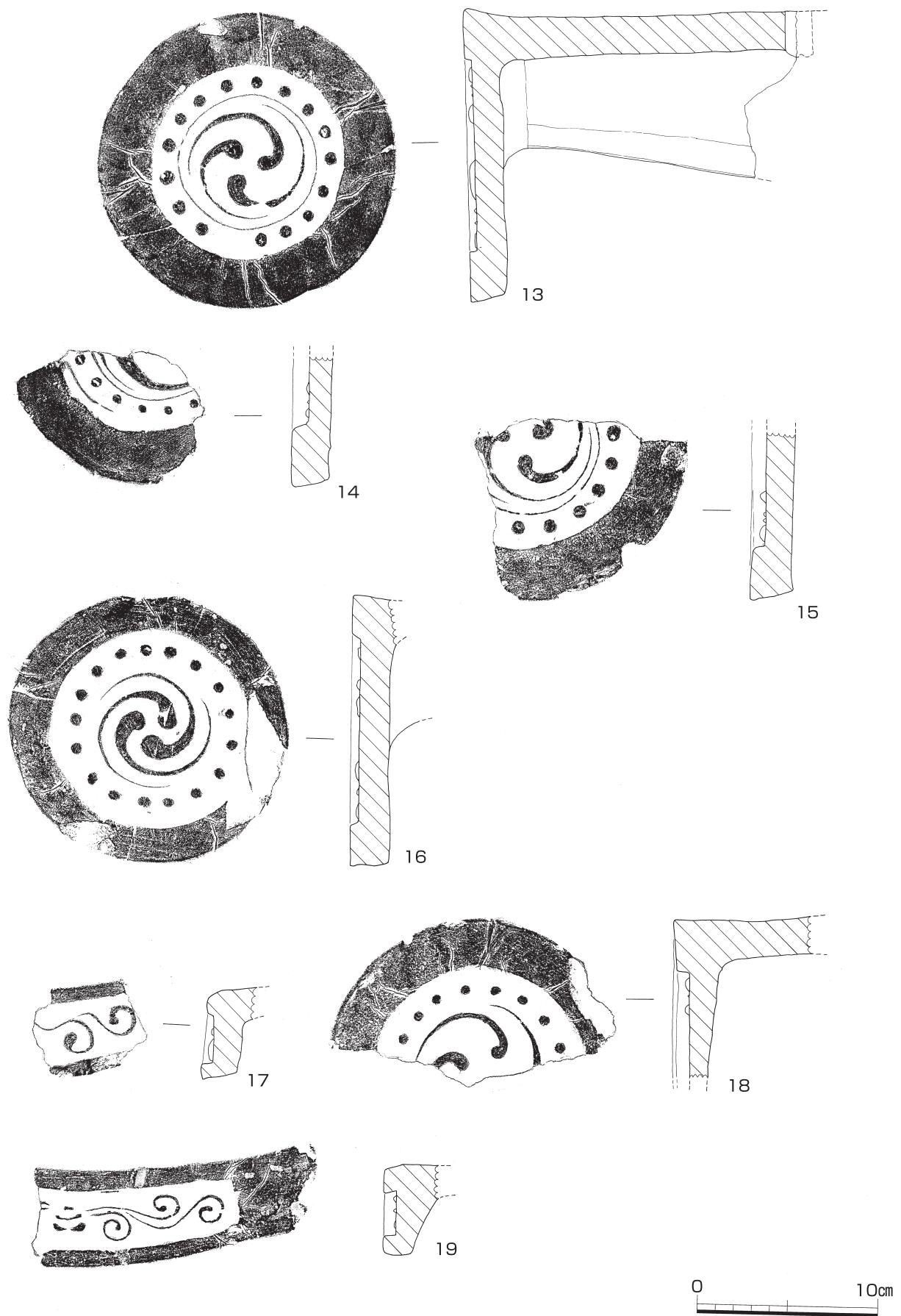


図6 瓦実測図(4)

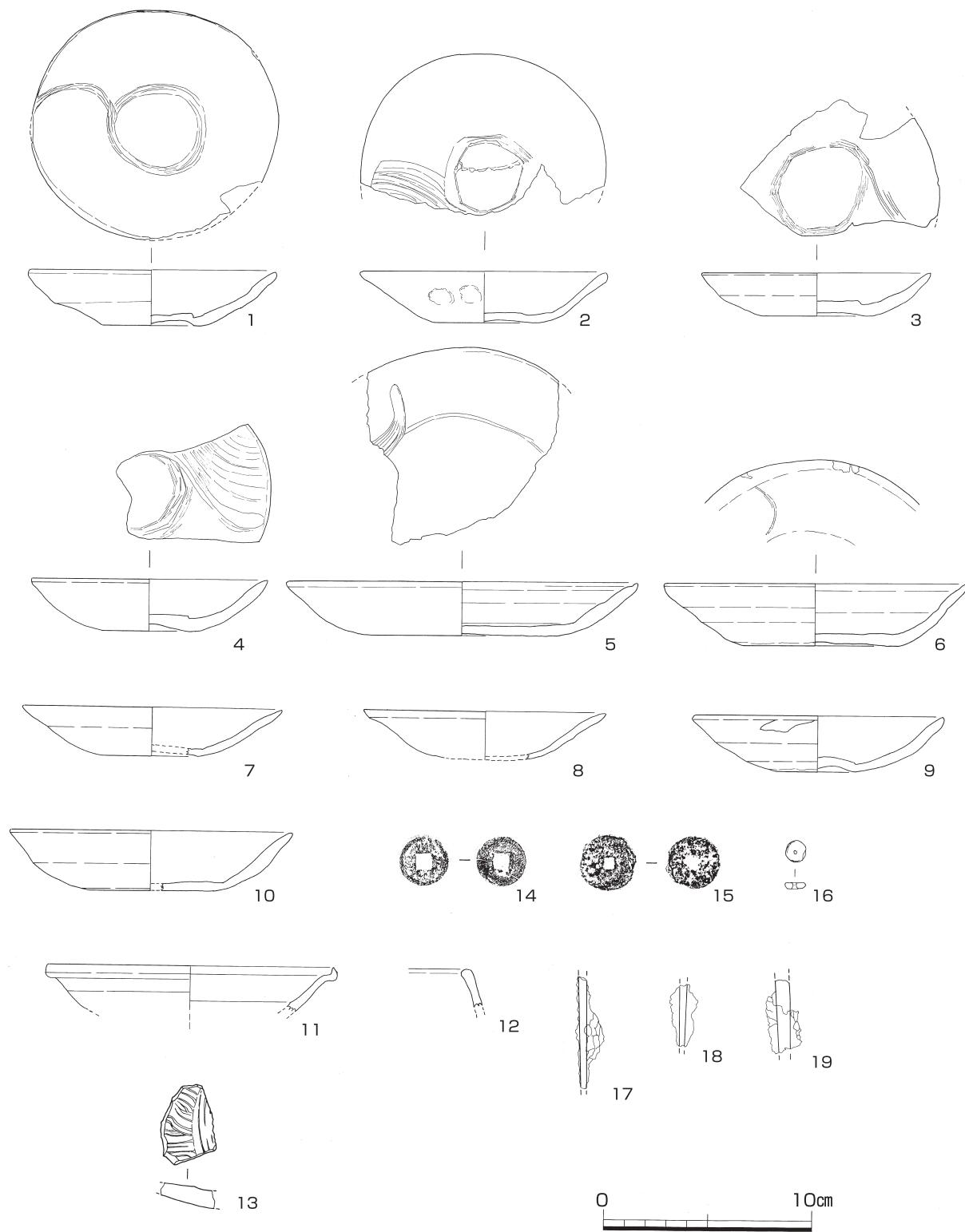


図7 土師器・陶磁器・金属製品実測図

SK02

調査区の北半部に検出された隅丸長方形の土坑である。第Ⅲ～V層は、この土坑内に堆積した土層である。

第Ⅲ層は、瓦混じりの橙色粘性土を多く含む褐色土層で硬い。第Ⅳ層は、瓦片、角釘混じりの暗褐色土層で硬い。

第Ⅴ層は、灰色砂層で下部に瓦片がわずかに含まれていた外には、遺物は無く、厚みは中央部で10cm。南部で18cmを測る。

この砂層中には、「布志名焼」の青地釉碗（ボテボテ茶碗）の口縁部の破片が包含されている⁽¹⁾（図7-12）。その製作年代は19世紀代と考えられているので、SK02の年代観を与えるものである。SK02の性格は不明といわざるを得ない。土壤の底面を形成する第IX層は、灰色や黄色の砂岩ブロック（差し渡し20cm前後）で構成されており、ブロックの隙間には明褐色粘性土が含まれている。岩盤の表層であり、自然堆積層である。その29cm下の層は一様に黄色や桃色の砂岩層となっており、第X層とした。城山（亀田山）丘陵を形成する岩盤である。

SK03

SK01の上部に掘りこまれた不定形の土坑である。内部には暗褐色土が堆積していた。

第VI層は、礫・転石や瓦片を多量に含み、炭と土師器皿の破片をわずかに含む暗褐色土層である。

4. 遺物の検討

出土遺物の内、注意すべき遺物について以下に述べる。^{(2), (3)}

■軒丸瓦

圏線がある左巻き巴文瓦として、図5の8、図6の13、14、15がある。この内、13は径が16.4cmで大ぶりの部類に含まれる。また15は、径が17.4cmで珠文は推定19個とかなり大ぶりで、花谷編年のA-1類Aと考えられる。いずれも松江城築城期の瓦である。圏線の無い左巻き巴文で、珠文が17個あるものとして、図6の3は、巴の尾が細長いことからA-4類Cに該当するであろう。図5の12はA-3類に属するものであろう。図6の16は巴が太くA-4類のBかDに該当するだろう。

■軒平瓦

中心飾が宝珠文で、両側の唐草文が三転するものに、図6の19がある。花谷編年では宝珠A類Aに分類される。広瀬・富田城跡千疊平出土のものと同範瓦であることが分かっている。図4の5も小片だが、同類と見てよいであろう。図6の17は、右側の唐草文しか分らないが、中心飾が下を向いた三つ葉（下向三葉）のA-1類Bであろう。宝珠A類Aと下向三葉のA-1類Bは築城期の瓦と考え



写真5 宝珠文唐草3転軒平瓦の比較
上：松江城本丸出土 下：富田城跡千疊平出土

ら れている。

■丸瓦

図3の2、4は、内面にコビキA（斜線）が認められるので、富田城から搬入したものか。図5の10もコビキAの可能性がある。他は内面にコビキB（平行線）が認められるので、これらより新しい段階のもの。築城時に松江城近隣で焼成された瓦や、後代の補充瓦であろう。

■土師器・皿

SK01から出土した皿はいずれも京都系の手づくねである。大半が白色系で径10cm以下の小皿はなく、ほとんどが径11~13cm台の中皿である。底部中央を上げ底状に仕上げる「へそ」皿はわずかで、大半は形骸化した「やや上げ底」状である。ナデ仕上げは「2」字状である。工具によってわざわざ圈線を施すものがある。凹線状のものもある。底部の分かるものは7個体であるが、他の破片で3個体は区別できるので、最低10個体あったものと思われる。同じ城内の二之丸番所跡南の廃棄土坑からも多量の土師器・皿が出土し⁽⁴⁾、戦国時代末の山城である毛利氏が陣を置いた荒隈城跡からも同類の皿が出土しており⁽⁵⁾、古式の様相を呈している。

■銭貨

全て鋳化しており、銭名は不明で、郭も確認できない。図7の16のように本来方孔である部分がいび



写真6 土師器皿



写真7 土師器皿



写真8 銭貨



写真9 銭貨



写真10 灰釉溝縁皿 (肥前)



写真11 三島手皿 (肥前)

つな円孔に見えるものもあることから、無文銭や鳩目銭の可能性も捨てきれない。

5. 小 結

狭い調査区であったが、3つの土坑が検出された。

SK01

中層から出土した瓦の内、中心飾に宝珠文を表す図6の19（A類A）は、実物を比較検討した結果、広瀬・富田城跡千畳平出土の瓦と同范瓦であることが判明した。松江城築城に際して、富田城で使用されていた瓦を松江城に移して再使用したのか、或いは広瀬の瓦工人が范木を持って松江に移動して、松江城近辺で制作したのか色々想像される。いずれにしても、松江城築城に当っての広瀬・富田城との密接な関係や瓦工人の動きを考える上で貴重な資料といえる。

この土坑は、瓦のほかに土師器皿、錢貨、炭が出土したことから考えれば、なんらかの祭祀に関係があるものと考えられる。

このような祭祀関係の土坑は、平成4年度調査の二之丸番所跡南側のSK01⁽⁴⁾や平成7、8年度に調査した二之丸太鼓櫓跡の西側、SK01⁽⁶⁾でも検出されており、いずれも大量の土師器皿などが出土している。櫓や門などの作事に際しての祭祀に関係するものだろう。祭祀に使用された皿を大量に廃棄したことによるものと考えられる。本例の場合は、同じような祭祀だが、皿の横に錢貨も添えてあったので、幾分性格が違うのかもしれない。坤櫓の北東方向に当ることから、坤櫓の始築時または最初の建て替え時に地鎮祭を行ったものであろうか。

SK02

瓦片、鉄釘が出土しているので、江戸時代末頃に掘られた廃棄土坑であろう。

SK03

付近の城郭建造物修理や屋根替え時の瓦などの廃棄土坑である。

注

- (1) 布志名焼は、1750年、舟木与次兵衛村政によって開窯されたと伝えられるが、青地釉の所謂ボテボテ茶碗は19世紀以降近代までも作られている。
- (2) 報告書の作成に当たっては、西尾克己（松江市史編集委員会・松江城部会長）、佐伯純也（米子市・文化振興課）、徳永桃代（公益財団法人松江市スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財課）の各氏から有益な助言を頂いた。記して感謝の意を表する。
- (3) 瓦の分類と年代観は、花谷浩「第五節 松江城の瓦」（『松江市史 別編松江城』第十章石材・石垣・瓦調査資料）平成30年3月、松江市に拠る。
- (4) 『史跡松江城発掘調査一二ノ丸番所跡一』1993年3月、松江市教育委員会
- (5) 『荒隈城跡』1982、松江市教育委員会
- (6) 『史跡松江城整備事業報告書（第2分冊：調査編）』2001年3月、松江市教育委員会の66～75頁

（おかげさき ゆうじろう 元松江市教育委員会参事）

史跡松江城 本丸・土坑出土遺物観察表

(1) 瓦類

挿図番号	実測番号	遺構・土層	種別	法量	色調	特徴・備考
図3-1	14	SK01第III層中	丸瓦	残存幅13.5cm、厚み2から2.4cm	内外面共に暗灰色、素地土は黄灰色	布目痕あり。
図3-2	16	SK01第III層中	丸瓦	残存長20.0cm、厚み1.9～2.5cm 前端部高さ1.3cm、同側部0.9cm	内外面共に灰色	コビキ痕はA、布目痕あり。
図3-3	8	SK01第IV層下面	軒丸瓦	直径16.3cm、同厚み2.1cm、丸瓦部の幅9.2cm、中央厚み1.3cm、端部厚み0.8cm、高さ3.3cm。厚み2.2cm。	外面暗灰色、内面灰色、素地土は白色土を混ぜた灰色。	左巻き三つ巴文で珠文は17個、裏面に焼成時の台痕か。
図3-4	19	SK01最下層	丸瓦	厚み2～2.5cm	内外面共に淡橙～暗灰色、素地土は橙色	コビキ痕はやや斜め方向のAか、布目痕あり。
図4-5	13	SK01第III層中	軒平瓦	額高さ5.3cm、同奥行き3.7cm、平瓦部厚み2.1cm。	暗灰色～灰色、素地土は淡灰色。	銀化が見られ、上下面共力キ目調整を施す。
図4-6	12	SK01第III層中	有段丸瓦	幅15.6cm、高さ8.3cm	内外面共に暗灰色、素地土は黄灰色淡黄色。	コビキはB、布目痕、絞り痕あり。
図4-7	15	SK01第III層中	有段丸瓦	総長26.2cm、本体長22.8cm、段長3.4cm、横幅15.0cm、高さ8.0cm。		コビキはB、絞り痕あり。
図5-8	5	下層	軒丸瓦	直径16.8cm、厚み1.6cm、外区幅3.0cm。	外面：暗灰色、素地土は明黄色。	左巻き三つ巴文。巴は尾が長い。圈線あり。
図5-9	18	下層	有段丸瓦		内外面共に暗灰色、素地土は	コビキはB。絞り痕あり。
図5-10	6	下層	隅切瓦	長さ12～12.5cm、幅15cm以上、厚み2～2.3cm。	内外面共に灰色。	上下端部共、内面に面取りを施す。コビキA、桶巻の袋口痕あり。表面の一部に焼付着。
図5-11	17	SK01第III層中	軒丸瓦	残存長24cm、厚み2.3cm、前端部高さ1.4cm、同側部0.8cm。	内外面共に暗灰色。	軒部を久く。コビキB。絞り痕あり。
図5-12	11	SK01第III層中	軒丸瓦	直径15.6cm、同厚み2.1cm。	内外面共に暗灰色、素地土は	左巻き三つ巴文、珠文の数は推定16個。
図6-13	7	中層	軒丸瓦	直径16.4cm、同厚み1.9cm、瓦部厚み2.1cm。	内外面は灰色、素地土は白色土を混ぜた灰色。	左巻き三つ巴文、その外側に圈線をまわし、珠文は17個。外区の幅は2.8cm、内面はコビキBで布目痕あり。前端から17.9cmの部位上面に径1.5cmの釘留用の円孔あり。丸瓦部はいびつな焼成である。

図 6-14	2	中層	軒丸瓦	直径16.6cm、厚み2.1～2.2cm、外区幅3.0cm。	明褐色	左巻き三つ巴文、外に墨線が廻る。側面から裏面にかけて一部焼けで煤が附着している。
図 6-15	3	中層	軒丸瓦	直径17.4cm、厚み2.3cm、外区幅3.0cm。	外面：灰色、側～内面：暗灰色。	左巻き三つ巴文、外側に墨線が廻る。珠文は推定19個。
図 6-16	9	中層	軒丸瓦	直径15.1cm、同厚み2.2cm。	内外面共に灰色、素地土は灰色で白色土を混ぜる。	左巻き三つ巴文、珠文は17個。
図 6-17	1	中層	軒平瓦	高さ5.0cm、厚み2.0cm	灰色、軟質	唐草文二転か
図 6-18	10	中層	軒丸瓦	直径16.0cm、同厚み2.0cm	内外面共に灰色、素地土は淡灰色。	左巻き三つ巴文で墨線はわずかに認められる。珠文は推定17個。
図 6-19	4	中層	軒平瓦	高さ5.1cm、下顎幅1.5cm	外面は暗灰色、素地土は明橙色	中心飾は宝珠文で、左右に三転唐草文を施す。上面を1cm幅で削り面取りを施す。

(2) 土師器・皿 (単位cm)

插図番号	実測番号	遺構・土層	器種	系統	口径	底径	器高	特徴・備考
図 7-1	3	SK01 最下層	中皿	京都系	11.1～11.8	4.8	2.0～2.7	白色系、いびつ、口縁部附近内外面は横ナデ調整(内面は見込み手前まで)、墨線あり(幅5mm、段差2mm)、ナデ上げ(幅5, 6mm)、上げ底(高さ2mm)
図 7-2	4	SK01 最下層	中皿	京都系	11.8	5	2.5	白色系、いびつ、口縁部附近内外面は横ナデ調整(内面は見込み手前まで)、墨線あり(幅4, 5mm、段差1mm)、ナデ上げ(幅1.9mm以上)、上げ底(高さ1.5mm)
図 7-3	7	SK01 第Ⅲ層	中皿	京都系	11	5	2.1	外面：暗灰色、内面：黄灰色、墨線あり(幅3mm、段差2mm)、ナデ上げ(幅6mm)、上げ底(高さ1.5mm)
図 7-4	8	SK01	中皿	京都系	11.4	4.5	2.5	淡黄色、墨線あり(幅5mm、段差1.5mm)。ナデ上げ(幅3.8cm以上)、上げ底(高さ3mm)
図 7-5	5	SK01 第Ⅲ層	大皿	京都系	17	9.6	2.6	白色系、口縁部付近内外面共横ナデ調整、一部溝縁あり。墨線(見込み附近、幅3mm)、ナデ上げ(幅9mm)、やや上げ底気味
図 7-6	1	SK01	大皿	京都系	14.6～14.8	8	2.9～3.1	白色系、墨線不明瞭、油煙痕2ヶ所、やや上底気味(一部高さ1.5mm)、口縁部付近内外面横ナデ調整、ナデ上げ、見込み附近に5×8mmの穿孔1ヶ所か
図 7-7	10	SK01 第Ⅲ層	中皿	京都系	12.4	4.4	2.3	内外面共明橙色、油煙痕あり、調整不明
図 7-8	9	SK01 第Ⅲ層	中皿	京都系	11.6	5	2.3(推定)	内面：淡橙色、外側：やや灰色、調整不明
図 7-9	2	SK01	中皿	京都系	12	3.6	2.8	白色系、一部溝縁あり。油煙痕(3.5×1.1)、口縁部付近内外面横ナデ調整、墨線あり(段差1.5mm)、上げ底(高さ3mm)
図 7-10	6	SK01 第Ⅲ層	中皿	京都系	13.6	7	2.9	やや明橙色、見込みに油煙痕か

(3) 陶磁器

挿図番号	実測番号	遺構・土層	種別	器重	器形	口径	底径	器高	生産地	年代	特徴・備考
図7-11	1	SK01 第Ⅲ層	陶器	中皿	溝縁形	13.8cm	—	—	肥前	九陶Ⅱ期	灰釉溝縁皿。口縁端部は上方へ折り曲げ銳い。素地土は黄褐色、釉は透明釉。
図7-12	2	SK02 灰色砂層中	陶器	碗	(ぼて)(ぼて)	—	—	—	布志名	19世紀 以降	口縁部の破片。内外面共、青地釉を掛け る。厚み0.4cm。
未掲載	3	SK01 最下層	陶器	大鉢	—	—	—	—	備前	不明	底部である。内外面共赤紫色、厚み0.8cm
図7-13	4	不明	陶器	皿	刷毛目	—	—	—	肥前	九陶Ⅲ期 以降	白い化粧土で施文後、内外面共に透明釉を 掛ける。見込みの2本の置線は線彫りし、 白土を埋める。厚み5~9.5mm。

(4) 金属製品・錢貨

挿図番号	実測番号	遺構・土層	材質	法量	特徴・備考
図7-14	2	SK01(い)	銅	径2.35cm、方孔0.75cm角、厚み約1mm	銭文不明、郭が無く無文銭か
図7-15	1	SK01(あ)	銅	径2.5×2.6cm、方孔0.4×0.5cm、厚み1.5mm弱	銭文不明、郭が無く無文銭か
—	3	SK01(う)	銅	—	6片以上に分かれる
—	4	SK01(え)	銅	—	7片以上に分かれる
図7-16	5	SK01 最下層	銅	径1.1cm、いびつな円孔1×2mm、厚み約3mm	他にも破片あり、一回り大きくなる可能性 あり

(5) 金属製品・角釘

挿図番号	実測番号	遺構・土層	材質	法量	特徴・備考
図7-17	1	中層	鉄	厚み3×3~5×6mm	
図7-18	3	最下層	鉄	厚み3~4mm	
図7-19	2	下層	鉄	厚み5.0~6.5mm	

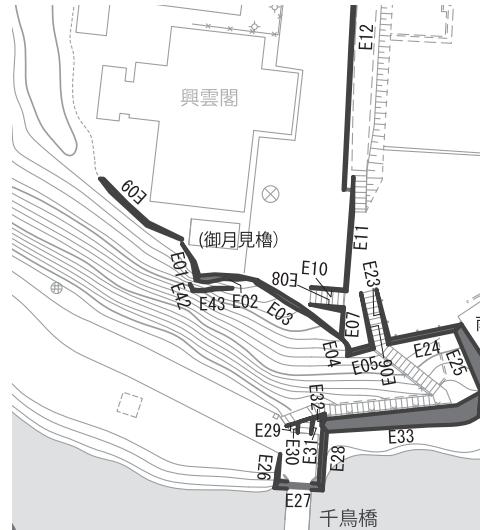
松江城月見櫓下石垣と石材について

徳永 隆・澤田順弘・新宮敦弘

1. はじめに

松江城二ノ丸南側にある月見櫓下石垣（石垣No.E01、02、42、43）（第1図）は、二之丸南辺の丘陵崖面上部に取り付けた石垣で、周辺は樹木で鬱蒼としており、あまり人目に付かない状況であった。しかし、平成24年度から実施した松江城の石垣総合調査において、改めて現況を確認したところ、石垣に著しい変形が確認され、さらに、この石垣が崩落した場合には、法面下方の公園園路通行者へ危害が及ぶことも憂慮され、早急な修理が必要と判断された。このことから、平成30年度から総立面積で約42m²の範囲について石垣の解体修理工事を実施することとなったものである。

本稿は上記の工事に際し実施した発掘及び石材の調査結果について報告する。

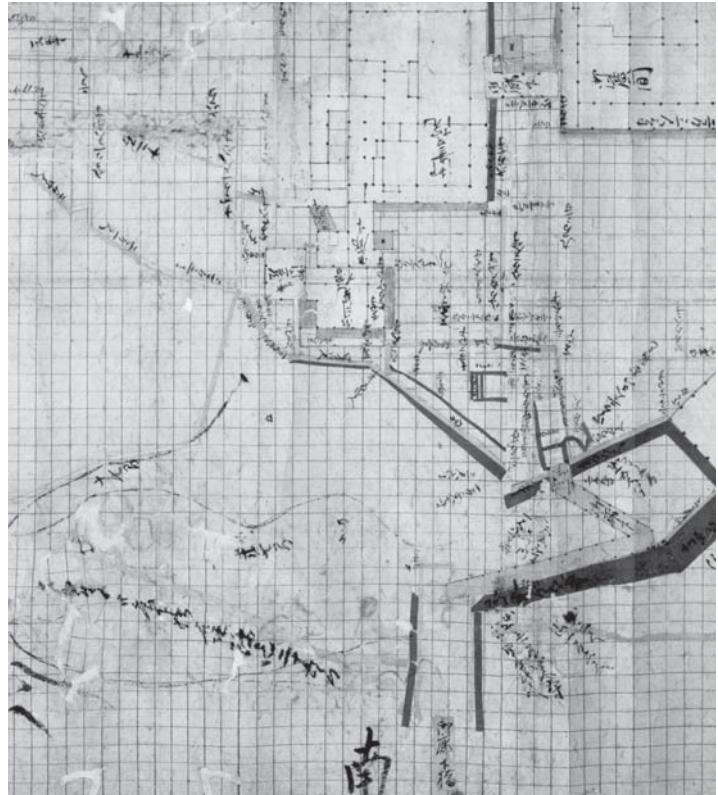


第1図 石垣配置図

2. 現況と史料について

（1）石垣の現況について

当該石垣は、二之丸南辺を構成する西～南向きの石垣で、鎧出角をもつ高さ4.4m程度の上段石垣（E01、02）とその基部に取りつく高さ1.2mの下段石垣（E42、43）からなる。さらに、調査当初は埋没していたが、上段石垣（E01、02）の天端内側にも1～2段程度の石列が廻っていた。上段石垣（E01、02）の隅角は鎧出角になっており、切石による算木積みで構成される。築石部（石垣壁面を構成する大型の石からなる部分）は基本的に割石による乱積みで、天端付近で水平に目地が通り、2段程度積み増しされた状況が覗えた。下段石垣（E42、43）は上段石垣の隅角部の基部を中心に築かれた腰石垣で、既に一部が崩落・欠損しており原形が不明な部分もあるが、隅角部以外は石を積まず石列状になっており、上段石垣の基盤を安定させるため



第2図 『松江城縄張図』※一部抜粋

の補完的な石垣と考えられる。天端内面の石列は、陥没の影響でほぼ埋没していたが、基本的に板石により構成されている。

(2) 史料について

当該石垣について、詳細な比較が可能なものとしては最も古い史料である『松江城縄張図』(17世紀末)(第2図)において、現況とほぼ同じ平面形状で描かれており、近接して「御月見櫓」(二間半×三間)が築かれたことが確認できる。

また、天保11(1840)年頃に当該石垣が変形した旨が記された『御本丸絵図面』があり、この頃に石垣の改修が行われたと考えられる。

3. 発掘調査の成果(第3図)

(1) 平面調査

石垣の解体に伴い掘削が及ぶ範囲について、E01、E02石垣天端の平面的な発掘調査を実施した。

まず、興雲閣の水路等を伴う近代攢乱層を除去すると、赤褐色土の整地面が確認され、この上面で礎石とおぼしき石材が2石確認された。配置から月見櫓の礎石である可能性が高いものであったが、今回の限られた調査範囲では断定できなかった。

また、この基盤層において石垣側に掘削痕跡があり、この掘削痕跡に対応して栗石が伴うことが確認されたことから、最終的な大規模改修の痕跡と考えられた。

(2) 石垣構造調査

E01、02石垣については、平面調査の成果も勘案して、小画期を含め5期の変遷が考えられた。以下、古い順に概要を述べる。

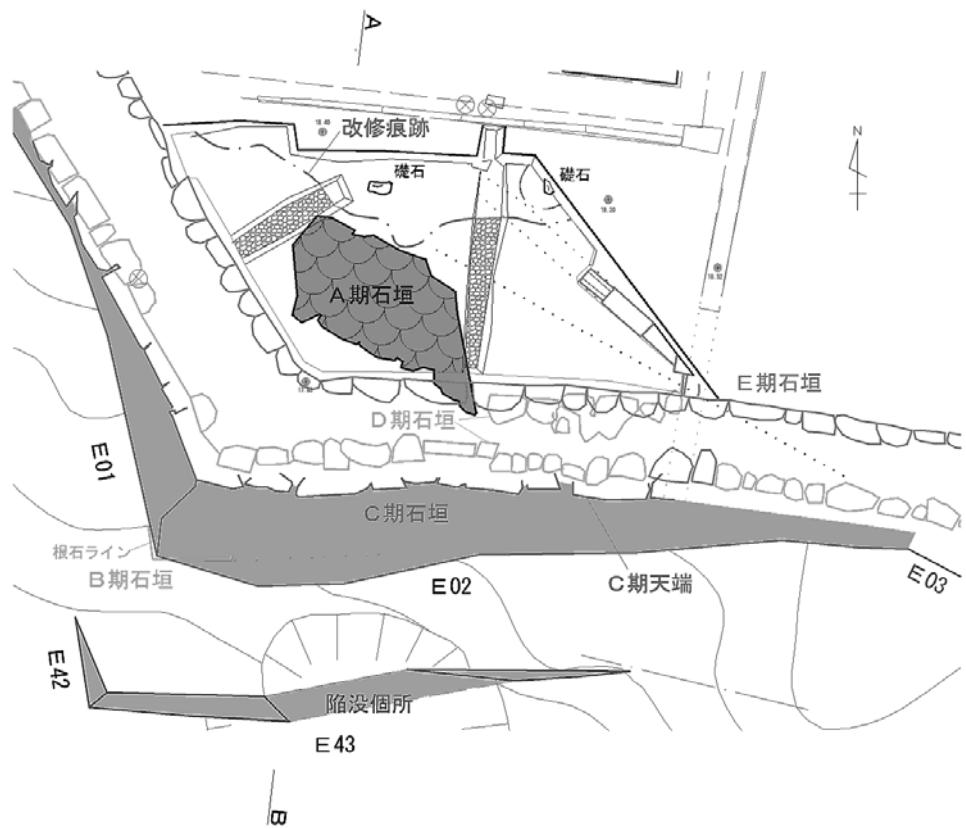
【A期】解体した石垣の切土背面から発見された、やや小ぶりの石材を用いた野面積みの石垣である。規模は、検出範囲で高さ約2.8m、最大幅が約3mを測るが、天端及び東西両端は大きく欠損している様である。

東側に隣接している石垣(E03)のほぼ一直線上に位置することから、当初は南東から北西に向けて直線的な石垣であったところに、E01・02石垣が「く」の字状に張り出して造り出され(下記B期石垣を想定)、現況の平面形状になったと推察される。

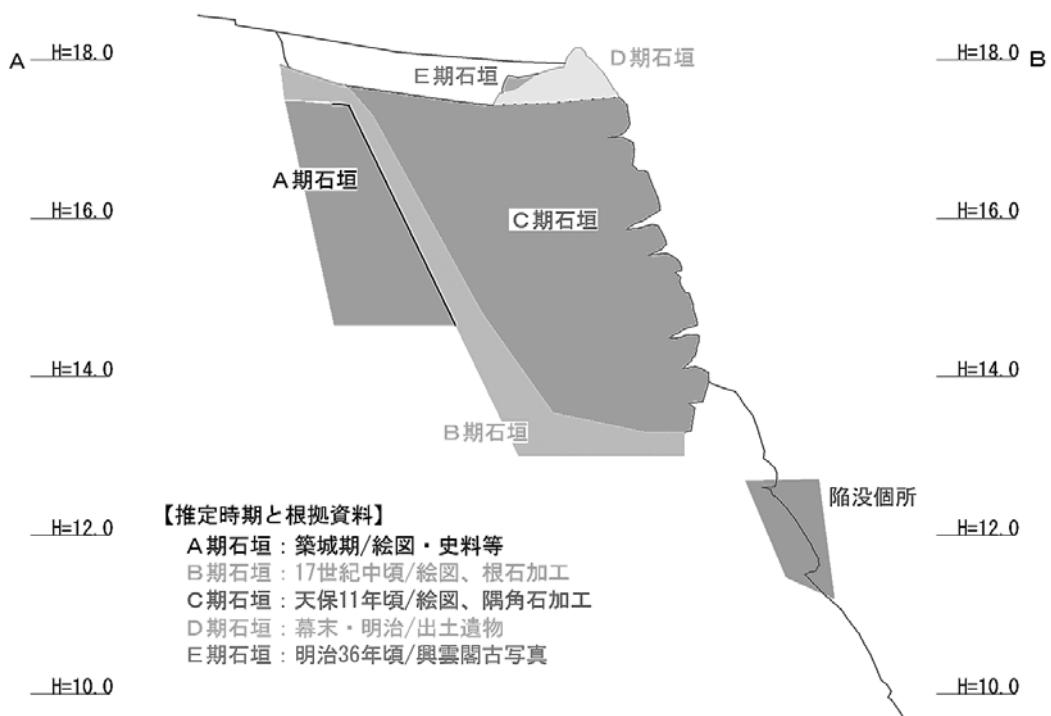
【B期】E01、02の隅角部の根石部分に、後述するC期石垣と加工精度が異なる隅角部根石が確認されたこと、また、絵図資料から築城後間もなく前述のA期石垣を埋め立てていると推察されることから存在を推定したものである。平面・立面上的に隅角部の根石以外に当該期の石垣の存在を想定できる個所はなく、C期の改修により大半が改変されている可能性も考慮される。また、加工精度の違いは根石と築石との差異である可能性も留意したい。

【C期】平面で確認された改修痕に伴うもので、後述のD期石垣が積み増しされる前の石垣である。平面的にはおよそ今回の改修範囲全体に及ぶものと推察され、立面上にはどこまでがこの時期に改修を受けたのかは明確にし得ないが、築石最下段付近の裏込め(築石部奥側に充填された小型の栗石)内に来待石製の角柱材が検出されたことから、少なくともここまで改修が及んだものと考えられた。遺物が乏しく明確な改修時期を特定することはできなかったが、天端面の痕跡から積み増し部を除いて最終的な改修痕と判断されることから、天保11年頃の改修に対応するものと推察される。なお、この石垣裏込め内から築石石材と考えられる大型の石が多数検出された(第8図)。刻印や矢穴をもつものもあり、C期石垣の改修時に再利用されなかったB期石垣の石材もしくは取り崩されたA期石垣の石材の一部と推定される。

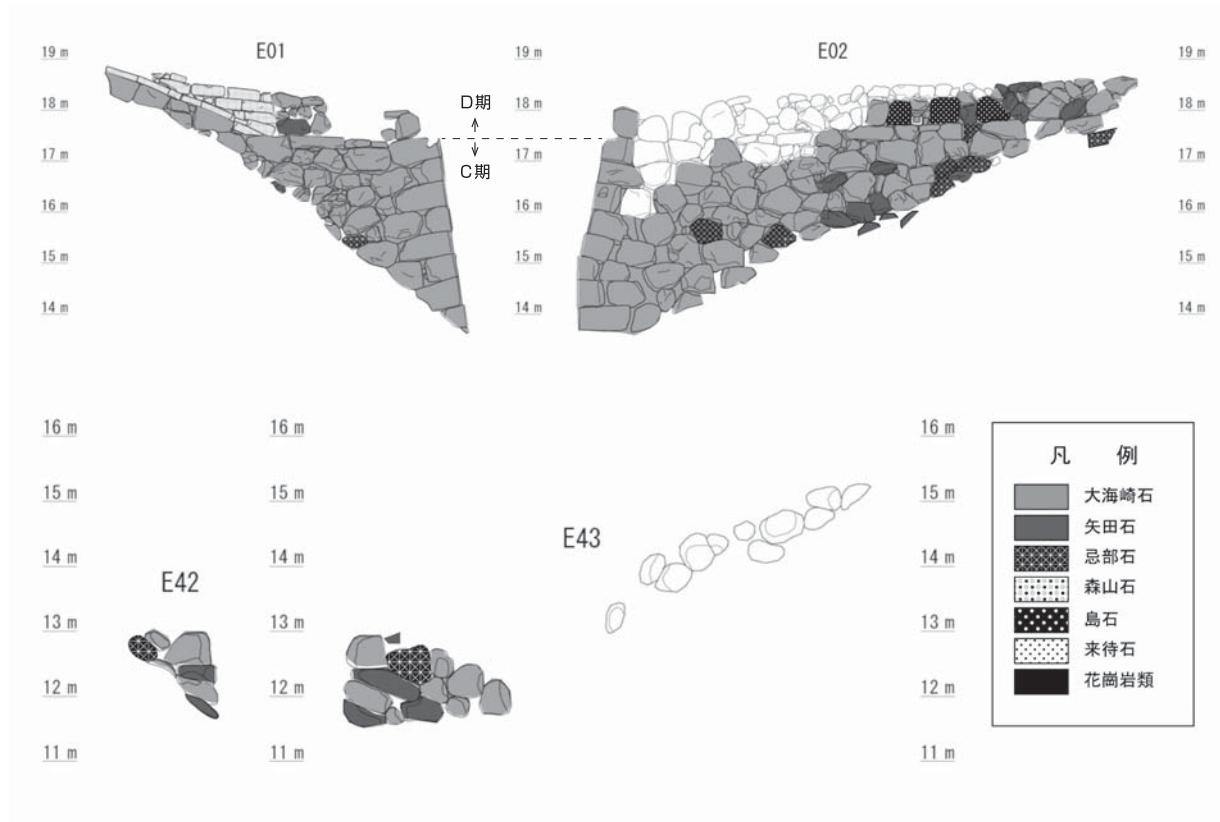
【平面図】



【断面図】



第3図 発掘調査成果図

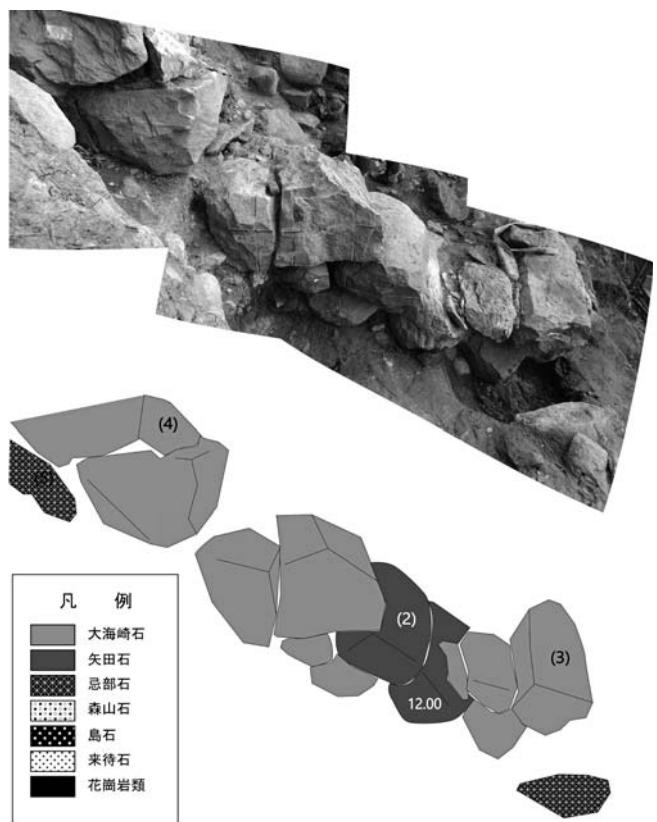


第4図 E01、02石垣、E42、E43（C・D期）石材

【D期】E02石垣中央にあたる後述のE期石列の下から一時期古い石列が発見された。E期石列のやや南側にズレており、興雲閣から延びる水路天端面より下位に位置することから、興雲閣整備時に埋没したものと考えられる。石材の加工方法もE期石列とは異なり、E02面の積み増し部と同じ地盤面に据えられていることから、E01も含めて、一体的に積み増しされたものと推察された。なお、この積み増し部の内部から19世紀中頃の陶磁器片が確認されたことから、幕末頃に造られたものと考えられる。

【E期】E01、02面の天端裏面に確認された石列で、現況ではほぼ埋没していた。興雲閣の古写真（明治40（1907）年頃）に、同様の石列が2段積の状態で写っており、この時期に整備されたものが、現在に至るまでに徐々に埋没したものと考えられる。

なお、E42、43石垣については、平面形状からE01、02におけるB期石垣の築造以降に



第5図 E01根石（B期）石材

造られたものと推察されるが、土層観察や出土遺物等からは明確な築造時期を推定することはできなかった。

4. 石材調査について

(1) E01、E02、E42、E43の石材 (C・D期) (第4図)

月見櫓下の石垣E01、E02、E42、E43の石材については新宮ほか(2017)、澤田ほか(2019)、澤田・新宮(2019)によってまとめられている。石材について第4図に示したが大海崎石を主とし、わずかに矢田石、忌部安山岩も見られる。E01の上部には整形された来待石が見られる。E02の上部には島石が3つ見られる。これらD期の来待石や島石は近代のものと推定される。大海崎石からなる角石は整形されているが、他の石材は角がとれた自然石がほとんどである。

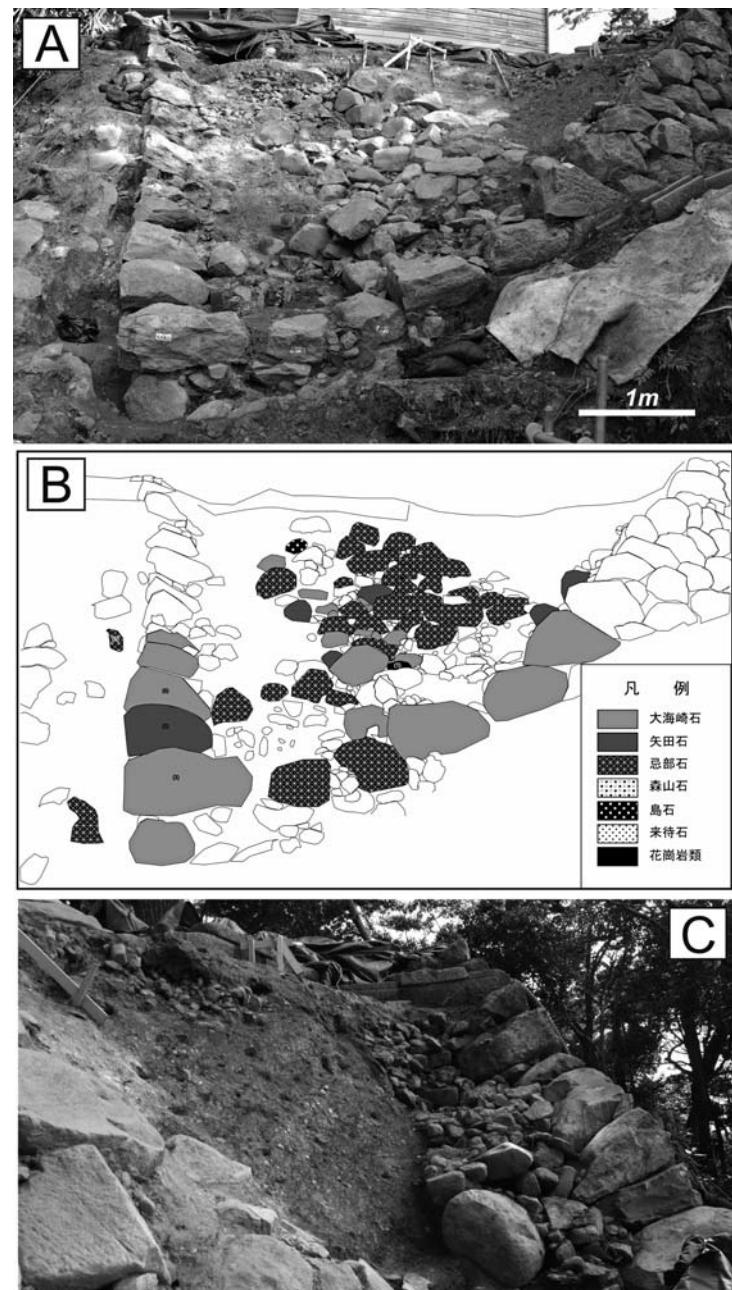
(2) A期・B期石垣の石材

解体・補修工事の際に露出した石垣(第3図のA期、B期石垣)について肉眼観察と帯磁率測定によって石材を判定した。現場の写真と石材の種類を第5、6図に、帯磁率を第1表に示した。B期石垣では長軸が70cm前後の大きな石材は大海崎石であり、長軸が120cmに及ぶものも見られる(第6図)。

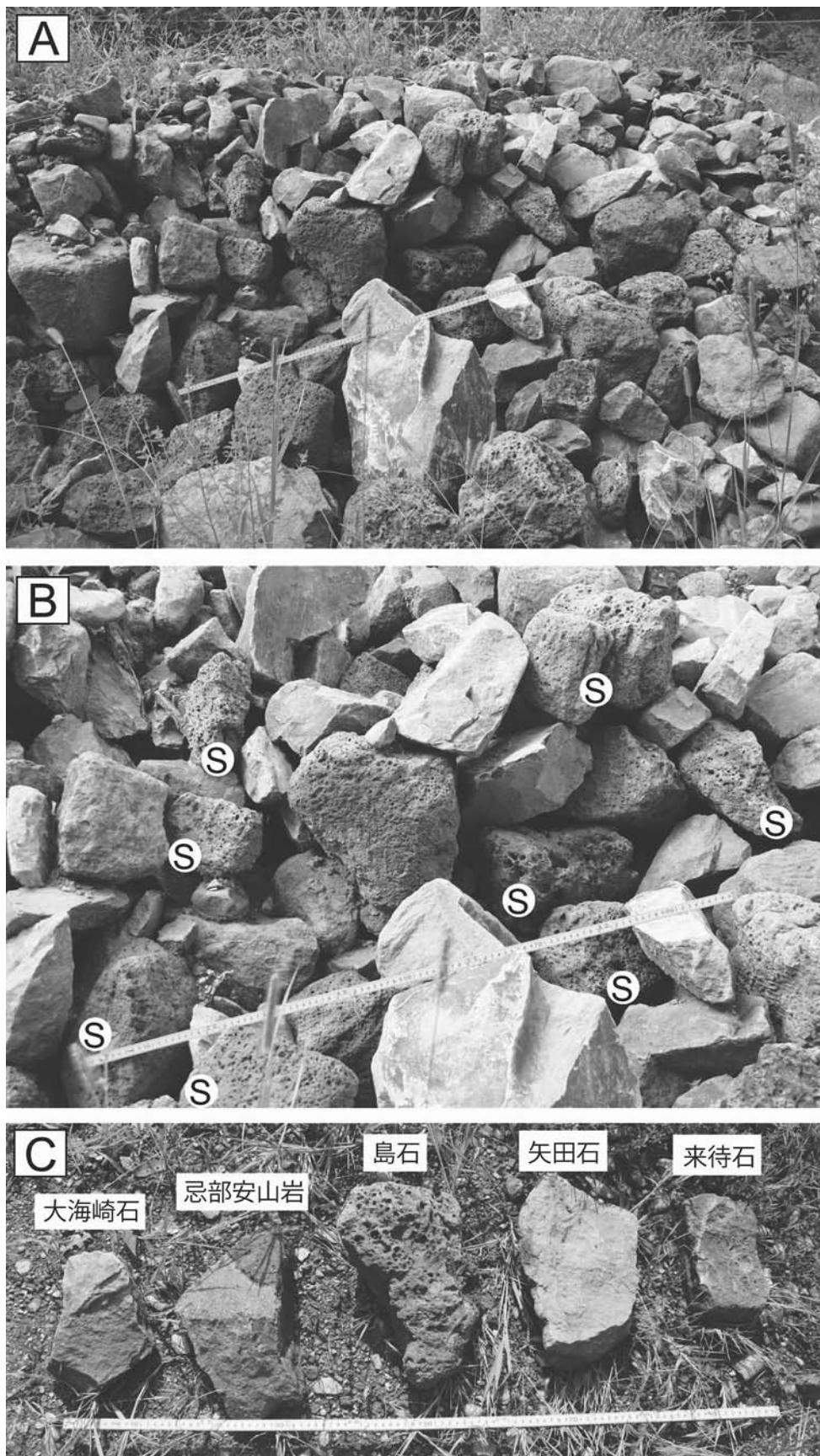
大海崎石は一ノ門石垣B11でも大きな石が使われているように比較的加工しやすい。E01の根石には大海崎石に混じり長軸70cm前後の大きな矢田石が2つ使用されている(第5図)。忌部安山岩も多いが、大海崎石に比べ小さく、長軸は35cm以下である。長軸が20cm以下の矢田石も散見される。10cm×3cmの大きさの花崗岩が1つ挟在される。石垣上部には9cm×6cmの島石が見られる。

(3) C期石垣の裏込め石材

C期石垣には多量の石が裏込め石として使われている(第7図A)。石材は大海崎石、島石(大根島産のカンラン石玄武岩)、矢田石、忌部安山岩、来待石である(第7図C)。特に特筆すべきは島石が多く見受けられることである(第7図B中のSが島石)。島石は江戸時代の石垣では表立ったところには使われていない。前述のように石垣Cの改修がもし、天保年間のものだとすると、島石は江戸時代の石垣の裏込め石としてはかなり使われていたということになる。なお、来待石はC期石垣の裏込め石としては



第6図 A期石垣、E02根石(B期)石材

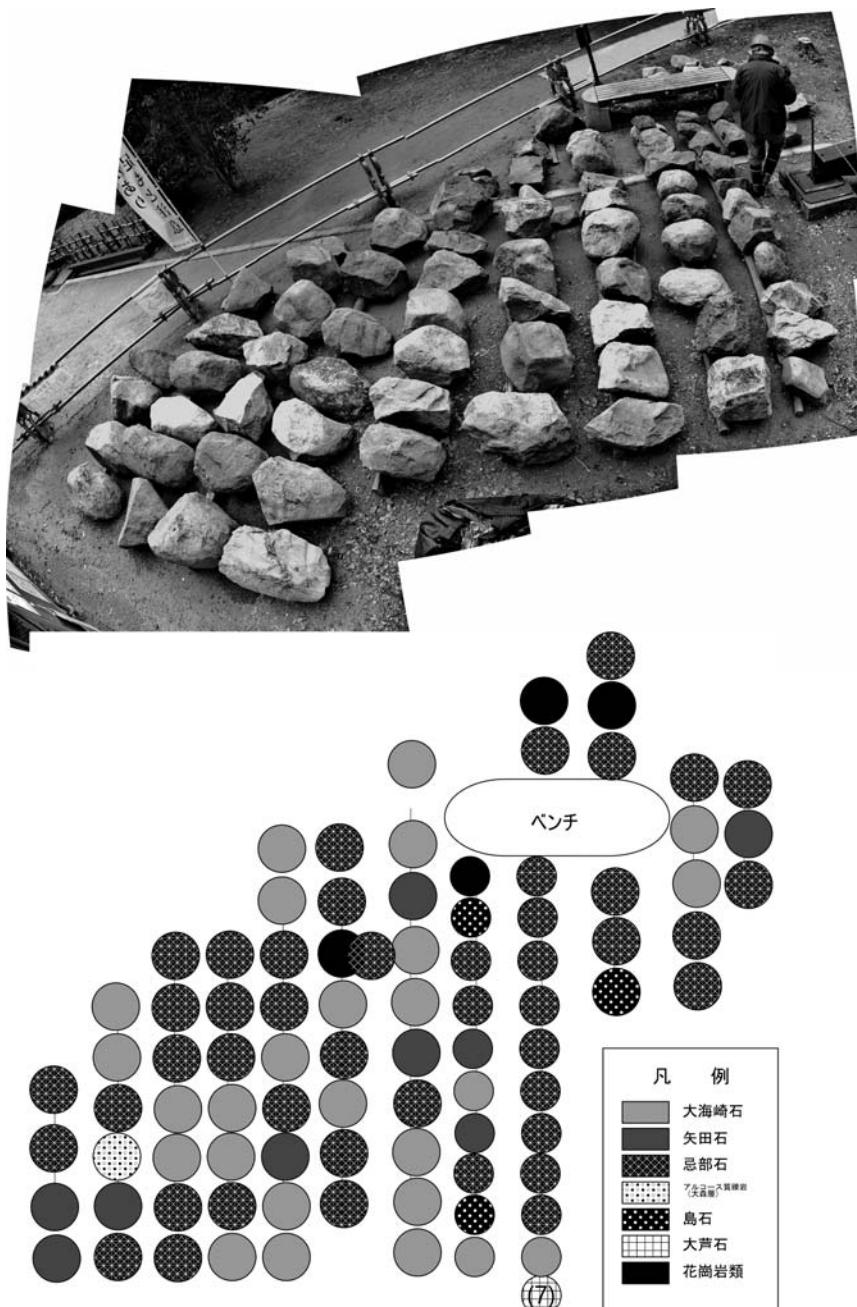


第7図 C期石垣の築石部奥側に充填された小型の栗石の石材

第1表 A期・B期石垣石材帶磁率

石材の種類	帯磁率 ($\times 10^{-3}$ SI)												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	平均	標準偏差
アブライト質花崗岩*)	0.07	0.09	0.08	0.09	0.1	0.06	0.06	0.09	0.21	0.15	0.18	0.11	0.05
矢田石	10.3	10.5	8.98	12.6	10.4	8.42	10.8	13.6	12.8	13.9	12.0	11.30	1.73
大海崎石	1.69	1.79	1.32	3.23	3.05	3.38	1.24	1.19	1.54	1.45		1.99	0.83
大海崎(高帯磁率)	5.42	6.86	6.56	5.51	5.71	7.03	7.45	4.83	4.73	6.76	7.14	6.18	0.92
忌部石	24.5	23.0	20.6	23.3	21.9	23.9	24.1	24.3	21.1	19.9		22.7	1.6
大海崎石	1.31	1.32	1.48	1.44	1.67	1.98	1.86					1.58	0.24

*) 大きさ : 55×25×11cm



第8図 C期石垣の裏込め内出土の築石材

第2表 E01、E02石垣裏込め内出土石材帶磁率

石材の種類	帶磁率 ($\times 10^{-3}$ SI)											標準偏差	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		
アプライト質花崗岩	0.13	0.26	0.13	0.10	0.19	0.11	0.22	0.11	0.07	0.22		0.15	0.06
中粒花崗岩	0.80	0.23	0.12	1.10	1.01	2.32	0.41	0.27	0.15	1.43	1.33	0.83	0.66
石英質ワッケないし アルコースアレナイト	0.03	0.02	0.03	0.02	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03			0.03	0.00
側面	0.12	0.07	0.09	0.06	0.07	0.07						0.08	0.02
刻印のある忌部安山岩	25.4	23.5	25.6	24.8	18.6	22.4						23.4	2.4
新鮮な面	17.8	17.7	17.5	16.6	17.8							17.5	0.5
細粒斑レイ岩(大芦石)	68.7	81.3	76.3	72.4	64.1	68.1	67.7	80	62.8	70.1		71.2	6.0

わずかである。

(4) C期石垣の裏込め内の築石材

①石垣裏込め内から取り出された石を第8図に、帶磁率を第2表に示した。石材の多くは加工されたものではなく、角がとれた自然石である。石は全部で89個あるが、もっと多かったのが忌部安山岩(第9-2図)で、45個あった。次いで大海崎石(第9-5図)が26個、矢田石は9個である。花崗岩は4個あるが、中粒黒雲母花崗岩とアプライト質花崗岩である(第9-1図)。他に松江市玉湯町あたりに分布する大森層に由来すると考えられる石英質ワッケないしアルコースアレナイト(第9-4図E)も1個存在する。中粒の閃緑岩ないしハシレイ岩(大芦石)(第9-3図)と大根島由来の島石(第9-5図D)もそれぞれ1個存在した。

これら以外に、この図では示していないが軽石凝灰岩や凝灰岩を挟在する凝灰質砂岩(第9-4図A~D)がある(後述)。

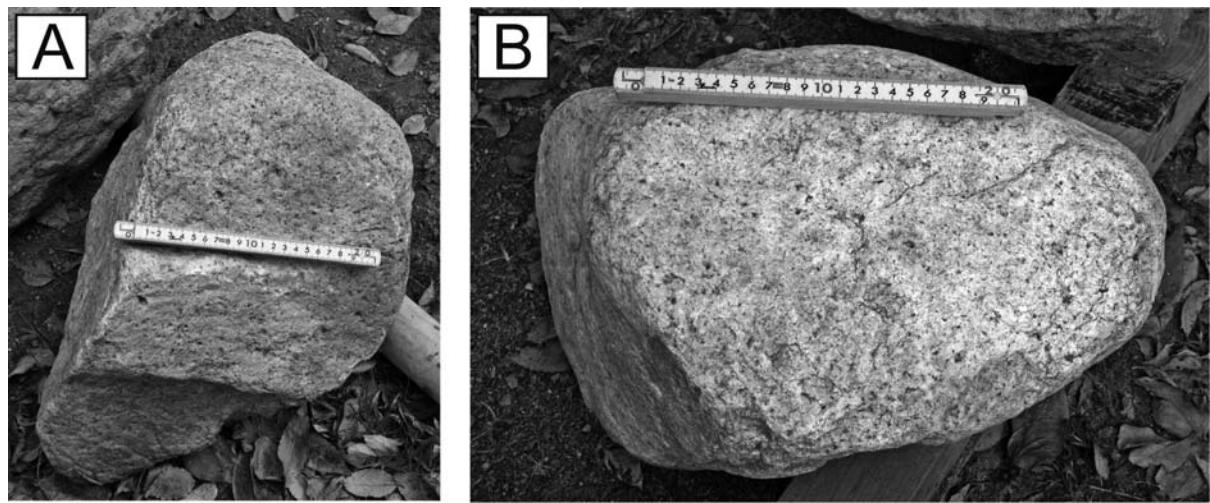
②忌部安山岩の中には刻印されたものがある(第9-2図A, B)。福井(2016)によれば須田主殿の記述(ノート)の中に乃白鍛冶屋谷あたりに堀尾氏の家紋である分銅文のある忌部安山岩があったとされ、また、松江城の石垣にもそのような石があったとされている(澤田、2019)。B期石垣中の忌部安山岩の刻印は「雁」であり、分銅文ではないが、松江城築城期の刻印であろうか。忌部安山岩の帶磁率はやや風化した面は $25.6 \sim 18.6 \times 10^{-3}$ SI。新鮮な面では $17.8 \sim 16.6 \times 10^{-3}$ SIである。

③矢田石には矢穴を持つものがある(第9-2図E)。

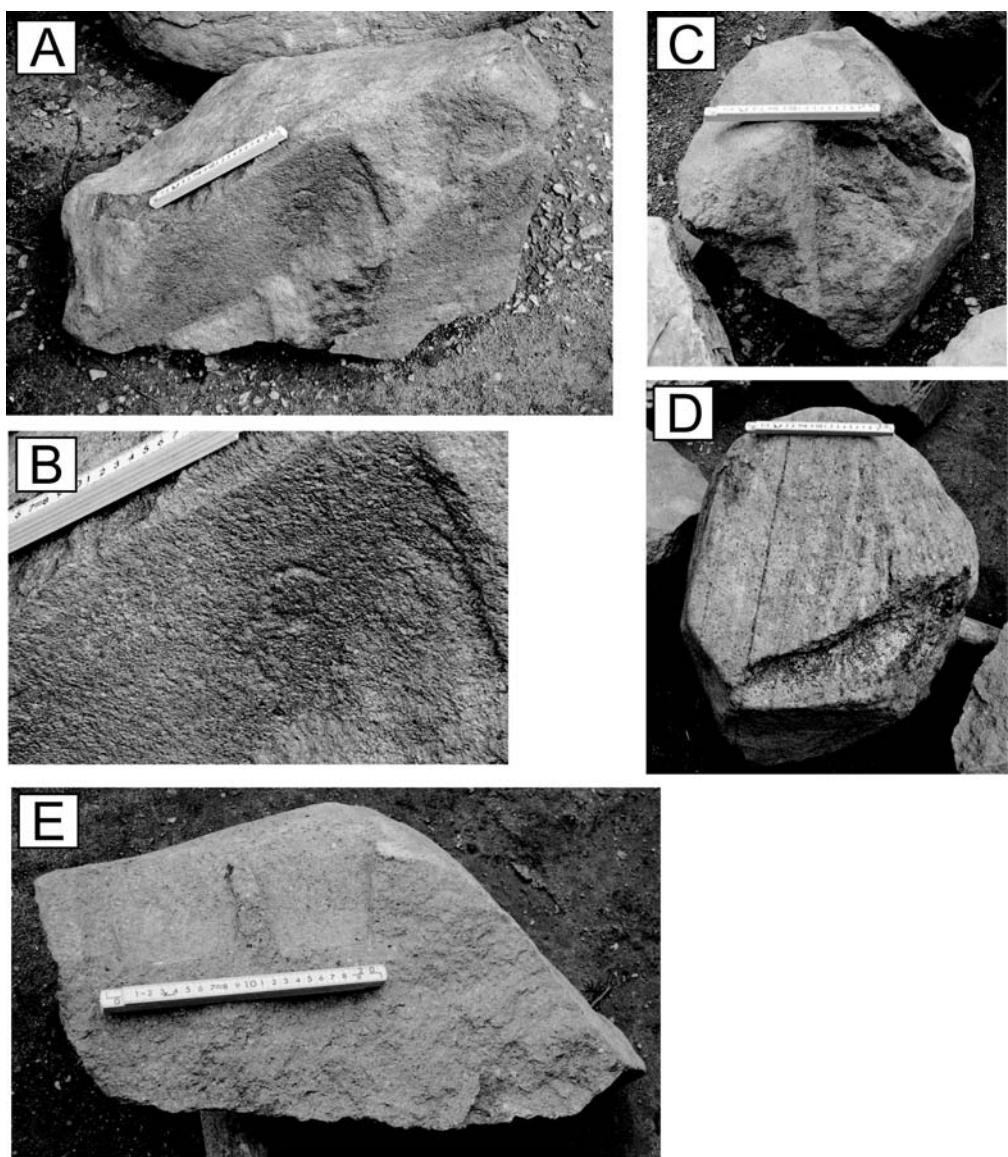
④中粒花崗岩とアプライト質花崗岩の帶磁率は、中粒花崗岩では $1.10 \sim 0.12 \times 10^{-3}$ SI、アプライト質花崗岩では $0.26 \sim 0.07 \times 10^{-3}$ SIである。帶磁率の上からはチタン鉄鉱系列に属するが、忌部花崗岩(忌部御影)中にもこのように低い帶磁率を示すものもある。これらの花崗岩質岩は忌部周辺に分布する鶴花崗岩(鹿野ほか、1994)に由来すると考えられる。中粒花崗岩とアプライト質花崗岩の礫も忌部川河口付近に角がとれた亜円礫の転石として多数見られる。

⑤細粒の斑レイ岩ないし閃緑岩の帶磁率は $81 \sim 63 \times 10^{-3}$ SIと異常に高く、多量の磁鉄鉱が含まれていると考えられ、岩石としては細粒斑レイ岩ないし粗粒玄武岩である。これは島根半島の中新生世の地層中の貫入岩の可能性が高い。島根半島の中新生世貫入岩類は帶磁率に関し大芦に代表される高いグループと三坂山に代表される低いグループに分けられる(澤田ほか、2017)。ここで扱った石は大芦あたりに由来すると推察される(大芦石)。島根半島の貫入岩由来の細粒の斑レイ岩ないし閃緑岩は表立った石垣としては使われていない。

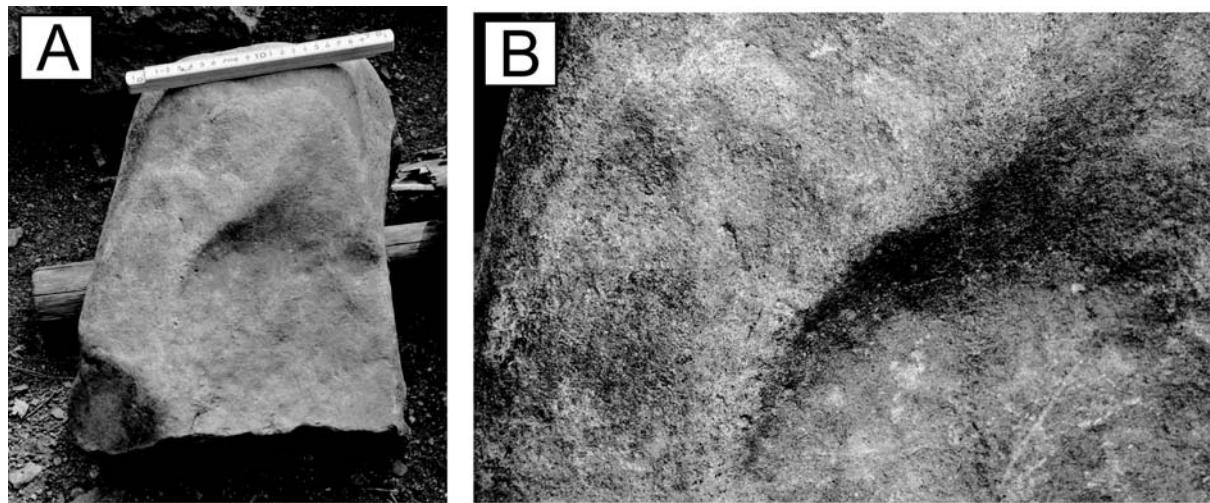
⑥石英粒を多量に含む堅牢な石英質ワッケないしアルコースアレナイトが1個ある。帶磁率は著しく



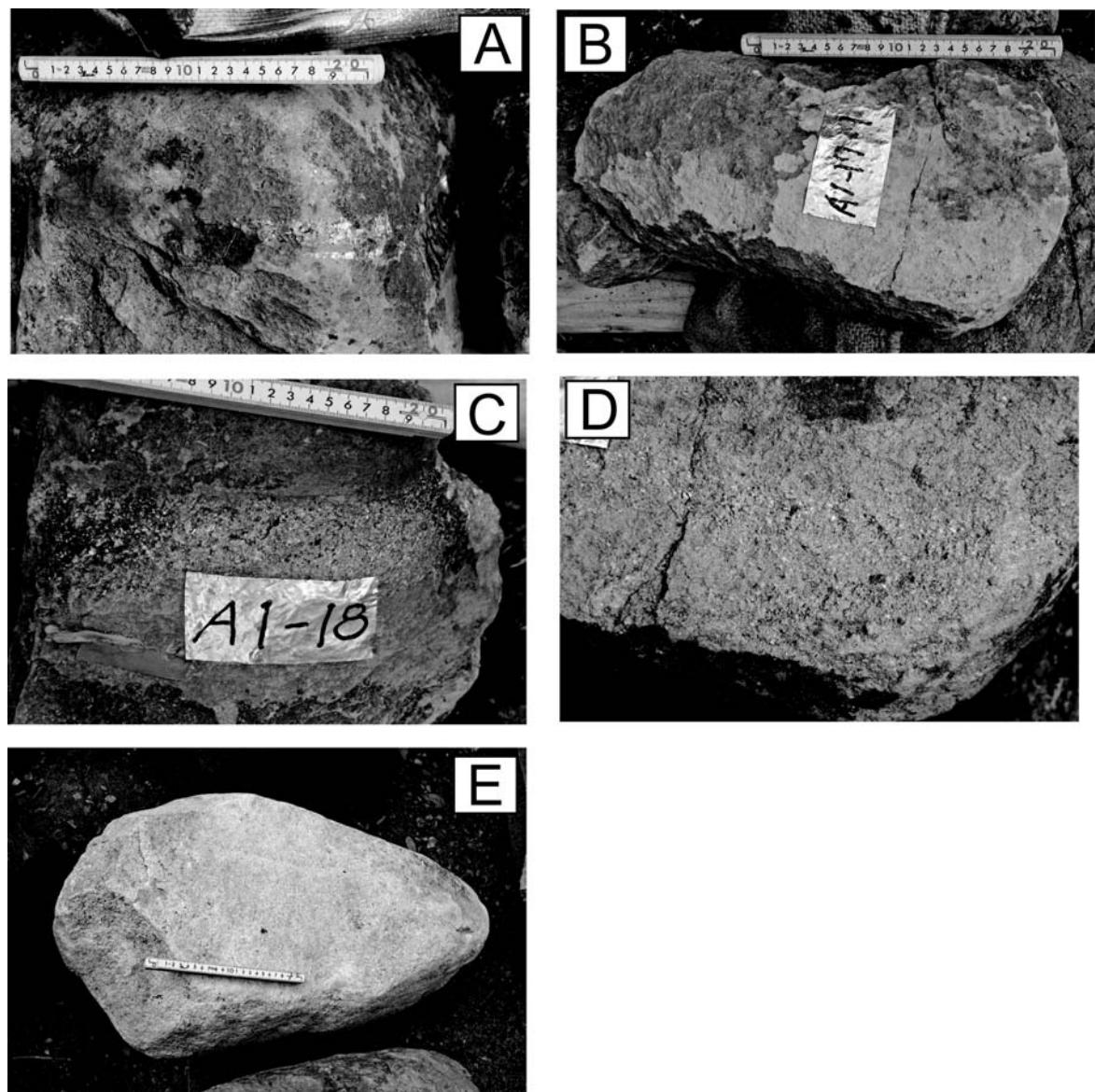
第9－1図 E01、02裏込め内石材の花崗岩質岩。Aは中粒黒雲母花崗岩、Bはアプライト質花崗岩。



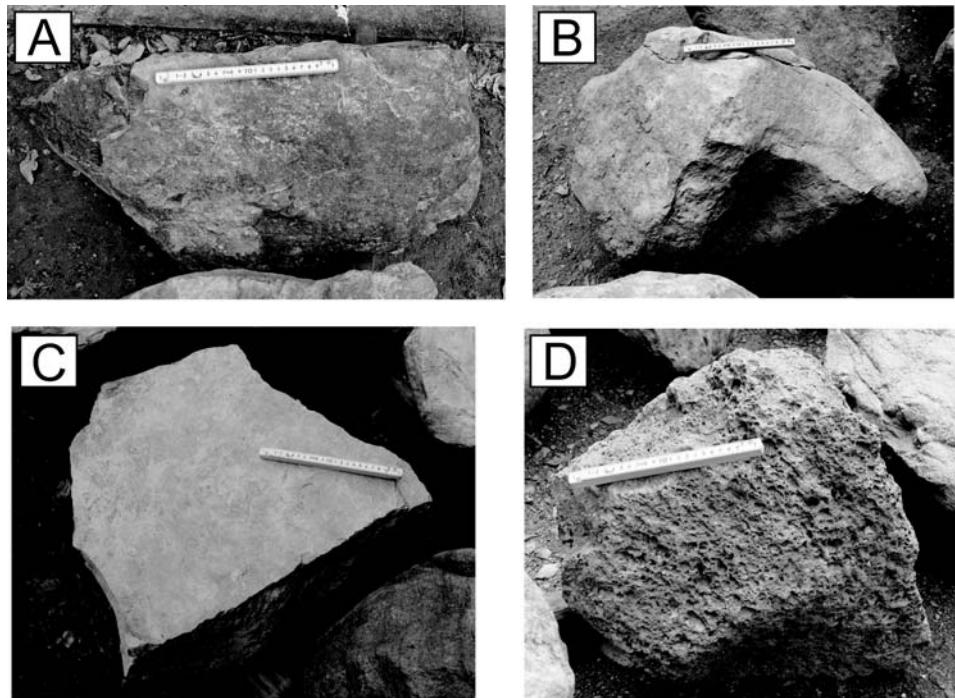
第9－2図 E01、02裏込め内石材。A～D：忌部安山岩。A、Bは雁の刻印が見られる忌部安山岩。E：矢穴が見られる矢田石



第9－3図 E01、02裏込め内石材の中粒閃綠岩ないしハンレイ岩。BはAのクローズアップ。



第9－4図 E01、02裏込め内石材。A：軽石層を狭在する凝灰質砂岩。 B：凝灰質砂岩。
C、D：軽石を含む凝灰質砂岩。 E：矢穴が見られる矢田石



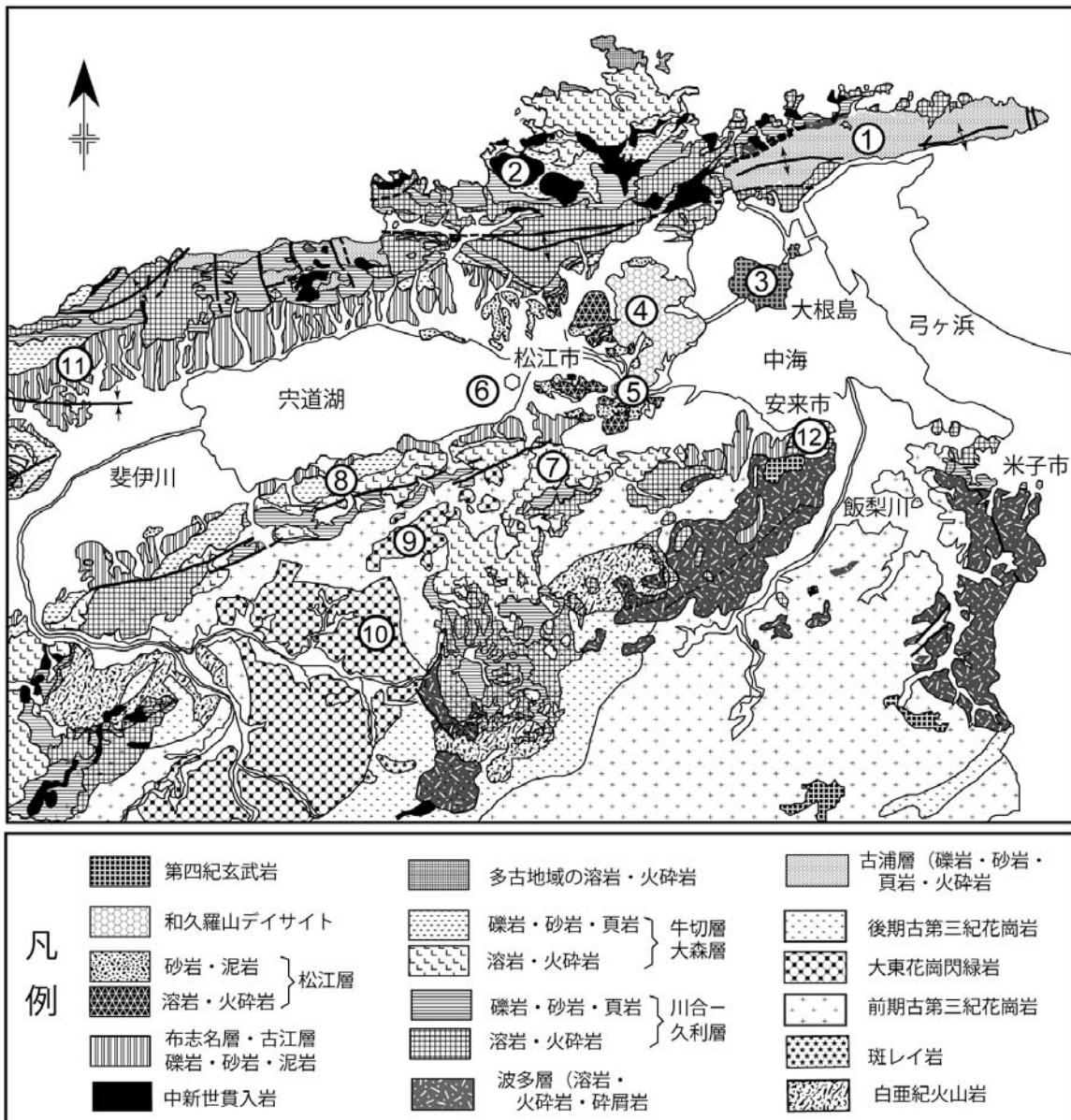
第9-5図 E01、02裏込め内石材。A～C：大海崎石（末期中新世和久羅山デイサイト）。
D：島石（大根島の玄武岩）。

低く $0.12\sim0.02\times10^{-3}$ SIである。石英質ワッケないしアルコースアレナイトは松江市玉湯町や玉造温泉あたりの川合層中に見られることからこのあたりの河原の自然石と推察される。

⑦数mmの軽石を含む軽石層を挟在する砂岩や砂質軽石凝灰岩がある。これらは中期中新世の松江層に由来するものと推察される。軽石層を挟在する砂岩や砂質軽石凝灰岩は矢田町から西津田町にかけてと城山から黒田町、浜佐田町にかけて分布する松江層に見られる（宮嶋ほか、1972）ことからこれらの地域からもたらされたものと推定される。松江層の碎屑岩は堅牢ではなく表立った石垣としては使われていない。

⑧嫁ヶ島の玄武岩は大きさが20cmを超える石としては見られなかった。

⑨松江市周辺の石材の産地を第10図に示した。現在見られる石垣（E01, E02, E42, E43）の石材としては大海崎石が圧倒的に多いが、前述のように裏込め内石材では忌部安山岩、次いで大海崎石の頻度である。忌部安山岩は東忌部町、佐草町、大庭町にかけても広く分布し、現在でも花仙山の東側の山腹斜面や忌部川河口付近に転石が多数分布しており、中には1mに達するものもある（澤田、2019）。B期石垣には1.2mに及ぶようなものも含め大きな成形された大海崎石が使われている。これらの石は宍道湖まで運べれば、船で容易に松江城まで運ぶことができたであろう。また、A期や裏込め内石材はほとんどが角のとれた自然石が使われており、水上を運んで石垣として使われたものと推察される。



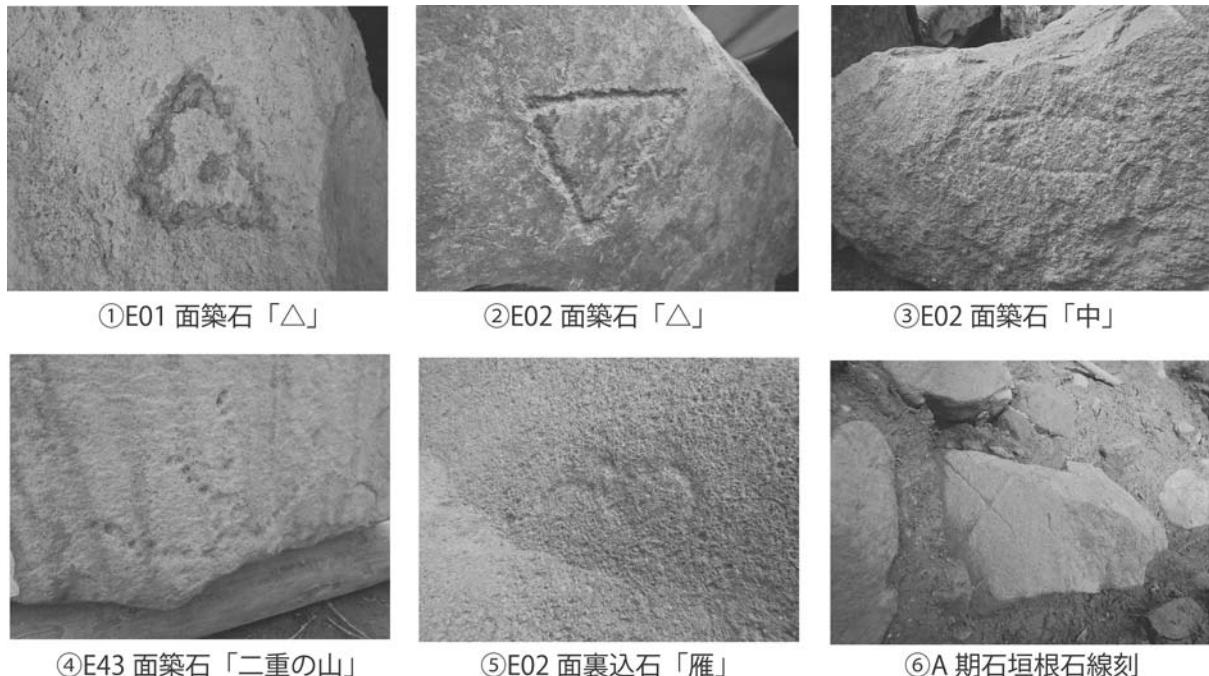
第10図 松江市周辺の地質図と石材。①森山石、②大芦石、③島石、④大海崎石、⑤矢田石、⑥嫁ヶ島、⑦忌部安山岩、⑧来待石、⑨忌部御影（鶴花崗岩）、⑩大東花崗閃綠岩、⑪久多見石、⑫荒島石。

5. 刻印について（第11図）

今回の解体範囲において、墨書は確認されなかったが、以下のとおり刻印が5個検出され、また、埋没していたA期石垣の根石1個に不明線刻が検出された。

刻印は、E01面築石に「△」1個、E02裏面石垣に同じく「△」1個、E02面築石に「中」1個、E43面築石に「二重の山」1個、E02面裏込め内の石材に「雁」1個の計4種、5個である。なお、「中」の刻印については、不明瞭な「鉛」である可能性もあるが、「中」であれば松江城内で初検出の刻印となる。

不明線刻については、A期石垣の根石で検出されたもので、背面土砂中に延びるため部分的にしか見えないが、一部交差する直線が2本描かれている。



第11図 刻印写真

6. まとめ

今回の調査で、E01、02石垣背面から埋没石垣（A期）が発見された。本来E03から延びる直線的な石垣であったものが、ある時期に改変されて現在の形状になったものと推察される。また、石材においても、A期石垣がE03同様に忌部安山岩を主として構成するのに対して、改変後のB期及びC期石垣が大海崎石を主体とする。また、江戸時代の石垣には表立った石材としては使われていない島石がC期石垣の裏込め石として多く使われている。このように、時代によって使用石材が異なっていることも、今後の松江城の石垣研究において示唆に富む発見となった。この石垣の改変時期については、松江城における石垣を詳細に記した最も古い絵図『松江城縄張図』（17世紀末）で、既に現況と同じ形状であったことが確認できることから、これが描かれる以前に改変されたものと推察される。このことから、直接的な史料が無いため断定はできないが、A期石垣は築城以降100年未満の期間で埋没していることとなり、築城期の様相を示す石垣である可能性が高いものと考えられ、使用石材、野面積の積み方等、他との比較資料として貴重な資料を得られたものと評価できる。

なお、想像の域を出ないが、松平直政は藩替えで松江に来る前、松本城（長野県）で寛永10（1633）年に「月見櫓」を普請したとの記録がある。堀尾・京極期に月見櫓が無かったことが前提となるが、今回の埋没石垣の位置で月見櫓を建設するにはやや手狭であることから、直政が松本城に倣って月見櫓を松江城に建設した際、敷地の拡張に伴い石垣を造り替えた可能性



第12図 防空壕内写真

も今後検討していきたい。

最後に、近世城郭としての松江城ではなく、近代松江城の歴史の一端に触れる発掘成果もあったのでここで簡単に紹介したい。今回の石垣修理に至る原因の一つとして、基礎地盤部分に大きな陥没があった。これは、かつて防空壕もしくは炭坑があったものが崩落したものとの伝承はあったが、現状では判然としなかったため、石垣の解体後、基礎地盤部分の発掘調査を行った。この結果、誰も予想しなかった規模（約180m²）の防空壕が発見された。昭和20年に島根県から松江市に提出された公文書から、第2次世界大戦中に空襲時における県庁職員の待避所として築造されたと考えられるもので、岩盤を削り抜いた素掘りの横穴式防空壕で、2つの出入り口を設け、総延長約44m、高さ2m程度のものであった（第12図）。

【引用文献】

- 福井将介（2016）昭和26～30年の松江城関連の史料調査と須田主殿、松江城調査研究集録、3、2-10.
- 鹿野和彦・山内靖喜・高安克己・松浦浩久・豊 遙秋（1994）松江地域の地質、地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）、地質調査所、126p.
- 鹿野和彦・竹内圭史・松浦浩久（1991）今市地域の地質、地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）地質調査所、79p.
- 鹿野和彦・竹内圭史・大嶋和雄・豊 遙秋（1989）大社地域の地質、地域地質研究報告（5万分の1地質図幅）、地質調査所、58p.
- 松江市（2012～2015）石垣の概要図とレーザーオルソ図.
- 松江市史編纂委員会（2018）松江市史別編1（松江城）。今井印刷、911p+56p.
- 宮嶋聖隆・永島晴夫・大西郁男（1972）松江市周辺の地質－出雲層群の研究 I. 島根大学文理学部紀要（理学科篇）、5、131-138.
- 乗岡 実（2014）松江城石垣の構造と年代。松江市史研究、5、51-70.
- 澤田順弘（2019）石が語る松江城の物語。松江市ふるさと文庫23、松江市、81.
- 澤田順弘・新宮敦弘・渡辺正巳・古川寛子・乗岡 実（2019）松江城にまつわる地質と岩石。松江市史編纂委員会編、「松江市史史料編（自然環境）」。今井印刷、273-290.
- 澤田順弘・大郷周平・古川寛子・徳岡隆夫・卜部吉博（2017）国宝松江城天守附鎮物の「玉石」の岩石とその原产地推定。松江城調査研究集録、4、13-44.
- 澤田順弘・新宮敦弘（2019）松江城石垣の岩石種。松江市史編纂委員会編、「松江市史史料編（自然環境）」DVD。今井印刷
- 新宮敦弘（2016）松江城の石垣の石材とその起源。島根大学地球資源環境学研究報告、34、105-115.
- 新宮敦弘・澤田順弘・古川寛子・乗岡 実（2018）松江城石垣の岩石とその原产地。松江市歴史叢書、11、23-62 p.
- 須田主殿 須田主殿ノート。松江市歴史館所蔵

（とくなが たかし 松江市歴史まちづくり部まちづくり文化財課埋蔵文化財調査室主任）
（さわだ よしひろ 松江市文化財保護審議会委員）
（しんぐう あつひろ 藤井基礎設計事務所）

『松江市史』史料編11 「絵図・地図」の「郡村図・地籍図」目録

－ 中間報告以降の調査を受けて －

大矢幸雄・上杉和央

1. はじめに

『松江市史』史料編11「絵図・地図」は、平成26年2月20日に刊行された（松江市教育委員会編2014）。平成22年の編纂作業スタート当初より部会は、全国各地に所蔵される城郭関係を除く絵図・地図の確認を行いその目録を作成してきた。

絵図・地図の調査経過については、史料編11「絵図・地図」にその詳細を記述しているので省略するが、最終的には約1000点の存在を確認した中から、「水辺」や「歴史的景観」を切り口として「松江らしさ」を醸し出す絵図を選ぶこととした。結果として本図65点、挿図50点の合計115点を史料編11「絵図・地図」に掲載した。その場合、絵図・地図の種類によって国絵図、郡村図、城下図、市街・交通図、屋敷図、街道・水運図、近代図の7分野に分けて掲載し解説を加えた。

絵図・地図編の発刊を受けて、平成28年3月には別編1「松江城」編纂の過程で蒐集された城郭図・城郭建物図を加え、さらに日本国・島根県図、地形図の項目を追加して「松江市域の絵図・地図目録（中間報告）」を発表した（大矢・和田：2016）。この目録は、まず松江市域（平成の合併・新松江市）を対象とすること、これまで断片的にしか情報がなかった松江の江戸・明治・大正・昭和・平成期の絵図・地図について所蔵館や内容年代、法量、縮尺などを系統的に紹介すること、さらに、それらの絵図・地図が紹介されている刊行物なども加えた。つまり多方面の資料情報を掲載することで、市民や研究者などの利便性を一層高めることを目的とした。

平成28年の「絵図・地図目録」発表の後、新たな資料の確認、さらに所蔵館の統合縮小などによる諸問題の発生等により、今回、改めて「郡村図・地籍図」単独の目録を発表することとした。具体的な課題と対応方法は以下の通りである。

- ① 「中間目録」に記載されている支所（旧町村）や公民館所蔵の絵図・地図が、管理規定の変更や担当者の異動などによって、資料の所在確認に時間がかかる。場合によっては資料そのものの所蔵が確認できないなどの問題が発生した。
- ② 松江市立松江歴史館などに移管された絵図・地図類は、地域に係わる郡村図や地籍図などが大部分であるため、「郡村図・地籍図」として「都市図（市街図）・交通図」とは区別する必要がある。
- ③ この度、再度所蔵館の確認を行うとともに、歴史館に移管された絵図・地図については新たな史料番号（732～780番台）を付した（表1）。
- ④ 表1、史料番号（51～62）「出雲国郡村絵圖」11冊（明治大学所蔵）は松江藩域の全村に近い約460村を掲載しており、郡村図の目録にその詳細を掲載する必要がある。
- ⑤ ④の郡村図、通称「輪切図」（以下の解説参照）については、明治大学以外にも複数の所蔵を確認しており、（2）村絵図としての「輪切絵図」の章で、その構成と特色を紹介したい。
- ⑥ 平成31年3月設けられた「松江城調査研究委員会」は、松江城の新たな知見を調査するものであり、今後は松江市域を越えて松江藩全域を対象とした調査研究が進められると思われる。絵図・地図目録の作成作業は、そうした動きに対応する必要があると思われる。

(1) 「郡村図・地籍図」の目録

郡村図は郡単位で表現された図と村単位で表現された図を総称したものである。郡について、松江藩では意宇郡、嶋根郡、能義郡、出雲郡、秋鹿郡、仁多郡、大原郡、飯石郡、神門郡、楯縫郡の十郡から成る。出雲国全体を描く「出雲国十郡絵図」は、各郡単位で表現された絵図が合わさって一国を表現しており、集落や道路、社寺などの表現方法は各郡共通した描き方がとられている。

村図は、「村」の支配・領有などをめぐり作製されたもので、これらは一般に「村絵図」と呼ばれている。全体を概観できるように描いた絵図は少なく、なんらかの目的があった場合がほとんどである。例えば、村の領域把握、畠・水田・草地などの土地利用、新田開発や近隣地域との境界争いの証拠などである。多くの村図が作製された背景の一つに、江戸時代における視覚優位社会の成立を挙げができると言われる（松江市教育委員会編2014：77）。その意味でも村絵図は、人々の身近な生活空間を詳細に描いた代表的な絵図であり、当時の村の様子や自然的・歴史的景観などを把握するのに適している。

地籍図は、土地の一筆（区画）ごとの境界（筆界）、地番などを描いた大縮尺の地図で、一般的には明治期に作られたものを指す。明治5年の壬申の干支から名付けられた「壬申地券地引絵図」、明治6年の地租改正事業により作製された「地租改正地引絵図」、明治7年以降、内務省により作製された「地籍地図」、明治18年の地押調査の代表的とされている「更生地図」の4種類がある。これらすべてが作られた地域がある一方で、時期的に接近した事業であったこともあり、いくつかの地図だけが作られた地域もある。

地図作製の実務は各府県にまかされて、基本的には各筆の地番、面積、土地所有者や土地の等級などが記載された。これらの地図は、全国的にみてその残存状況が良好であり、当時の村・町の景観復元など歴史的価値が高い。

松江市の場合、前回の調査において地籍図の所蔵を多数確認してきたが、今回は調査の網目をさらに細かくして、旧町村の公民館や個人宅などの所蔵資料を新たに目録に追加することができた。

表1 郡村図・地籍図の一覧

2019.8.1現在

番号	名称	所蔵館など	年代	原寸サイズ	掲載資料名	備考
1	秋鹿郡及楯縫郡之図		奈良時代		ふるさと秋鹿 p34	
2	出雲國風土記要図			加藤義成著より転載	八束町誌p148	
3	松江開府前の地図			雲陽大数録一部	法吉村誌p2	
4	東生馬村・古絵図	個人蔵	江戸後期頃？		生馬の里附図	県図書では53×58
5	浜佐田村・古絵図	個人蔵	江戸後期頃？		生馬の里附図	
7	納蔵のある玉造村中心部		江戸時代		玉湯町史 下巻(1)	
8	藩主入湯之節家臣宿割図		江戸時代後期		玉湯町史 下巻(1)	
9	川下村江異国船漂流一途図面附	個人蔵	享保3年		県立図書館附録146	
10	▲島根郡絵地図（仮称）	個人蔵	文政7年（1824）	195×330		小笠屋良衛渡辺ツネ作成
11	熊野川筋分間絵図	島根県立図書館	宝暦9年	284×369		
12	三成飯石上熊谷川筋図面肩書き写	個人蔵	天明7年		県立図書館附録系43	
13	出雲国十郡絵図並十郡村附帳	国立史料館蔵	不詳	81X104	事業報告第2	
14	▲島根郡片江首北三ヶ浦境絵図	島根県立図書館	寛政7年(1795)	122×146	郡奉行所文書 156-55	
15	江戸時代の木幡屋及び宍道御茶屋絵図		文化、文政、天保年間		宍道町史【通史編下巻】	木幡修介氏蔵
16	出雲国十郡附絵	松江歴史館	文化改正		城山倉庫・天守閣	
17	広瀬藩御絵図	個人蔵	文化元年(1804)		八雲村誌	金藤家蔵 現安来市立民俗資料館蔵
18	母里藩絵図	伯太町歴史民俗資料館	安永8年(1779)		絵図でたどる島根p18	
19	▲上講武山絵図	島根県立図書館	文化13年(1816)	137×220	郡奉行所文書 追加37-1	
20	原家旧蔵「御園絵図」		文久3年(1863)以前		八雲村誌	
21	出雲国十郡絵図・大根島略図		文政4年		八束町誌p299	
22	文政元年宍道町並図	個人蔵	文政元年		宍道町誌	
23	江嶋村淵古中浦新田絵図	個人蔵	文政初期	門脇陽氏所蔵	八束町誌p271	
25	出雲国十郡分図(意宇郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	41×39		村名・村境
26	出雲国十郡分図(秋鹿郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	28×39		村名・村境
27	出雲国十郡分図(出雲郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	27×39		村名・村境
28	出雲国十郡分図(楯縫郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	38×50		村名・村境
29	出雲国十郡分図(神門郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	64×79		村名・村境
30	出雲国十郡分図(仁多郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	28×39		村名・村境
31	出雲国十郡分図(大原郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	39×49		村名・村境
32	出雲国十郡分図(島根郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	47×78		村名・村境
33	出雲国十郡分図(能義郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	69×66		村名・村境
34	出雲国十郡分図(飯石郡)	島根県立図書館	文政(1818~1821)	62×89		村名・村境

35	嶋根郡手角村絵図	個人蔵	天保 7 年(1836)	48.7×74	57-1-1	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
36	嶋根郡長海村絵図	個人蔵	天保 8 年(1837)	51.7×72.8	57-1-2	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
37	嶋根郡菅浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7 年(1836)頃	57×50	57-1-3	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
38	嶋根郡邑生村絵図	個人蔵	天保 7 年(1836)	56×50.4	57-1-4	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
39	嶋根郡別所村絵図	個人蔵	天保 8 年(1837)	37×51.7	57-1-5	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
40	嶋根郡野波浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7 年(1836)頃	47.8×74	57-1-6	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
42	嶋根郡多古浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7 年(1836)頃	38.5×58	57-1-7	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
43	嶋根郡野井浦絵図	個人蔵	天保 7 年(1836)頃	50×37.4	57-1-8	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
44	嶋根郡下宇部尾村絵図	個人蔵	天保 7 年(1836)頃	49.2×74.5	57-1-9	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
45	嶋根郡福浦絵図	個人蔵	天保 7 年(1836)頃	38.2×75	57-1-10	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
46	▲嶋根郡七類浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7・8 年(1836・1837)頃	50.8×72.3	57-1-11	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
47	嶋根郡笠浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7 年(1836)頃	50.2×73.5	57-1-12	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
48	嶋根郡千鶴浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7 年(1836)頃	48.7×73.9	57-1-13	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
49	嶋根郡雲津浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7 年(1836)頃	48.7×73.6	57-1-14	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
50	嶋根郡北浦絵図	岐阜県立図書館	天保 7 年(1836)頃	50×73.8	57-1-15	総括庄屋貞三郎・本庄村井上宗兵衛画
51	▲意宇郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	萬延元年(1860)	13.2×19.5	野帳の写しか、冊子	帙付「出雲国郡村繪圖」11冊
52	嶋根郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	萬延元年(1860)	12.7×18.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色、396と関係
53	楯縫郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	文久元年(1861)	13.4×19.5	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
54	秋鹿郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	元治元年(1864)	13.6×19.2	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
55	飯石郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.6×19.4	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
56	出雲郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.5×18.9	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色、262と関係
57	大原郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.6×19.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
59	仁多郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応元年(1865)	13.6×19.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
60	能儀郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	慶応 3 年(1867)	13.8×19.7	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
61	神門郡村繪圖	明治大学蘆田文庫	明治 3 年(1870)	14.2×20.1	野帳の写しか、冊子	表紙に「布野」彩色
62	出雲郡々繪圖	明治大学蘆田文庫	天保 4 年(1833)	13.1×18.7	野帳の写しか原図か	表紙に「米村」彩色、257と関係
63	島根郡村繪圖(冊子)	島根大学付属図書館	江戸時代	26.2×20.2	絵図の世界p38~69	「輪」を記載、明治大学蘆田文庫に類似
64	出雲郡村輪切図	岡 義重蔵本(写)		13.0×18.8	手書図(彩色)	昭和 4 年島根県史編纂時
65	▲秋鹿郡絵図	個人蔵	元文 5 年(1740)	193.0×110.5	出雲国風土記の研究 I	佐陀川開削(1787)以前
66	宍道町並図	個人蔵	嘉永 2 年		山陰道p89	
67	出雲国簸川分間絵図 一	島根県立図書館	不詳	141×271		
68	出雲国簸川分間絵図 三	島根県立図書館	不詳	124×240		
69	出雲国簸川分間絵図 四(下)	島根県立図書館	不詳	145×327	明和頃 変流の図あり	
70	出雲国簸川分間絵図 四(上)	島根県立図書館	不詳	145×327	明和頃 変流の図あり	
71	出雲国簸川分間絵図 四(中)	島根県立図書館	不詳	145×327	明和頃 変流の図あり	
72	出雲国簸川分間絵図 二	島根県立図書館	不詳	90×149		
73	島根郡邑生村別所村枕木山花藏寺草刈山絵図	島根県立図書館	不詳	144×149	郡奉行所文書 153-89	
74	邑生村別所村花藏寺絵図 指	島根県立図書館	不詳	63×122	郡奉行所文書 153-90	
75	土工記川図 飯石・神門、棚縫郡	個人蔵			県立図書館附録高61	
77	来宇都来海上來海絵図	来待村役場蔵	明治 7 年(1874)	219.0×213.0	来待役場文書42	彩色、青色、宍道町史挿絵
78	手結浦事件絵図	個人蔵	明治初期			古江百年誌p545
79	江島理立絵図	八束町教育委員会	明治 3 年(1870)	139.0×104.0	絵図でたどるp32	
80	生馬村・古絵図	松江歴史館	明治 7 ~ 8 年		生馬の里附図	
81	下佐陀邑田畠山水戸別色分図	松江歴史館	明治 7 年頃		生馬の里附図	
82	上佐陀村地租改正地引絵図西	松江歴史館	明治 7 年頃		生馬の里附図	
83	鷺津村・古絵図	松江歴史館	明治 8 年頃		生馬の里附図	
84	出雲国村落分合地図(意宇郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×47		村名・村境、島根県修史係
85	出雲国村落分合地図(出雲郡・秋鹿郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
86	出雲国村落分合地図(楯縫郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
87	出雲国村落分合地図(神門郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
88	出雲国村落分合地図(仁多郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
89	出雲国村落分合地図(大原郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
90	出雲国村落分合地図(島根郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
91	出雲国村落分合地図(能義郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
92	出雲国村落分合地図(飯石郡)	島根県立図書館	明治 8 年	36×48		村名・村境、島根県修史係
94	出雲国村落分合地図(凡例)	島根県立図書館	明治 8 年(1875)	36×48		村名・村境、島根県修史係
95	地引絵図面	八雲村役場蔵	明治 10 年代半		八雲村誌	八雲村役場蔵
96	島根郡西生馬村図	松江歴史館	明治 11 年		生馬の里附図	島根郡第62区
97	西生馬村古図	松江歴史館	明治 7 ~ 8 年		生馬の里附図	島根郡第62区
98	出雲国楯縫郡図	島根県立図書館	明治 12 年(1879)	114×179		島根県作成 半町五厘 寺社
99	島根県管内出雲国出雲郡	島根県立図書館	明治 12 年(1879)	91×107		島根県作成 半町五厘
100	島根県管内出雲国楯縫郡	島根県立図書館	明治 12 年(1879)	125×180		島根県作成 半町五厘
101	島根県管内出雲国秋鹿郡	島根県立図書館	明治 13 年(1880)	89×127		島根県作成
102	島根県管内出雲国秋鹿郡	島根県立図書館	明治 13 年(1880)	92×128		島根県作成
103	島根県管内出雲国秋鹿郡	島根県立図書館	明治 14 年(1881)	48×67		島根県作成 老町老分
104	島根県管内出雲国楯縫郡	島根県立図書館	明治 14 年(1881)	65×81		島根県作成 老町老分
105	島根県管内出雲国島根郡	島根県立図書館	明治 14 年(1881)	66×95		島根県作成
106	島根県管内出雲国大原郡	島根県立図書館	明治 18 年(1885)	54×78		島根県作成 老町老分
107	国屋村荒隈城墟		明治 14 年		島根県史より模写	妹尾春江製図
108	法吉村真山城墟		明治 14 年		島根県史より模写	妹尾春江製図
109	法吉村白鹿城墟		明治 14 年		島根県史より模写	妹尾春江製図
111	山陰道改修図・福富村	福富神社蔵	明治 17 年		ふるさと史談乃木p88	
112	布志名村切図		明治 19 年		玉湯町史 下巻 (1)	

113	出雲國意宇郡第11区平原村図面	大庭公民館蔵	明治20年				
114	大字平原全圖	大庭公民館蔵	明治20年				
115	大字平原宅地田畠全圖	大庭公民館蔵	明治20年				
116	出雲國第11区意宇郡佐草村繪圖	大庭公民館蔵				明治6年地券名冊下分図	
117	大草村瑞雲寺前耕地整理図(原図)	大庭公民館蔵		1200分の1			
118	神魂神社土地官林實測図	大庭公民館蔵					
119	大草区道路見取図	大庭公民館蔵					
120	明治21年調整の図面	松江歴史館	明治21年		法吉の歴史あれこれp46		
121	講武村多久川下流字名道路図		明治22年	条里制構造図	鹿島町誌p35		
122	法吉村大字国屋字図	個人蔵	明治22年		法吉村誌p472		
123	法吉村大字谷・西谷字図	個人蔵	明治22年		法吉村誌p471		
124	法吉村大字馬渡字図	個人蔵	明治22年		法吉村誌p470		
125	浜佐田村・古絵図	松江歴史館	明治22年頃		生馬の里附図		
126	江島地名調査図		明治22年作成		八束町誌p46		
127	大根島地名(小字)調査図		明治22年作成		八束町誌p44		
129	法吉村全図		明治39年	法吉名勝案内	法吉村誌p26		
130	意宇郡宍道町村寛図		明治4未十月改		宍道町誌	葉山氏所蔵原図による	
131	安国寺境内古図		大正15年	大阪大成館彫刻部	八束郡誌・復刻版p178		
132	嫁ヶ島美測図		大正15年		八束郡誌・復刻版p367		
133	楽山付近地図		大正15年		八束郡誌・復刻版p935		
134	忌部村史蹟図		大正15年		八束郡誌・復刻版p293		
135	玉造村史蹟図		大正15年		八束郡誌・復刻版p447		
136	熊野村史蹟図		大正15年		八束郡誌・復刻版p237		
137	佐陀貝塚付近之図		大正15年		八束郡誌・復刻版p751		
138	美保関古墳図		大正15年		八束郡誌・復刻版p857		
139	道路と河川		昭和初期		生馬の里附図		
140	松江市八束郡地図	島根県立図書館	不詳	54×76		昭和年代・年不明	
141	八束村新旧漁場図					八束町誌p583	
142	島根郡下宇部尾村ニテ大根島受所山絵図	島根県立図書館	不詳	37x104	郡奉行所文書 231-11		
143	赤貝活養場絵図面					八束町誌p430	
144	上乃木地区耕地整理区画図					ふるさと史談乃木巻末	
146	大野地区字名図					続大野郷土誌p112	
147	秋鹿村全図	秋鹿公民館蔵					
148	秋鹿町図面	秋鹿公民館蔵				明治6年4月写し	
149	秋鹿村大字秋鹿村切図	秋鹿公民館					
150	秋鹿村戸籍番号図	秋鹿公民館					
151	秋鹿村戸籍番号図	秋鹿公民館					
152	大垣村戸籍番号図	秋鹿公民館					
153	大垣村山林図	松江歴史館	不詳	1800×1360	200140	秋鹿村役場図面ノ部	
154	秋鹿村大字岡本地図	秋鹿公民館					
155	島根郡村絵図国谷村	秋鹿公民館					
156	鹿島町全図					鹿島町誌	
157	潟ノ内新田開発					生馬の里p73	
158	小字地名分布図			12枚		生馬の里附図	
159	島根郡古地図					八束郡誌より	八束町誌p169
160	乃白・福富・浜乃木耕地整理区画図					ふるさと史談乃木巻末	
161	青柴垣神事繪卷	美保関神社蔵					
163	大根島絵図	松江歴史館	天保5年	3尺5分	八束町誌p266	s52木幡吹月氏寄贈	
164	出雲の国意宇郡大根島絵図	松江歴史館	明治初年頃	3尺5分	80001	村間の距離、対岸への距離	
165	江島村淵古中浦新田絵図	松江歴史館	文政2年(1819)頃	60.2×86.2	80002	埋め立て年代、所有者名	
166	大根嶋波入浦絵図	松江歴史館	明治中期か	6尺5寸	80003	小字、字界、地番	
167	大根嶋波入浦絵図	松江歴史館	明治中期か		80004	宅地番号、戸主名	
168	遼江村絵図	松江歴史館	明治中期か	3尺5寸	80005		
169	意宇郡大根嶋遼江村絵図面	松江歴史館	明治中期か		80006	道路、小字名、地番	
170	意宇郡大根嶋遼江村建宅界図面	松江歴史館	明治中期か		80007	家番号、戸主名	
171	意宇郡大根嶋二子村地所絵図	松江歴史館	明治中期か	161×223	80008	小字名、字界	
172	大根嶋二子村宅地図	松江歴史館	明治中期か		80009	家番号、戸主名	
173	意宇郡大根嶋二子村	松江歴史館	明治22年1月		80010	小字名、字界	
174	意宇郡大根嶋寺津村	松江歴史館	明治中期か	3尺9寸	80011	小字名、字界	
175	意宇郡大根嶋寺津村地籍番号図面	松江歴史館	明治中期か		80012	宅地番号、戸主名	
176	意宇郡大根嶋亀尻村地籍番号図面	松江歴史館	明治中期か	4尺1寸	80013	宅地、畑、水田、地番	
177	意宇郡大根嶋亀尻地籍番号図面	松江歴史館	明治中期か		80014	家番号、戸主名	
178	意宇郡大根嶋馬渡村	松江歴史館	明治20年5月1日	4尺6寸5分	80015	宅地、畑、水田、地番	
180	意宇郡大根嶋馬渡村建家界図面	松江歴史館	明治20年頃		80016	家番号、戸主名	
181	江島村絵図	松江歴史館	明治初期	4尺5分	80017	畑、水田、小字など	
182	意宇郡江島村敷道之図	松江歴史館	明治中期か	4尺	80018	第六十八区	
183	江島村絵図	松江歴史館	明治3年	3尺5分	80019	各村石高、戸数、人数	
184	意宇郡大根嶋江島村第1号	松江歴史館	明治中期か	131×140	80020	地籍図原簿	
185	意宇郡大根嶋江島村第2号	松江歴史館	明治中期か	127×140	80021	地籍図原簿	
186	江島村建宅図	松江歴史館	明治中期か		80022	家番号、戸主名	
187	意宇郡大根嶋入江村(字界図)	松江歴史館	明治22年1月		80023	小字名、字界	
188	意宇郡玉造村地図	玉作資料館	明治22年2月	191.6×134.4	4.5・4-391②	大字大谷・玉造	
189	湯町村切図 湯町川西	玉作資料館		55×102.2	4.5・4-386①		
190	▲旧12区絵図 大谷・玉造分	玉作資料館	明治7年(1874)	123.0×183.8	4.5・4-395		
191	大谷村切り図	玉作資料館	明治6年	291.4×295.0	4.5・4-384	変形、3枚に分離	
192	布志名村切り図	玉作資料館	明治22年	100×108.6	4.5-4-385①		
193	第13区意宇郡湯町村切図	玉作資料館		127.0×105.4	4.5-4-386②		
194	布志名村絵図	玉作資料館	明治19年	101.8×121.6	4.5-4-396		
195	旧12区絵図 大谷・玉造分	玉作資料館	明治7年	137.2×41.6	4.5・4-397	明治28年切断、写し	
196	第13区意宇郡布志名村水路・園控	玉作資料館		74.2×71.6	4.5-4-385③		
198	第13区意宇郡布志名村道敷・園控	玉作資料館		71.4×73.8	4.5-4-385②		
199	第12区意宇郡大谷村図面	玉作資料館	明治8年	119.6×153.2	4.5-4-398		
200	湯町村図面	玉作資料館	明治18年	130.8×122.0	4.5-4-386④		
201	第13区意宇郡面白村	玉作資料館	明治7年	92.4×85.0	4.5・4-393①		
202	玉造村図面	玉作資料館		93.8×160.4	4.5-4-391①		

203	布志名村切図	玉作資料館		73.4×100.4		筒の中
204	布志名村切図	玉作資料館		89.8×127.4		筒の中
205	布志名地券取調図面	玉作資料館		75.6×125.4		筒の中
206	出雲国13区湯町村山林原野図面	玉作資料館	明治10年頃	137.2×86.2	4-5-4-386③	県令境二郎に提出
207	出雲国13区林邨絵図面	玉作資料館		239.0×177.4	4-5-4-392②	
208	意宇郡湯町村地図	玉作資料館	明治22年	135.4×138.0		3ヶ村戸長名など記載
209	第13区意宇郡湯町村切図 向市 周辺	玉作資料館		265×112.4	4-5-4-386②-1	
210	地租改正絵図 林村	玉作資料館				耕宅地絵図
211	意宇郡大谷村全地圖	玉湯支所	明治22年2月	125.0×157.0		製圖者石川惣太郎
212	道路圖(玉造)	玉湯支所	明治8年	100.0×61.5		
213	水路圖(玉造)	玉湯支所	明治8年	108.0×66.0		
215	意宇郡玉造村水路繪圖面(控)	玉湯支所	明治初	106.0×77.0		
216	玉造村地圖	玉湯支所	明治初	89.5×55.5		彩色、作成途中
217	第13区意宇郡湯町村 水路圖面	玉湯支所	明治初	99.0×86.0		堤防水路圖面
218	意宇郡玉造邨 道路繪圖面	玉湯支所	明治初	96.0×71.5		
219	第13区湯町村圖面	玉湯支所	明治8年	97.0×97.5		一部着色
220	玉湯村大字大谷道路圖	玉湯支所	大正9年2月	92.5×106.5		山道など詳細
221	川井手圖面扣 林村	玉湯支所	明治初	64.0×85.0		用悪水の記録、川筋水色
222	山林原野圖面扣 林村	玉湯支所	明治初	74.0×110.0		黄色着色
223	第13区意宇郡湯町村 道路圖面	玉湯支所	明治初	87.0×90.0		
224	第12区意宇郡大谷村圖面	玉湯支所	明治8年	93.0×93.0		川用悪水井手衍など
225	出雲國第十区意宇郡揖屋村図	東出雲支所	明治8年9月	249.0×230.0		はみ出し75×45
226	出雲鄉村貳番組山圖	東出雲支所	明治9年調整	147.0×94.0		
227	地租改正地引繪圖面 今宮分	東出雲支所	明治初	122.0×109.0		
228	出雲國第十区意宇郡揖屋村図	東出雲支所	明治初	170.0×173.0		最長202
229	出雲國第9区意宇郡出雲鄉村分	東出雲支所	明治8年	141.0×165.0		
230	下意東村図	東出雲支所	明治時代	2910×2560		最短680
232	下意東大圖面	東出雲支所	明治時代	2380×1750		
233	下意東山林圖面	東出雲支所	明治時代	1170×1400		
234	銅鑄山借區地実測図	東出雲支所	☆明治7年(1874)頃	860×1100	民有地33,836坪	明治7年民間払い下げ、佐藤他3名
235	▲銅鑄山借區地実測図	東出雲支所	☆明治7年(1874)頃	940×1180	民有地35,832坪9合	訂正印あり、公印の捺印か
236	六十一区秋鹿郡手結浦繪圖	鹿島支所	明治6年懸巣差上ル	112.0×94.0		
237	秋鹿郡手結浦地押圖	鹿島支所	明治22年	172.0×109.0		戸長三浦正祐他
238	第61区秋鹿郡江角浦圖面	鹿島支所	明治6年	88.0×105.5		彩色きれい
239	第61区秋鹿郡片勾浦山林原野取 調繪圖面	鹿島支所	明治8年	99.0×143.0		地主総代山本嘉右衛門他
240	第61区秋鹿郡片勾浦圖面	鹿島支所	明治6年	107.0×106.0		
241	第61区出雲國秋鹿郡片勾浦繪圖面	鹿島支所	明治8年12月改正	127.0×98.5		青色、少し破れ
242	水浦片勾境圖	鹿島支所	明治9年	26.0×73.0		
243	江角字限り圖	鹿島支所	明治22年3月調製	99.0×76.0		戸長三浦正祐他
244	南講武字界地面	鹿島支所	明治22年3月調製	108.0×78.0		戸長宮廻隆一他
245	上講武村地圖字境界	鹿島支所	明治22年3月調製	156.0×111.5		戸長宮廻隆一他
246	名分村地圖字界	鹿島支所	明治22年3月調製	161.0×78.0		戸長宮廻隆一他
247	佐太村地押申告地圖	鹿島支所	明治時代	118.0×101.0		
248	佐太村宅地所在見取圖	鹿島支所	明治時代	52.0×35.0		
250	佐陀宮内村客社境内外区域明細圖	鹿島支所	明治12年	38.5×27.5		島根懸令境二郎宛
251	第61区秋鹿郡武代村圖面	鹿島支所	明治6年	105.0×139.0		彩色きれい
252	佐陀宮内村佐陀神社境内外区域 明細圖	鹿島支所	明治12年	40.0×28.0		
253	第61区秋鹿郡佐陀本郷村圖面	鹿島支所	明治6年	194.0×168.0		彩色きれい
254	武代村全圖	鹿島支所	明治22年3月調製	73.0×101.0		戸長新宮善八郎他
255	佐陀本郷改組山林圖面	鹿島支所	明治22年3月調製	177.0×93.0		
256	佐陀宮内村全圖	鹿島支所	明治22年3月調製	88.5×83.0		戸長新宮善八郎他
257	佐陀宮内村耕地繪圖面	鹿島支所	明治8年8月	82.0×89.0		彩色きれい、下調人新宮常松他
258	第60区秋鹿郡佐陀宮内村繪圖	鹿島支所	明治8年8月	84.5×100.5		彩色きれい、神官の宅地明記
259	北講武村地圖字界	鹿島支所	明治22年3月調製	114.0×117.0		戸長宮廻隆一他
260	第62区繪圖面四枚内一 上講武邑	鹿島支所	明治6年	176.0×100.5		彩色一部破損
261	第62区繪圖面四枚内二 上講武邑	鹿島支所	明治6年	128.5×109.5		彩色一部破損
262	第62区繪圖面四枚内三 上講武邑	鹿島支所	明治6年	116.0×114.0		彩色一部破損
263	第62区繪圖面四枚内四 上講武邑	鹿島支所	明治6年	148.0×63.0		彩色一部破損
264	第62区名分村繪圖面	名分村集会所蔵	明治6年	90.0×154.0		彩色、戸長宮廻藏七郎他
265	浜佐田村繪圖	個人蔵	江戸末期頃	73.0×112.0		彩色美、内湾記載、
267	意宇郡東岩坂村地引絵図面壹番	旧八雲村役場		91×141	21-T-1-3	改善センター保管
268	意宇郡東岩坂村戸籍改正図面	旧八雲村役場		127×40	21-T-1-5	改善センター保管
269	意宇郡東岩坂村道敷之図(東本 郷分)	旧八雲村役場	明治9年		21-T-1-6	改善センター保管
270	意宇郡西岩坂村本郷絵図面	旧八雲村役場		128×198	21-T-1-8	改善センター保管
271	意宇郡西岩坂村道敷之図	旧八雲村役場	明治22年		21-T-1-9	改善センター保管
272	意宇郡西岩坂村水路之図	旧八雲村役場	明治22年		21-T-1-10	改善センター保管
273	意宇郡熊野町地引図面	長澤報徳会	明治9年			長沢政十源忠具製之
274	美保閑絵図	個人蔵		125.0×158.0		白絵図
275	島根郡野波浦全圖	島根支所	明治22年3月	189.0×203.0		道路、水路、字界など
276	加賀村道路図(仮題)	島根支所	明治時代	421.0×193.0		
277	第六十三區島根郡大蘆浦繪圖面	島根支所	明治6~8年	208.0×121.0		彩色、田畠図面
278	加賀村略圖 第壹号	島根支所	明治22年8月	428.0×204.0		製圖者田中亀太郎、裏に地代表
279	一筆限切圖綴	島根支所		72.2×118.4		字瀬崎分、小字名124ヶ所記入
280	加賀村繪図(仮題)	島根支所	明治時代	390.0×184.0		作成途中、一部に地籍、彩色
281	加賀村地図(仮題)	島根支所	明治6~8年	292.0×166.2		田畠図面、彩色、
282	加賀村水路図(仮題)	島根支所	明治時代	65.2×116.0		水路、水源の記載
284	第六十三區島根郡大蘆浦道路図 (仮題)	島根支所	明治6~8年	145.3×102.0		村道、作道記載
285	山林圖面 全村	島根支所	明治時代	378.0×206.2		黃色彩色
286	出雲國第14区意宇郡佐々布村繪 図面	宍道町役場蔵	明治9年	223.7×163.0	747-4-7-7	朱書、明治9年地租改正耕宅地繪 図
287	意宇郡伊志見村大字伊志見番地図	宍道町役場蔵	明治年間	125.0×66.4	747-5-2-内1	壬申地券地引絵図
288	意宇郡白石村全圖	宍道町役場蔵	明治19~21年	225.0×138.0	747-3-2-2	朱書、地押更生地図

289	宍道町大字宍道番地図	宍道町役場蔵	明治19~21年	157.0×136.0	747-2-5 -内 4	2葉の内 1、朱書き304号、地押更生地図
290	宍道町大字宍道番地図	宍道町役場蔵	明治19~21年	146.0×135.0	747-2-内1	2葉の内 2、地押更生地図
291	八束郡白石郡村宅地図	宍道町役場蔵	明治19年	214.5×132.0	747-3-2-1	地押校正地図、鉄道記載あり
292	佐々布開拓地実測図	宍道町役場蔵		79.5×85.0	747-4-7-2	字地番入り
293	佐々布旧番地図	宍道町役場蔵	明治19~21年	299.0×233.0	747-4-7-3	地押更生地図、1200分の1
294	意宇郡伊志見村地押更生図	宍道町役場蔵	明治19~21年	142.5×76.0	747-4-7-4	製図者持田晶
295	佐々布村山絵面図	宍道町役場蔵	明治9年	210.0×156.0	747-4-7-5	破損、変形
296	意宇郡伊志見村地図	宍道町役場蔵	明治年間	285.0×170.0	745-5-2-内2	着色、明治9年を修正、精密
297	宍道町村宅地見取図	宍道町役場蔵	明治年間	132.0×111.0	747-2-1と同包	鉄道記載
298	江尻灘耕地整理図	宍道町役場蔵	明治年間	79.0×55.0	747-4-7-丙 1	鉄道記載
299	佐々布郡村宅地図	宍道町役場蔵	明治年間	166.0×228.0	747-4-7-内 6	
301	出雲国意宇郡宍道町村絵図(控)	宍道町役場蔵	明治9年	187.5×175.0	747-2-2-5の内	彩色、331の控え
302	▲出雲国意宇郡宍道町村繪圖	宍道町役場蔵	明治9年(1876)	175.0×182.0	747-2-3-5の内	彩色、画像有り、原図か
303	意宇郡来海村大字東来海地図	来待村役場蔵	明治22年	167.5×213.0	747-2-5	地押更生地図、所蔵なし
304	意宇郡来待村大字西来地図	来待村役場蔵	明治22年	215.0×248.0		地番図、村長成相立敬、捺印有、
305	意宇郡来待村大字上来待地図	来待村役場蔵	明治22年	170.0×216.0		地押更生地図
306	意宇郡来海村大字東来海地図 (原図)	来待村役場蔵	明治22年	205.0×174.5	747-2-5	地押更生地図、村長成相立敬、捺印有
307	島根郡片江村(道路・水路)図	美保関支所	明治22年 3月	80.0×81.0		裏朱書、片江村大字諸食
308	第64区千鈞浦川井手堤防敷之圖	美保関支所	明治初	64.5×73.0		
309	雲津浦田畠荒地圖面	美保関支所	明治期	67.5×59.0		破損有り
310	第64区鳥根郡笠浦道敷ノ圖	美保関支所	明治期	38.0×82.0		6名記載、捺印
311	第64区島根郡千鈞浦道敷ノ圖	美保関支所	明治期	80.5×75.5		村道、水路、橋記載
312	片江村大字七類 道水路図	美保関支所	明治22年	118.0×85.0		製図者山本、赤山
313	第65区鳥根郡片江浦圖面	美保関支所	明治初	151.0×116.0		地目別、権、塙浜など彩色
314	島根郡片江浦字圖面	美保関支所	明治22年 3月	118.5×135.0		製図者松本太七、水路道路
315	島根郡千鈞浦耕宅地繪圖面	美保関支所	明治初	117.0×141.0		地番図、彩色、地目別
316	美保関各浦字切図	美保関支所	明治22年	28.0×41.5		11冊の切り図
317	野波浦図	松江歴史館	文化3年(1806)	73.3×51.0	100100	島根郡浦図野波に類似か
319	松江市堅町地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	380×540	100101	
320	松江市堅町地図	松江歴史館	大正13年 3月改写	370×510	100202	
321	幸町地図	松江歴史館	大正10年 4月調製	545×770	100303	
322	幸町地図	松江歴史館	昭和7年 3月調製	550×785	100404	
323	榮町地図(壱)	松江歴史館	昭和7年 3月調製	305×495	100505	
324	榮町地図(式枚ノ内)	松江歴史館	大正10年 4月調製	655×655	100606	
325	榮町地図(式)	松江歴史館	昭和7年 3月調製	780×780	100707	
326	横濱町	松江歴史館	昭和6年 4月調製	490×720	100808	
327	松江新町地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	270×390	100909	
328	松江新町地図	松江歴史館	大正10年 4月改写	340×340	101010	
329	松江新町地図	松江歴史館	昭和8年10月改写	410×475	101111	
330	雜賀町(壱)	松江歴史館	不詳	695×615	101212	
331	雜賀町(壱)	松江歴史館	不詳	785×790	101313	
332	雜賀町(式)	松江歴史館	不詳	650×600	101414	
333	雜賀町(式)	松江歴史館	不詳	700×600	101515	
334	松江市雜賀地図(五ノ内)	松江歴史館	大正4年 7月調製	1115×760	101616	
336	雜賀地図(五ノ内)(元字田中)	松江歴史館	大正4年 7月調製	540×560	101717	大正10年 1月18日 大字名改称
337	雜賀町稻荷廻	松江歴史館	不詳	455×795	101818	
338	雜賀地図(五ノ内)(元清水)	松江歴史館	明治35年 3月調製	380×365	101919	大正10年 1月18日 大字名改称
339	雜賀地図(五ノ内)(元三月西 三月下)	松江歴史館	明治35年 3月調製	335×735	102020	大正10年 1月18日 大字名改称
340	雜賀地図(五ノ内)(元稻荷廻)	松江歴史館	大正4年 7月調製	370×780	102121	大正10年 1月18日 大字名改称
341	雜賀町字田中	松江歴史館	不詳	522×597	102222	
342	雜賀町字清水 三月下 三月西	松江歴史館	不詳	535×725	102323	
343	雜賀町字稻荷廻	松江歴史館	不詳	380×730	102424	
344	松尾町地図	松江歴史館	大正10年 4月調製	490×440	102525	
345	松江市松尾町地図	松江歴史館	昭和13年 3月改写	547×520	102626	
346	本郷町地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	445×627	102727	大正10年 1月18日 大字名改称
347	本郷町地図	松江歴史館	大正13年10月改写	470×670	102828	
348	本郷町	松江歴史館	昭和11年 4月17日校合	507×737	102929	
349	新雜賀町	松江歴史館	昭和11年4月17日 (校合)	467×792	103030	
350	新雜賀町地図	松江歴史館	大正10年 4月改写	355×710	103131	
351	津田町地図	松江歴史館	大正10年 4月調製	337×475	103232	
353	津田町	松江歴史館	昭和11年 4月17日 (校合)	590×430	103333	
354	大正町地図	松江歴史館	昭和17年 6月改写	550×145	103434	
355	朝日町	松江歴史館	昭和 6年以前?	555×790	103535	
356	朝日町	松江歴史館	昭和 6年 4月調製	760×1063	103636	
357	伊勢宮町地図	松江歴史館	大正10年 4月調製	357×586	103737	
358	伊勢宮町	松江歴史館	昭和 6年 4月調製	525×550	103838	
359	御手船場町地図	松江歴史館	大正10年 4月調製	485×600	103939	
360	御手船場町	松江歴史館	昭和 6年 4月調製	510×640	104040	
361	松江市多見地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	395×615	104141	
362	和多見町地図	松江歴史館	大正10年 5月改写	345×550	104242	
363	和多見町地図	松江歴史館	昭和25年 3月改写	468×618	104343	
364	松江市八屋町地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	273×382	104444	
365	伊勢宮町	松江歴史館	昭和15年 7月改写	500×590	104545	
366	大字松江分地図	松江歴史館	大正 4年 7月調製	845×1115	104646	北土手・伊勢宮・宮ノ沖
367	松江市白潟魚町地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	378×540	104747	
368	魚町地図	松江歴史館	不詳	543×785	104848	
369	松江市灘町地図	松江歴史館	大正 4年 7月調製 (改写)	535×695	104949	
371	灘町	松江歴史館	昭和 9年 7月改写	560×775	105050	
372	灘町地区画整理図	松江歴史館	不詳	278×400	105151	灘町罹災地改正図
373	松江市天神地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	390×740	105252	大正 9年12月改写
374	松江市天神地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	455×780	105353	昭和13年 3月改写
375	松江市白潟本町地図	松江歴史館	明治35年 3月調製	270×595	105454	

376	松江市寺町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	590×955	105555		
377	松江市寺町地図	松江歴史館	大正10年8月改写	545×928	105656		
378	寺町地図	松江歴史館	昭和8年10月改写	538×960	105757		
379	寺町99番宅地	松江歴史館	不詳	380×1015	105858	地主松本勘次郎	
380	大正町地図	松江歴史館	不詳	795×855	105959	青焼き複写	
381	朝日町	松江歴史館	不詳	567×795	106060	青焼き複写	
382	天神町	松江歴史館	不詳	565×780	106161	青焼き複写	
383	横濱町	松江歴史館	不詳	395×520	106262	青焼き複写	
384	御手船場町	松江歴史館	不詳	560×800	106363	青焼き複写	
385	本郷町	松江歴史館	不詳	588×790	106464	青焼き複写	
386	雑賀町 清水 三月西 三月下	松江歴史館	不詳	575×795	106565	青焼き複写	
388	雑賀町	松江歴史館	不詳	590×780	106666	青焼き複写	
389	雑賀町 稲荷廻	松江歴史館	不詳	560×790	106767	青焼き複写	
390	雑賀町 字田中	松江歴史館	不詳	570×795	106868	青焼き複写	
391	松江市松尾町地図	松江歴史館	不詳	780×520	106969	青焼き複写	
392	和多見町地図	松江歴史館	不詳	565×790	107070	青焼き複写	
393	寺町地図	松江歴史館	不詳	790×930	107171	青焼き複写	
394	魚町地図	松江歴史館	不詳	575×795	107272	青焼き複写	
395	雑賀町No.2	松江歴史館	不詳	400×455	107373	青焼き複写	
396	雑賀町No.3	松江歴史館	不詳	395×455	107474	青焼き複写	
397	新雑賀町	松江歴史館	不詳	560×795	107575	青焼き複写	
398	新町地図	松江歴史館	不詳	550×410	107676	青焼き複写	
399	伊勢宮町	松江歴史館	不詳	545×790	107777	青焼き複写	
400	松江市白潟本町地図	松江歴史館	不詳	335×570	107878	青焼き複写	
401	松江市西茶地図	松江歴史館	不詳	330×590	107979	青焼き複写	
402	横浜町地図	松江歴史館	昭和24年11月複写	530×450	108080		
403	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	395×425	1枚	108181	青焼き複写
405	朝日町五葉ノ内第一字伊勢宮	松江歴史館	不詳	390×420	1枚	108282	青焼き複写
406	朝日町五葉ノ内第四字伊勢宮	松江歴史館	不詳	395×430	1枚	108383	青焼き複写
407	朝日町五葉ノ内第三字伊勢宮	松江歴史館	不詳	393×430	1枚	108484	青焼き複写
408	朝日町字伊勢宮字宮ノ沖	松江歴史館	不詳	390×425	1枚	108585	青焼き複写
409	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	395×453	1枚	108686	青焼き複写
410	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	400×455	1枚	108787	青焼き複写
411	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	395×450	1枚	108888	青焼き複写
412	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	460×393	1枚	108989	青焼き複写
413	大正町字伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	453×397	1枚	109090	青焼き複写
414	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109191	六百分ノ一
415	朝日町伊勢宮字宮ノ沖	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109292	六百分ノ一
416	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109393	六百分ノ一
417	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109494	六百分ノ一
418	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109595	六百分ノ一
419	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109696	六百分ノ一
420	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109797	六百分ノ一
422	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109898	六百分ノ一
423	大正町字伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	109999	六百分ノ一
424	大正町字伊勢宮字フケ字北土手	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	110100	六百分ノ一
425	東朝日町三十一葉ノ内第一番	松江歴史館	不詳	285×370	1枚	110201	六百分ノ一
426	東朝日町三十一葉ノ内第二番	松江歴史館	不詳	285×371	1枚	110302	六百分ノ一
427	東朝日町三十一葉ノ内第三番	松江歴史館	不詳	285×372	1枚	110403	六百分ノ一
428	東朝日町三十一葉ノ内第四番	松江歴史館	不詳	285×373	1枚	110504	六百分ノ一
429	東朝日町三十一葉ノ内第五番	松江歴史館	不詳	285×374	1枚	110605	六百分ノ一
430	東朝日町三十一葉ノ内第六番	松江歴史館	不詳	285×375	1枚	110706	六百分ノ一
431	東朝日町三十一葉ノ内第七番	松江歴史館	不詳	285×376	1枚	110807	六百分ノ一
432	東朝日町三十一葉ノ内第八番	松江歴史館	不詳	285×377	1枚	110908	六百分ノ一
433	東朝日町三十一葉ノ内第九番	松江歴史館	不詳	285×378	1枚	111009	六百分ノ一
434	東朝日町三十一葉ノ内第十番	松江歴史館	不詳	285×379	1枚	111110	六百分ノ一
435	東朝日町三十一葉ノ内第十一番	松江歴史館	不詳	285×371	1枚	111211	六百分ノ一
436	東朝日町三十一葉ノ内第十二番	松江歴史館	不詳	285×372	1枚	111312	六百分ノ一
437	東朝日町三十一葉ノ内第十三番	松江歴史館	不詳	285×373	1枚	111413	六百分ノ一
438	東朝日町三十一葉ノ内第十四番	松江歴史館	不詳	285×374	1枚	111514	六百分ノ一
440	東朝日町三十一葉ノ内第十五番	松江歴史館	不詳	285×375	1枚	111615	六百分ノ一
441	東朝日町三十一葉ノ内第十六番	松江歴史館	不詳	285×376	1枚	111716	六百分ノ一
442	東朝日町三十一葉ノ内第十七番	松江歴史館	不詳	285×377	1枚	111817	六百分ノ一
443	東朝日町三十一葉ノ内第十八番	松江歴史館	不詳	285×378	1枚	111918	六百分ノ一
444	東朝日町三十一葉ノ内第十九番	松江歴史館	不詳	285×379	1枚	112019	六百分ノ一
445	東朝日町三十一葉ノ内第二十番	松江歴史館	不詳	285×371	1枚	112120	六百分ノ一
446	東朝日町三十一葉ノ内第二十三番	松江歴史館	不詳	285×372	1枚	112221	六百分ノ一
447	東朝日町三十一葉ノ内第二十四番	松江歴史館	不詳	285×373	1枚	112322	六百分ノ一
448	東朝日町三十一葉ノ内第二十五番	松江歴史館	不詳	285×374	1枚	112423	六百分ノ一
449	東朝日町三十一葉ノ内第二十六番	松江歴史館	不詳	285×375	1枚	112524	六百分ノ一
450	東朝日町三十一葉ノ内第二十七番	松江歴史館	不詳	285×376	1枚	112625	六百分ノ一
451	東朝日町三十一葉ノ内第二十八番	松江歴史館	不詳	285×377	1枚	112726	六百分ノ一
452	東朝日町三十一葉ノ内第二十九番	松江歴史館	不詳	285×378	1枚	112827	六百分ノ一
453	東朝日町三十一葉ノ内第三十番	松江歴史館	不詳	285×379	1枚	112928	六百分ノ一
454	東朝日町三十一葉ノ内第三十一番	松江歴史館	不詳	285×375	1枚	113029	六百分ノ一
455	東津田町長通	松江歴史館	不詳	285×376	1枚	113130	六百分ノ一
457	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113231	青焼き複写
458	朝日町字伊勢宮字宮ノ沖	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113332	青焼き複写
459	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113433	青焼き複写
460	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113534	青焼き複写
461	朝日町字伊勢宮	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113635	青焼き複写
462	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113736	青焼き複写
463	御手船町字伊勢宮二葉ノ内	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113837	青焼き複写
464	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	113938	青焼き複写
465	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	114039	青焼き複写
466	大正町伊勢宮字北土手	松江歴史館	不詳	280×405	1枚	114140	青焼き複写

467	雜賀町(西部)切図No.1	松江歴史館	不詳	280×405	114342	青焼き複写
468	雜賀町(西部)切図No.2	松江歴史館	不詳	280×405	114443	青焼き複写
469	雜賀町(西部)切図No.3	松江歴史館	不詳	280×405	114544	青焼き複写
470	雜賀町(西部)切図No.4	松江歴史館	不詳	280×405	114645	青焼き複写
471	雜賀町(西部)切図No.5	松江歴史館	不詳	280×405	114746	青焼き複写
472	雜賀町切図No.1	松江歴史館	不詳	270×390	114847	
474	雜賀町切図No.2	松江歴史館	不詳	270×390	114948	
475	雜賀町切図No.3	松江歴史館	不詳	270×390	115049	
476	雜賀町切図No.4	松江歴史館	不詳	270×390	115150	
477	雜賀町切図No.5	松江歴史館	不詳	270×390	115251	
478	東津田町第三区字森脇	松江歴史館	1947年か	390×530	115352	
479	東津田町第三区字森脇・ハサラ	松江歴史館	1947年か	390×530	115453	
480	東津田町第三区字ハサラ	松江歴史館	1947年か	390×530	115554	
481	東津田町第三区字堂前	松江歴史館	1947年か	390×530	115655	
482	東津田町第三区字沼	松江歴史館	1947年か	390×530	115756	
483	東津田町第三区字沼	松江歴史館	1947年か	390×530	115857	
484	東津田町第三区字根屋	松江歴史館	1947年か	390×530	115958	
485	東津田町第三区字森脇	松江歴史館	1947年か	390×530	116059	
486	東津田町第三区字森脇	松江歴史館	1947年か	390×530	116160	
487	東津田第三号字中島	松江歴史館	1947年か	330×460	116261	
488	東津田第一号字長通	松江歴史館	1947年か	330×460	116362	
489	東津田第二号字溜池	松江歴史館	1947年か	330×460	116463	
490	東津田第三号字松原	松江歴史館	1947年か	330×460	116564	
492	東津田第四号字原前	松江歴史館	1947年か	330×460	116665	
493	東津田第八号字原屋	松江歴史館	1947年か	330×460	116766	
494	東津田第九号字樹前	松江歴史館	1947年か	330×460	116867	
495	東津田第十号字神守	松江歴史館	1947年か	330×460	116968	
496	東津田第十二号字寺後	松江歴史館	1947年か	330×460	117069	
497	東津田第十三号字堂前	松江歴史館	1947年か	330×460	117170	
498	東津田第十四号字ハサラ	松江歴史館	1947年か	330×460	117271	
499	東津田第十五号字原	松江歴史館	1947年か	330×460	117372	
500	東津田第十六号字休庭	松江歴史館	1947年か	330×460	117473	
501	東津田第十七号	松江歴史館	1947年か	330×460	117574	
502	東津田第十八号字舟津田	松江歴史館	1947年か	330×460	117675	
503	東津田第二十二号字森脇	松江歴史館	1947年か	330×460	117776	
504	東津田第二十三号字岡	松江歴史館	1947年か	330×460	117877	
505	東津田第二十一号字根屋	松江歴史館	1947年か	330×460	117978	
506	東津田第二十号字犬田字隅山	松江歴史館	1947年か	330×460	118079	
507	東津田第十九号字高杉	松江歴史館	1947年か	330×460	118180	
509	東津田第二十四号字喰ヶ谷	松江歴史館	1947年か	330×460	118281	
510	東津田字古志寺床字長谷	松江歴史館	1947年か	330×460	118382	
511	東津田第二十六号字極楽寺	松江歴史館	1947年か	330×460	118483	
512	東津田第二十七号字垂水	松江歴史館	1947年か	330×460	118584	
513	東津田第二十八号字土器田	松江歴史館	1947年か	330×460	118685	
514	東津田第二十九号字立丁	松江歴史館	1947年か	330×460	118786	
515	東津田第三十号字井手平	松江歴史館	1947年か	330×460	118887	
516	東津田第三十一号字石台	松江歴史館	1947年か	330×460	118988	
517	東津田第三十二号字佐水	松江歴史館	1947年か	330×460	119089	
518	東津田第三十三号字才ノ前	松江歴史館	1947年か	330×460	119190	
519	東津田第四十号字石屋	松江歴史館	1947年か	330×460	119291	
520	東津田第三十四号字越前	松江歴史館	1947年か	330×460	119392	
521	東津田第三十五号字講田	松江歴史館	1947年か	330×460	119493	
522	東津田第三十六号字井廻	松江歴史館	1947年か	330×460	119594	
523	東津田第三十七号字櫛岡	松江歴史館	1947年か	330×460	119695	
524	東津田第三十八号字南外	松江歴史館	1947年か	330×460	119796	
526	東津田第三十九号字須原	松江歴史館	1947年か	330×460	119897	
527	東津田第四十一号字安原	松江歴史館	1947年か	330×460	119998	
528	東津田字伝兵工山字隅山	松江歴史館	1947年か	330×460	120099	
529	東津田字西山字灰田	松江歴史館	1947年か	330×460	120200	
530	東津田字浜田字津田前	松江歴史館	1947年か	330×460	120301	
531	津田町切図	松江歴史館	1947年か	330×460	120402	破損多く不明
532	松江市乃木松江分他	松江歴史館	不詳	465×430	1枚	複写物
533	嫁島土地区画換地図	松江歴史館	昭和40年代か	340×1950	1枚	換地図 千分ノ一
534	中原町地図	松江歴史館	昭和12年3月改写	710×995	200101	
535	中原町地図	松江歴史館	昭和15年7月改写	570×775	200102	
536	中原町	松江歴史館	不詳	715×1220	200103	
537	外中原町地図	松江歴史館	昭和17年3月調製	945×1185	200104	
538	外中原町地図	松江歴史館	昭和17年3月調製	835×590	200105	青焼き複写(一部)
539	松江市母衣町地図	松江歴史館	昭和4年3月調製	530×1220	200106	米子町地図無
540	松江市石橋町地図之内	松江歴史館	昭和4年3月調製	960×1115	200107	石橋町一
541	松江市石橋町地図之内	松江歴史館	昭和4年3月調製	1030×867	200108	石橋町二
543	北田町地図ノ一	松江歴史館	大正15年11月調製	675×875	200109	北田町ノ一
544	北田町ノ二	松江歴史館	不詳	610×780	200110	北田町二
545	殿町	松江歴史館	昭和6年4月調製	1505×1065	200113	
546	南田町地図式枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	640×815	200114	一枚不明
547	(外中原町)	松江歴史館	不詳	600×900	200115	青焼き複写一部分
548	外中原町地図	松江歴史館	昭和17年3月調製	805×570	200116	青焼き複写
549	松江市原地図	松江歴史館	不詳	390×850	200117	青焼き複写
550	松江市石橋町地図式枚之内	松江歴史館	不詳	760×795	200118	青焼き複写
551	殿町参枚ノ内ノ參	松江歴史館	昭和26年6月	790×1040	200119	青焼き複写
552	松江市母衣町地図	松江歴史館	不詳	790×1300	200120	青焼き複写
553	(母衣町)	松江歴史館	不詳	470×1110	200121	
554	松東土地区画整理確定図	松江歴史館	不詳	605×780	200122	東本町
555	東本町	松江歴史館	不詳	540×790	200123	青焼き複写
556	松江市末次本町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	340×580	200124	青焼き複写
557	松江市末次地図	松江歴史館	不詳	540×540	200125	青焼き複写

558	北堀町地図	松江歴史館	不詳	680×815	200126	青焼き複写
559	(石橋町)	松江歴史館	不詳	500×790	200127	青焼き複写
561	向島町地図	松江歴史館	大正13年10月改写	330×610	200128	青焼き複写
562	松江市米子町地図	松江歴史館	不詳	330×705	200129	青焼き複写
563	北田町地図ノ堺	松江歴史館	大正15年11月調製	620×835	200130	青焼き複写
564	南田町地図式枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	600×780	200131	青焼き複写
565	南田町地図式枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	550×1070	200132	青焼き複写
566	松江市石橋町地図式枚之内	松江歴史館	不詳	520×860	200133	
567	内中原町	松江歴史館	不詳	790×1210	200134	青焼き複写
568	中原町地図	松江歴史館	昭和15年7月改写	605×780	200135	青焼き複写
569	奥谷町地図	松江歴史館	昭和26年5月改写	1210×750	200136	青焼き複写
570	(奥谷町地図)	松江歴史館	不詳	660×1130	200137	青焼き複写
571	松江市東茶地図	松江歴史館	不詳	420×300	200138	青焼き複写
572	松江市学町地図	松江歴史館	不詳	355×425	200139	青焼き複写
573	大垣村山林図	松江歴史館	不詳	1800×1360	200140	秋鹿村役場図面ノ部
574	松江市北堀地図	松江歴史館	明治35年3月調製	690×1525	300101	
575	松江市奥谷地図	松江歴史館	明治35年3月調製	1080×1280	300202	
576	松江市中原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	535×885	300303	
578	松江市内中原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	530×1145	300404	
579	松江市外中原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	1075×1280	300505	
580	松江市片原地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×880	300606	
581	松江市母衣地図	松江歴史館	明治35年?月調製	550×1135	300707	
582	松江市米子地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×800	300808	
583	松江市北田地図	松江歴史館	明治35年3月調製	675×1495	300909	
584	大字奥谷字大輪地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×605	301010	「北田町ノ式」
585	大字末次字仙石屋敷地図	松江歴史館	明治35年3月調製	400×550	301111	
586	松江市東茶地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×395	301212	
587	松江市芋町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301313	
588	大字末次字正毛地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301515	
589	大字末次字舟廻地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301616	
590	大字末次字土手後地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	301717	
591	松江市末次地図	松江歴史館	明治35年3月調製	490×520	301818	
592	大字西川津字上追子	松江歴史館	明治35年3月調製	275×405	301919	「向島式枚之内」
593	松江市天神地図	松江歴史館	明治35年3月調製	400×755	302020	
595	松江分字伊勢宮字宮ノ沖地図	松江歴史館	明治35年3月調製	885×1140	302121	(一号)
596	松江分字伊勢宮字宮ノ沖地図	松江歴史館	明治35年3月調製	855×1105	302222	(二号)
597	松江分字稻荷廻地図	松江歴史館	明治35年3月調製	380×770	302323	
598	松江分字宇賀地図	松江歴史館	明治35年3月調製	385×485	302424	
599	松江分字元山地図	松江歴史館	明治35年3月調製	790×1040	302525	
600	松江分字新丁地図	松江歴史館	明治35年3月調製	380×775	302626	
601	松江分字田中地図	松江歴史館	明治35年3月調製	535×570	302727	
602	西津田字松江境字フケ地図	松江歴史館	明治35年3月調製	385×675	302828	
603	乃木字薩摩錦手地図	松江歴史館	明治35年3月調製	275×470	302929	
604	松江市(末次他11)	松江歴史館	不詳	545×2875	303030	末次各町
605	松江市(北堀石橋奥谷)	松江歴史館	不詳	995×1180	303131	縮写約千二百分ノ一
606	松江市(堅町他6)	松江歴史館	不詳	1070×1165	303232	堅町・横浜など
607	松江市(白潟本町他7)	松江歴史館	不詳	1540×1175	303333	白潟本町・八軒屋など
608	松江市(内中原外中原中原大字 末次ノ内)	松江歴史館	不詳	1800×1160	303434	
609	松江市(殿町母衣)	松江歴史館	不詳	1530×1170	303535	
610	(松江市橋北図)	松江歴史館	不詳	650×870	303636	
611	松江市末次本町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	335×580	303737	
613	松江市紙屋地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×380	303838	
614	松江市元木材地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×400	303939	
615	松江市末次魚町	松江歴史館	明治35年3月調製	270×500	304040	
616	松江市鍛冶地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×675	304141	
617	松江市新木材地図	松江歴史館	明治35年3月調製	335×790	304242	
618	大字末次字向島地図	松江歴史館	明治35年3月調製	270×645	304343	「向島町式枚之内」
619	奥谷町地図	松江歴史館	昭和14年7月改写	1130×1310	304444	
620	松江市北堀町地図	松江歴史館	大正10年8月改写	1540×670	304545	
621	北堀町地図	松江歴史館	昭和14年7月改写	760×1650	304646	
622	(北堀町地図)	松江歴史館	不詳	920×790	304747	青焼き複写
623	北堀町地図	松江歴史館	昭和5年1月調製	775×1840	304848	
624	奥谷町全図	松江歴史館	明治初期	1210×1040	304949	奥谷町戸長名など有り 切図
625	奥谷町地図	松江歴史館	昭和7年3月調製	1080×1300	305050	
626	松江市奥谷地図	松江歴史館	大正13年3月調製	1030×1250	305151	
627	殿町地図	松江歴史館	大正10年5月改写	1310×1080	400101	
628	殿町三枚ノ内堀	松江歴史館	昭和9年7月改写	525×615	400202	県庁敷地付近図
630	殿町式	松江歴史館	昭和9年7月改写	780×1055	400303	式号公園地内全図
631	殿町三枚ノ内参	松江歴史館	昭和9年7月改写	525×1040	400404	参考県前通り以東全体図
632	松江市内中原地図	松江歴史館	大正12年3月改写	540×1160	400505	
633	中原町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	510×800	400606	
634	外中原町地図	松江歴史館	大正10年4月調製	930×1210	400707	
635	北田町ノ二	松江歴史館	大正15年11月調製	625×865	400808	
636	松江市宅地等級概況図	松江歴史館	明治44年(1911)頃	1160×1090	400909	845と同図
637	松江市南田地図	松江歴史館	明治35年3月調製	980×1080	401111	
638	南田町地図	松江歴史館	昭和5年1月調製	920×1080	401212	
639	南田町地図二枚之内	松江歴史館	昭和8年10月改写	1060×530	401313	南田町二(北部)
640	大字末次字田町地図	松江歴史館	明治35年3月調製	275×400	401414	南田町二(大字末次字田町)
641	出雲国意宇郡竹矢村地図	松江歴史館	明治20年頃?	1010×1830	500101	戸長中島桐之助他
642	出雲国意宇郡八幡村地図全	松江歴史館	明治21年12月調製	1035×1740	500202	戸長福島榮太郎他
643	出雲国意宇郡矢田村地図全	松江歴史館	明治21年12月調製	950×1560	500303	控え 戸長福島榮太郎
644	出雲国意宇郡馬瀬村地図全	松江歴史館	明治21年12月調製	750×900	500404	控え 戸長福島榮太郎
645	山林原野絵図面 坂本村控え	松江歴史館	明治10年	1470×580	500505	第六十六区坂本村控え
647	山林原野絵図面 西持田村	松江歴史館	明治10年か?	615×1200	500606	戸長青山勘兵衛他
648	第五区東持田下分	松江歴史館	明治10年代始め	1090×940	500707	

649	川原耕地図	松江歴史館	不詳	1050×750	500808	持田村農業調査区第四号
650	持田村大字坂本	松江歴史館	明治20年頃?	2180×900	500909	戸長三代蔵四郎他
651	持田村大字川原	松江歴史館	明治20年頃?	1625×755	501010	戸長三代蔵四郎他
652	福原図	松江歴史館	明治20年頃?	1545×1035	501111	戸長三代蔵四郎他
653	字地図 持田村大字西持田村	松江歴史館	明治20年頃?	2230×1160	501212	戸長三代蔵四郎他
654	第六十二区島根郡国屋村地番図 写し	松江歴史館	原図:明治20年?	2100×1360	501313	昭和61年3月写し
655	第62区島根郡法吉村地番図	松江歴史館	不詳	800×1620	501414	松江市役所税務課複写か?
656	第62区島根郡黒田村地番図	松江歴史館	不詳	770×1550	501515	松江市役所税務課複写か?
657	第62区島根郡国屋村地番図	松江歴史館	不詳	795×1725	501616	松江市役所税務課複写か?
658	第62区島根郡春日村地番図	松江歴史館	不詳	1060×800	501717	松江市役所税務課複写か?
659	不明	松江歴史館	不詳	725×1110	501818	松江市役所税務課複写か?
660	不明	松江歴史館	不詳	800×1120	501919	松江市役所税務課複写か?
661	黒田町	松江歴史館	不詳	800×1490	502020	青焼き複写
662	松江市索引図	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502121	青焼き複写
664	No.2(奥谷町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502222	青焼き複写
665	No.3(北堀・奥谷町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502323	青焼き複写
666	No.4(北堀町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502424	青焼き複写
667	No.5(北田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502525	青焼き複写
668	No.6(北田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502626	青焼き複写
669	No.7(南田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502727	青焼き複写
670	No.8(米子町・南田町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502828	青焼き複写
671	No.9(母衣町・殿町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	502929	青焼き複写
672	No.10(母衣町・殿町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503030	青焼き複写
673	No.11(城山)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503131	青焼き複写
674	No.12(内中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503232	青焼き複写
675	No.13(殿町・内中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503333	青焼き複写
676	No.14(外中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503434	青焼き複写
677	No.15(中原町・外中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503535	青焼き複写
678	No.16(外中原町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503636	青焼き複写
679	No.17(末次町)末次本町ほか	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503737	青焼き複写
680	No.18(東本町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503838	青焼き複写
682	No.19(伊勢宮・御手船場・朝日町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	503939	青焼き複写
683	No.20(和多見町・白潟魚町・天神町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504040	青焼き複写
684	No.21(寺町・天神町・灘町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504141	青焼き複写
685	No.22(大正町・朝日町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504242	青焼き複写
686	No.23(雜賀町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504343	青焼き複写
687	No.24(雜賀町・堅町・横浜町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504444	青焼き複写
688	No.25(幸町・栄町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504545	青焼き複写
689	No.26(雜賀町・新町)	松江歴史館	昭和20年代始め	400×570	504646	青焼き複写
690	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	2300×1800	504747	
691	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	2300×1800	504848	
692	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	1800×2120	504949	
693	第八区意宇郡乃木村	松江歴史館	明治10年代	1800×2850	505050	
694	意宇郡東津田村	松江歴史館	明治8年	1030×2180	505151	戸長布野豊興他副戸長用の名前
695	出雲国意宇郡東津田村地図(8枚)	松江歴史館	明治21年12月調製	1360×1290	505252	字佐木・才オノ前など
696	異動図面 四ノ内(2枚)	松江歴史館	明治20年	1430×2200	505353	意宇群東津田村
697	出雲国意宇郡西津田村絵図面	松江歴史館	明治21年12月調製	1600×1160	505454	戸長福島榮太郎他地主総代人
699	意宇群東津田町変換地図	松江歴史館	明治19年8月製	1080×980	505555	
700	(西津田村全図)	松江歴史館	原本:明治21年12月 調製	1550×1050	505656	戦後の写しか?
701	東津田町地番図ノ式	松江歴史館	戦後	910×1950	505757	写し
702	東津田町(地番図ノ式)	松江歴史館	戦後	1275×1880	505858	写し
703	津田村東群絵図面(写し)	松江歴史館	原本:明治10年頃	1315×1755	505959	
704	絵図第六十二号(北堀・石橋・奥谷)	松江歴史館	明治10年代か	1800×2310(原図)	506060	北堀・石橋・奥谷町の住宅図 彩色地図、道・田・畠・山・墓社 色分け
705	出雲国島根郡第六十五区美保関 絵図面	鶴鶴修一家蔵		72×171		彩色図、海・山林・道路を色分 け
706	美保関地図	鶴鶴修一家蔵		55×79		彩色図、地番
707	美保関字才浦地押実地取調略図	鶴鶴修一家蔵		73×145		彩色、地番・地目、道路(赤)・水路(青)
708	美保関字脇尾浦略図	鶴鶴修一家蔵		62×99.5		道路・水路・田・畠等色分け、 地番
709	島根郡美保関駿尾略図面	鶴鶴修一家蔵	明治20年	96.5×174.5		「字名小路案内図」
710	美保関字名小路地押略図	鶴鶴修一家蔵		37×50		道、赤戸川溝(青)に彩色
711	迹探聞字三保小路地押略図	鶴鶴修一家蔵		37.3×50.3		道(赤)・川溝(青)に彩色
712	美保関字泊り小路地押略図	鶴鶴修一家蔵		60.5×90		道(赤)・川溝(青)に彩色
713	美保関字風矢浦刊長浜二至池押 実地取調別略図	鶴鶴修一家蔵		75.5×109		道・赤戸川溝(青)に彩色
714	美保関地押二付字下小畠ヨリ字 平井二至実地取調略図	鶴鶴修一家蔵		77×219		道(赤)・川溝(青)に彩色
716	美保関字西小路地押略図	鶴鶴修一家蔵		37×49		道(赤)・川溝(青)に彩色
717	美保関字大下判字加鼻三至ル地 押略図	鶴鶴修一家蔵		58.5×95.5		道(赤)・川(青)に彩色
718	第六十五区嶋根郡美保関道敷之 図面	鶴鶴修一家蔵	明治9年9月	72×97		道路・水路、戸長・副戸長
719	第六十五区島根郡美保関道敷之 図川溝渠之図	鶴鶴修一家蔵	明治9年9月	71×94		道路・水路、戸長副戸長
720	第六十五区島根郡美保間道敷ノ図	鶴鶴修一家蔵	明治9年9月	72.5×100.2		道路(赤)・畠道は黄・水路(青)
721	第六十五区島根郡雲津浦道敷ノ図	鶴鶴修一家蔵	明治15年	38.5×52.5		村道(赤)・畠道(黄)に彩色
722	第六十五区島根郡雲津浦川用悪 水干溝渠渠	鶴鶴修一家蔵	明治15年	38×52.5		川(青)・用悪水死干溝渠
723	字海崎・本図面	鶴鶴修一家蔵		89.5×227.5		地番・所有者記入
724	字才本図面	鶴鶴修一家蔵		74×170.5		所有者記入
725	字長浜図面	鶴鶴修一家蔵		73×145		所有者記入
726	美保関字大下ヨリ加鼻二至ル耕 宅地絵図面	鶴鶴修一家蔵		49.5×73		道路(赤)・畠(黄)・山林(緑)
727	(彩色地図)	鶴鶴修一家蔵		52×53.5		所有者記入
728	才図	鶴鶴修一家蔵		26×45		所有者記入
729	泊小路図	鶴鶴修一家蔵		65×48		所有者記入

730	輕尾浦	鶴鳩修一家藏		32×51.5		地目・面積・所有者記入、 絵画風
731	(彩色地図)	鶴鳩修一家藏		58.5×80		
732	朝酌村大字朝酌地図 二葉之内	松江歴史館		96×158	60001	戸長青山勘兵衛
734	朝酌村大字大井地図 二葉之内	松江歴史館	明治22年調製	111×168	60002	戸長青山勘兵衛
735	朝酌村大字大井地図 全 第67区	松江歴史館		69×69	60003	彩色、土地利用
736	朝酌村大字大海崎地図 全	松江歴史館	明治22年調製	96×133	60004	戸長青山勘兵衛
737	朝酌村大字福富地図 全	松江歴史館	明治22年調製	92×181	60005	戸長青山勘兵衛
738	朝酌村大字朝酌地図 二葉之内	松江歴史館	明治8年調製	92×162	60006	戸長青山勘兵衛
739	朝酌村大字福富地図 二葉之内	松江歴史館	明治8年調製	114×158	60007	戸長青山勘兵衛
740	朝酌村大字大井地図 二葉之内	松江歴史館	明治22年調製	92×162	60008	
741	朝酌村大字朝酌地図 二葉之内	松江歴史館		116×156	60009	
742	朝酌村大字朝酌地図 二葉之内	松江歴史館	明治8年調製		60010	
743	山林絵図 全 大井 第67区	松江歴史館		95×119	60011	戸長青山勘兵衛
744	山林絵図 全 福富 第67区	松江歴史館		88×168	60012	
745	山林絵図 全 大海崎 第67区	松江歴史館		95×123	60013	下調人古藤要兵衛・平三郎
746	山林絵図 二葉之内 朝酌	松江歴史館		89×140	60014	
747	山林絵図 二葉之内 朝酌	松江歴史館		121×154	60015	
748	本庄村大字邑生村	松江歴史館		174×88	60016	
749	出雲国島根郡新庄村全図	松江歴史館			60017	
751	島根県官下出雲国第六十六区島根郡手角村絵図面	松江歴史館			60018	
752	島根郡別所村	松江歴史館	明治22年1月調製	111×130	60019	戸長木村忠七
753	上本庄村	松江歴史館			60020	
754	島根郡上宇部尾村	松江歴史館	明治22年1月調製	110×212	60021	
755	出雲国第六十六区島根郡長海町絵図面	松江歴史館		116×120	60022	
756	島根郡上東川津村全図	松江歴史館			70001	
757	島根郡西川津村地区	松江歴史館	明治22年1月調整		70002	地主総代人奥名四郎一郎、製図者金津善平
758	島根郡下東川津村全図	松江歴史館	明治22年1月調整		70003	
759	出雲國島根郡下東川津村絵図面	松江歴史館	明治6年調		70004	
760	山林絵図面第62区下佐陀村	松江歴史館	明治9年	61×148	70005	
761	下佐陀村全図	松江歴史館	明治22年1月調製	50×116	70006	戸長多久和林次郎
762	島根郡西生馬村	松江歴史館		67×88	70007	地押惣代人 清原喜三太他
763	島根郡西生馬村	松江歴史館		76×94	70008	地押惣代人 清原喜三太他
764	山絵図面第六十二区西生馬村	松江歴史館		52×61	70009	戸長福井正三郎
765	島根郡西生馬村	松江歴史館		68×85	70010	地主惣代人 清原喜三太他
766	薦津町	松江歴史館		45×60	70011	縮尺3000分の1
768	耕宅地 東生馬	松江歴史館		70×121	70012	
769	島根郡上佐陀村	松江歴史館	明治22年1月調製	89×99	70013	
770	山林絵図面 島根郡上佐陀村	松江歴史館		93×63	70014	
771	耕宅地図面 島根郡上佐陀村	松江歴史館		90×73	70015	
772	地券絵図面第六十二区下佐陀村	松江歴史館	明治7年	198×86	70016	
773	島根郡濱佐田村	松江歴史館		116×94	70017	
774	薦津村絵図面	松江歴史館		143×78	70018	
775	出雲国第六十二区島根郡東生馬村山林現地々引絵図面	松江歴史館		106×61	70019	
776	絵図面 出雲国島根郡第六十二区西生馬村	松江歴史館	明治8年	91×70	70020	
777	宅地絵図(西忌部村)	松江歴史館	明治9年11月		70021	
778	大字佐草全図	松江歴史館	明治22年		70022	戸長山本淡藏
779	山代全図	松江歴史館			70023	戸長中島桐之助
780	出雲国第八区意宇郡西津田村絵図面	松江歴史館		163×191	70024	三之内式
781	松江市外中原小三区方眼寺	広島大学付属図書館	明治6年	251.0×232.0		
782	第七区松江分図面二枚之内	広島大学付属図書館	明治6年			
783	第六区白潟・天神・灘・寺町	広島大学付属図書館	明治6年			松江市立中央図書館複写所蔵
785	第六区南和多見町北和多見町	広島大学付属図書館	明治6年			松江市立中央図書館複写所蔵
786	第一区大区小四区之二茶町	広島大学付属図書館	明治6年			松江市立中央図書館複写所蔵
787	松江市街二分図第一区・殿町	広島大学付属図書館	明治6年	242.0×275.0		松江市立中央図書館複写所蔵
788	松江市街二分図第一区・母衣・米子	広島大学付属図書館	明治6年			
789	松江市街二分図第二区・北堀・石橋・奥谷	広島大学付属図書館	明治6年	283.0×330.0		松江市立中央図書館複写所蔵
790	松江市街二分図第三区・内中原	広島大学付属図書館	明治6年	246.0×126.0		
791	新丁屋敷図	広島大学付属図書館	明治6年	267.0×147.0		
792	松江市街二分図第四区第五区・未次・材木	広島大学付属図書館	明治6年	419.0×81.5		松江市立中央図書館複写所蔵
793	松江市街二分図第六区・本町・八軒屋	広島大学付属図書館	明治6年			松江市立中央図書館複写所蔵
794	松江市街二分図第七区・豎・横浜	広島大学付属図書館	明治6年			松江市立中央図書館複写所蔵
795	地券地引絵図湯町	松江市立出雲玉作資料館	明治7年			
796	出雲国区割全図(A)	国立公文書館177-0723	明治9年~14年	101.5×95.0		橋北が薄緑色
797	▲出雲国区割全図(B)	国立公文書館177-0724	明治9年~14年(1876~1881)	101.0×94.5		橋北が黄色
798	外中原町地図鷹匠町東側	広島大学付属図書館	明治初年頃か☆	96.0×175.0		
799	松江市街二分図 北南田町	広島大学付属図書館	明治6年	264.0×268.0		
800	仁多郡村絵図(仮称)	仁多郡誌掲載	昭和47年			復刻版、63村
801	仁多・大原郡総絵図輪名入	島根県立図書館	不詳	309.0×431.0		手書き彩色
803	下古志村絵図	島根県立図書館	明和8年(1771)	49.0×67.0		手書き彩色
804	上古志村絵図	島根県立図書館	明和8年(1771)	48.0×67.0		手書き彩色
805	神門郡乙立村絵図	島根県立図書館	不詳	65.0×93.0		手書き彩色
806	雲州出雲郡出西村輪切図	個人蔵	明治39年写し	104.0×119.0		手書き彩色
807	神門郡多伎村絵図	個人蔵	不明	67.0×48.5		手書き彩色
808	神門郡大鷲村絵図	個人蔵	不明	48.8×67.5		手書き彩色

809	神門郡小田村絵図	個人蔵	不明	69.0×49.0	手書彩色	
810	神門郡畠村絵図	個人蔵	不明	49.0×68.0	手書彩色	
811	仁多郡大馬木村之図	個人蔵	不明	68.0×71.5	手書彩色	
812	仁多郡広瀬村・下三成村など	個人蔵	不明	67.5×85.5	手書彩色	下三成、上三成など6村
813	仁多郡馬場村絵図	個人蔵	不明	48.3×68.5	手書彩色	
814	仁多郡佐白山村絵図	個人蔵	不明	48.5×68.0	手書彩色	
815	能義郡上吉田村絵図	個人蔵	不明	72.0×68.0	手書彩色	
816	能義郡下吉田村絵図	個人蔵	不明	48.5×66.0	手書彩色	
817	能義郡吉岡村絵図	個人蔵	不明	49.0×67.0	手書彩色	
818	能義郡鳥木村絵図	個人蔵	不明	67.0×47.0	手書彩色	
820	能義郡野方村絵図	個人蔵	不明	66.5×48.0	手書彩色	
821	能義郡柿谷村絵図	個人蔵	不明	68.0×48.0	手書彩色	
822	能義郡折坂村絵図	個人蔵	不明	63.5×49.0	手書彩色	

(『松江市史』「絵図・地図」掲載図は名称に▲を付した)

(2) 村絵図としての「輪切絵図」

松江藩には租税賦課徵収のために設けられた「輪（輪切）」の制度があった（原：1968）。藩の公式文書によると、「一村ノ中、地味ニ隨ヒ幾所ニモ區別シ、之ヲ輪ト称す。毎輪ノ反別平均ヲ記シタル冊子ヲ名ヅケテ輪切帳トイフ（「明治2年 島根県歴史附録」松江市教育委員会編2017：70）とある。「輪（輪切）」は、水田を共通する特性の下に集団化して「〇〇輪」と名付け、「輪」ごとにその年の平均収穫量を「輪切帳」に記録する制度である。この輪（輪切）に関して、地方役人が村内の収穫検分などをを行うために水田の場所を記した絵図を「輪切絵図」と称している。

江戸時代の村絵図には、周辺との関係が念頭に置かれて作製される領域把握型の絵図と、領域内の多様な地理情報を抽出・描写することが主眼となっている土地（地片）把握型の絵図がある（金田・上杉2012：214）。

輪切絵図は、あきらかに村内の地片（＝「輪」）を具体的にとらえることに主眼があり、その意味で土地（地片）把握型の絵図の典型例と言える（上杉・大矢他2012：77）。こうした絵図の特性からみて、今回の目録では輪切絵図を郡単位で掲載するのではなく、個々の村を単位として「村絵図」として掲載すべきであると考えた。

① 所蔵が確認できた輪切絵図

次の表は、村内に「輪」が描かれている絵図で、法量、描写方法などの違いはあるが、いずれも土地（輪）の把握を主目的として描かれた絵図と思われる。

表2 輪切図の所蔵一覧

2019.8.1現在

	絵図名	番号	年度	書式	サイズ	備考・絵図番号
1	意宇郡村絵図*	蘆田文庫（明治大学）	萬延元年	13.2×19.5	手書彩色	表紙に布野
2	嶋根郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	萬延元年	12.7×18.7	手書彩色	表紙に布野
3	楯縫郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	文久元年	13.4×19.5	手書彩色	表紙に布野
4	秋鹿郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	元治元年	13.6×19.2	手書彩色	表紙に布野
5	飯石郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	慶応元年	13.6×19.4	手書彩色	表紙に布野
6	出雲郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	慶応元年	13.5×18.9	手書彩色	表紙に布野
7	大原郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	慶応元年	13.6×19.7	手書彩色	表紙に布野
8	仁多郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	慶応元年	13.6×19.7	手書彩色	表紙に布野
9	能義郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	慶応元年	13.8×19.7	手書彩色	表紙に布野
10	神門郡村繪圖*	蘆田文庫（明治大学）	明治3年	14.2×20.1	手書彩色	表紙に布野
11	出雲郡々繪圖	蘆田文庫（明治大学）	天保4年	13.1×18.7	手書彩色	表紙に布野
12	島根郡村絵図（内西組）*	島根大学蔵	近世後期	26.2×20.2	手書彩色	裏表紙に西組・三浦の墨書き
13	出雲郡村輪切図*	岡 義重蔵本（写）		13.0×18.8	手書彩色	旧島根県史編纂時
14	仁多郡村絵図（仮称）	仁多郡誌掲載	昭和47年			復刻版、63村
15	仁多・大原郡総絵図輪名入	島根県立図書館	不詳	309.0×431.0	手書彩色	仁多郡、一部欠損
16	下古志村絵図	島根県立図書館	明和8年(1771)	49.0×67.0	手書彩色	
17	上古志村絵図	島根県立図書館	明和8年(1771)	48.0×67.0	手書彩色	
18	神門郡乙立村絵図	島根県立図書館	不詳	65.0×93.0	手書彩色	
19	雲州出雲郡出西村輪切図	個人蔵	明治39年写し	104.0×119.0	手書彩色	直江町高田利一郎旧蔵
20	神門郡多伎村絵図	個人蔵	不明	67.0×48.5	手書彩色	
21	神門郡大嶋村絵図	個人蔵	不明	48.8×67.5	手書彩色	
22	神門郡小田村絵図	個人蔵	不明	69.0×49.0	手書彩色	
23	神門郡畠村絵図	個人蔵	不明	49.0×68.0	手書彩色	
24	仁多郡大馬木村之図	個人蔵	不明	68.0×71.5	手書彩色	
25	仁多郡広瀬村・下三成村など	個人蔵	不明	67.5×85.5	手書彩色	下三成、上三成、大谷など6村

26	仁多郡馬場村絵図	個人蔵	不明	48.3×68.5	手書彩色	
27	仁多郡佐白村絵図	個人蔵	不明	48.5×68.0	手書彩色	
28	能義郡上吉田村絵図	個人蔵	不明	72.0×68.0	手書彩色	
29	能義郡下吉田村絵図	個人蔵	不明	48.5×66.0	手書彩色	
30	能義郡吉岡村絵図	個人蔵	不明	49.0×67.0	手書彩色	
31	能義郡鳥木村絵図	個人蔵	不明	67.0×47.0	手書彩色	
32	能義郡野方村絵図	個人蔵	不明	66.5×48.0	手書彩色	
33	能義郡柿谷村絵図	個人蔵	不明	68.0×48.0	手書彩色	
34	能義郡折坂村絵図	個人蔵	不明	63.5×49.0	手書彩色	

* は図帳形式

② 絵図のサイズ

表2、目録番号1から13（*印有り）は、村絵図を郡ごとに綴って図帳形式にしたもので、いずれも長辺20cm前後的小冊子である。ほぼ一村単位に描かれた絵図（目録番号16から34）は50×70cm前後のサイズであるのに対して、郡全体を描いた「仁多・大原郡総絵図輪名入」（目録番号15、地図名は2郡であるが実際は仁多郡のみ）は309cm×431cmの折図形式の大図で、この表からは小図・中図・大図の3種類のサイズの輪切絵図にグループ化できる。

「仁多・大原郡総絵図輪名入」は大原郡に接する地域、仁多郡南部の小馬木村・八川村付近、さらに吾妻山付近の紙片が欠落している。記載内容は、中図や小図である他の仁多郡村図とは違って、輪名のほか石新田、鑪場、かんな流し場などの記述がある。単なる輪の位置把握だけではなく、奥出雲地方に代表される鑪産業や農業などとの関連が推定される貴重な絵図であり、今後の詳細な分析が必要である。

小図となる図帳形式の輪切絵図は、あくまでも村内の相対的な位置の把握をめざしたものであり、測量図のような詳細さはない。地方役人の村内もしくは郡内の検分などに供した実務的な側面をもつ絵図であったと思われる。

③ 輪切絵図の系統性

輪切絵図のなかには、同一の村・郡にかかる輪切絵図が複数、残されている場合がある。たとえば、図帳形式絵図のうち島根郡村絵図は、明治大学（蘆田文庫）と島根大学の2冊が確認できる。明治大学本は表紙に「萬延元申初秋」の記載があり、大芦浦、水浦、加賀浦などを含めて55村が描かれているのに対して、島根大学本は郡内の西区15村が描かれている。絵図の書き方は明治大学本の方が島根大学本より丁寧に描かれている。

出雲郡村絵図は、明治大学2冊（布野本、米村本）と岡義重本1冊の計3冊がある。布野本（明治大学本）が表紙に「慶応元巳夏」とあり、村図は32村描かれているのに対し、米村本（明治大学本）は「天保四巳夏」で29村が表現されている。時期と村の記載数からみて、両者は明らかに系統が異なる。岡義重本は「昭和四年謄写」とあり、記入されている輪の石高は布野本にほぼ一致しており同一系統の写しと思われる。

仁多郡村絵図のうち、明治大学本は表紙に「慶応元巳秋」とあり66村を掲載している。『島根県仁多郡誌』（1972:561-682）は昭和47年に復刻（初版大正8年）されて、第5編地方紙編のなかに明治大学本と同じく66村の輪切絵図が掲載されている。絵図は、1村単独の掲載だけではなく2村から6村を一枚の図として描くなど、明治大学本と『島根県仁多郡誌』本とでは描写の仕方が異なっている。さらに赤線で描かれた道路以外は黒刷で、山々は絵画的描写ではなく等高線に直角に線を描くケバ式描写を用いるなどの違いもある。『島根県仁多郡誌』本には絵図の出典名や年代の記載はないが、明治8年の合併以前の村名が書かれていること、輪名が明治大学本に類似していることから判断すると、これらは、幕末から明治初年頃の輪切絵図と思われる。

一方、折図形式（大図）の「仁多・大原郡総絵図輪名入」は明治大学本、『島根県仁多郡誌』本と比較して記述内容が詳細緻密で、かつ図全体に角筆による4cm四方の方眼が引かれており、江戸時代に描かれた輪切絵図の原図かも知れない。

④ 10郡内の村絵図一覧（蘆田文庫）

表3 10郡内の村絵図一覧（蘆田文庫）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
意宇郡	伊志見村	佐々布村	完道村	白石村	西来海村	東來海村	上來海村	林村	大谷村	玉造村
	11		12	13	14	15	16	17	18	19
	面白村	湯町村	西忌部村	東忌部村	布志名村	野白村	福富村	乃木村	西津田村	松江分一免
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
	東津田村	古志原村	大庭村	佐草村	平原村	熊野村	西岩坂村	東岩坂村	日吉村	大草村
	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
	山代村	矢田村	竹矢村	八幡村	馬渕村	春日村	下出雲郷村	上出雲郷村	揖夜村	上意東村
	40	41								
	下意東村	大根嶋・江島							冊子記入数	41村
嶋根郡	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	新庄村	本庄村	邑生村	別所村	野原村	長海村	手角村	下宇部尾村	森山村	福浦
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	諸喰浦	七類浦	片江浦	菅浦	北浦	千酌浦	笠浦	野井浦	多古浦	野波浦
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	奥谷村	菅田村	西川津村	西持田村	東持田村	坂本村	福原村	川原村	下川津村	上川津村
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	西尾村	朝齋村	福富村	大井村	上宇部尾村	大海崎村	法吉村	春日村	黒田村	比津村
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
	国谷村	末次村	濱佐田村	薦津村	東生馬村	西生馬村	下佐田村	上佐田村	北講武村	名分村
	51	52	53	54	55					
	南講武村	上講武村	大芦浦	水浦	加賀浦				3組合計	55村
楯縫郡	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	小境村	鹿園寺村	菌村	多久村	多久谷村	東郷村	岡田村	野石谷村	久多見村	本庄村
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	万田村	奥宇賀村	口宇賀村	西々郷村	東福村	平田村上ヶ分	平田村灘分	出来須村	鳴村	西代村
	21	22	23	24					9浦、寺領なし	24村
秋鹿郡	国富村	美談村	東林木村	西林木村						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	下伊野村	上伊野村	伊野浦	下大野村	上大野村	大垣村	岡本村	秋鹿村	西長江村	魚瀬浦・鎌田浦
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	東長江村	濱佐蛇村	古曾志村	庄村	成相寺村	西谷村	古志村	宮内村	本郷村	武代村
飯石郡	21	22	23	24					冊子記入数	28村
	江角浦	手結浦	片句浦	古浦						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	反部村	宮中村	原田村	朝原村	多根村	松笠村	掛合村	民谷村	吉田村	曾木村
	11	12	13	14	15	16		17	18	19
	上山村	深野村	川手村	上熊谷村	下熊谷村	三刀屋村	芦原村	栗谷村	多久和村	六重村
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
出雲郡	神代村	中野村	須所村	坂本村	乙多田村	加食田村	宮内村	殿河内村	尾崎村	根波村
	30	31	32	33	34	35	36		冊子記入数	37村
	里坊村	屋内村	法師田村	大谷村	案田村	伊萱村	給下村			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	坂田村	三歩市村	黒目村	中ノ須村	沖ノ須村	下庄原村	学頭村	神庭村	羽根村	武部村
大原郡	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	吉成村	上庄原村	南村	福富村	中原村	上鹿塚村	今在家村	鳥屋村	井上村	別名村
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	神門郡北島村	北島村	上阿宮村	水室村	出西村	下阿宮村	神立村	求院村	千家村	富村
	31	32	33						冊子記入数	32村
大原郡	神守村	下直江村	上直江村							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	神原村	三代村	大竹村	延野村	大崎村	宇治村	加茂村	南加茂村	大西村	近松村
	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	前原村	立原村	養加村	下分村	飯田村	大東本郷村	織部村	稲村	金坂村	成木村
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	下阿用村	大木原村	大ヶ谷村	下佐世村	上佐世村	山方村	里方村	木次村	東日登村	西日登村
	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	寺領村	宇谷村	西阿用村	川井村	岡村	東阿用村	下久野村	上久野村	塩田村	箱渕村
	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
	笛谷村	清田村	湯村	飛石村	苅畠村	小川内村	南村	北村	諏訪村	川坂村
	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
	蘆澤村	山王寺村	中屋村	新庄村	田中村	針江村	山田村	畑鶴村	遠所村	幡屋村
	61	62	63	64	65	66			冊子記入数	66村
	仁和寺村	新宮村	砂子原村	東谷村	猪尾村	岩倉村				

仁多郡		1	2	3	4	5	6	7
		上阿井村	下阿井村	川内村	四日市村	上鴨倉村	下鴨倉村	石村
		8		9		10		11
佐白村	上布施	前布施	馬馳村	八代村	中村	鞍掛村	堅田村	原田村
	13		14	15	16	17	18	19
北原村	下布施村	尾原村	小馬木村	大馬木村	八川村	下横田村	大谷村	雨川村
	20				21			22
高尾村	尾白村	下三成村	上三成村	湯野原村	神畠村	矢谷村	廣瀬村	上三所村
	23			24	25	26	27	28
石原村	角木村	乙多田村	下三所村	里田村	稻田村	藏屋村	大呂村	竹崎村
	29			30	31		32	33
横田村	大曲村	加食村	中湯野村	久比須村	西湯野村	梅木原村	高田村	琴枕村
	34			35	36			郡村
簾村	大内原村	塙原村	高柴村	樋口村	五反田村	角村	馬場村	冊子記入数 66村
神門郡		1	2	3	4	5	6	7
		武志村	柄嶋村	稻岡村	萩原村	中野村	大津村	今市村
		11	12	13	14	15	16	17
里方村	日下村	矢尾村	栗津村	堀江村	矢野村	小山村	渡橋村	天神村
	21		22	23	24	25	26	27
松枝村	下庄村	横引村	松寄下村	濱村	江田村	八鳴村	入南村	常松村
	30	31	32	33		34	35	36
菱根村	北荒木村	中荒木村	古荒木村	荒木村	萱原村	西園村	東園村	知井宮村
	38	39	40	41	42	43	44	45
知井宮本郷村	下古志村	上古志村	馬木村	下塙治村	上塙治村	石塙村	船津村	上之郷村
	47	48	49	50	51	52	53	54
宇那手村	稗原村	上朝山村	野尻村	見々匂村	所原村	芦渡村	東神在村	西神在村
	57		58	59	60	61	62	63
板津村	大池村	二部村	三部村	常楽寺村	畠村	毛津村	久村	多岐村
	66	67	68	69	70	71	72	73
口田儀村	奥田儀村	佐津目村	山口村	上橋渡村	下橋波村	吉野村	高津屋村	一久保田村
	76	77						
八幡原村	乙立村							冊子記入数 82村
能義郡		1	2	3	4	5	6	7
		荒嶋	東赤江	上坂田	下坂田	下今津	飯嶋	安来
		11	12	13	14	15	16	17
嶋田	門生	吉佐	早田	九重	清水	佐久保	宮内	野外
	21	22	23	24	25	26	27	28
清井	鳥木	下吉田	上吉田	柿谷	折坂	野方	吉岡	切川
	31	32	33	34				
西赤江	久白	日白	中津					34村

* 番号同一の村は、同一絵図に掲載

10郡村数 464村

おわりに

『松江市史 史料編11 絵図・地図』の発刊以降も絵図・地図部会では、旧町村の支所や公民館などとともに、松江市域を越えた史料調査を進めてきた。

今回の報告は、中間報告の更なる追加報告であり、今後も継続的に調査を進めて一定の成果の後、再々度の報告をしたいと思っている。特に松江市域外の村図「輪切絵図」の報告は、城下町松江を支えてきた後背地の情報であり、その分析が深化することで、江戸時代以降の松江藩域の特色が一層浮き彫りにされると思われる。輪切絵図と表裏一体の関係をもつ輪切帳は、広島大学図書館の原本とともに、島根県立図書館ではその複写本が公開されている。輪切絵図と輪切帳を結び付けることで、各村の農業生産力の変動なども考察できると言える。

(おおやゆきお 松江城調査研究委員・松江市史編纂「絵図・地図」部会長)

(うえすぎかずひろ 京都府立大学准教授・松江市史編纂「絵図・地図」部会委員)

参考文献

松江市教育委員会編 (2014) 『松江市史 史料編11 絵図・地図』。

大矢幸雄・和田嘉宥 (2016) 「松江市域の絵図・地図目録(中間報告)」, 松江市史研究7号, 『松江市史歴史叢書9』。

原 傳 (1968)『松江藩経済史の研究(復刻版)』, 臨川書店。

松江市教育委員会編 (2017)「明治2年 島根県歴史附録」,『松江市史 史料編9 近現代I』。

金田章裕・上杉和央 (2012)『日本地図史』, 吉川弘文館。

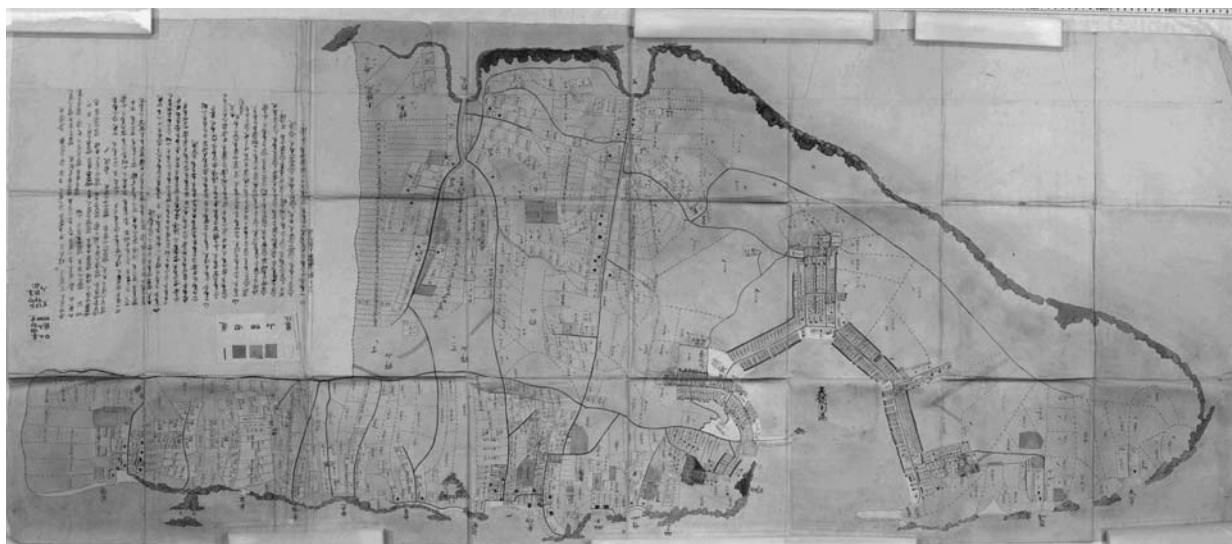
上杉和央・大矢幸雄他 (2012)「松江藩領全域をおおう「輪切絵図」－安定的な年貢確保を目的に－」,『松江歴史館研究紀要 第2号』。

仁多郡役所 (1972)『島根県仁多郡誌』。

【表紙絵図の解説文】

「出雲国島根郡第六十五区美保関絵団面」(鷦鷯修一家蔵) 72.0×171.0 公図1-1

袋には墨書「大字美保関全図 三葉」とある。道は朱筋、田は黄色、畠は茶色、山は萌黄色に描かれた彩色地図で、墓地や櫨畠、無税地、石地(瘦せ地)などの区別あるが、色調はやや薄い。地目ごとに振られた番号が一筆ごとに記載されている。右下には土地の番号と地名との関係が記してある。美保関港付近の屋敷地と思われる区画は規則的に区切られている。この地図は、江戸期の描写方法を一部に残しており、さらに凡例の区分方法や色彩からみて明治6年から8年頃に作製された「地引絵図」で、島根県知事へ提出した控え図(写し)と思われる。



「出雲国島根郡六十五区美保関絵団面」(鷦鷯修一家蔵) (全体図)

松江・善光寺に所在する伝佐々木高綱五輪塔について

岡崎雄二郎・西尾克己・稻田 信・木下 誠・樋口英行

1. はじめに

本稿は、前号掲載の「松江・善光寺に所在する来待石石塔群」⁽¹⁾の続編として、平成25年（2013）に来待石（凝灰質砂岩）製の佐々木高綱石塔（保護のための蓋、円筒形塔身、基礎）の中から発見された白粉石（白色凝灰岩）製伝佐々木高綱五輪塔について紹介するものである。

善光寺は、松江市浜乃木1丁目14-35番地に所在する時宗の寺院で、開基は佐々木高綱、創立は正治2年（1200）、中興覚阿良空上人と伝える⁽²⁾。寺伝によれば、佐々木高綱は、源頼朝没後、その守り本尊である阿弥陀如来像を夫人の北条政子より受領し（或いは盜まれて行方不明となった仏像を探し出し）、厨子と共にそれを負って全国行脚し、最終的に出雲国の乃木にたどり着いた。そして、一崎山に寺を建てて「善光寺」と称した。その後、荒隈（現在の天倫寺所在地）にあった瑞應寺が一崎山に移され、「圓成寺」と改め堀尾忠晴の菩提寺となつたため、善光寺は南方数町の現在地に移転したという。

2. 伝佐々木高綱五輪塔 発見と調査のいきさつ

平成25年2月1日、善光寺住職石倉觀氏から岡崎雄二郎へ電話があり、かねてより風化が著しくなった来待石製の佐々木高綱石塔（蓋、円筒形塔身、基礎）を、安全のために解体する判断をなされたという。残念ではあったが、寺では石塔の保存が難しいので、岡崎が解体時に立会すること、状態が良ければ移設も検討することとなつた。住職からは、石塔は丁寧に解体し、とりあえず境内の乃木大将手植の松の前に保管しておくとのことであった。

翌2月2日、石材店のクレーン車により慎重に石塔を解体・移動する作業が行なわれた。岡崎の連絡により、松江市教育委員会の錦織慶樹文化財課長、稻田信史料編纂室長、八雲立つ風土記の丘高屋茂男学芸員、岡崎雄二郎が立ち会つた（役職名等は当時）。その結果、①蓋の内面は削抜いてある。②上部と下部の塔身（円筒）は印籠蓋形式で接合されていた。下部の塔身（円筒）の上端内側が高さ、厚み共3cmの段をなしている。③塔身（円筒）の内面は荒いノミ痕が残っていた。塔身（円筒）の厚さは8cmほどである。④塔身（円筒）の内部には白粉石製の五輪塔が納められていた。⑤五輪塔には空・風輪は無かった。⑥地輪と台石の4か所の角部は塔身（円筒）の内部の大きさ（径）と合わなかつたためか、荒くノミで削り取られていた。⑦地輪と台石の間に擂鉢状の割込みがあり、そこに高さ16cm余の蔵骨器が納められていた。ということが判明し、特に五輪塔と蔵骨器の発見は予期せぬことで関係者一同驚いた。

2月7日には、岡崎、稻田で五輪塔の実測調査を行い、同月10日には岡崎、西尾、稻田、木下で梵字



図1 松江・善光寺位置図（●善光寺）

の拓本採取、五輪塔の補足調査、蔵骨器の実測・内蔵物の調査を行った。

3. 伝佐々木高綱五輪塔

火輪、水輪、地輪、台石の4石で構成されている。空・風輪はない。石材は、いわゆる白粉石である。火輪は、水輪や地輪に比べてやや小さいので別個体のものである。水輪と地輪には各面に薬研彫りの梵字が刻んである。

火輪 上端幅は上部を欠くため不明。最大幅39cm、下端幅36.5cm、現存高17cm、軒線は水平方向に長く、その幅は中央で7cm、左端で9cm、火輪の中ほどから軒に下がる稜線は直線的に下がる。残存する上面中央部が擂鉢状にノミで粗く削られている。さらに、中心部に一辺4cm、深さ5mm程度の落ち込みがある。火輪の元の姿を想像してみると、空・風輪を差し込むホゾ穴とは考え難い。

水輪 上端径27cm、最大径46cm、下端径26cm、高さ33.5cm、上部に直径21cm、深さ8cmの擂鉢状の割込み、下部にも直径22cm、深さ10cmの擂鉢状の割込みがあり、4方向に梵字（東はバ、西はバン、南はバー、北はバク）を薬研彫りで刻む。保存状態は良好である。上部が一部欠失している。但し、北面と西面の梵字は、上部が欠落し、不明瞭である。

地輪 上端幅46cm、下端幅49cm、高さ25cmを測る。上部がやや小さい。四隅がノミで粗く削り取られている。その幅は12～16.5cmを測る。下部に直径33～35cm、深さ18cmの擂鉢状の割込みがある。ノミの幅は6cmのものが認められる。各面に梵字の「ア」、「アー」、「アン」、「アク」を薬研彫りで刻む。

台石 上端幅46cm、下端幅45.5cm、高さ22cmを測る。全体にノミ痕が残る。さらに、四隅がノミで粗く削り取られている。その横幅は9～13cmである。上部に差渡し32×28cm、深さ11cmの擂鉢状の割込みがある。

基壇 2段である。上段の石は、3個の来待石が組み合わされており、内部は割抜かれ、厚みは7cmを測る。その上に直接五輪塔と円筒を載せている。石①の横幅は102cm、奥行き52cm、石②の横幅は51cm、奥行き49.5cm、石③の横幅は51cm、奥行き49.5cm、高さはいずれも34cmを測る。（佐々木高綱石塔の基礎と同一）

4. 伝佐々木高綱五輪塔に納められた蔵骨器について

蔵骨器は陶製の小壺で、蓋をもつ。

蓋 直径12.5cm、身受け部の直径9.4cm、器高2.1cmを測る。素地は明橙色の土。上部は平坦で6.6cmから6.8cm間隔のハリが3か所認められる。外面全体と内面の4分の1に赤紫色の来待釉（きまちゆう）がかかる。身受け部には2か所に傷がある。

また、口縁端部に紙片の一部が付着している。紙片は蓋と身の間にさんであつたと思われ、折りたたんだ紙の大半が丸くなり、身の内部に落ちていた。

身 口縁径11.6cm、頸部径11.0cm、胴部最大径は15.6cm、底径8.6cm、高さ16.3cmを測る。素地は黄褐色の土。口縁部は厚み8mmで、やや外傾する。口縁上部に紙片の断片を残す。胴部は厚み6mmで、内面はロクロ痕が認められる。外面はヘラ削り痕を残し、底部付近まで飴釉（あめゆう）（飴薬）を掛ける。上部に、幅3mmの浅い沈線を6、7mmの間隔をおいて3本ひく。底部内面は9mm上がる、いわゆる碁笥底である。ひび割れが生じたのか、黒漆で幅1cmほど塞いでいる。

内部には、口縁から7.5cm下方に、それぞれ折りたたんだ2枚の大小の紙片が重ねてある。上の紙は蓋と身の間に挟んでいたと思われる。下の紙は、壺内面のほぼ全面にわたり被せてある。紙の下は、長さ6cm以上、直径1～3mmの細い植物の茎が厚さ1.5cmほど詰めてある。その下は、小さな骨片と灰褐色の土壤である。骨片は、長さ5mm前後のものが大半で、最大2.1×1.5cmほどの頭骨と思われる破片

もあった。骨の遺存状況からすると火葬骨片と思われる。

考察 蓋と身は、素地や釉が違うので、別個体である。時期は19世紀代のものと考えられるが、蓋は身に比べ新しい段階のものであろう。形態や釉よりみて、松江市玉湯町内で生産され、日常雑器として出雲地方に広く流通していた布志名焼ふじなの小壺を転用したものと思われる。類似の小壺が布志名焼窯跡群の発掘調査で出土している。⁽³⁾

5. まとめ

(1) 五輪塔について

五輪塔の石材には、全て白粉石（白色凝灰岩）が使われている。また、薬研彫りの梵字も鋭く表現されており、少なくとも水輪は中世・鎌倉時代後期から室町時代前期頃までの間に製作されたと考えられる。

空風輪 空風輪は現存しない。なお、横山正克著『尼子氏一門のルーツ』掲載の写真には宝篋印塔の相輪が写る⁽⁴⁾。

火輪 火輪は水輪や地輪と比較すると一回り小さく大きさが合わないので、別個体のものであろう。後世、空風輪と共に火輪も失われたため、別個体の火輪を他所から搬入し、替えたのではないかと考えられる。

水輪 各面に薬研彫りの梵字が刻まれ、各面の梵字体に則っているので、当初のものかもしれない。

地輪 梵字の大きさ、字体から見て水輪と一体のものではないかと思われたが、各面の字体はいずれも同じようであり、また、高さも横幅に比べ低く、正当性が感じられない。当初のものであったかは疑問が残る。

台石 上面の割り込みに蔵骨器が置かれ、上に置く地輪の下面にも大きな割り込みがある。本来、水輪の上部の割り込みに火葬骨が直接納められていたものが、江戸時代末～明治時代前期に地輪を蓋とし、台石を身にするいわば石櫃のような形状の中に、布志名焼容器を用いて火葬骨を納め直したのではないだろうか。

(2) 蔵骨器について

蔵骨器も、本来の壺から江戸時代末～明治時代前期に製作された小壺に替えられ、火葬骨も移し替えられたものと考えられる。また、蓋も身に比べ新しいものであり、時期差があり、一体のものではない。

(3) 五輪塔の変遷

以上述べてきたように、五輪塔と蔵骨器、そして観察した結果、全体的に相当改変されたことが伺える。何故、このような収納状況の変遷をたどってきたのか事由は明らかではない。墓塔の保護を目的に行なったことが、逆に五輪塔の一部を傷つけることになっている。以下、五輪塔の変遷を推測をまじえて5期に区分し、考察を加えた。

第1期 一崎山（現圓成寺の境内、或いは背後の山林）善光寺境内にあったか。殆ど風化していないので、覆い屋内に安置されていた可能性もある。

第2期 圓成寺移築のため、善光寺が現在の浜乃木地区に移される。高綱墓も同時に移されたか。この頃、空風輪の代わりに宝篋印塔の相輪が、火輪の代わりにやや小さい白粉石製の火輪が据えられたか。殆ど風化していないので、覆い屋に安置されていた可能性もある。

第3期 江戸時代、元禄年間（1688～1704年）に、其阿上人が石塔保護のため、来待石製の円筒で覆い保護する⁽⁵⁾。この時、五輪塔の地輪が大きくて円筒に入りきらうことにより、地輪と台石の

角を削って納めたか。

第4期 江戸時代末～明治時代前半頃、火葬骨（？）が布志名焼の蔵骨器に納められたか。

第5期 何らかの法要などの際、円筒がはずされ、内部の石塔が運び出され、写真撮影された⁽⁶⁾。乃木大将墓参の時か。

保存の経緯などに未だ解明すべき点が多いが、出雲地方における中世前期の石塔の新たな調査例を明らかにしたことは石造物研究にとって大変意義深いものがある。今後は、出雲地方における中世の石塔を集成し、比較検討を行うなど基礎的な調査・研究の進展が望まれる。

なお、善光寺では新しく花崗岩製の五輪塔を設けられ、中に本稿で紹介した伝佐々木高綱五輪塔を納め保存されるとともに、佐々木高綱石塔（保護のための蓋、円筒形塔身、基礎）の一部を門の北側で保存されることとなった。

注

- (1) 岡崎雄二郎・西尾克己・稻田信・高屋茂男2019「松江・善光寺に所在する来待石石塔群」『松江市歴史叢書12(市史研究10)』松江市
- (2) 『島根縣史』5 島根県1927、奥原福市編集『八束郡誌』本篇1926、乃木公民館『乃木郷土誌』1991など。寺地については、『島根縣史』に、「今の忌部村一崎にありしが後ち今の圓成寺の邊に移したり、堀尾忠晴圓成寺を建つるに當り更に又今地に移せり」とある。
- (3) 平成8年9月、一般国道9号松江道路の内、玉湯町布志名の建設工事現場で「布志名焼窯跡群」の一部が不時発見され、同年9、10月に島根県教育委員会が緊急調査を行なった。類似の小壺は、同窯跡群のI区1号窯跡の西作業場から出土したものである。下記の報告書によれば、明治20～30年代にかけての本船木家（良右衛門）の登り窯と考えられている。『小久白墳墓群～サエ（サイ）ノカミ信仰遺跡の調査報告～』1999年3月、建設省松江国道工事事務所、島根県教育委員会所収の「付録 布志名焼窯跡群」参照
- (4) 横山正克1985『尼子一門のルーツ』立花書院、31頁の掲載写真による。写真には、今回紹介した伝佐々木高綱五輪塔と、笠の上には宝篋印塔相輪が載せられ、石塔の背景に四ツ目結の幕が写るが、撮影の時期やいきさつ、写真原本の所在など、詳細は不明である。
- (5) 注(1)と同じ
- (6) 注(4)と同じ

謝辞 伝佐々木高綱五輪塔の調査と保存にあたりましては、善光寺住職石倉觀氏に多大なるご協力とご配慮をいただきました。心より感謝申し上げます。

（おかざき ゆうじろう 松江石造物研究会代表）

（にしお かつみ 松江市史編集委員会松江城部会長）

（いなた まこと 松江市歴史まちづくり部次長）

（きのした まこと 松江歴史館学芸係長）

（ひぐち ひでゆき 高梁市教育委員会文化財保護主事）

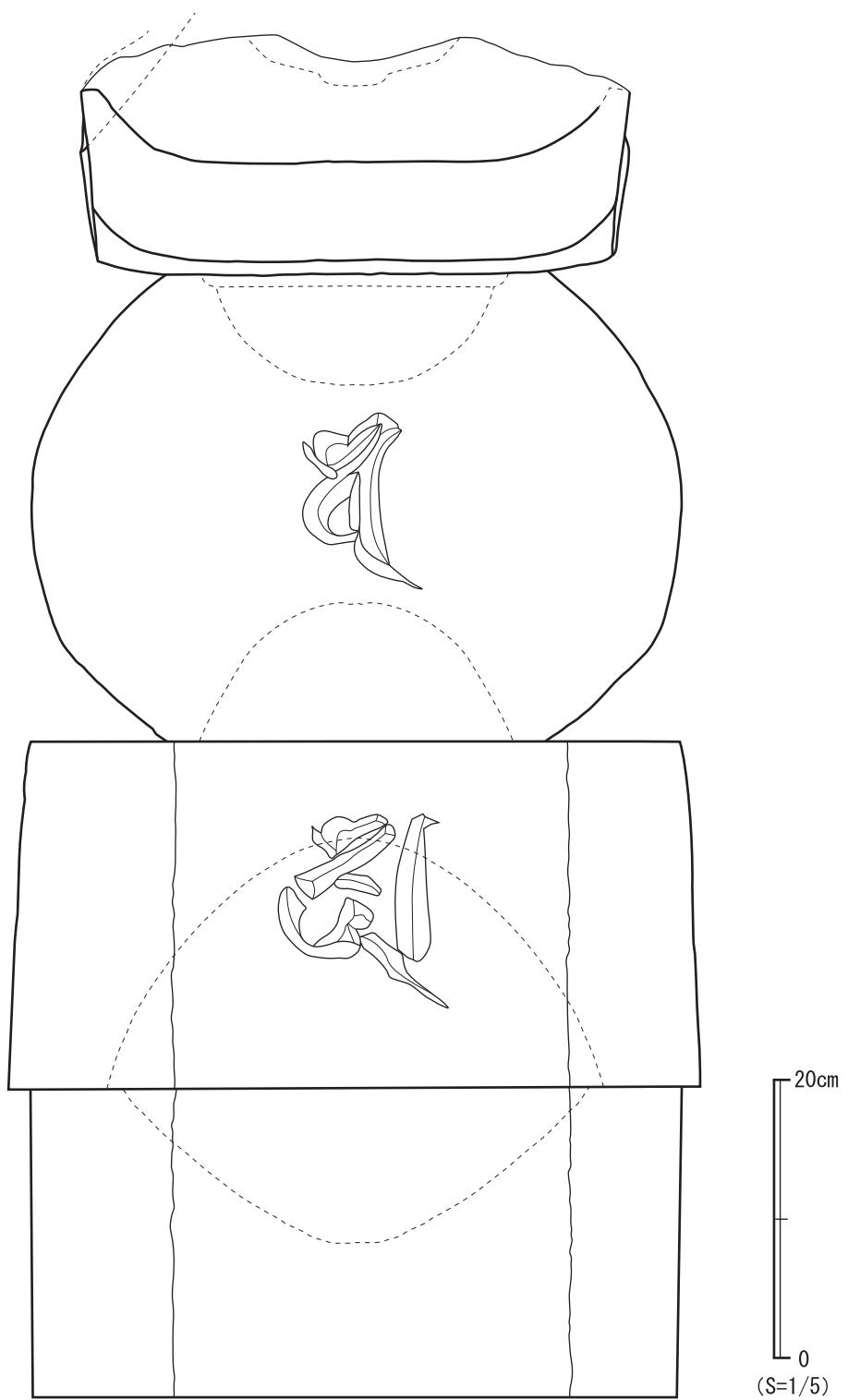


図2 伝佐々木高綱五輪塔実測図（西面）

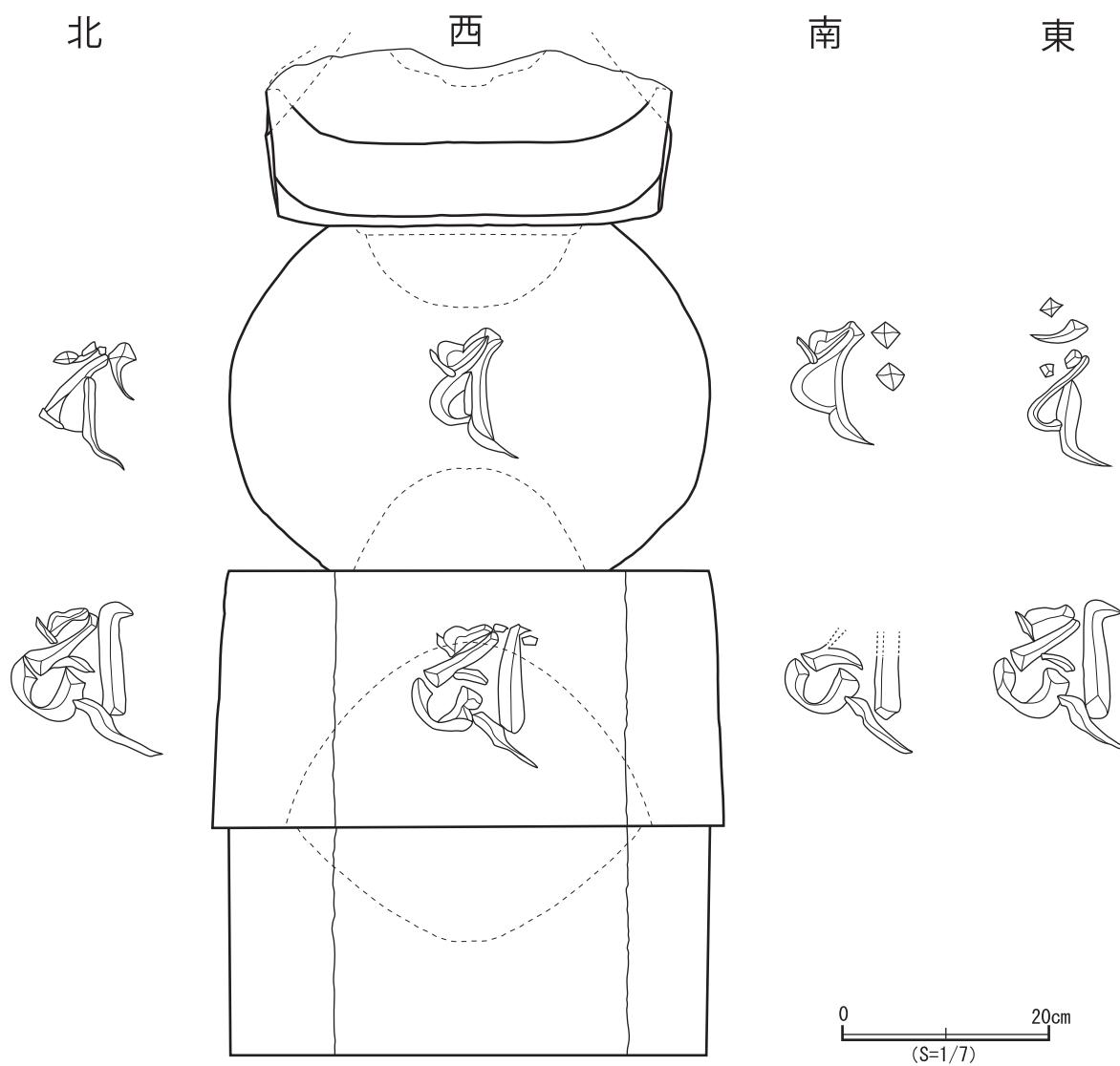
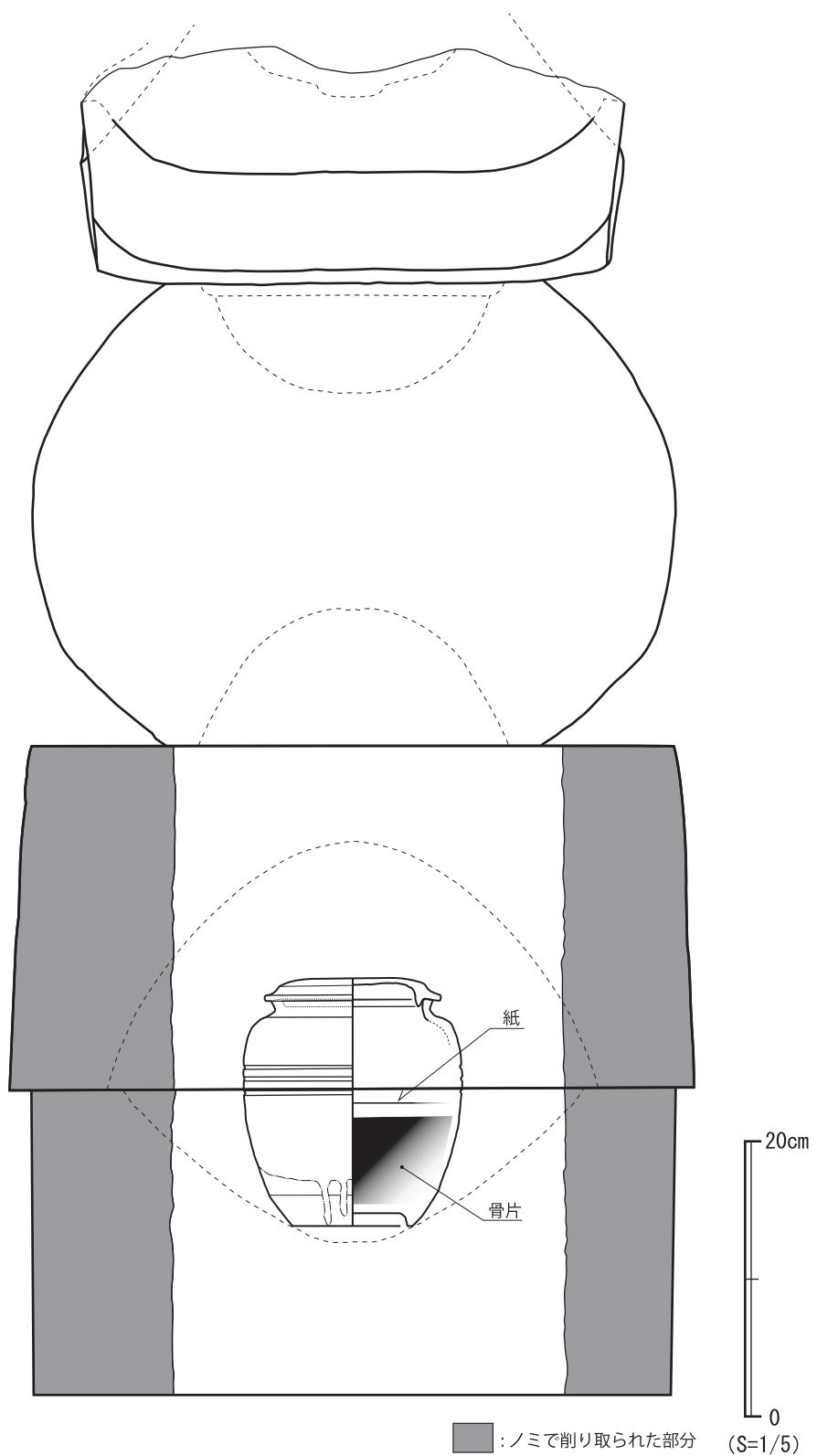


図3 伝佐々木高綱五輪塔配置図

石塔の梵字

	北	西（実測面）	南	東（実測面裏）
水輪	バー	バ	バク	バン
地輪	ア	ア	(ア)	ア



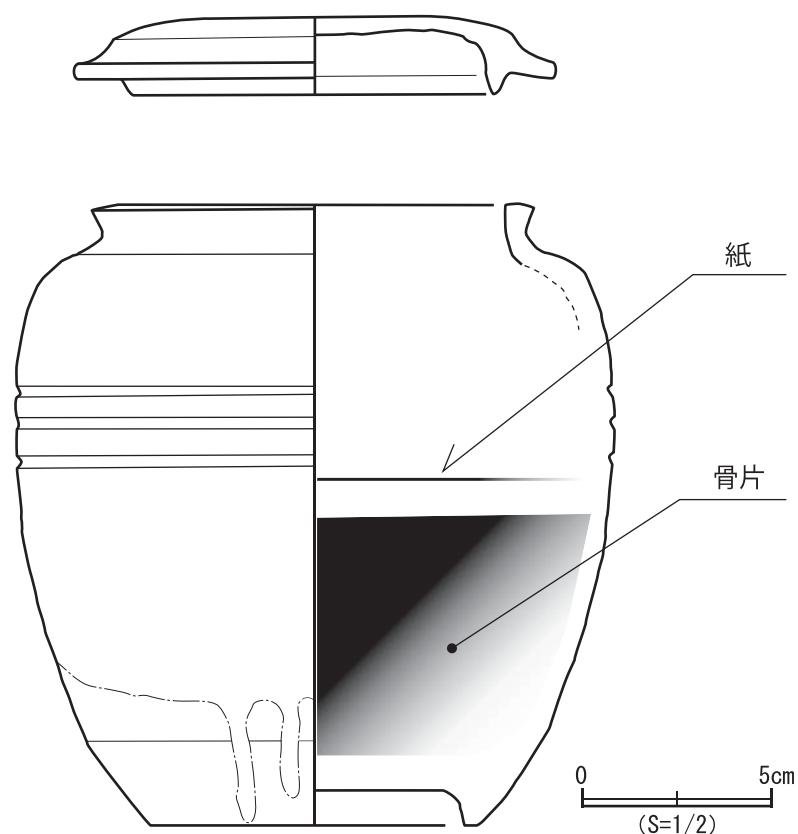


図5 陶製小壺（布志名焼、藏骨器）実測図



① 右：伝佐々木高綱石塔(蓋、円筒形塔身、基礎)
左：乃木希典遺髪塔



② 伝佐々木高綱石塔



③ 伝佐々木高綱石塔の蓋石をとる



④ 姿を現わした火輪



⑤ 伝佐々木高綱石塔の円筒部をはずす



⑥ 火輪の下に水輪があった



⑦ 水輪を注意深くはずす



⑧ 地輪が姿を現わす



⑨ 円筒部をはずす



⑩ 地輪とその下の台石との間の割込みに
蔵骨器が置かれていた



⑪ 台石と蔵骨器



⑫ 台石の下の基壇石



⑬ 五輪塔 正面（西面）



⑭ 五輪塔 向かって右（南面）



⑮ 五輪塔 向かって左（北面）



⑯ 五輪塔 裏面（東面）



⑯ 陶製小壺（藏骨器）



⑰ 蓋の内面



⑱ 本体（身）を上から見る



⑲ 紙 片



⑳ 紙片を取り除くと植物の茎と骨片が見えた



㉑ 植物の茎と骨片

松江市文書館（仮称）の検討と整備構想

史料編纂課

1. 「松江市文書館（仮称）整備構想」の策定

平成31年3月28日、松江市文書館（仮称）検討委員会井上寛司委員長より松浦正敬松江市長へ「松江市文書館（仮称）整備構想」が答申された。松江市はこの答申書を同日付で行政計画（構想）として策定し、文書館整備への想いは現実的な構想として行政スケジュールの俎上に乗った。

整備構想は、1. 整備構想策定の趣旨、2. 整備構想の位置付け、3. 松江市文書館（仮称）の基本理念、4. 松江市の公文書管理体制の見直し、5. 松江市文書館（仮称）の施設と運営、6. 松江市文書館（仮称）整備の推進にあたって、からなる。

「1. 整備構想策定の趣旨」では、松江市役所の公文書の保存と管理体制の見直し、松江市域の歴史史料（古文書等）の調査・保存と活用、文書館整備の必要性と整備構想について記す。「2. 整備構想の位置付け」では、この整備構想を「共創・協働のまちづくり」を基本姿勢とし、公文書の管理に関する法律等の趣旨を踏まえ、松江市総合計画（2017－2021）に資するものと位置付ける。「3. 松江市文書館（仮称）の基本理念」では、松江市での文書館の役割、松江市文書館（仮称）の基本目標、松江市文書館（仮称）の基本機能を示し、松江市が目指す文書館の基本的な姿勢を示す。「4. 松江市の公文書管理体制の見直し」では、文書館における歴史公文書の保存・利用を円滑に行うために、現在の松江市公文書管理体制の見直し（目指すべき方向）を列記する。「5. 松江市文書館（仮称）の施設と運営」では、施設のあり方、施設の規模、設置場所、施設構成、管理運営体制などに踏み込む。「6. 松江市文書館（仮称）整備の推進にあたって」では、関連計画の策定と例規等の整備、市史編纂事業の終了時期を念頭に置いた文書館整備（体制整備）などに言及する。

2. 整備構想策定に至る経緯

（1）松江市史編纂委員会、編集委員会、部会長会議での議論

松江市史編纂事業では、事業が始まる前から市史の印刷出版のみを目的とするのではなく、市民と進める文化運動（事業後には地域に歴史を見る眼が備わっていることなど）や、松江に関する歴史史料の徹底的な調査・保存に取り組む指向性を持っていた。専門家だけでは対応できない膨大な近世、近現代文書類の調査については、史料編纂室（課）の専門調査員の雇用要件として地域の歴史史料の解析能力（古文書解読、歴史の知識など）を求めることで対応した。事業事務を担う史料編纂室（H20史料編纂係→H21史料編纂室→H28史料編纂課）の組織名称が「市史編纂室」ではないことも、市史編纂事業後も史料調査や歴史編纂が継続して取り組めるよう考えられていた。地域の歴史を明らかにしようとする松江市史編纂事業は、当初から「松江市史編纂基本計画」に記された10年計画の松江市史編纂事業と、事業期間のみでは終わらない継続性も念頭に置く事業だったのである。

松江市史編纂事業の終了後についての議論は、4つの部会（原始・古代史、中世史、絵図・地図、民俗）が市史の出版を終え、全18巻の半数が出版される平成26、27年頃から始まった。事業もおおむね峠を越えて終結が見通せるようになり、井上委員長を始め部会長の大半に市史編纂事業後に思いを致す余裕が出た頃であった。部会長会議では「松江市史編纂事業後について」が議題となり、平成26年度松江市史編纂委員会（H26. 10. 9開催）では井上編集委員長より「松江市史編纂事業基本計画の実施状況と今後の課題」が報告された。報告中に、「[5. これらの諸活動を支える人的保障と組織的な体制整

備】 市史編纂事業終了後は、諸課題をすべて松江歴史館に集中・統合し、担わせる方向（市史編纂事業と松江歴史館との組織的・機能的統合）も考えられ、従来は漠然とそのように考えられてきた。しかし、それとは異なるいま一つの方向も考えられるのであって、今後の松江市にとって後者の方がより有効で、意義のあるものと評価できよう。〔根拠〕 1) 市史編纂事業が担ってきた、そして市史刊行終了後も引き続き継承・発展させることが必要な、展示を主要な任務とする松江歴史館では十分にカバーできないもの。無理にこれを統合しようとすれば、松江歴史館そのものの機能低下と衰退を招くことにもなりかねない。 2) むしろ松江歴史館や文化財課と並ぶ別の組織として立ち上げ、機能させることにより、これら3者が相乗効果的に機能を拡大し、安定的に発展していくことも可能となる。 3) 島根県内では未だ設置されていない文書館なども含め、「歴史を活かした町づくり」行政の全般にわたる、将来を見通した検討も今後の重要な課題であり、その有機的な一環を構成する問題として、改めて慎重な検討を進めていく必要があるといえよう。」とあり、問題提起がなされた。

ここに文書館の整備構想につながる嚆矢がある。この問題提起に対し、平成27年5月31日開催の松江市史編集委員会において松江市歴史まちづくり部として、「松江市の組織機構にかかわることなどのお約束はできないが、歴史館の展示機能とは別に「史料の収集と調査・研究・啓発・情報発信」の機能は継続して持ち続ける必要があると、歴史まちづくり部として認識しているので、島根県や先進的な市町村の取り組みを参考としつつ、組織機構の中での体制の整備を働きかけていきたい。」と回答し（歴史まちづくり部長より）、行政側でも博物館である松江歴史館とは別に史料の収集と調査・研究・啓発・情報発信機能を継承する考えを検討し始めていた。

平成28、29年頃になると、行政内で検討され始めた現用公文書関連の議論に対応し、部会長会議でも、「松江市史編纂事業後について」の意見交換が続いた。平成29年度松江市史編纂委員会（H29. 5. 21開催）では、井上編集委員長より「『松江市史』編纂事業の今後の課題」が報告され、その中で、「[1. 収集された史料の保存・公開・活用。〔課題1〕 → 公文書館の建設] 1) 市史編纂事業の過程を通じて、松江市民を始めとする多くの皆さまのご協力を得て、膨大な数の史料の存在を確認し、写真撮影を行うとともに、その内的一部は史料編などの形で翻刻し、公開してきた。 2) 今後は、これらの史料が散逸することのないよう、適切な形での保存に努めるとともに、同じくそれらを適切な形で広く公開・活用できるよう、条件を整える必要がある。 3) このうち、保存に関しては、編纂課や松江歴史館に寄贈・寄託された以外に、なお3つの大きな文書群が存在することに注意しておく必要がある。（a. 史料調査の終了後いったん所蔵者のもとに返却したが、公的機関で保存するのが望ましい、もしくは所蔵者自身が強くそれを望んでいるもの。 b. 各地の公民館などで保管されている区有文書や旧役場文書など、然るべき正規の公的機関で保存するのが望ましいと考えられるもの。 c. 市役所や学校などの各種公的機関で保管され、すでに文書発給から30年以上が過ぎるなど、然るべき別の公的機関に場所を移して保存を図るべきもの。） 4) これらの膨大で多様な文書群を的確に整理し、保存・公開・活用を図っていくためには、それに相応しい独自の公的機関として松江市独自の文書館を立ち上げることが不可欠と考えられる。 5) 上記の内、すでに一定の調査が終了しているa・bと異なり、cに関しては保存か廃棄かの選別から作業を始めなければならず、またその検討対象となる公文書の量が膨大であるところから、それらを一時的に保管し、選別作業を行うための場所を別途確保することが必要となる。」とある。平成31年3月に策定される「松江市文書館（仮称）整備構想」の土台となる議論が、平成28、29年頃には、専門家代表からなる部会長会議だけではなく、歴史まちづくり部長、次長ら市幹部も参加する松江市史編纂委員会、編集委員会の場でも行われていた。

(2) 市行政内の議論

松江市の公文書を所管する総務部総務課から、公文書の管理について史料編纂室に相談があったのは平成27年7月のことだった。平成合併から10年が経過し、合併前の旧町村役場文書について現在の支所職員では内容が分からず、保存年限を過ぎても廃棄できず困っている、市史編纂を通して歴史的な公文書の取り扱いに慣れた史料編纂室で保存文書と廃棄文書を評価・選別してもらいたい、というものだった。他方、合併前後に保存すべき旧役場文書がいつの間にか廃棄されたという噂も仄聞していたので、保存措置の一環として、約半年余り歴史公文書の観点から編纂室の3名（稻田・小山・内田）が目録により交互に評価・選別し対応することとなった。ある支所に出向いた折に、「こんな文書も残すのか」とお叱りを受けたこともあったが、文書保存に一定の役割を果たし、旧町村役場文書の保存実態を俯瞰するよい機会であった。何より、史料編纂室（課）3名が市の歴史公文書の評価・選別を経験したことで、松江市での公文書管理の現状・課題なども理解でき始め、市史編纂事業を経験した職員は地域の歴史史料だけではなく経験を積めば歴史公文書管理にも携われるという意識へとつながった。この頃になると、編纂事業後をにらみ、井上編集委員長からも公文書館等を設けた先進地事例の情報収集と職員のスキルアップについて度々指摘を受けはじめていた。（平成28年6月24日には2名〔和田、高橋〕が鳥取県立公文書館を視察）

平成29年3月には、公文書館・文書管理について市行政幹部（副市長、総務部長、同部次長、歴史まちづくり部長、同部次長他）と市史編集委員会代表（井上編集委員長、竹永近現代史部会長）で意見交換の場が設けられ、地域の歴史史料や歴史公文書の保存管理の重要性と、先進地事例の情報収集の必要性について確認しあっている。同時に平成29年度は、市史編集委員会や編纂委員会でも前述のように「編纂事業後で収集された史料の保存・公開・活用→公文書館の建設」が議題となり、史料編纂課では視察などを通じて先進地事例の情報収集に一層努めるようになった。（平成30年2月6、7日には2名〔小山、村角〕が山口県文書館・山口市史編さん室を視察、同年2月7、8日には1名〔稻田〕が松本市文書館を視察）

平成30年度には、総務部と歴史まちづくり部で頻繁に部長クラスの協議が行われ、現用公文書の実情把握と「松江市文書館（仮称）検討委員会」開催に向けて準備が進んだ。また、史料編纂課からは文書館でのアーキビスト養成のために小山副主任が国立公文書館研修（アーカイブズ研修Ⅰ）に参加している。

一方で、史料編纂室（課）では市史編纂事業に合わせて地域の歴史史料（古文書等）を調査・整理し、所有者から寄託、寄贈の希望があれば、平成23年に開館した松江歴史館の収蔵庫で保管する手続きを取っていたが、平成28年頃より松江歴史館での受け入れが収蔵スペース等の関係で滞り始め、史料編纂課の調査に伴う古文書等の寄贈、寄託に即応できない状況が生じていた。松江市歴史まちづくり部としても、文書の調査、整理、保存については松江歴史館と並ぶ別の組織として文書館を立ち上げ、機能させる必要が生じていた。

(3) 松江市議会での議論

折しも、いわゆる「森友学園問題」に関連して国の公文書管理の在り方が問われるような出来事も生じたことで、松江市議会でも松江市の公文書管理について関心が高まっていた。平成30年9月11日には市議会で公文書館についての質問（吉儀敬子議員）があり、総務部長より公文書館の整備構想を今年度中に策定したい等の答弁を行っている。翌平成31年3月1日には同市議会で再び公文書館についての質問（三島伸夫議員）があり、総務部長より、平成31年度中に公文書管理条例を作成したい旨等の答弁を行っている。

(4) 松江市文書館（仮称）検討委員会の開催

①松江市史編纂委員会・編集委員会・部会長会議での議論、②市行政内での議論、③松江市議会での議論が織り成すように進む中、第1回松江市文書館（仮称）検討委員会が開催されたのは、平成30年10月19日である。議題は、1) 松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状、2) 公文書管理と文書館のイメージ、3) 文書管理改善スケジュール（案）、4) 意見交換、である。第2回検討委員会は、同年12月20日、議題は、1) 研修会「鳥取県立公文書館の取り組み」、2) 第1回の論点整理と新庁舎建設設計画について、3) 「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議、である。第3回検討委員会は、平成31年2月4日、議題は、「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議で、この審議で検討委員会の答申内容が決定した。平成31年3月28日、松江市文書館（仮称）検討委員会井上寛司委員長より松浦正敬松江市長へ整備構想が答申され、松江市は同日付で行政計画（構想）として策定した。

(文責：稻田信、小山祥子)

（松江市文書館（仮称）検討委員会の議事録と配布資料は松江市ホームページに掲載しており、詳細はそちらをご覧ください。<http://www1.city.matsue.shimane.jp/bunka/matsueshishi/>）

松江市文書館（仮称）整備構想策定に至るあゆみ（H27～H30年度）

期日	内 容	備 考
平成27年		
7月29日	公文書の管理にかかる協議始まる（総務課、史料編纂室）	松江市公文書の管理について（特に保存年限を過ぎた支所管公文書の評価・選別）
8月24日	公文書の管理にかかる事例確認会（総務課、史料編纂室）	島根県公文書センターの事例
平成28年		
3月24日	松江市公文書にかかる協議（総務課、史料編纂室）	支所管文書を中心とする松江市公文書の管理について
6月24日	鳥取県立公文書館へ視察	公文書管理について先進事例視察（和田、高橋）
7月7日	松江市の公文書管理にかかる協議（総務課、史料編纂室）	総務課より、松江市でも「公文書等の管理に関する法律」に倣いたく、歴史公文書の選別と保管管理、活用等は史料編纂課に協力依頼できるか打診
12月26日	地域の歴史史料（古文書等）の収集・保管について歴史まちづくり部内協議	松江歴史館での受け入れが滞り、史料編纂課の調査に伴う古文書等の寄贈、寄託に対応できない状況が生じたため
平成29年		
1月4日	地域の歴史史料（古文書等）の収集・保管について	史料編纂課の調査に伴う地域の歴史史料（古文書等）の寄贈申し出に対し、史料編纂課でも独自に受け入れを始める（保管場所宍道蔵古館）
3月16日	松江市史部会長会議	〔議題〕進捗状況と松江市史編集委員会等について
3月22日	公文書館・文書管理に関する意見交換会（松江市、松江市史編集委員会）	井上編集委員長、竹永部会長、吉山副市長、三島総務部長、黒田総務次長、藤原歴史まちづくり部長、花形歴史館事務局長、稻田課長
5月21日	平成29年度松江市史編集委員会	〔議題〕⑤ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
10月10日	平成29年度松江市史編纂委員会	〔議題〕④ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
平成30年		
2月6・7日	山口県文書館・山口市史編さん室へ視察	公文書管理について先進事例視察（小山、村角）
2月7・8日	松本市文書館へ視察	公文書管理について先進事例視察（稻田）
3月8日	松江市史部会長会議	〔議題〕⑤ 公文書館について
4月20日	歴史まちづくり部内協議	公文書と地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存・管理、文書館について
4月26日	歴史まちづくり部内協議	公文書と地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存・管理、文書館について
4月27日	総務課、史料編纂課協議	公文書と地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存・管理、文書館について
5月10日	総務部、歴史まちづくり部両部長協議	公文書と地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存・管理、文書館について
5月14日	松江市史部会長会議	〔議題〕④ 文書館について

6月3日	平成30年度松江市史編集委員会	〔議題〕⑤ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
6月8日	総務部、財政部、歴史まちづくり部各次長協議	公文書と地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存・管理、文書館について
6月11日	両副市長協議（総務部長、歴史まちづくり部長）	公文書と地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存・管理、文書館について
6月21日	市長協議（総務部長、歴史まちづくり部長）	公文書と地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存・管理、文書館について
6月21日	歴史まちづくり部長協議	松江市文書館検討委員会設置についての協議
6月29日	総務部、歴史まちづくり部両次長協議	松江市文書館検討委員会設置についての協議
7月18日	総務課、史料編纂課協議	（総務部）文書管理改善スケジュール （歴まち部）公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状、専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け、アーキビストの職務と遂行要件、松江市文書館検討委員会設置準備について
8月8日	総務部、歴史まちづくり部両次長協議	（総務部）文書管理改善スケジュール （歴まち部）公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状、専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け、アーキビストの職務と遂行要件、松江市文書館検討委員会設置準備について
8月24日	総務部、歴史まちづくり部両部長協議	（総務部）文書管理改善スケジュール （歴まち部）スケジュール表、公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状、専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け、アーキビストの職務と遂行要件、松江市文書館検討委員会設置準備について
8月27～31日	国立公文書館研修（アーカイブズ研修Ⅰ）	小山副主任受講
9月4日	総務課、史料編纂課協議	文書管理改善スケジュールについて
9月11日	松江市議会で公文書館についての質問（吉儀敬子議員）	総務部長より公文書館の整備構想を今年度中に策定したい等答弁
9月12日	新聞記事掲載「松江市 公文書館新設へ 管理適正化 年度内に整備構想」	山陰中央新報
9月18日	総務課、史料編纂課協議	文書管理改善スケジュール、第1回文書館検討委員会資料について
9月20日	総務部、歴史まちづくり部両部長協議	文書管理改善スケジュール、第1回文書館検討委員会資料について
10月19日	第1回松江市文書館（仮称）検討委員会	〔議題〕① 松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状 ② 公文書管理と文書館のイメージ ③ 文書管理改善スケジュール（案） ④ 意見交換
10月28日	新聞記事掲載「松江市新設方針の文書館 規模や基準など検討へ」	山陰中央新報
11月12日	平成30年度松江市史編纂委員会	〔議題〕④ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題について
11月26日	鳥取県立公文書館へ視察	公文書管理について先進事例視察（総務部総務課、史料編纂課職員）
12月20日	第2回松江市文書館（仮称）検討委員会	〔議題〕① 研修会「鳥取県立公文書館の取り組み」（鳥取県立公文書館県央編さん室 西村芳将課長補佐） ② 第1回の論点整理と新庁舎建設計画について ③ 「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議
平成31年		
2月4日	第3回松江市文書館（仮称）検討委員会	〔議題〕「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議、答申案決定
3月1日	松江市議会で公文書館についての質問（三島伸夫議員）	総務部長より、平成31年度中の公文書管理条例作成等答弁
3月28日	松江市文書館（仮称）整備構想答申	松江市文書館（仮称）検討委員会井上寛司委員長より松浦正敬松江市長へ答申
4月3日	新聞記事掲載「松江市の文書館整備構想 「利便性よい場所に」検討委答申」	山陰中央新報
5月18日	令和元年度松江市史編集委員会	〔議題〕④ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
8月26日～30日	国立公文書館研修（アーカイブズ研修Ⅰ）	村角専門調査員受講
1月15日～17日	国立公文書館研修（アーカイブズ研修Ⅱ）	小山副主任受講

松江市文書館（仮称）整備構想

平成31年3月
松江市

1. 整備構想策定の趣旨

（1）公文書の保存と管理体制の見直し

松江市は、「松江市情報公開条例」（平成17年3月31日制定）に基づき、市が保有する公文書の公開の推進を図るとともに、平成29年3月策定の「松江市総合計画（2017－2021）」において「共創・協働のまちづくり」を基本姿勢とし、市民と行政が情報を共有し、協働してまちづくりを進めていくことを目指しています。また、情報公開と情報共有の基盤となる公文書の取り扱いについては、「松江市文書取扱規程」（平成17年3月31日制定）において作成から廃棄・保存までの管理ルールを定めるとともに、平成の合併に際し旧市町村から引き継いだ公文書は、本庁舎・文書庫・各支所等において保存しています。

このような中、国の機関における公文書の保存・利用が十分機能するように、「公文書等の管理に関する法律」（平成21年7月1日公布。以下「公文書管理法」という。）が制定されました。この法律では、地方公共団体も歴史公文書等の保存・利用及び保有する文書の適切な管理に関して必要な施策を策定し、実施するように努めなければならないと規定されました。公文書の中には、自治体のあゆみを示す歴史的な価値が高い史料も含まれており、保存期間を経過した公文書を評価・選別した上で歴史公文書として保存し、利用に供して自治体の政治・政策を検証できる体制を整えることは、過去に学び将来に備えるという、社会的な要請に合致するものといえます。

松江市では文書庫や執務室などに、目録上約26万冊の公文書が保管されていますが、文書管理のガバナンス（統治、組織の取り仕切り）が高いとは言えず、公文書の発生から歴史公文書の保存に至る、「公文書のライフサイクル」を見通した公文書管理体制全体の見直しと、効率的な運営が求められています。（【付属資料1】「松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状」参照）

（2）地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存と活用

一方、「松江市総合計画（2017－2021）」では、基本施策の一つとして「自然環境・歴史・文化を生かしたまちづくりの推進」を示しており、「本市の歴史や文化に関する資料が次第に明らかになっていますが、今後も調査研究を進めるとともに、市民などが松江市の歴史・文化を学ぶ機会を増やし、郷土理解を深められる取り組みが必要です」と記しています。松江市では、地域の歴史を明らかにするために、松江市史編纂事業などを通じて、古文書等の地域に残る歴史史料の調査・保存・活用を行い、各種刊行物の発刊、市民向けの講座などを開催し、情報を発信してきました。松江市には常に松江市民の歴史史料（古文書等）を守り伝え、市民のための歴史編纂を積み重ねてきた蓄積があり、今後も地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存と活用について、継続的に取り組んでいくことが必要です。

（3）文書館整備の必要性と整備構想

「公文書管理法」によれば、国等の諸活動の記録である公文書等は、国民共有の知的資源として国民が主体的に利用できるように、適正な管理・保存・活用を図り、現在及び将来の国民に対し説明する責務が全うされるものとされています。松江市では、「公文書のライフサイクル」を見通した公文書管理体制全体の見直しを進めるとともに、「公文書管理法」の趣旨に沿って選別された歴史公文書と、地域に所在する歴史史料（古文書等）を一体的に保存・活用する「文書館」を整備することが必要であると

判断し、「松江市文書館（仮称）整備構想」を策定します。

2. 整備構想の位置付け

この整備構想は、「共創・協働のまちづくり」を基本姿勢とし、「公文書管理法」、「公文書館法」（昭和62年12月15日公布）等の趣旨を踏まえ、「松江市総合計画（2017－2021）」に示された「時代に適応した効率的な行財政の運営」、「自然環境・歴史・文化を生かしたまちづくりの推進」に資するものとします。

3. 松江市文書館（仮称）の基本理念

（1）松江市での文書館の役割

松江市でも、様々な公文書が日々作成・蓄積されています。公文書には、①市政について市民への説明責任を果たす、②市職員が法令などに基づく事業事務や様々な問題解決の履歴を残すことで、将来の行政運営に備える、③市民だれもが自らの地域の営みを検証できる、というような社会的な役割があります。

公文書は、市民共有の知的資源として継続的に後世に残し、市民だれもが公平公正に利用できるようになる必要があり、そのためには体系的に選別・保存し、市民への説明責任を果たしていく「場」としての「文書館」が必要になります。

また、市民が自らの手で地域の歴史を紐解き、先人たちの蓄積から地域の独自性や自立性を学び、新たな自治の形を作り上げていく、そのために地域の歴史史料（古文書等）や市政情報、政策形成の基本的なデータを提供する施設としての文書館が求められています。

松江市文書館（仮称）は、「歴史公文書」と「地域の歴史史料（古文書等）」を同等に扱うことで、現在はもとより、将来の市民に対しても市がその説明責任を果たしていくための役割を担う施設です。

（2）松江市文書館（仮称）の基本目標

ア) 歴史公文書の保存・活用による行政情報の共有と説明責任の実現

松江市の歴史公文書を適切に保存・管理し、公開することで、行政情報を共有し、市民と行政の新たな協働・信頼関係を築くとともに、行政運営の透明性を担保し、現在及び将来の市民に対する市政の検証と説明責任を果たします。

イ) 地域の歴史・文化遺産の継承と地域文化の発展への寄与

地域の歴史・文化遺産を未来に伝えるために、散逸の恐れのある地域の歴史史料（古文書等）の保存に努めるとともに、歴史史料の保存の意義を普及・啓発し、資料所蔵者や保存活動に取り組む市民を支援します。これらの活動を通じて、個性豊かな地域文化の継承と発展に寄与します。

ウ) 調査研究に基づいた歴史情報の発信と市民支援体制の構築

未来の松江市のあるべき姿と指針を見出すため、専門性に裏付けられた確かな調査研究に基づいて、地域の歴史・文化に関する情報を公開・発信するとともに、市民や行政組織等からの照会に対して適切な情報提供を行い、その調査活動を支援します。

（3）松江市文書館（仮称）の基本機能

ア) 歴史公文書と地域の歴史史料（古文書等）の収集・整理・保存

文書館における史料保存の原則は、歴史公文書も地域の歴史史料（古文書等）も等しく収集・整理・保存し、市民の利用に供することです。そのためには、必要な情報をもつ様々な史料の保存に努めることが大切です。文書館では、基本的に歴史公文書と地域の歴史史料（古文書等）を扱い、調査に基づく

歴史史料の収集（評価・選別）・整理・保存を行います。

イ) 歴史公文書と地域の歴史史料（古文書等）に基づく調査研究・歴史編纂

文書館の活動は、職員の専門性に裏付けられた歴史史料の調査研究が基礎となります。これを土台に、歴史公文書分野と地域の歴史史料（古文書等）分野及び歴史編纂分野の活動がバランス良く展開されることによって、地域・歴史・行政に関する様々な情報を市民に還元することができます。

文書館では、松江市域の歴史研究を進めること、歴史公文書・地域に所在する歴史史料（古文書等）を後世に伝え活用していくための保存管理体制を整えることに加え、松江市政史の解明も研究対象とします。その成果は将来の歴史編纂事業に備え、刊行物や講座などで市民に公表するとともに、効率的な市政運営に活かします。

ウ) 歴史史料や歴史情報の公開と提供

市民共有の知的資源としての歴史史料や歴史情報の公開と活用を一層進める必要があります。地域の歴史を何らかの形で表していくことは、市民の期待に応える基本的な作業であり、利用者にとって使いやすく便利な情報提供の方法を充実させていきます。

情報提供の方法として、①史料検索のための目録の作成・供覧、②既刊シリーズである「松江市ふるさと文庫」「松江市歴史叢書」「松江市歴史史料集」等の継続的な発刊、③歴史研究の成果を反映した講座の開催、④調査研究の成果や史料原本等を活用したミニ展示などを行います。また、市民や行政組織等の求める情報についてレファレンスサービス（調査相談）を行い、市民の学習や行政事務を支援します。

エ) 歴史公文書・歴史史料（古文書等）を保存する類似施設との連携

文書館では、専門性に基づく調査研究の蓄積を基礎として、歴史公文書や歴史史料（古文書等）を保存する松江歴史館、松江市立図書館、県立類似施設など、松江市域内外に所在する歴史史料保存施設との連携を図ります。

4. 松江市の公文書管理体制の見直し

(1) 見直し事項

松江市文書館（仮称）における歴史公文書の保存・利用を円滑に行うため、松江市の公文書管理体制を見直します。

- ① 国の公文書管理制度（「公文書管理条例」・「同施行令」）に準じて公文書の保存年限の見直しを行います。（国は公文書の保存年限を最大30年とする）
- ② 文書管理の専門部署を総務部総務課に設け専門的職員〔レコードマネージャー〕を配置するなど、公文書管理において文書の作成時から適正な管理ができるよう職員の指導、研修を行い、職員への意識付けや文書管理のための目録の整理を進め、公文書管理のガバナンスを高めます。
- ③ 総務課に引き継がれた現用公文書を保管する文書庫は市内5か所に点在しています。現用公文書を効率的に保管及び評価・選別ができるようこれを集約し、1か所での保管を目指します。
- ④ 保存年限を経過した公文書は非現用文書とし、歴史史料の専門的職員〔アーカビスト〕により重要な公文書は歴史公文書として残し、他のものは廃棄する評価・選別を適正に行います。
- ⑤ 松江市に文書館を整備することで、松江市として大切な歴史公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）とを適正に整理・保存・公開（調査研究）します。文書館の整備により、公文書の作成から歴史公文書の保存までの一連の仕組みを構築します。
- ⑥ 一連の公文書管理の基本的な考え方を示すために、「松江市公文書管理の基本的な考え方」や「評

価・選別の基準」などを整えます。

(2) 例規等の整備

松江市の公文書管理体制の見直しを実行するために、文書作成から保存、廃棄、文書館への移管、歴史公文書の利用までの、公文書のライフサイクルについて規定する関係規則等の整備を行います。

5. 松江市文書館（仮称）の施設と運営

(1) 施設のあり方

松江市文書館（仮称）の整備にあたっては、既存の公共施設の活用などを考慮しつつも、歴史公文書及び地域の歴史史料（古文書等）を将来にわたって、適切かつ安全に管理できるように耐火・耐震性を持ち、温度・湿度管理が可能で、セキュリティを確保できる災害等に強い建物を理想とします。

また、利用者が利用しやすく、職員が円滑に管理・運営できる必要があります。

(2) 施設の規模

文書館では、史料保存機関の役割を果たすため、年々増加が見込まれる歴史公文書及び地域の歴史史料（古文書等）の収蔵量に対応できるスペースを確保する必要があります。

施設の規模については、松江市所蔵の公文書、地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状に基づき検討します。

(3) 設置場所

施設は交通の便がよく、市民の利用しやすい場所を検討します。また、津波や水害による浸水等の災害に備えた対応策を検討します。施設整備にあたっては、文書保存に適した環境をもつ既存施設の有効活用などを考慮し検討します。

(4) 施設構成

文書館の役割を果たすために下記のような機能が必要です。

- ア) 史料保存機能（一時保管室、収蔵庫、特別収蔵庫など）
- イ) 調査・整理・写真撮影機能
- ウ) 歴史史料の公開・提供機能（一般閲覧室など）
- エ) 情報発信機能（展示コーナー、講座室など）
- オ) 一般的な機能（事務室、会議室、物品庫、トイレ、駐車場など）

(5) 管理運営体制

文書館の設置と管理運営に関する事項について「松江市文書館（仮称）管理運営条例（仮称）」等を制定し、開館時間・休館日等は、市民が利用しやすいように定める必要があります。

文書館には館長、専門的職員（アーカivist）などのほか、必要な職員を配置する必要があります。文書館では、基本的に歴史公文書と地域の歴史史料（古文書等）が管理対象となることから、専門的職員（アーカivist）には、歴史公文書と地域の歴史史料（古文書等）への幅広い知識、保存管理の知識・技術、地域の歴史や行政に関する専門的な知識などが求められます。

文書館では、行政での業務経験を有する職員や地域の歴史史料（古文書等）の状況に習熟している職員がバランスよく配置され、そのような中で文書館の専門的職員（アーカivist）が育成・配置され、また、現用公文書に関する専門的職員（レコードマネージャー）との連携が密接に行われることが望ましいと考えます。

(6) 運営審議機関と客員研究員制度

文書館の適切な運営を確保するため、「松江市文書館（仮称）運営審議委員会（仮称）」を設置する必

要があります。また、史料に基づく歴史研究を継続的に行うために、松江市史編纂事業体制を活用し、客員研究員制度を設置する必要があります。

（7）松江歴史館、松江市立図書館との役割分担と連携

松江市には、文書館と類似した歴史史料保存機関として、松江歴史館と松江市立図書館があります。これらの各施設で所蔵されている歴史史料は、それぞれの施設で管理するものとしますが、松江市文書館（仮称）は文書（歴史公文書・古文書等の歴史史料）の中核施設として、各施設で収蔵管理が困難なものうち、文書館で保存・活用すべき歴史史料については、別途協議のうえ、文書館に移管し保存・活用する必要があります。

なお、各館が持つ歴史史料の保存と活用にあたり、専門的職員の人的交流を含めて、相互の連携を積極的に図る必要があります。

6. 松江市文書館（仮称）整備の推進にあたって

（1）関連計画の策定と例規等の整備

現在、松江市では総務部（総務課）が条例等に基づく現用公文書の管理と保存を行い、歴史まちづくり部（史料編纂課・松江歴史館）が地域の歴史史料（古文書等）の調査・保存、歴史研究、講座の開催、各種刊行物の刊行を行うなど、本整備構想に掲げる松江市文書館（仮称）の機能に類似した業務を行っています。

松江市総務部、歴史まちづくり部では、松江市文書館（仮称）の具体的な整備に向けて「松江市文書館（仮称）整備計画」や「松江市公文書管理の基本的な考え方」、「評価・選別の基準」などを策定するとともに、「松江市公文書管理条例（仮称）」や「松江市文書館（仮称）管理運営条例（仮称）」など、関係条例等の整備を行う必要があります。

（2）松江市文書館（仮称）整備の時期

平成31（2019）年度に松江市史編纂事業が終了し史料編纂課の組織変更が求められていることから、平成32（2020）年度には、発生から30年を経過したような永年保存文書の点検や、歴史史料の継続調査、「評価・選別の基準」の作成など、事前の準備・検討を進めるために、文書館機能を先行的に整備する必要があります。その後、新庁舎建設スケジュールとの調整を図りつつ、松江市文書館（仮称）を整備していく必要があります。

【用語の解説】

歴史公文書…歴史史料として重要な公文書

レコードマネージャー…組織全体の文書管理の方針・規則・手順を策定し、実施推進する責任を有する専任の文書管理の専門的職員

アーキビスト…公文書管理を支え、個人や組織、社会の記録を保存し、提供する専門的職員

【付属資料】

【資料 1】松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状

【公文書の数量的現状】

- 表① 松江市保管公文書の収納面積
- 表② 単年度で発生する永年保存文書
- 表③ 平成期に発生した文書量
- 表④ 平成期の公文書の発生状況

【地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状】

- 表⑤ 調査済み文書点数

【資料 2】公文書管理と文書館のイメージ

- ① 松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の管理に関する試案
- ② 専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け
- ③ 文書（現用文書、歴史公文書、歴史史料）の分担管理のイメージ
- ④ 松江市文書館（仮称）の基本機能

【資料 3】文書管理改善スケジュール（案）

【資料1】

松江市における公文書と地域に所在する歴史史料(古文書等)の数量的現状

【公文書の数量的現状】

表①松江市保管公文書の収納面積

松江市が保管する公文書の収納面積(消防・支所を除く)は1,622m²、このうち第1文書庫と各課執務室を含む本庁舎内の公文書収納面積は、少なくとも約1,200m²と試算できます。
(現用公文書の約7割が永年保存文書なので、本庁舎内の永年保存文書収納面積は1,200m² × 0.7=約840m²と試算できます)

表②単年度で発生する永年保存文書
文書作成時の約40%(冊数)が永年保存文書となっています。

表③平成期に発生した文書量
永年保存文書量(冊数)の割合は、昭和期以前(約100年間)が全体の5%(冊数)に対し、平成元～28年の28年間で95%(冊数)を占めています。

表④平成期の公文書の発生状況

平成期における公文書の発生状況(件数)をみると、平成7年と平成16年に文書発生件数が大きく増加しています。(公文書のマイクロフィルム化と平成合併の影響か)

【地域に所在する歴史史料(古文書等)の数量的現状】

表⑤調査済み文書点数

平成29年12月15日現在の調査点数は99,389点。松江市域に所在する予想古文書史料数は375,220点程と計算でき、寄贈・寄託実績(約1/4)から、松江市域内に所在するであろう全ての古文書史料の予想収納面積は約75m²と試算できます。

資料1

表① 松江市保管公文書の収納面積について

1.【公文書庫】

名称	場所	利用開始	文書収納面積 (m ²)	書架総延長 (m) A	保存延長 (m) B	空き延長 (m) A-B	収容率 B/A(%)
第1文書庫	松江市役所別館1階	S54年	120.0	903.0	903.0	0.0	100
第2文書庫	浜佐田文書庫1階(2室)	H元年	128.4	746.1	534.4	211.7	72
第3文書庫	第3別館1階(浅利)	H12年	69.8	557.5	557.5	0.0	100
第4文書庫	松江市シルバーカーラザ2階 (3室)	H18年1月	102	361.3	346.6	14.7	96
第5文書庫	旧島根町商工観光センター 1階文書庫(2室)	H23年8月	121	606.6	467.8	138.8	77
合計			a 541.2	3,174.5	2,809.3	365.2	88

※書架総延長(m)等は、H23年度実測値
※棚の幅は、規格品ではボックス3倍であるが、計測値86cmで計算したものです。計算は、棚1つの長さを、0.86m * 段数 * 書籍数で算出し、合計値を小数点以下2位を四捨五入した。

2.【各課執務室】

名称・保存場所	文書収納書架延長			文書収納面積 (m ²)	備考
各課執務室 (消防・支所を除く)	公文書 (m)	書籍等 (m)	文書量計(m)	b 1,081.1	(1)幅94cm、奥行き35cm、6段の書棚に収納すれば、1,638棚が必要。 (=9,237.92 / (0.94m × 6段)) (2)文書収納面積として、 0.33m ² (0.94m × 0.35m) × 2(通路計算) × 1,638棚 = 1,081.08m ² が必要。
参考:消防・支所を含めた場合	文書 (m)	書籍等 (m)	文書量計(m)	c 1,489.6	同上
	12,725.87	1,976.91	14,702.78		

3.【公文書(現用文書)の収納面積】

【公文書庫】+【各課執務室】の 公文書収納面積 (a541.2m ² +b1081.1m ²)	$a+b$ 1,622.3m²	永年保存文書の割合…223.454冊(永年保存)／314.748冊(全公文書)=0.7099 ⇒全公文書のうち約70%が永年保存文書(平成23年11月時点総務課文書目録(冊数)より算出) ⇒【公文書庫】+【各課執務室】永年保存文書の収納面積=1,622m ² × 0.7=1,135m ²
本庁舎の公文書収納面積 (第1文書庫・各課執務室)	$1,201.1\text{ m}^2$ (120m ² +1081.1m ²)	第2～4文書庫の 収納面積 421.1 m²

本庁舎内で、永年保存文書は少なくとも1,200m²×0.7=約840m²を占めていると試算できる

資料1

表② 単年度で発生する永年保存文書

(平成28年11月時点総務課文書目録により算出)

年度	総文書量		永年保存文書量		総文書量に対する 永年保存文書の割合		備考
	件数	冊数	件数	冊数	件数	冊数	
H28	7,306	19,961	1,187	7,823	16%	39%	
H27	6,385	18,037	1,175	7,986	18%	44%	1年保存文書廃棄
H26	6,020	15,870	1,116	6,796	19%	43%	
H25	5,052	15,065	1,105	7,734	22%	51%	3年保存文書廃棄
H24	5,184	15,433	1,190	7,716	23%	50%	
H23	2,517	11,532	1,270	8,421	50%	73%	5年保存文書廃棄 東出雲町合併
H22	2,518	10,611	1,298	6,628	52%	62%	
H21	2,624	9,524	1,329	6,379	51%	67%	
H20	2,528	9,861	1,228	5,710	49%	58%	
H19	2,202	10,008	1,154	7,005	52%	70%	
H18	1,491	8,531	1,317	7,067	88%	83%	10年保存文書廃棄
H17	1,629	8,788	1,462	8,447	90%	96%	H17合併

※上記数字は平成28年11月時点総務課文書目録の発生年度欄を「HO年度」に選択したフィルターをかけて算出したもので、
「HO～HO年度」や「HO・HO」など複数年度に渡るものは含んでいない。

※本表には消防・支所(合併後)分も含んでいる。

資料1

表③ 平成期に発生した文書量

(平成28年11月時点総務課文書目録より算出)

	全文書			永年保存文書			備考
	件数 (全件数に対する割合)	冊数 (全冊数に対する割合)	件数 (全件数に対する割合)	冊数 (全冊数に対する割合)	冊数 (全冊数に対する割合)	冊数 (全冊数に対する割合)	
昭和期以前	4,690	7%	9,421	3.6%	4,640	15%	9,407 4.9%
平成元～28年	58,026	93%	251,505	96.4%	26,332	85%	183,992 95.1%
合計	62,716		260,926		30,972		193,399

※本表の「昭和期以前」とは平成28年11月時点総務課文書目録の発生年度欄の「M○」、「MO～」、「SO～HO」等を選択したもので、昭和期以前を起点として発生し、複数年度にまたがるものと含んでいます。

※本表は消防・支所(合併後)分も含んでいます。

資料1

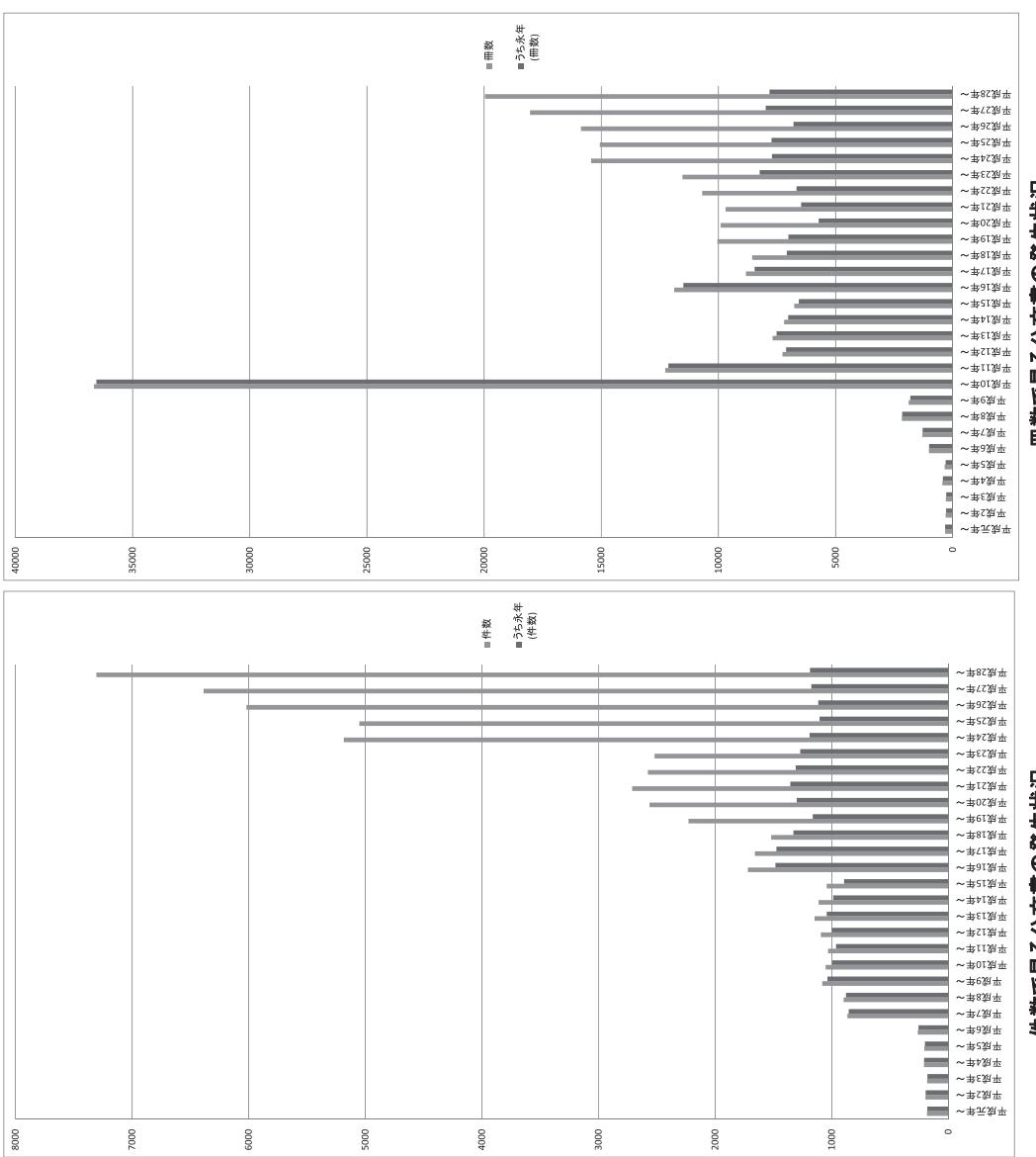
表④ 平成期の公文書の発生状況

※平成28年11月時点総務課文書目録より算出

	件数	うち永年 (件数)	冊数	うち永年 (冊数)	箱数	割合	備考
平成元年～	184	181	327	325	32	99.4%	
平成2年～	197	195	302	284	20	94.0%	
平成3年～	182	180	294	280	25	95.2%	
平成4年～	210	208	442	421	20	95.2%	
平成5年～	207	201	348	307	18	88.2%	
平成6年～	263	257	1017	1011	21	99.4%	
平成7年～	866	855	1596	1287	32	99.3%	マイクロフィルム導入
平成8年～	899	878	2176	2160	21	99.3%	
平成9年～	1082	1037	1882	1812	18	96.3%	ポックスファーリング導入
平成10年～	1053	995	36149	36545	259	99.7%	戸籍26,000冊
平成11年～	1032	963	12210	12137	32	98.9%	
平成12年～	1094	998	7268	7111	263	97.8%	
平成13年～	1148	1043	7691	7522	39	97.8%	
平成14年～	1113	988	7195	7021	42	97.6%	
平成15年～	1043	894	6764	6566	28	97.1%	
平成16年～	1720	1484	11889	11497	39	96.7%	
平成17年～	1660	1475	8459	8227	31	95.8%	
平成18年～	1520	1329	3935	3783	25	82.7%	10年保存文書廃棄
平成19年～	2229	1163	10446	7013	47	69.8%	
平成20年～	2563	1301	9905	5722	12	57.8%	
平成21年～	2712	1355	9693	6468	69	66.7%	
平成22年～	2577	1309	10998	6605	143	62.3%	
平成23年～	2520	1270	11535	8241	125	71.4%	5年保存文書廃棄
平成24年～	5185	1190	15334	7716	209	50.0%	
平成25年～	5052	1105	15065	7734	182	51.3%	3年保存文書廃棄
平成26年～	6020	1116	15870	6796	166	42.8%	
平成27年～	6387	1175	18037	7986	340	44.3%	1年保存文書廃棄
平成28年～	7306	1187	19365	7823	70	39.2%	

※件数及び冊数は、平成28年11月時点総務課文書目録の発生年度欄の「H0～H0年度」、「H0～H10年度」、
「H10～H11年度」をかけ算出したもので、複数年度にまたがる文書を含んでいます。

※本表には消附・支所(合併後)分も含んでいます。



件数で見る公文書の発生状況

冊数で見る公文書の発生状況

資料 1

表⑤ 調査済み歴史史料(古文書等)点数一覧

※平成30年12月時点	
国庫補助事業実施分:	20,761 点
旧町村役場・公民館・区有文書調査実施分:	20,739 点
その他調査実施分:	41,265 点
宍道町実施分:	18,761 点
合計:	101,526 点
松江歴史館収蔵	
寄託	23,124
寄贈	10,118
史料編纂課収蔵	
寄贈	5,252
合計:	38,494

文書収納スペースの試案 表数

①史料編纂課の調査点数（平成30年12月28日現在）	
101,526点	
②松江市への古文書史料寄贈・寄託点数	38,494点
③古文書史料の予想寄贈・寄託品収納スペース（松江市域内にあるであろう全ての古文書史料）	
約114.4m ²	書架（0.50×0.80×=0.4m ² ）に10箱収入できるので、必要書架は143個 0.4m ² ×2（通路計算）×143=114.4m ²

想定

①松江市域に所在する予想古文書史料数	375,220点
②市域所在古文書史料の予想寄贈・寄託点数	約142,584点
③古文書史料の予想寄贈・寄託品収納スペース（松江市域内にあるであろう全ての古文書史料）	約114.4m ² 書架（0.50×0.80×=0.4m ² ）に10箱収入できるので、必要書架は143個 0.4m ² ×2（通路計算）×143=114.4m ²

【資料2】 公文書管理と文書館のイメージ

松江市における公文書管理の大きな課題は、文書作成時に全文書量の約4割(冊数)が永年保存文書に設定され、その後、評価選別(廃棄と保存)の仕組みが無い事です。

課題の解決の一試案として、松江市においても、

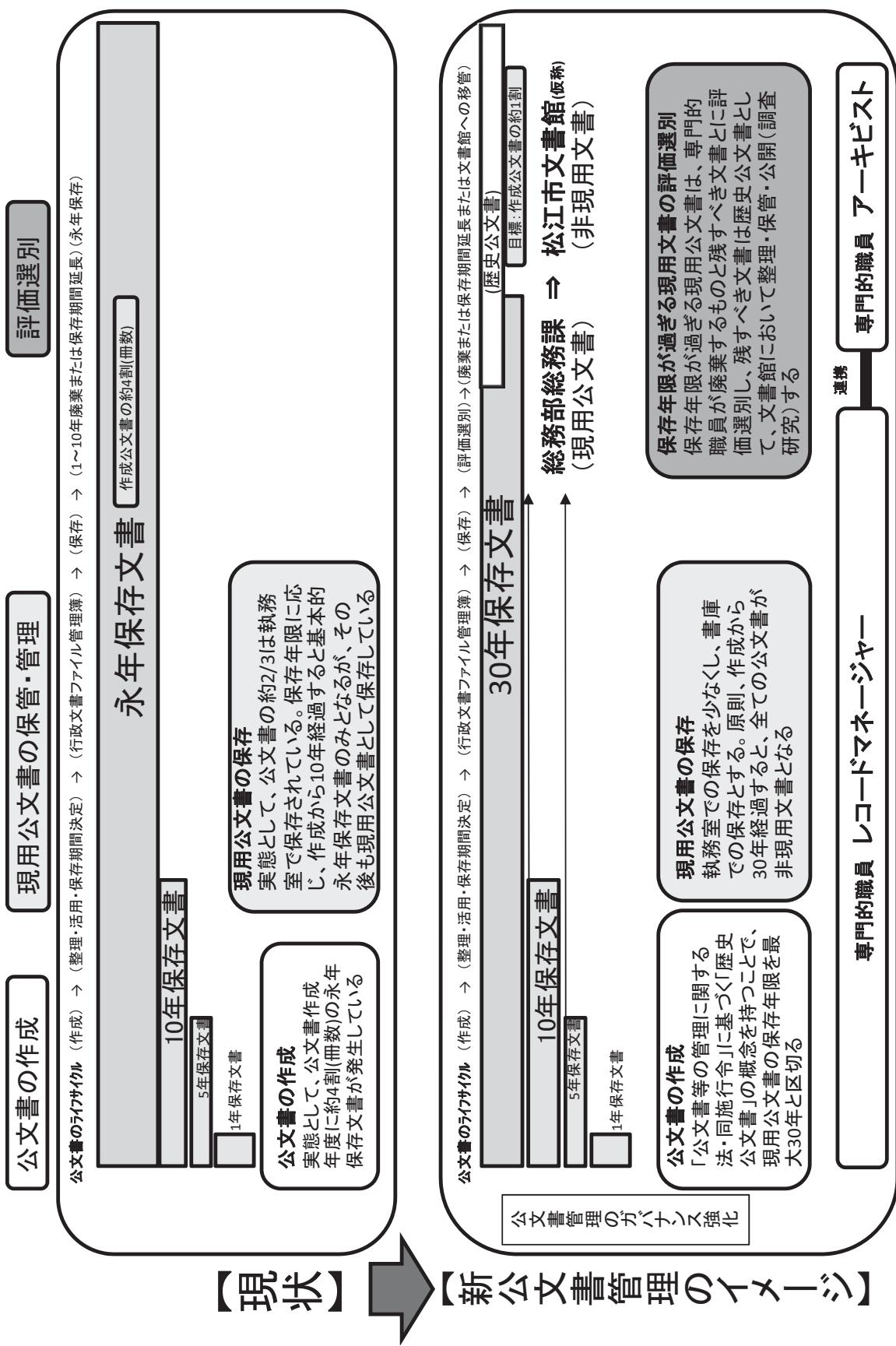
- ①国の公文書管理制度(公文書等の管理に関する法律・施行令)に準じて公文書の保存年限を最大30年と区切る。
- ②文書管理の専門的職員[レコードマネージャー]を配置するなど、公文書管理のガバナンスを高め、特に文書作成時に適正な管理を行う。
- ③保存年限を経過した公文書は非現用文書とし、歴史史料の専門的職員「アーキビスト」により、重要な公文書は歴史公文書として残し、他のものは廃棄する(評価・選別)ことで、最終的に歴史公文書(永年保存)は作成公文書の約1割とする目標とする。
- ④松江市文書館(仮称)を設置し、松江市として大切な歴史公文書と地域に所在する歴史史料(古文書等)とを適正に整理・保管・公開(調査研究)するという、一連の仕組みを早急に構築していく必要があります。

【イメージ図】

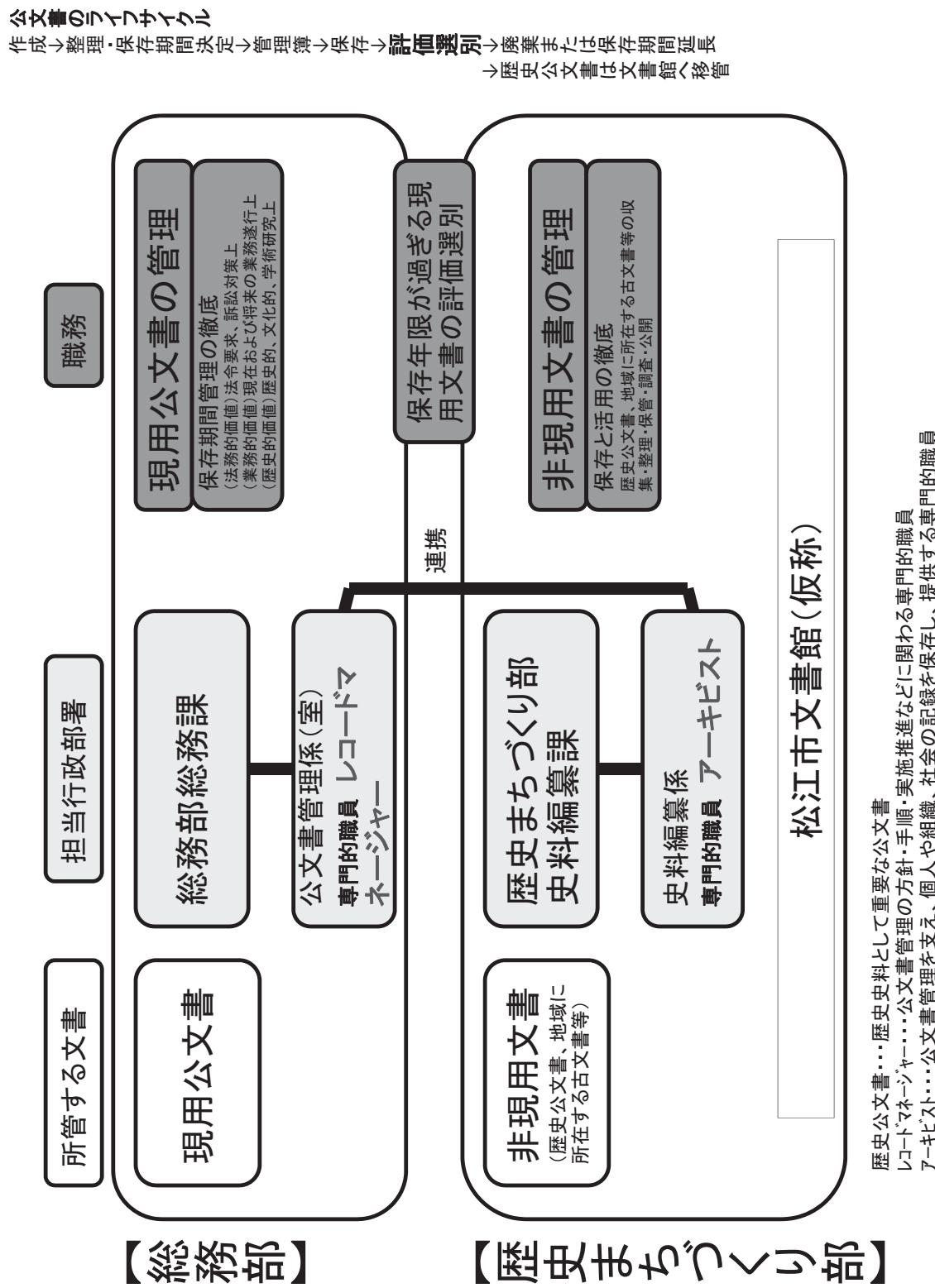
- ①松江市における公文書と地域に所在する歴史史料の管理に関する試案
- ②専門的職員の配置と所管文書の仕分け
- ③文書(現用文書、歴史公文書、歴史史料)の分担管理のイメージ
- ④松江市文書館(仮称)の基本機能

【資料2】①松江市における公文書と地域に所在する歴史史料(古文書等)の管理に関する試案

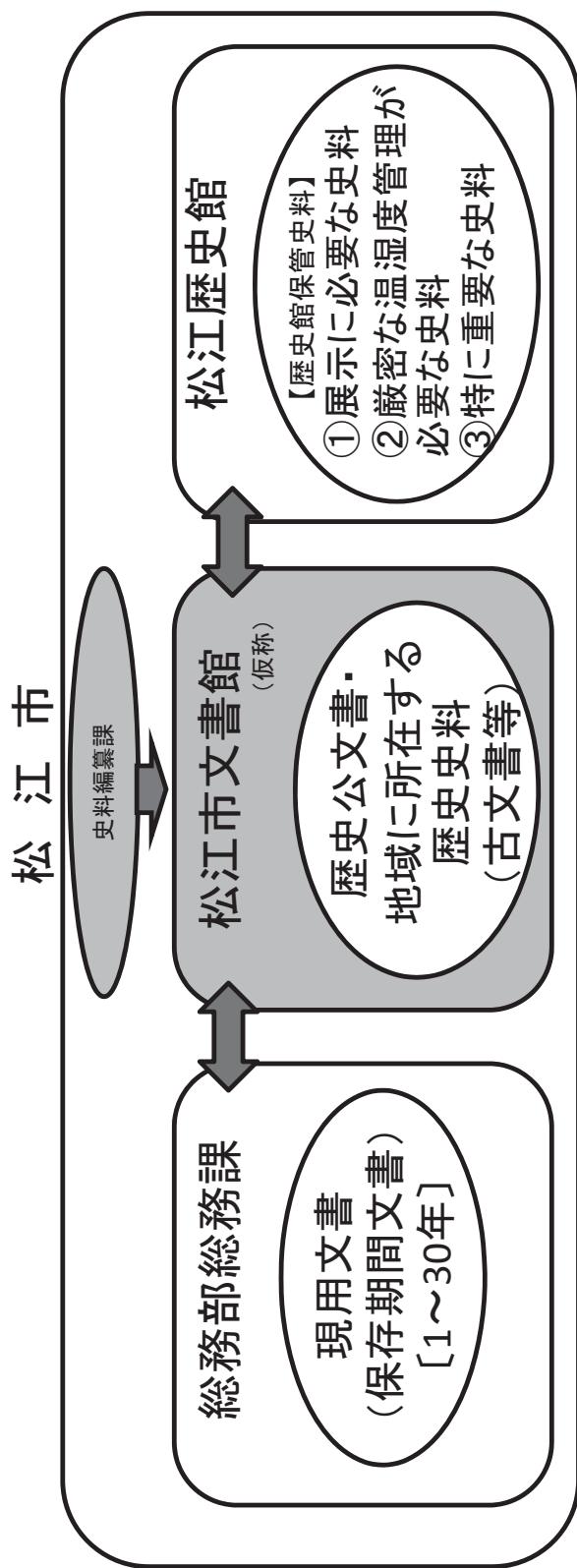
【現状と新公文書管理のイメージ図】



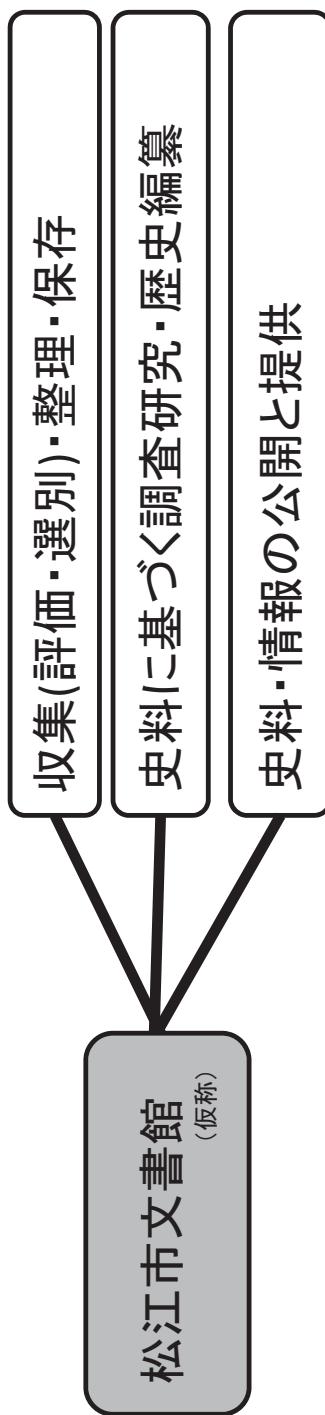
【資料2】②専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け



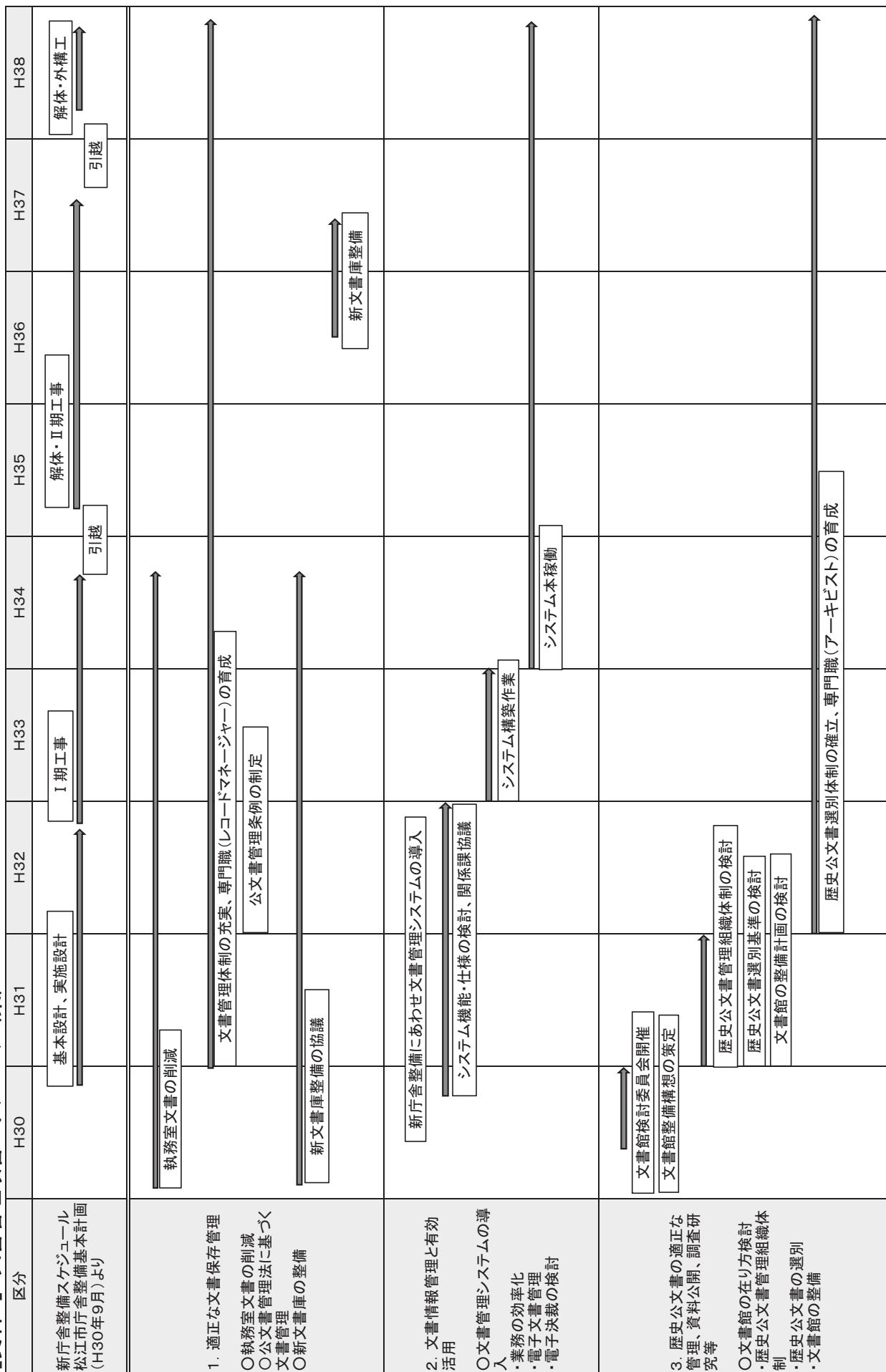
【資料2】③文書(現用文書、歴史公文書、歴史史料)の分担管理のイメージ



【資料2】④松江市文書館(仮称)の基本機能



【資料3】文書管理改善スケジュール(案)



松江市文書館（仮称）検討委員会委員名簿

氏名	委員区分	備考
井上寛司	学識委員（委員長）	島根大学名誉教授
広江みづほ	行政委員（副委員長）	松江市総務部長
竹永三男	学識委員	島根大学名誉教授
小林准士	学識委員	島根大学法文学部教授
藤原亮彦	行政委員	松江市歴史まちづくり部長

臨時委員

西村芳将	行政委員	鳥取県立公文書館（県史編さん室）課長補佐
------	------	----------------------

事務局

(総務部)

島根史明	総務部次長（総務課長）
恩田 修	総務課長補佐
三代晃大	総務課副主任

(歴史まちづくり部)

永田明夫	歴史まちづくり部次長（都市政策課長）
稻田 信	史料編纂課長
小山祥子	史料編纂課副主任

	日時・場所	議題
第1回	10月19日（金）	<p>(1) 松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 松江市保管公文書の収納面積 ② 単年度で発生する永年保存文書 ③ 平成期に発生した文書量 ④ 平成期の公文書の発生状況 ⑤ 調査済み文書点数一覧 <p>(2) 公文書管理と文書館のイメージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 松江市における公文書と地域に所在する歴史史料の管理に関する一試案 ② 専門的職員の配置と所管文書の仕分け ③ 文書の分担管理のイメージ ④ 松江市文書館（仮称）の基本機能 <p>(3) 文書管理改善スケジュール（案）</p> <p>(4) 意見交換</p>
第2回	12月20日（木）	<p>(1) 研修会「鳥取県立公文書館の取り組み」</p> <p>(2) 審議</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 第1回の論点整理と新庁舎建設設計画について ② 「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議
第3回	2月4日（月）	「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議

松江市文書館（仮称）整備構想

策定日 平成31年3月28日

発行 松江市

島根県松江市末次町86番地

松江市史編纂事業のあゆみ -市史編纂全期間における主な活動 (H19.4.1~R2.3.31)

期日	担当部会	内 容	備 考
平成18年			
2月28日		『ふるさと文庫』1発行	「お殿様の御成り -近世松江藩主と本陣-」小林准士
平成19年			
3月29日		松江開府400年祭の基本計画に「松江市史及び松江開府400年祭記念誌を編纂する」と盛り込まれる	
3月30日		『ふるさと文庫』2発行	「大根島のおいたちと洞窟生物」澤田順弘・新部一太郎・星川和夫
4月1日		松江開府400年祭始まる	
		松江市史編纂事業実施に向けての準備始まる	松江市教育委員会（文化財課）で具体的な組織人員体制を立案、府内調整を始める
平成20年			
2月1日		『ふるさと文庫』3発行	「松江藩の財政危機を救え 一二つの藩政改革とその後の松江藩ー」乾隆明
3月		松浦市長 市議会で松江城国宝化に向けて市民運動の醸成を提唱	
3月30日		『ふるさと文庫』4発行	「堀尾吉晴と忠氏 一松江開府を成しとげた武将たちー」佐々木倫朗
4月1日		組織改編により松江市教育委員会文化財課内に史料編纂係設置	史料編纂係：係長1名（島根県より派遣）、専門官2名、嘱託職員3名配属、実務・庶務は文化財課文化財係職員が担当
5月13日		井上寛司と事務局による市史編纂の考え方についての論点整理の協議	
7月4日	全般	第1回松江市史編纂検討委員会	〔議題〕① 市史の編纂方針 ② 市史の内容（構成）
7月5日		新聞記事掲載「松江市史編さん 検討委が初会合 委員長に藤岡氏」	山陰中央新報
7月5日		新聞記事掲載「松江市史編纂で初会合」	読売新聞
7月25日	全般	松江市史編纂検討小委員会	〔議題〕松江市史編纂基本計画（素案）について ① 出版計画 ② 執筆者 など
7月31日	全般	松江市史編纂検討小委員会	〔議題〕松江市史編纂基本計画（素案）について ① 具体的な構成構成 ② 出版予定期 ③ 完成年 ④ 大まかな時期区分 ⑤ 編集・執筆陣の基本方針 など
8月28日	全般	第2回松江市史編纂検討委員会	〔議題〕松江市史編纂基本計画（素案）について ① 松江市史編纂の必要性と目的、松江市の目指す新しい市史 ② 市史編纂の方針 ③ 市史の内容、出版計画 ④ 市史編纂上の基礎調査と付帯出版物 ⑤ 市史編纂体制
8月30日		新聞記事掲載「松江の近世史研究に光明一家老屋敷跡遺跡」	山陰中央新報
9月2~6日		松江藩家老三谷家文書調査	
9月30日	全般	松江市史編纂検討小委員会	〔議題〕松江市史編纂基本計画について
10月5日		新聞記事掲載「注目の一冊 乾隆明編著『松江藩の時代』」	山陰中央新報
10月8日	全般	第3回松江市史編纂検討委員会	〔議題〕松江市史編纂基本計画について
10月20日	全般	「松江市史編纂基本計画」答申	松江市史編纂検討委員会藤岡大拙委員長から松浦正敬松江市長へ
11月8日		新聞記事掲載「『松江市史』の計画提出 10年度に第1弾 全19冊で構成」	山陰中央新報
11月9日		『ふるさと文庫』5発行	「城下町松江の誕生と町のしくみー近世大名堀尾氏の描いた都市センター」松尾寿
平成21年			
1月17日		『ふるさと文庫』6発行	「堀尾吉晴ー松江城への道 ー浜松・富田・松江城普請の軌跡ー」山根正明
4月1日		組織改編により松江市教育委員会文化財課内室として史料編纂室設置	室長1名（文化財課長兼務）、主任編纂官1名（嘱託）、専門官1名（嘱託）、専門調査員4名（嘱託）配置、文化財課内から副主任1名の応援体制をとる。翌22年4月からは文化財課からの応援体制を止め専任室長（市職員）、専任副主任1名（市職員）を配置
4月3日		新聞記事掲載「家老屋敷遺跡問題を振り返る〈田中義昭〉」	山陰中央新報
6月15日	全般	第1回松江市史編纂委員会	〔議題〕① 松江市史編纂基本計画について ② 松江市史の構成と出版計画について ③ 松江市史編纂体制について ④ 平成21年度事業計画について
6月20日		新聞記事掲載「松江市史編纂 10年作業 本格始動」	山陰中央新報
6月21日	全般	第1回松江市史編纂委員会	〔議題〕① 第1回松江市史編纂委員会（6月15日開催）の報告について ② 松江市史各巻の体裁について ③ 史料編「近世I」の構成・掲載史料・体裁について
6月21日	原始古代	原始古代史部会	〔議題〕① 部会の任務と構成の検討 ② 史料編・通史編の編纂方針の検討
6月21日	中世	中世史部会	〔議題〕① 部会の任務と構成の検討 ② 史料編・通史編の編纂方針の検討
6月21日	近世	近世史部会	〔議題〕① 部会の任務と構成の検討 ② 史料編・通史編の編纂方針の検討
6月21日	近現代	近現代史部会	〔議題〕① 部会の任務と構成の検討 ② 史料編・通史編の編纂方針の検討
6月22日	民俗	民俗部会	〔議題〕① 調査項目の分担 合同調査の予定、調査方針等の検討
6月26日		新聞記事掲載「松江市史刷新へ編纂委が初会合 2010年度発刊目標」	読売新聞
7月2日		新聞記事掲載「世紀の大事業『松江市史』編纂〈井上寛司〉」	山陰中央新報
7月27日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 部会の任務と構成の検討 ② 史料編・通史編の編纂方針の検討
7月29日~8月1日		松江藩家老三谷家文書調査	
8月3日		新聞記事掲載「ひと 松江市史の編さんを進める小林准士さん」	山陰中央新報
8月10日	近現代	近現代史部会	〔議題〕
8月21日	民俗	民俗調査	恵曇地区聞き取り調査
8月23日	民俗	民俗調査	八束地区聞き取り調査
8月23日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕史料編「考古資料」の編集方針の検討
8月24日	全般	第2回松江市史編纂委員会	〔議題〕① 各専門部会の進捗状況について（編集方針、構成と出版計画等） ② 平成22年度事業計画について ③ 史料編『考古資料編（原始・古代・中世）』（仮題）の編集方針について
8月24日	原始古代	原始古代史部会	〔議題〕史料編の編集方針の検討
8月24日	中世	中世史部会	〔議題〕編集方針の検討

期日	担当部会	内 容	備 考
8月24日	近世	近世史部会	〔議題〕編集方針の検討
8月25日	民俗	民俗調査	美保関地区聞き取り調査
8月28日	民俗	民俗調査	秋鹿地区聞き取り調査
8月30日	民俗	民俗調査	片江地区聞き取り調査
9月 9日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕工程表の検討
9月19日		「松江城を国宝にする市民の会」設立	
9月21日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕史料編「考古資料」の掲載遺跡、判型、遺跡一覧等の検討
10月	全般	松江市史編纂基本計画改訂（第1回改訂）	編集委員会・専門部会での議論を経て編集上の観点からの改訂
10月17日	原始古代	古代専門部会	〔議題〕史料編「古代・中世I」の判型、版面設定、掲載史料の検討
10月27日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕史料編「考古資料」の掲載遺跡・執筆者、凡例等の検討
10月30日	全般	第2回松江市史編纂委員会	〔議題〕① 松江市史編纂事業の進捗状況について ② 松江市史編纂体制について
11月1日		「市史編纂だより①」発行（市報松江11月号に掲載）	〔タイトル〕松江市史の編纂が始まりました ・市史編纂の必要性 ・市史編纂の基本方針 ・松江市史の構成 ・出版計画
11月10日		新聞記事掲載「松江市史 国宝化運動と連携へ別編「松江城」 編纂委が第2回会合」	山陰中央新報
11月18日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「考古資料」の版面、資料集成、個別遺跡解説等の検討
12月25日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「考古資料」のスケジュール、版面設定、執筆要領の検討
平成22年			
1月27日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「考古資料」の執筆状況の確認 ② 史料編「考古資料」の資料集成の検討
2月 1日		『ふるさと文庫』8発行	「京極忠高の出雲国・松江」西島太郎
2月15日		松江市観光振興部に松江城国宝化推進室設置	平成28年4月より「松江城調査研究室」と改称、史料編纂課の内室となる
3月 1日		「市史編纂だより②」発行（市報松江3月号に掲載）	〔タイトル〕松江市史への思い（編纂委員）
3月 3日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「考古資料」の執筆状況イメージ、掲載遺跡の追加の検討
3月10日		『ふるさと文庫』7発行	「松江市の指定文化財－未来へ伝える松江の文化遺産250－」「松江市の指定文化財」編纂委員会
3月14日	原始古代	古代専門部会	〔議題〕① 史料検索の進捗状況の確認 ② 史料編「古代・中世I」の構成の検討
3月20日		『ふるさと文庫』9発行	「松江城下に生きる－新屋太助の日記を読み解く－」松原祥子
3月30日	民俗	民俗部会	〔議題〕① 調査結果の報告
3月26日		『ふるさと文庫』10発行	「松江市史への序章－松江の歴史像を探る－」井上寛司他18名
3月26日		『松江市歴史叢書』2（松江市史研究1号）発行	
3月31日		『松江市歴史叢書』3（興雲閣特集I）発行	
4月 1日		史料編纂室に専任室長（市職員）、専任副主任1名（市職員）配置	専任室長1名、専任事務担当（市職員）1名、専門調査員6名（嘱託）という編纂室体制の基本が整う
4月		松江市の行政組織内（庁内）で行われた松江市史編纂事業の検討作業始まる	副市長をトップとする総務部、財政部による編纂計画の抜本的な見直し検討
4月27日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 平成22年度活動計画の検討 ② 史料編「考古資料」の内容検討
5月 1日		「市史編纂だより③」発行（市報松江5月号に掲載）	〔タイトル〕松江の歴史像に迫る本「ふるさと文庫で発刊」
5月 9日	民俗	民俗部会	〔議題〕① 別編「民俗編」の編集方針の検討 ② 平成22年度の調査計画の検討
5月12日		新聞記事掲載「『松江市史』編纂への期待」（川島美美子）	山陰中央新報
5月14日		新聞記事掲載「あすの動き・予定15日（土）松江市史シンポジウム（松江市）」	山陰中央新報
5月15日		新聞記事掲載「イベント15日 定期講座「松江藩講座」松江市史シンポジウム ブラバ大会議室」	山陰中央新報
5月15日	全般	松江市史シンポジウム	〔第一部〕基調報告「今なぜ『松江市史』の編纂なのか」 〔第二部〕パネルディスカッション「松江の歴史像を探る」
5月16日		新聞記事掲載「市史編纂の意義考える 松江でシンポ 各専門家が意見交換」	山陰中央新報
5月16日	全般	松江市史合同部会	〔議題〕① 史料編「近世I」における差別的表現の取り扱いについて ② 各部会の進捗状況について ③ 啓発活動（市民との意見交換や情報提供）について * 編纂事業の庁内検討作業が始まり、編集委員会の代わりに合同部会として開催
5月16日	原始古代	古代専門部会	〔議題〕① 史料編「古代・中世I」の史料掲載方針の検討 ② 原稿スタイルの検討
5月16日	中世	中世史部会	〔議題〕① 史料編「古代・中世I」の今後の作業内容の確認
5月16日	近世	近世史部会	〔議題〕① 今後の作業内容の確認
5月16日	近現代	近現代史料調査	合同汽船関連史料調査
5月19日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 編集計画（工程表）の検討
5月31日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「考古資料」の資料集成の検討 ② 個別遺跡解説の原稿提出状況の確認
6月 1日		『ふるさと文庫』11発行	「松江藩校の変遷と役割」梶谷光弘
6月16日	全般	松江市内寺社史料調査検討委員会	〔議題〕① 事業計画について ② 調査先（候補）について ③ 調査方法について
6月21日	民俗	民俗調査	城東地区聞き取り調査
6月22日		新聞記事掲載「松江市史歴史叢書2巻と3巻を刊行 市史に関する論文 城山の興雲閣沿革」	山陰中央新報
6月25日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「考古資料」の資料集成の検討 ② 個別遺跡解説の原稿提出状況の確認
7月 2日	民俗	民俗調査	白潟地区聞き取り調査
7月12日		第1回松江城調査研究委員会（西和夫委員長）	
7月26日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「考古資料」の出土文字資料の編集方針の検討
7月29, 30日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕① 史料編「古代・中世I」の掲載史料の選別作業の実施 ② 執筆分担の検討
8月 1日		「市史編纂だより④」発行（市報松江8月号に掲載）	〔タイトル〕後世に残したい松江市の「自然」・「景観」を募集します
8月 6, 7日	絵図・地図	絵図調査	山口県内絵図調査（大矢編集委員）
8月 7日	民俗	民俗調査	城北地区聞き取り調査
8月 8-10日	中世	中世史料調査	史料編「古代・中世I」の掲載史料（秋上家文書）の原本校正
8月10-12日	原始古代	古代史料調査	愛知県西尾市岩瀬文庫所蔵史料調査（大日方編集委員）
8月11日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 史料編「近世I」における差別的表現の取り扱いについて ② 各部会の進捗状況について

期日	担当部会	内 容	備 考
8月12, 13日	原始古代	古代史料調査	奈良県内出土木簡調査（佐藤編集委員・平石専門委員）
8月18日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編「考古資料」の個別遺跡解説の原稿提出状況の確認
8月18-30日		佐太神社所蔵史料調査	
8月21日	民俗	民俗調査	城西地区聞き取り調査
8月25日	絵図・地図	絵図・地図部会	【議題】史料編「絵図・地図」の編集方針、今後の作業内容の確認
8月		行政組織内（府内）で行われた松江市史編纂事業の検討作業終了	【発行巻数】19冊→18冊【刷部数】2,000部→500部【販売価格】A5判1冊5,000円、A4判1冊7,000円。【総事業費】総事業費の上限を設定【編集、印刷契約】プロポーザル審査ではなく競争入札で発注。瑕疵責任を明確にするため編集・印刷[印刷は地元業者に配慮]は一括発注【地元業者への配慮】編集・印刷業務における地元業者への印刷発注等
9月1日		史料調査協力員の会	【議題】① 松江市史編纂事業について ② 史料（資料）に関する情報提供について
9月6-10日		松江藩家老三谷家文書調査	
9月7日	近現代	近現代史調査	菅田町での聞き取り会
9月9日	近現代	近現代史部会	【議題】通史編の基本構成及び執筆分担の検討
9月10日	近現代	近現代史料調査	大庭公民館所蔵史料調査
9月14日	松江城	松江城部会	【議題】別編「松江城」の編集方針、調査計画の検討
9月15-19日	近世	近世史料調査	秋田・山形県内史料調査（小林編集委員・岸本編集委員）
9月17日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編「考古資料」の個別遺跡解説の原稿提出状況の確認
9月18, 19日	絵図・地図	絵図調査	兵庫・岐阜県内絵図調査（大矢編集委員、上杉専門委員）
9月19日	松江城	松江城部会	【議題】絵図・地図部会、近世史部会との役割分担の検討
10月	全般	松江市史編纂基本計画改訂（第2回改訂）	行政組織内（府内）で行われた松江市史編纂事業の検討作業の反映
10月1日		「市史編纂コラム第1回」掲載（ホームページ）	【タイトル】堀尾尾馬の子孫・堀尾方善の後半生
10月6日		文化庁へ松江城天守国宝指定の陳情（署名128,044人分提出）	この時を機に松江市は学術的な成果を目指す姿勢に転換
10月13, 14日	近現代	近現代史料調査	大庭公民館所蔵史料調査
10月14日	絵図・地図	絵図調査	広島大学所蔵絵図調査（大矢編集委員、乾編集委員）
10月19日	自然環境	自然環境部会	【議題】① 進捗状況の確認 ② 今後の予定の検討 ③ 通史編「自然環境・原始・古代」の執筆計画の検討
10月20日	松江城	松江城部会（建築小部会）	【議題】① 建築小部会の体制構築について ② 別編「松江城」の構成・執筆分担等について ③ 今後の調査予定等について
10月24日	民俗	民俗部会	【議題】① 今年度の調査日程の確認 ② 調査細目（執筆細目）について ③ 平成22年度調査報告会について
10月25日	原始古代	考古専門部会	【議題】① 史料編「考古資料」の個別遺跡解説の原稿提出状況の確認 ② 通史編「自然環境・原始・古代」について ③ 東京国立博物館所蔵遺物調査について
10月26日	近現代	近現代史調査	菅田町での聞き取り会
10月31日		『ふるさと文庫』12発行	「決定版」見立番付を楽しむ（乾隆明、下房俊一）
11月1日		「市史編纂だより⑤」発行（市報松江11月号に掲載）	【タイトル】箱底からの宝の出現
10月26日		「市史編纂コラム第2回」掲載（ホームページ）	【タイトル】銀山と松江藩との借金バトル
11月1, 2日	原始古代	古代専門部会	【議題】① 史料編「古代・中世Ⅰ」の掲載史料の選別作業の実施 ② キコロジ遺跡出土墨書き土器・中殿遺跡出土木簡の釈文確認 ③ 今後の予定の検討 ④ 通史編「自然環境・原始・古代」についての検討
11月4日	松江城	松江城関連調査	大井町岩汐石切場調査
11月9日		朝日寺所蔵史料調査	
11月12日		新聞記事掲載「松江藩の参勤交代街道絵図 松江市内民家で発見 戸戸全行程800キロ記載」	山陰中央新報
11月16-18日	松江城	松江城関連調査	石材产地（岩石）調査（先山委員）
11月17-19日		近現代史料調査	大庭公民館所蔵史料調査
11月19日	原始古代	考古専門部会	【議題】① 史料編「考古資料」の個別遺跡解説の原稿提出状況の確認 ② 東出雲町の遺跡について ③ 年代観の確認 ④ 12月に行う原稿確認について
11月23日	松江城	松江城関連調査	松江城石垣調査（乗岡専門委員）
11月25日	全般	松江市史編纂委員会	【議題】① 松江市史編纂基本計画の変更について ② 平成22年度の事業経過報告について ③ 平成23年度の事業計画について ④ 市史の体裁について
11月26日		近現代史料調査	八束支所・美保関支所所蔵史料調査
11月26日	絵図・地図	絵図調査	東京都内絵図調査（大矢部会長、上杉委員、高安委員）
11月29日		神魂神社所蔵史料調査	
11月29, 30日	松江城	松江城関連調査	松江城下町遺跡調査（松尾委員）
12月1日		「市史編纂コラム第3回」掲載（ホームページ）	【タイトル】上空に現れる謎の物体
12月4日		新聞記事掲載「市史の印刷部数大幅減 基本計画変更 財政事情悪化受け」	山陰中央新報
12月6-8日		佐太神社所蔵史料調査	
12月10日	松江城	松江城部会（城郭史小部会）	【議題】① 章・節立てについて ② ページ割りと体裁について ③ 今後の調査活動について ④ 部会員の増員について
12月12日	絵図・地図	絵図・地図部会	【議題】① 絵図地図名の命名基準について ② 史料編「絵図地図」の掲載資料の選定
12月14日	近現代	近現代史料調査	八束支所所蔵史料調査
12月15日		新聞記事掲載「松江市教委『見立て番付を楽しむ』発刊 江戸庶民が付けた序列」	山陰中央新報
12月16日		新聞記事掲載「松江市ふるさと文庫 新史料を発掘、成果着々〈小林准士〉」	山陰中央新報
12月16日		新聞記事掲載「決定版見立て番付を楽しむ：今も昔も「番付」好き 松江市教委から発行」	毎日新聞
12月15, 16日		信楽寺所蔵史料調査	
12月19日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」原稿確認会
12月19日	近世	近世史部会	【議題】① 史料編「近世Ⅰ」の編集について ② 史料編「近世Ⅱ」（藩法集）の編集について ③ 史料編「近世Ⅲ」の編集について ④ 通史編の執筆分担の検討と次回以降の予定 ⑤ 史料調査状況等の報告 ⑥ 絵図部会との調整
12月21日	原始古代	考古専門部会	【議題】① 史料編「考古資料」の原稿集約状況について ② 東出雲町の遺跡について ③ 12/19の原稿確認会の結果について

期日	担当部会	内 容	備 考
12月24日	松江城	松江城関連調査	大井・大海崎石切場調査
12月25, 26日	松江城	松江城関連調査	松江城・城下町調査（松尾専門委員、山上専門委員）
12月29日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」原稿確認会
平成23年			
1月 5日		「市史編纂コラム第4回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江制服図鑑明治編－私立中学修道館の巻－
1月 6日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」（旧石器時代）原稿読み合わせ
1月 7日	全般	部会長会議	【議題】市史講演会の検討、各部会からの報告 など
1月 8, 9日	原始古代	古代専門部会	【議題】① 史料編の掲載史料の選定、凡例の検討、原稿読み合わせ ② 史料編「古代・中世I」における古代・中世の頁配分の検討
1月16日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」（古墳時代）原稿読み合わせ
1月19日	原始古代	考古専門部会	【議題】① 史料編「考古資料」の原稿提出状況の確認 ② 史料編「考古資料」の字数・行数・字体・フォントの検討
1月30日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」（古墳時代）原稿読み合わせ
2月 1日	原始古代	「市史編纂だより⑥」発行（市報松江2月号に掲載）	【タイトル】『秘書』の発見
2月 1日		「市史編纂コラム第5回」掲載（ホームページ）	【タイトル】石切丁場に残る残念石
2月 3日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編「考古資料」の原稿提出状況の確認、凡例の検討
2月 3, 4日		洞光寺所蔵史料調査	
2月12日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」（古墳時代）原稿読み合わせ
2月13日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」（奈良・平安時代）原稿読み合わせ
2月14, 15日	原始古代	古代史料調査	奈良県内出土木簡調査（佐藤信委員・平石委員）
2月16日	松江城	松江城部会	【議題】① 別編「松江城」の構成の検討 ② これまでの調査・研究成果の確認 ③ 今後の調査・研究の検討 など
2月18日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編「考古資料」（古墳時代）原稿読み合わせ
2月23, 24日		信楽寺所蔵史料調査	
2月28日～3月 1日	絵図・地図	絵図調査	東京都内絵図調査（川村委員）
3月 1日		「市史通信No.1」発行（市報松江3月号に折込）	【内容】① 『松江市史』第1回記本・史料編「近世I」の概要紹介 ② 専門部会ごとの各部会長の抱負 ③ 刊行計画、編纂体制の概要紹介
3月 2日		「市史編纂コラム第6回」掲載（ホームページ）	【タイトル】明治時代のシラウオ缶詰工場～宍道湖・中海の豊かな水産資源と松江の商工業～
3月 5日	松江城	松江城関連調査	富田城石垣調査（乘岡委員）
3月 7日	近現代	近現代史料調査	松江市役所文書調査（能川委員、鬼嶋委員）
3月 8日	近現代	近現代史部会	【議題】① 市内巡見（八束町、市内団地） ② 金沢市史編纂に関する話題提供（能川編集委員） ③ 史料編の構成の検討 など
3月 8, 9日	近世	近世史料調査	草津宿関連史料調査（鳥谷委員）
3月 9日	近現代	近現代史料調査	島根県立図書館所蔵資料調査（鬼嶋委員）
3月 9～11日	原始古代	古代史料調査	本居宣長記念館所蔵史料調査（森田委員）
3月10日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編「考古資料」の原稿提出状況・協力者一覧の確認
3月10, 11日	近現代	近現代史料調査	東京都内史料調査（居石委員）
3月10日		『ふるさと文庫』13発行	「雲陽秘事記と松江藩の人々」田中則雄
3月13日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編「考古資料」（古墳時代）原稿読み合わせ
3月19日		松江歴史館開館	充実した史料の保存環境が備わり、松江市にとって貴重な史料の収集・保管と展示の基盤が整う
3月22, 23日	原始古代	古代専門部会	【議題】① 平成23年度の部会活動の検討 ② 史料編「古代・中世I」の口絵・凡例・史料解説の検討 ③ 史料編「古代・中世I」の原稿の読み合わせ ④ 通史編の構成の検討 など
3月24, 25日	松江城	松江城関連調査	三刀屋城跡調査（中井専門委員）
3月25日		『松江市歴史叢書』4（松江市史研究2号）発行	【内容】・「応仁・文明の亂と尼子氏」 ・「島根県民俗学関連雑誌等目次総論」 ・「宗教施設と宗教者からみた近世出雲の特徴」 ・「松江市史編纂日誌」 ・「附 松江市史編纂基本計画」
3月28日	全般	部会長会議	【議題】① 各部会からの報告 ② 史料講座の確認 ③ 平成23年度事業計画の検討 ④ 史料編の凡例の検討 ⑤ 編集委員会の議題の検討 など
4月 1日		「市史編纂コラム第7回」掲載（ホームページ）	【タイトル】伊能測量を契機に正確な地図を作った松江藩の人々
4月 3日	民俗	民俗部会	【議題】① 平成22年度調査報告 ② 別編「民俗」の構成の検討 など
4月 5日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の進捗状況の確認 など
4月17日		新聞記事掲載「読書 田中則雄著『雲陽秘事記と松江藩の人々』〈三原浩良〉」	山陰中央新報
4月17日	原始古代	考古専門部会	史料編「考古資料」（中世、弥生時代）原稿読み合わせ
4月18～20日		熊野大社所蔵史料調査	
4月19日	松江城	松江城関連調査	松江城関連石切場調査（大海崎・上本庄）
4月26日		松江市内寺社史料調査検討委員会	
4月26, 27日	原始古代	考古資料調査	東京国立博物館所蔵松江市内出土遺物調査（勝部委員）
5月 2日		「市史編纂コラム第8回」掲載（ホームページ）	【タイトル】佐太神社の神在祭
5月 6日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の進捗状況、凡例の確認 など
5月 7日	近世	近世史部会	【議題】史料編の凡例、内容・構成の検討、通史編の執筆分担の検討 など
5月 7, 8日	原始古代	古代専門部会	【議題】史料編凡例、史料解説の検討、原稿提出状況の確認、読み合わせ
5月 7, 8日	中世	中世史部会	【議題】① 史料編の史料の選定、区分、役割分担等の検討、読み合わせ ② 通史編の検討 など
5月 8日	民俗	民俗部会	【議題】平成23年度の調査計画の検討 など
5月 8日	全般	松江市史編集委員会	【議題】① 平成22年度事業報告、平成23年度事業計画 ② 各部会からの報告 ③ 史料講座について ④ 凡例について ⑤ 通史編について ⑥ 『松江市史研究』について
5月 9～11日		熊野大社所蔵史料調査	
5月10日	松江城	松江城部会土木史グループ会	【議題】平成23年度の調査研究、『松江城研究』の執筆方針の検討 など
5月11日	松江城	松江城部会建築史グループ会	【議題】平成23年度の調査研究、『松江城研究』の執筆方針の検討 など
5月14日	松江城	松江城部会城郭史調査	松江城石垣調査（乗岡委員）
5月16, 17日		安国寺所蔵史料調査	
5月27日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の進捗状況、資料集成、位置図の確認 など
5月29日	絵図・地図	絵図調査	神戸市立博物館所蔵絵図調査（大矢委員、上杉委員）

期日	担当部会	内 容	備 考
5月30日		新聞記事掲載「山陰行啓と近代化考える 浜田城資料館建設期成同盟会 専門家招き講演会」	山陰中央新報
6月1日		「市史編纂コラム第9回」掲載（ホームページ）	【タイトル】床几山の水道施設と外灯
6月9、10日		安国寺所蔵史料調査	
6月10日	松江城	松江城部会城郭史グループ会	【議題】調査研究と別編の編纂予定、『松江城研究』の執筆方針の検討 など
6月21日	松江城	松江城部会建築史調査	武家屋敷建築調査
6月24日		新聞記事掲載「絵図に見る水の都・松江〈上杉和央〉」	山陰中央新報
6月27日		津市視察受入（市史編纂事業）	
7月1日		「市史編纂コラム第10回」掲載（ホームページ）	【タイトル】中世松江の「筌（うけ・せん）」漁業（前編）
7月2日	全般	松江市史講座	【タイトル】絵図に見る水の都・松江（上杉委員（絵図・地図部会））
7月3日	絵図・地図	絵図・地図部会	【議題】史料編の全体構成と掲載絵図の選定 など
7月4日	松江城	松江城部会建築史調査	養益舎・武家屋敷長屋門建築調査
7月5日		新聞記事掲載「第1回市史講座 松江藩の航路図解説 京都府立大上杉准教授」	山陰中央新報
7月5日	松江城	松江城部会建築史グループ会	「竹内右兵衛書つけ」の読み合わせ など
7月7日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の進捗状況の確認 など
7月11日	松江城	松江城部会建築史グループ会	「竹内右兵衛書つけ」の読み合わせ など
7月17日	民俗	民俗調査	大庭地区聞き取り調査
7月19、20日		宮川家文書調査	
7月21日	松江城	松江城部会建築史グループ会	【議題】「竹内右兵衛書つけ」の読み合わせ など
7月23日	民俗	民俗調査	八雲地区聞き取り調査
7月24日	民俗	民俗調査	玉湯地区聞き取り調査
8月1日		「市史編纂コラム第11回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江藩土松原基と『消暑漫筆』
8月2、3日	松江城	松江城部会城下町遺跡検討会	【議題】城下町遺跡の遺構間の層序や動植物相の検討 など
8月3日	近世	近世史料調査	島根県立図書館史料調査（岸本委員）
8月5日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の進捗状況の確認 など
8月7日	自然環境	自然環境部会	【議題】通史編の執筆構成の検討 など
8月7日	全般	松江市史部会長会議	【議題】① 平成23年度事業経過報告、平成24年度事業計画について ② 各部会からの報告 ③ 平成23年度市史編纂委員会での議題について ④ 松江市史講座について
8月10日		新聞記事掲載「宍道湖畔に築かれた松江城〈山根正明〉」	山陰中央新報
8月12~14日	近世	近世史料調査	島根県立図書館史料調査（宇野田委員）
8月19日	松江城	松江城部会城郭史調査	嫁が島調査
8月20日	全般	松江市史講座	【タイトル】宍道湖畔に築かれた松江城（山根正明（松江城部会））
8月21日	民俗	民俗調査	忌部地区聞き取り調査
8月27、28日	近現代	近現代史料調査・聞き取り調査	島根県立図書館史料調査・聞き取り調査（鬼嶋委員）
8月29日	近現代	近現代史部会	【議題】史料編の収録史料・通史編の執筆分担の検討 など
8月30日	近現代	近現代史料調査	旧東出雲町役場文書調査
8月29~31日	原始古代	古代専門部会	【議題】史料編の版面・口絵案の検討・読み合わせ、通史編の構成案の検討
9月1日		「市史編纂コラム第12回」掲載（ホームページ）	【タイトル】七類の大敷網
9月1~2日	松江城	松江城調査	島根県立図書館史料調査など（堀田委員）
9月2日	原始古代	考古学専門部会松江考古学のあゆみ座談会	【議題】松江考古学のあゆみ（田中義昭・勝部部会長、西尾委員、松本委員、丹羽野委員）
9月6日		三谷家文書運搬	
9月7日		新聞記事掲載「近世水運と松江 幕末の松江渡海場〈多久田友秀〉」	山陰中央新報
9月8日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の進捗状況の確認、通史編の執筆項目の検討 など
9月10日	全般	松江市史講座	【タイトル】近世水運と松江（多久田委員（近世史部会））
9月15、16日	絵図・地図	絵図調査	東京方面絵図調査（大矢委員）
9月17、18日	近世	近世史部会	【議題】史料編・通史編の構成案の検討 など
9月24、25日	中世	中世史部会	【議題】史料編の進捗状況の確認、通史編の執筆内容の検討 など
9月25日	民俗	民俗部会	【議題】映像・音声資料の取扱いの検討、今後の予定の確認 など
10月3日		新聞広告「松江市史 史料編5近世I 12月上旬発行予定」	山陰中央新報
10月3日		「市史編纂コラム第13回」掲載（ホームページ）	【タイトル】東京出雲学生会
10月6日	原始古代	考古専門部会	【議題】① 史料編の進捗状況の確認、追加掲載遺跡や用語解説・用語の検討 ② 通史編の執筆予定項目の検討、今後の予定の確認
10月7日	全般	松江市史編纂委員会	【議題】① 平成23年度事業経過報告について ② 24年度事業計画について ③ 各部会からの報告 ④ 「近世I」「考古資料」の出版について
10月10日		新聞広告「松江市史 史料編5近世I 12月上旬発行予定」	山陰中央新報
10月10日	原始古代	考古専門部会	史料編の古墳時代の原稿確認（校正）
10月15日	原始古代	考古専門部会	史料編の中世・近世の原稿確認（校正）
10月16日		新聞記事掲載「読書 玉木勲著『松江藩を支えた代々家老六家』〈乾隆明〉」	山陰中央新報
10月19日	原始古代	考古専門部会	【議題】通史編の構成（執筆項目）の検討
10月21日		新聞記事掲載「中世水運と松江－城下町形成の前史を探る〈長谷川博史〉」	山陰中央新報
10月22日	松江城	松江城関連調査	松江城関連石垣調査（乗岡委員）
10月23日		新聞広告「松江市史 史料編5近世I 12月上旬発行予定」	山陰中央新報
10月26日		三谷家文書整理協議	
10月29日	全般	松江市史講座	【タイトル】中世水運と松江（長谷川委員（中世史部会））
10月30日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の奈良・平安時代の原稿確認（校正）
10月31日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の弥生時代の原稿確認（校正）
11月1日		「市史編纂だより⑦」発行（市報松江11月号に掲載）	【タイトル】『報国』一失敗に終わった改革第一弾
11月1、2日		三島家文書調査	
11月3日		新聞記事掲載「〔松江市史〕の近世史料集刊行 藩政改革地誌を収録〈乾隆明〉」	山陰中央新報
11月3日		「市史編纂コラム第14回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江城下町商家の営約計画
11月4日		新聞記事掲載「大井窯での須恵器生産と中海・宍道湖〈丹羽野裕〉」	山陰中央新報
11月11日	松江城	松江城部会建築史調査	武家屋敷建築調査
11月12日		新聞記事掲載「松江城研究の最前線 26日の報告会に参加を〈山根正明〉」	山陰中央新報
11月12日	原始古代	松江市史講座	【タイトル】古代出雲の須恵器生産と中海・宍道湖の水運（丹羽野委員（原始古代史部会））
11月21日	原始古代	考古専門部会	【議題】史料編の進捗状況の確認、目次・凡例・口絵・用語解説などの検討

期日	担当部会	内 容	備 考
11月25日	松江城	松江城部会	[議題] ① 別編の掲載史料や執筆項目について ② 「松江城研究」について ③ 松江城研究報告会についてなど
11月26日	松江城	松江城研究報告会	[シンポジウム] 松江城研究の最前線－わかったこととこれからと－
11月29日	原始古代	考古専門部会	[議題] 史料編の進捗状況の確認、用語解説などの検討
12月 1日		新聞記事掲載「宍道湖漁業の変遷〈伊藤康宏〉」	山陰中央新報
12月 1日		「市史編纂だより⑧」発行（市報松江12月号に掲載）	[タイトル]『治国譜』－松江藩の大改革「御立派の改革」を記す貴重な書
12月 3日		「市史編纂コラム第15回」掲載（ホームページ）	[タイトル] 図解で知る近代化以前の山陰漁業（伊藤委員（近現代史部会））
12月 2日	自然環境	自然環境部会	[議題] 通史編の執筆構成の検討 など
12月 3日	絵図・地図	絵図・地図部会	[議題] 史料編の全体構成と掲載絵図の選定 など
12月 5日	近世	近世史料調査	京都大学史料調査（岸本委員）
12月 7日		新聞広告「松江市史 史料編5近世I お待たせしました！ 1月上旬発行」	山陰中央新報
12月10日	全般	松江市史講座	[タイトル] 宍道湖の恵みと宍道湖漁業（伊藤委員（近現代史部会））
12月10, 11日	原始古代	古代専門部会	[議題] 史料編の目次・口絵・ルビの検討、通史編の構成の検討 など
12月15日		新聞広告「松江市史 史料編5近世I お待たせしました！ 1月上旬発行」	山陰中央新報
		チラシ「松江市史 ご予約受付中 いよいよ刊行開始!! 第 1回配本 史料編『近世I』」	今井書店
12月20, 21日	松江城	松江城関連調査	松江城関連山城（赤穴城）調査（中井委員）
12月22日	中世	中世史料調査	三木家文書（香川県）調査（川岡委員）
12月25日		『松江市史』史料編5「近世I」発行	(第1回配本)
平成24年			
1月 1日		市報記事掲載「いよいよ発刊松江市史 歴史の中に地域の 夢・地域の未来を見つけます」「市史編纂だより⑨」（市報松 江1月号に掲載）	[タイトル]「出雲録」
1月 4日		「市史編纂コラム第16回」掲載（ホームページ）	[タイトル] 美保閑町七類の「鉈盜られ物語」のこと
1月 6日		新聞記事掲載「龍蛇と神在祭〈品川知彦〉」	山陰中央新報
1月 6日	全般	松江市史部会長会議	[議題] ① 『松江市史 史料編5近世I』の発刊について ② 松江市史講座について ③ 各部会からの報告 など
1月14日		新聞広告「松江市史いよいよ発刊！ 第1弾 史料編『近世 I』」	山陰中央新報
1月14日	全般	松江市史講座	[タイトル] 龍蛇と神在祭 海への信仰（品川委員（民俗部会））
1月21日		新聞記事掲載「明窓『松江市史』の刊行始まる」	山陰中央新報
1月24日		新聞記事掲載「松江市史第1弾発刊 史料編5近世I「新政 弁疑」など収録」	山陰中央新報
1月25日	原始古代	考古専門部会	[議題] 史料編の進捗状況の確認・口絵の検討、通史編の検討
1月28~30日	原始古代	古代専門部会	[議題] 史料編の進捗状況の確認、通史編の検討 など
1月29日	原始古代	原始古代史部会	[議題] 通史編の検討
2月 1日		「市史編纂だより⑩」発行（市報松江2月号に掲載）	[タイトル]「土工記」
2月 1日		「市史編纂コラム第17回」掲載（ホームページ）	[タイトル] 伊能忠敬 第八次測量隊の足跡をたどる
2月 3日		新聞記事掲載「宍道湖の誕生と治水・災害〈高安克己〉」	山陰中央新報
2月6~8日		熊野大社文書調査	
2月 8日		新聞記事掲載「藩政改革語る『新政弁疑』『松江市史』掲 載の新史料〈三宅正浩〉」	山陰中央新報
2月10日		新聞記事掲載「松江市史第1弾を発刊 近世焦点『史料編 5』新市域を対象 全18巻刊行へ」	中国新聞
2月11日	全般	松江市史講座	[タイトル] 宍道湖の誕生と治水・災害（品川委員（民俗部会））
2月13日	松江城	松江城部会建築史グループ会	[議題] 武家屋敷調査の集約、「建物図」の取扱いの検討 など
2月27日	近世	近世史部会	[議題] 史料編の進捗状況の確認、通史編の執筆分担の検討 など
3月 1日		「市史編纂だより⑪」発行（市報松江3月号に掲載）	[タイトル] 松江考古学120年のあゆみ
3月 1日		「市史通信No.2」発行（市報松江3月号に折込）	[内容] ① 『松江市史』第2弾・史料編「考古資料」の概要紹介 ② 刊行計画、市史講座、市史編纂コラムの概要紹介 ③ 松江考古学120年の集大成について
3月 1日		「市史編纂コラム第18回」掲載（ホームページ）	[タイトル]『(竹内右兵衛書つけ)』について
3月 2日	松江城	松江城関連調査	松江城関連石材調査（先山委員）
3月 3日	松江城	松江城部会	[議題] ① 別編の掲載資料や執筆項目について ② 『松江城研究』について ③ 松江市史講座について など
3月 5日		新聞記事掲載「古代律令制下の山陰と国際交流〈大日方克己〉」	山陰中央新報
3月 5日	近現代	近現代史料調査	日赤島根県支部所蔵文書調査（鬼嶋委員）
3月 6日	原始古代	原始古代史部会（通史編作業部会）	[議題] 通史編の検討
3月 6日	近現代	近現代史料調査	松江赤十字病院図書室調査、島根県公文書センター調査（鬼嶋委員）
3月 7日	近現代	近現代史部会	[議題] 史料調査状況の確認、通史編の執筆項目・分担の検討 など
3月 8, 9日	近現代	近現代史料調査	旧東出雲町役場文書調査、島根県立図書館所蔵史料調査（能川委員・鬼嶋委員）
3月10日	全般	松江市史講座	[タイトル] シンポジウム「世界に開かれた松江」
3月15日	原始古代	古代専門部会	[議題] 史料編の進捗状況の確認、通史編の構成の検討 など
3月17, 18日	中世	中世史部会	[議題] 史料編の進捗状況の確認 など
3月18日	原始古代	考古専門部会	[議題] 史料編の贈呈、通史編の検討 など
3月20日		『ふるさと文庫』14発行	『松江掃苔錄－松江藩を支えた家と人－』青山侑市氏
3月19日		『松江市史』史料編2「考古資料」発行	(第2回配本)
3月21日		『松江市歴史叢書』5（松江市史研究3号）発行	
3月21日		『松江城研究』1号発行	
3月23日	松江城	松江城関連調査	丸亀市立資料館所蔵絵図調査（渡辺理絵委員・大矢委員）
3月24, 25日	松江城	松江城関連調査	三刀屋城跡調査（中井専門委員）
3月25日		新聞広告「松江市史第2弾発刊！ 史料編2「考古資料」好 評発売中！」	山陰中央新報
3月25日	全般	新聞広告掲載	『松江市史 史料編2 考古資料』発刊
3月25日	自然環境	自然環境部会	[議題] 通史編の執筆項目の検討 など
3月25日	民俗	民俗部会	[議題] 23年度調査状況の確認、別編の執筆項目の検討 など
3月26日	全般	松江市史部会長会議	[議題] ① 23年度事業報告、24年度事業計画・予算について ② 各部会からの報告 ③ 24年度市史編纂委員会での議題と通史編の検討 ④ 「考古資料」の発刊と「近世I」「考古資料」の総括 など
4月 1日		「市史編纂だより⑫」発行（市報松江4月号に掲載）	[タイトル] 松江考古学120年の歩み－遺跡の保存運動－
4月 1日		「市史編纂コラム第19回」掲載（ホームページ）	[タイトル] 国内最古の人物埴輪セット－石屋古墳－
4月 1日		新聞記事掲載「ベストセラーズ 松江 ①松江市史 史料編 2「考古資料」」	山陰中央新報

期日	担当部会	内 容	備 考
4月4日		新聞記事掲載「気象災害からみる松江の気候 〈田坂郁夫〉」	山陰中央新報
4月10日		新聞記事掲載「『壳布神社における住民の信仰と芸能』〈小林准士〉」	山陰中央新報
4月12日		新聞記事掲載「松江の主要遺跡を網羅 市史史料編2発刊」	山陰中央新報
4月14日	全般	松江市史講座	〔第1部〕気象災害からみる松江の気候(田坂委員(自然環境部会)) 〔第2部〕神社における都市住民の信仰と芸能(小林委員(近世史部会))
4月20日		乾隆明編纂委員から「松江神社の棟札を調査してほしい」と史料編纂室長に依頼	松江神社宮司との日程調整により、調査日は翌5月21日午後と決まる
4月21日	中世	石造物調査	洞光寺
4月24日		新聞記事掲載「『松江城研究』市教委が冊子 年1回目標に発行」	山陰中央新報
4月24日		「ふみのしるべ第1回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕「出雲私史」
4月27日	松江城	松江城部会建築史グループ会	〔議題〕別編「松江城」の項目の検討、今後の調査研究の確認など
4月29日		新聞記事掲載「青山侑市著『松江掃苔録』〈乾隆明〉」	山陰中央新報
5月1日		「市史編纂だより13」発行(市報松江5月号に掲載)	〔タイトル〕松江考古学120年の歩みー史跡を守ったエピソードー 〔タイトル〕江戸時代の中海・宍道湖水運の主役「渡海船」 (多久田委員(近世史部会))
5月1日		「市史編纂コラム第20回」掲載(ホームページ)	
5月1, 2日	松江城	松江城関連調査	松江城関連山城(三沢城)調査(中井委員)
5月9日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕通史編の項目・内容の検討など
5月10日		新聞記事掲載「松江市史 史料編2『考古資料』の刊行に寄せて〈勝部 昭〉」	山陰中央新報
5月11日		新聞記事掲載「中世の松江市域と橋〈西田友宏〉」	山陰中央新報
5月14日		新聞記事掲載「出雲国風土記と松江地域〈野々村安浩〉」	山陰中央新報
5月15日	絵図・地図	絵図調査	尊経閣文庫所蔵絵図調査(大矢委員)
5月16, 17日	絵図・地図	絵図調査	宮城県立図書館所蔵絵図調査(大矢委員、渡辺(理)委員) 〔第1部〕中世の松江市域と橋(西田委員(中世史部会)) 〔第2部〕『出雲国風土記』と松江地域(野々村委員(原始古代史部会))
5月19日	全般	松江市史講座	
5月19~21日	絵図・地図	絵図調査	松江市内絵図調査(上杉委員)
5月21日		市内寺社史料調査により松江神社で松江城天守祈禱札二枚発見	
5月24, 25日	松江城	松江城部会城下町遺跡検討会	〔議題〕城下町遺跡の遺構・遺物の検討など
5月25日		祈禱札赤外線調査(島根県立古代出雲歴史博物館にて)	
5月26日	中世	石造物調査	道榮寺
5月26, 27日	松江城	松江城関連調査	松江城石垣の調査(乘岡委員) 松江城関連山城の調査(山上委員)
5月27日	民俗	民俗部会	〔議題〕別編「民俗」の項目の検討、今年度の調査予定の確認など
5月29日		松江城天守祈禱札二枚発見の記者発表	
5月30日		新聞記事掲載「75年ぶり祈禱札2枚 松江神社で見つかる」	山陰中央新報
5月30日		新聞記事掲載「松江城の祈禱札見つかる 70年近く不明 50万円の懸賞金効果!」	産経新聞
5月30日		新聞記事掲載「松江城創建の祈とう札発見 懸賞金付きの資料、松江神社から」	島根日日新聞
5月30日		新聞記事掲載「松江城の祈禱札発見 創建年解明、国宝化へ一步」	日本海新聞
5月30日		新聞記事掲載「松江城築城の祈禱札出た 市が懸賞金500万円」	中国新聞
5月30日		新聞記事掲載「祈禱札2枚を発見 松江城天守・築城年特定の鍵」	毎日新聞
5月30日		新聞記事掲載「発見、松江城祈禱札 松江神社から「国宝化近づける」」	朝日新聞
5月30日		新聞記事掲載「松江築城年記す木札「確保」 近くの神社で2枚 国宝指定へ弾み」	読売新聞
5月30日		松江市内寺社史料調査検討委員会	
6月1日		「市史編纂だより14」発行(市報松江6月号に掲載)	〔タイトル〕松江考古学120年の歩みー遺跡から見つかる古代の文字資料ー
6月1日		「市史編纂コラム第21回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕気象の記録あれこれ
6月1日		「ふみのしるべ第2回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕「懐橋談」
6月3日	全般	松江市史編集小委員会	〔議題〕① 通史編の編集スケジュールについて ② 通史編の編集方針について ③ 各部会からの報告(松江市域の持つ歴史的特徴について)
6月6日	松江城	松江城部会城郭史グループ会	〔議題〕別編「松江城」の項目の検討、今後の調査研究の確認など
6月12, 13日	絵図・地図	絵図調査	松江・出雲市内絵図調査(川村委員)
6月12日		新聞記事掲載「松江の外の松江一同郷会と同郷人雑誌〈竹永三男〉」	山陰中央新報
6月13日		新聞記事掲載「ニホンアシカと島根県〈佐藤仁志〉」	山陰中央新報
6月16日	全般	松江市史講座	〔第1部〕東京の松江、大阪の松江(竹永三男(近現代史部会)) 〔第2部〕松江市の動物たちー過去・現在・未来ー(佐藤仁志(自然環境部会))
6月16日	自然環境	自然環境小部会	〔議題〕通史編の執筆方針・構成の確認・検討など
6月23, 24日	中世	中世史部会	〔議題〕史料編の校正方法の確認、通史編の執筆内容の検討など
6月23, 24日	近世	近世史部会	〔議題〕史料編の校正・掲載史料の確認、通史編の執筆内容の検討など
6月23日	近現代	近現代史料調査	松江市内史料調査(鬼崎委員)
6月24日	近現代	近現代史部会	〔議題〕史料編の掲載史料の確認、通史編の執筆内容の検討など
6月24日	全般	松江市史編集委員会	〔議題〕① 事業報告、事業計画 ② 各部会からの報告 ③ 通史編について
6月26日	松江城	松江城部会土木史グループ会	〔議題〕別編「松江城」の項目の検討、今後の調査研究の確認など
7月1日		「市史編纂だより15」発行(市報松江7月号に掲載)	〔タイトル〕松江考古学120年の歩みー松江市域から出土する装飾付太刀ー
7月2日		「市史編纂コラム第22回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕松江市指定文化財(建造物)武家屋敷
7月2日		「ふみのしるべ第3回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕松江亀田山千鳥城取立之古説
7月5日		新聞記事掲載「律令国家と出雲〈佐藤信〉」	山陰中央新報
7月10日	民俗	建造物調査	養益舎
7月15日	原始古代	古代専門部会	〔議題〕史料編の校正作業等の確認、通史編の項目・内容の検討など
7月14, 15日	松江城	松江城部会	〔議題〕別編「松江城」の項目の検討、今後の調査研究の確認など
7月15日	絵図・地図	絵図・地図部会	〔議題〕史料編「絵図・地図」の原稿の確認と出版に向けた検討など
7月15日	全般	松江市史講座	〔第1部〕律令国家と出雲(佐藤信(原始古代史部会)) 〔第2部〕絵図にみる城下町松江(渡辺理絵(絵図・地図部会))
7月15日	中世	石造物調査	秋鹿
7月17日	民俗	建造物調査	渋谷家
7月24日	民俗	建造物調査	宍道:土江家
8月1日		「市史編纂コラム第23回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕まほろしの松江城博覧会(前編)
8月2日		新聞記事掲載「松江に人が住み始めたころ〈丹羽野裕〉」	山陰中央新報
8月7日		新聞記事掲載「室町時代の京極氏と出雲支配〈川岡勉〉」	山陰中央新報

期日	担当部会	内 容	備 考
8月7日	民俗	建造物調査	秋鹿：香川家
8月11日	原始古代	考古専門部会	【議題】通史編について 〔第1部〕松江に人が住み始めた頃（丹羽野裕（原始古代史部会）） 〔第2部〕室町時代の京極氏と出雲支配（川岡勉（中世史部会））
8月11日	全般	松江市史講座	八雲
8月12日	中世	石造物調査	八雲：岩田家
8月21日	民俗	建造物調査	報恩寺
9月2日	中世	石造物調査	天徳寺
9月4日	民俗	建造物調査	山陰中央新報
9月5日		新聞記事掲載「松江市南部農村部のムラ〈喜多村 正〉」 パンフレット「松江市史 史料編3古代・中世I 史料編6近世II 購入申込書」	〔第1部〕平安時代の出雲の受領（大日方克己（原始古代史部会）） 〔第2部〕松江市南部農村部のムラ（喜多村正（民俗部会））
9月8日	全般	松江市史講座	【議題】①事業報告、事業計画 ②松江市史編集状況について ③編纂委員会の議題について ④来年度の市史講座の組み方について ⑤通史編集についての編集小委員会の開催について
9月10日	自然環境	自然環境部会	【議題】通史編の執筆方針・構成の検討、今後の予定の確認など
9月10日	絵図・地図	絵図・地図小部会	【議題】史料編「絵図・地図」の読み合わせなど
9月16日	民俗	民俗部会	【議題】別編「民俗」の執筆要領・凡例の検討、今後の予定の確認など
9月17, 18日	近世	近世史料調査	福井県内史料調査（岸本委員、小林委員）
9月18日	民俗	建造物調査	三谷家
9月25日	民俗	建造物調査	三谷家
10月1日		「市史編纂コラム第24回」掲載（ホームページ）	【タイトル】大庭梨について－松江藩主から徳川將軍家への献上品－
10月6, 7, 8日	中世	石造物調査	高野山（西尾委員、稻田、木下）
10月9日	全般	松江市史編纂委員会	【議題】① 事業報告について ② 松江市史編集状況について ③ 事業計画について
10月9日	民俗	建造物調査	田野医院
10月10日		新聞記事掲載「『ヨモツヒラサカ』を越えた神々〈森田喜久男〉」	山陰中央新報
10月17日		新聞記事掲載「戦時期松江の保健衛生と医療（鬼嶋淳）」	山陰中央新報
10月19, 20日	松江城	松江城関連調査	米子城・松江城石垣の調査（乘岡委員）
10月20日	全般	松江市史講座	〔第1部〕『ヨモツヒラサカ』を越えた神々（森田喜久男（原始古代史部会）） 〔第2部〕戦時期松江の保健衛生と医療（鬼嶋淳（近現代史部会））
10月20日	近現代	近現代史部会	【議題】史料編の掲載史料の確認、通史編の執筆分担の確認など
10月23～26日	松江城	松江城関連調査	犬山城・松本城の調査（和田委員）
10月24日	民俗	建造物調査	清光院
10月27, 28日	原始古代	古代専門部会	【議題】史料編の校正作業等の確認、今後のスケジュールの確認など
10月29日	近現代	史料編纂室執務室移転	松江市環境センター→新松江市環境センター（本課の文化財課と別室になる）
11月3, 4日	松江城	松江城関連調査	浜松城・二俣城石垣の調査（乗岡委員）
11月6日		新聞記事掲載「島根県の縄文時代〈山田康弘〉」	山陰中央新報
11月10日	全般	松江市史講座	〔第1部〕山陰地方の縄文時代（山田委員（原始古代史部会）） 〔第2部〕松平直政書状を読む（三宅委員（近世史部会））
11月18日	民俗	松江潟の内汀線調査	松江潟の内汀線調査検討会
11月18日	原始古代	考古専門部会	【議題】通史編の検討、平成25年度の市史講座、今後の予定など
11月18日	中世	中世史部会	【議題】史料編Iの校正の検討、IIの史料の確認、通史編の検討など
11月26～30日		三谷権大夫家文書整理	
11月22日	民俗	建造物調査	島根半島
12月1, 2日	近世	近世史部会	【議題】史料編IIの校正状況の確認、III・IVの史料選定、通史編の検討など
12月2日	絵図・地図	絵図・地図部会	【議題】史料編「絵図・地図」の原稿の確認と出版に向けた検討など
12月4日		新聞記事掲載「松江の植物 市全域が照葉樹林域〈萩村喜則〉」	山陰中央新報
12月6日		新聞記事掲載「江戸時代の松江の建造物〈足立正智〉」	山陰中央新報
12月8日	全般	松江市史講座	〔第1部〕松江市の植物（萩村喜則（自然環境部会）） 〔第2部〕江戸時代の松江の建造物（足立正智（松江城部会））
12月8, 9日	松江城	松江城部会	【議題】別編の項目立ての検討、今後の調査研究の確認など
12月9日		石造物調査	調査成果検討会
12月9, 10日	松江城	松江城関連調査	富田城調査（中井委員）
12月16日	民俗	民俗部会	【議題】別編「民俗」の検討、今後の予定の確認など
12月17, 18日	原始古代	古代専門部会	【議題】史料編の全体校正の確認、今後のスケジュールの確認など
12月11, 12日		古文書調査	奥原家

平成25年

1月8日		新聞記事掲載「残されなかった史料から考える〈原 慶三〉」	山陰中央新報
1月9日		新聞記事掲載「出雲国の成立 意宇郡と出雲国〈平石 充〉」	山陰中央新報
1月12日	全般	松江市史講座	〔第1部〕出雲国の成立－意宇郡と出雲国－（平石充（原始古代史部会）） 〔第2部〕残らなかった史料から考える－鎌倉幕府の成立が出雲国に与えた影響－（原慶三（中世史部会））
1月15日		「市史編纂コラム第25回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江城創建に関わる祈祷札の発見
1月15, 16日		古文書調査	奥原家
1月23日		『ふるさと文庫』15発行	「中世水運と松江－城下町形成の前史を探る－」長谷川博史
1月25日	民俗	民俗小部会	【議題】写真の検討
1月26日	中世	石造物調査	調査成果検討会
1月28日		新聞記事掲載「松江市域の弥生時代〈松本岩雄〉」	山陰中央新報
2月1日		「3月発刊予定の松江市史」（市報松江2月号に掲載）	史料編「古代・中世I」「近世II」の紹介
2月4日		新聞記事掲載「松江藩の儒学者たち－宇佐美灝水と桃白鹿（宇野田尚哉）」	山陰中央新報
2月6日	自然環境	松江潟の内汀線調査	ジオスライサー調査
2月9日	全般	松江市史講座	〔第1部〕松江の弥生時代（松本岩雄（原始古代史部会）） 〔第2部〕松江藩の儒学者たち－宇佐美灝水と桃白鹿－（宇野田尚哉（近世史部会））
2月10日	原始古代	考古専門部会	【議題】通史編のサンプル原稿の検討など
2月16日	中世	石造物調査	調査成果検討会
2月20, 21日		松江市内寺社史料調査	華蔵寺
2月25日		「市史編纂コラム第26回」掲載（ホームページ）	松江開府を成し遂げた堀尾期に関わる石塔群－高野山奥之院－
2月26日		新聞記事掲載「歩兵第63連隊の誘致と松江の都市社会〈能川 泰治〉」	山陰中央新報
2月27日		新聞記事掲載「『中世水運と松江』を読む〈中司健一〉」	山陰中央新報

期日	担当部会	内 容	備 考
2月28日	民俗	民俗小部会	〔議題〕写真の検討
3月1日		「松江市史通信No.3」発行（市報松江3月号に折込）	
3月6日		新聞記事掲載「山代・大庭古墳群からみる6世紀の東西出雲〈西尾克己〉」	山陰中央新報
		新聞広告「松江市史 史料編3「古代・中世I」、史料編6「近世II」」	山陰中央新報
3月9日	近現代	近現代史部会	〔議題〕史料編の掲載史料の検討・校正分担の確認、今後の計画など （第1部）一王家の谷一山代・大庭古墳群と横穴墓（西尾克己（原始古代史部会）） （第2部）歩兵第63連隊の誘致と松江の都市社会（能川泰治（近現代史部会））
3月9日	全般	松江市史講座	〔議題〕史料編の掲載史料の検討・校正分担の確認、今後の計画など （第1部）一王家の谷一山代・大庭古墳群と横穴墓（西尾克己（原始古代史部会）） （第2部）歩兵第63連隊の誘致と松江の都市社会（能川泰治（近現代史部会））
3月10日	中世	石造物調査	調査成果検討会
3月14日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 平成24年度事業報告・25年度事業計画・25年度予算について ② 各部会からの報告 ③ 平成25年度市史編集委員会の日程、議題、通史編の検討について ④ 史料編「古代・中世I」「近世II」の発刊と編集の総括
3月15日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕通史編のサンプル原稿の検討など
3月21～23日	松江城	松江城関連調査	松江歴史館所蔵城郭図調査（渡辺理絵委員）
3月23日	自然環境	古代専門部会	〔議題〕通史編のサンプル原稿の検討など
3月25日		『松江市史』史料編3「古代・中世I」発行	（第3回配本）
3月25日		『松江市史』史料編6「近世II」発行	（第4回配本）
3月26日	松江城	新聞広告掲載	松江市史史料編3「古代・中世I」「近世II」発刊（山陰中央新報）
3月26日	松江城	松江城関連調査	松江城地盤関連大阪調査（河原委員）
3月28、29日	近世	近世史部会	〔議題〕史料編III・IVの史料選定、通史編の検討など
3月29日		祈祷札を松江市指定文化財に指定	歴史資料 松江城天守祈祷札二枚
3月8日		『松江市歴史叢書』6（松江市史研究4号）発刊	
4月1日		『市史編纂コラム第27回』掲載（ホームページ）	〔タイトル〕中世 宍道湖の汀線調査見聞録
4月4日		新聞記事掲載「宍道湖・中海と魚たち〈越川敏樹〉」	山陰中央新報
4月7日	民俗	民俗部会	〔議題〕別編「民俗」に向けての中間発表会、本文掲載写真の取扱の検討など
4月8日		新聞記事掲載『土光記』にみる河川の維持管理と藩政改革（東谷智）	山陰中央新報
4月13日	全般	松江市史講座	〔第1部〕宍道湖・中海と魚たち（越川敏樹（自然環境部会）） 〔第2部〕『土光記』にみる河川の維持管理と藩政改革（東谷智（近世史部会））
4月26日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 通史編作成にあたって ② 史料編「絵図・地図」掲載の絵図について ③ 調査費金・市史の贈呈先等についてなど
5月2、3日	近世	近世史料調査	津山市内史料（岸本委員）
5月6日	松江城	松江城関連調査	宇賀山丘陵
5月7、8日	松江城	松江城関連調査	富田城・米子城（山上委員）
5月9日		新聞記事掲載「邪馬台国と前方後円墳時代のはじまり（池淵俊一）」	山陰中央新報
5月11日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕通史編の原稿の検討など
5月11日	民俗	民俗部会	〔議題〕別編「民俗」に向けての中間発表会、索引などの検討
5月12日	中世	石造物調査	中世石造物所在確認（島根半島）
5月14日		新聞記事掲載「松江市の誕生（居石正和）」	山陰中央新報
5月14日	民俗	民俗（建物）調査	本庄庄屋敷
5月16日	民俗	民俗（建物）調査	木実方蔵（米田酒造）
5月19日	全般	松江市史講座	〔第1部〕邪馬台国と前方後円墳のはじまり（池淵俊一（原始古代史部会）） 〔第2部〕松江市の誕生（居石正和（近現代史部会））
5月25、26日	松江城	松江城関連調査	名古屋城（乗岡委員）
5月28、29日	松江城	松江城下町遺跡検討会	〔議題〕今後の調査・研究のあり方の検討及び城下町遺跡出土遺物調査
5月30日	民俗	民俗（建物）調査	木実方蔵（米田酒造）
6月2日	民俗	民俗部会	〔議題〕別編「民俗」に向けての中間発表会など
6月4日		新聞記事掲載「いわゆる「慶長日本総図」の誤認を解く（川村博忠）」	山陰中央新報
6月6日	民俗	民俗（建物）調査	木実方蔵（米田酒造）
6月8日	原始古代	古代専門部会	〔議題〕通史編の原稿の検討など
6月8日	中世	中世史部会	〔議題〕史料編IIの内容検討・原本校正、通史編の全体構成の検討など
6月8日	近世	近世史部会	〔議題〕史料編III・IVの検討、通史編の検討など
6月8日	民俗	民俗（建物）調査	木実方蔵（米田酒造）
6月9日	全般	松江市史編集委員会	〔議題〕① 通史編集のための検討会 ② 平成24年度事業報告、平成25年度事業計画 ③ 各部会の編纂状況 ④ 編集体制（専門部会）、編纂計画の一部見直しについてなど
6月9日	近現代	近現代史部会	〔議題〕史料編・通史編の検討など
6月12日		新聞記事掲載「神と仮の国・出雲（森田喜久男）」	山陰中央新報
6月12日		近現代史料調査	日赤島根県支部文書
6月12、13日	近世	近世史料調査	津山市内史料（岸本委員）
6月13日	民俗	民俗調査	高梁市木野山神社（喜多村理子委員）
6月15日	全般	松江市史講座	〔第1部〕神と仮の国、出雲（森田喜久男（原始古代史部会）） 〔第2部〕いわゆる「慶長日本総図」の誤認を解く（川村博忠（絵図・地図部会））
6月16日	絵図・地図	絵図・地図部会	〔議題〕史料編の本図・折図・挿図、記述内容、全体構成の検討など
6月23日	松江城	文献・歴史地理・建築グループ会	〔議題〕別編の検討及び兵庫県立歴史博物館所蔵絵図調査
6月29日	松江城	城郭史グループ会	〔議題〕① 料理調査状況の確認 ② 別編の執筆項目と執筆スケジュールの再検討 ③ 別編の版組の検討など
7月1日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 編纂委員会の日程、議題について ② 通史編原稿の送付方法について ③ 編纂体制図について ④ 通史編執筆にあたっての要点整理について ⑤ 部会間の連携、情報共有について ⑥ 平成26年度松江市史講座の部会間調整についてなど
7月1日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕通史編の検討など
7月3日	全般	市内寺社史料調査検討委員会	
7月3日		新聞記事掲載「中世出雲神話の世界と「意宇六社」（井上寛司）」	山陰中央新報
7月8日		新聞記事掲載「石垣から松江城を考える（乗岡実）」	山陰中央新報

期日	担当部会	内 容	備 考
7月13日	全般	松江市史講座	[第1部] 中世出雲神話の世界と「意宇六社」(井上寛司(中世史部会)) [第2部] 石垣から松江城を考える(乗岡実(松江城部会))
7月14日	松江城	松江城部会	[議題] ① 事業経過と今後の予定の確認 ② 各グループ・編纂室の調査状況等の報告 ③ 別編の執筆項目と執筆スケジュールの再検討 ④ 別編の版組の検討など
7月20日	原始古代	考古専門部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
7月21日		「市史編纂コラム第28回」掲載(ホームページ)	[タイトル] 松江城下町遺跡検討会が開催されました
8月5日	原始古代	古代専門部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
8月9日		新聞記事掲載「鉈とられ物語のこと〈酒井薫美〉」	山陰中央新報
8月11日	中世	石造物調査	中世石造物所在確認(八束町、東出雲町、玉湯町)
8月14日		新聞記事掲載「出雲地方の地質と化石〈入月俊明〉」	山陰中央新報
8月17日	全般	松江市史講座	[第1部] 出雲地方の地質と化石(入月俊明(自然環境部会)) [第2部] 民話(鉈盗られ物語ほか)(酒井薫美(民俗部会))
8月20日	近世	御用留掲載史料検討会	[議題] 史料編Ⅲ・Ⅳの検討、通史編の検討など
8月20, 22日	近現代	近現代史料調査	旧町村役場文書
9月5日		「市史編纂コラム第29回」掲載(ホームページ)	[タイトル] 一生寄記—ある足軽の手記—
9月13日	近現代	近現代史料調査	旧町村役場文書(鹿島支所所蔵)
9月14日	近現代	近現代史部会	[議題] 史料編・通史編の検討など
9月16日		新聞記事掲載「水の都の恩恵と脅威—松江と江戸—〈渡辺浩一〉」	山陰中央新報
9月18日		新聞記事掲載「松江市史「プレ出雲国」の成立～5・6世紀の松江～〈松尾充晶〉」	山陰中央新報
9月18～20日	松江城	松江城関連調査	隱岐の山城(中井委員)
9月20～22日	近世	近世史料調査	隱岐地内史料(岸本委員)
9月21日	全般	松江市史講座	[第1部] “プレ出雲国”成立の背景(松尾充晶(原始古代史部会)) [第2部] 水の都の恩恵と脅威(渡辺浩一(近世史部会))
9月21, 22日	中世	中世史部会	[議題] 史料編IIの原本校正、通史編の全体構成の検討など
9月22日	原始古代	考古専門部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
9月27日	松江城	文献・歴史地理・建築グループ会	[議題] 文献検討会
10月4日	全般	松江市史編纂委員会	[議題] ① 事業報告について ② 松江市史編集状況について ③ 事業計画について
10月4日	全般	松江市史部会長会議	[議題] ① 執筆終了後の部会運営・経費の支出について ② 松江市史講座の調整についてなど
10月5日	松江城	松江城関連調査	松江歴史館所蔵資料(和田委員)
10月5日	中世	石造物調査	中世石造物所在確認(東出雲町)
10月8日		新聞記事掲載「戦国時代の山城～縄張りを読み解く〈中井邦〉」	山陰中央新報
10月9日		新聞記事掲載「外海漁業と八束郡の漁業組合〈伊藤康宏〉」	山陰中央新報
10月10日		新聞記事掲載「出雲国府の実像〈佐藤信〉」	山陰中央新報
10月11日	自然環境	パンフレット「松江市史 史料編4中世II 購入申込書」	[議題] 通史編の原稿の検討など
10月13日	絵図・地図	絵図・地図部会	[議題] 史料編の全体校正の確認など
10月19日	全般	松江市史講座	[第1部] 出雲国府の実像(佐藤信(原始古代史部会)) [第2部] 外海漁業と八束郡の漁業組合(伊藤康宏(近現代史部会))
10月19日	近現代	近現代史部会	[議題] 史料編・通史編の検討など
10月19, 20日	近世	近世史部会	[議題] 史料編III・IVの検討、通史編の検討など
10月20日	原始古代	考古専門部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
10月28, 29日	近現代	近現代史料調査	川辺地区文書調査
10月29～31日	松江城	松江城下町出土陶磁器編年にかかる指導会	
11月1日	近世	近世・近現代史料調査	島根町誌編纂関係史料調査
11月4日		新聞記事掲載「戦国時代の松江地域〈長谷川博史〉」	山陰中央新報
11月4日	民俗	民俗部会	[議題] 別編「民俗」に向けての中間発表会など
11月5, 11, 12日	近現代	近現代史料調査	本庄公民館文書調査
11月6, 7日	近世	近世史料調査	島根県立図書館所蔵史料(岸本委員)
11月7日		新聞記事掲載「白潟町屋の商人と町人地の変容〈大矢幸雄〉」	山陰中央新報
11月9, 10日	中世	石造物調査	仏谷寺(美保関町)所在石造物実測調査
11月10日	近世	近世史小部会	御用留史料選定
11月11日	民俗	民俗(建物)調査	奥原家住宅調査
11月13, 14日	近世	近世史料調査	福井県内・京都府内史料(岸本委員)
11月16日	全般	松江市史講座	[第1部] 戦国時代の松江地域(長谷川博史(中世史部会)) [第2部] 白潟町屋の商人と町人地の変容(大矢幸雄(絵図・地図部会))
11月24日	原始古代	考古専門部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
11月25～29日		三谷権大夫家文書整理	
12月1日	全般	松江市史部会長会議	[議題] ① 『松江市史』本文中の数字表記について ② 松江市史出版計画の一部見直しについてなど
12月1日	自然環境	自然環境部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
12月5日		新聞記事掲載「出雲の地震〈西田良平〉」	山陰中央新報
12月7日	全般	松江市史講座	[第1部] 出雲地方の地震(西田良平(自然環境)) [第2部] 松江市近郊の民具(浅沼政誌(民俗部会))
12月9, 10, 16, 17日		近現代史料調査	本庄公民館文書調査
12月18日	松江城	松江城部会文献・歴史地理・建築グループ会	[議題] 文献検討会
12月21, 22日	中世	中世史部会	[議題] 史料編IIの校正、通史編の全体構成の検討など
平成26年			
1月11日	原始古代	考古専門部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
1月13日	原始古代	古代専門部会	[議題] 通史編の原稿の検討など
1月16日		新聞記事掲載「科学が明かす松江平野の歴史〈渡辺正巳〉」	山陰中央新報
1月17日		新聞記事掲載「出雲の人制・部民制～野見宿禰伝承をめぐって〈平石充〉」	山陰中央新報
1月19日	全般	松江市史講座	[第1部] 出雲の人制・部民制(平石充(原始古代史部会)) [第2部] 科学が明かす松江平野の歴史(渡辺正巳(松江城部会))
1月23, 24, 30, 31日		近現代史料調査	本庄公民館文書調査
1月22日	近世	近世史料調査	御用留からの史料選定(東谷委員)
1月22日		「市史編纂コラム第30回」掲載(ホームページ)	[タイトル] 文献史料からみる「松江城・松江城下町」
1月31日	松江城	松江城部会城郭史グループ会	西尾部会長と先山委員・松尾委員との協議
2月1日	松江城	松江城部会土木史グループ会	[議題] 次回の松江城部会に向けた協議
2月3日		新聞記事掲載「おぼえ日記にみる松江城下の男と女〈沢山美果子〉」	山陰中央新報
2月4日		新聞広告「松江市史 史料編II絵図・地図 2/22発行」	山陰中央新報
2月3, 4日	松江城	松江城関連調査	地盤遺産シンポジウム参加(河原莊一郎)

期日	担当部会	内 容	備 考
2月6日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕通史編の原稿の検討など
2月7日	原始古代	考古専門部会	通史編の原稿読合せ
2月7~9日	松江城	松江城出土遺物検討会	
2月8日	松江城	松江城部会	〔議題〕①各グループ・編纂室の調査状況等の報告 ②別編の執筆項目と執筆スケジュールの再検討など
2月8日	全般	松江市史講座	〔第1部〕古代出雲の交通（勝部昭（原始古代史部会）） 〔第2部〕松江城下『おぼえ日記』にみる町人の「家」と男・女・子ども（沢山未果子（近世史部会））
2月9日	近世	近世史料調査	島根県立図書館所蔵史料（沢山委員）
2月17~19日	近世	近世史料調査	御用留からの史料選定（東谷委員）
2月18日	原始古代	古代専門部会	通史編の原稿読合せ
2月20日		『松江市史』史料編11「絵図・地図」発行	〔第5回配本〕
2月20,21日		近現代史料調査	本庄公民館文書調査
2月21,22日	松江城	松江城関連調査	静岡県磐田市中世府中調査（西尾委員）
2月27日~3月3日	近世	近世史料調査	島根県立図書館所蔵史料ほか（常松委員）
3月3日		新聞記事掲載「武者の世の始まりと出雲国〈西田友広〉」	山陰中央新報
3月5日		新聞記事掲載「近現代の松江市の人口の推移と特徴〈廣嶋清志〉」	山陰中央新報
3月5日		新聞記事掲載「二つの不可能を可能にした出雲人・松村豊吉（上）〈西島太郎〉」	山陰中央新報
3月7日		「市史編纂コラム第31回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕松江藩士の幕末維新时期の記録
3月8日	全般	松江市史講座	〔第1部〕「武者の世」のはじまりと出雲国（西田友広（中世史部会）） 〔第2部〕近現代の松江市の人口の推移とその特徴（廣嶋清志（近現代史部会））
3月9日		新聞記事掲載「ベストセラーズ 松江③松江市史史料編11絵図・地図」	山陰中央新報
3月9日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕①松江市の組織機構の変更、市史編纂体制の変更について ②松江市史編纂状況、各部会からの状況報告 ③来年度予算について ④通史編等編集に伴う文章表記、節・項表記等の検討 ⑤松江市史編集委員会の議題、日程調整についてなど
3月9日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕通史編の原稿の検討、史料編の検討など
3月10日	原始古代	古代専門部会	通史編の原稿読合せ
3月14,15日	松江城	松江城関連調査	中世府中調査（鳥取県鳥取市・兵庫県豊岡市）（西尾委員）
3月15~17日	松江城	松江城関連調査	武家屋敷及び近代建築物調査〔宮城県奥州市ほか〕（足立委員）
3月19日	松江城	松江城部会文献・歴史地理・建築グループ会	〔議題〕文献検討会
3月20日		新聞記事掲載「見て楽しめる松江の絵図―市史 史料編11―〈田坂郁夫〉」	山陰中央新報
3月20日	近世	『松江市歴史叢書』7（松江市史研究5号）発行	
3月20日	近世	『松江市内寺社史料調査目録』発行	
3月21日	松江城	松江城調査報告会	
3月21,22日	原始古代	古代専門部会	通史編執筆作業（佐藤信委員）
3月21,22日	近世	近世史部会	〔議題〕史料編Ⅲ・Ⅳの検討、通史編の検討など
3月21~23日	松江城	松江城関連調査	城下町松江の水運・物流に関する調査〔新潟県出雲崎町ほか〕（大矢委員）
3月24,25日	松江城	松江城関連調査	松江城関連文献史料調査〔国立公文書・防衛省防衛研究所〕
3月26日	近現代	近現代史部会	〔議題〕史料編・通史編の検討など
3月28日	近世	『松江市史』史料編4「中世Ⅱ」発行	〔第6回配本〕
4月1日		組織改編により史料編纂室は教育委員会から市長部局に移管、「歴史まちづくり部まちづくり文化財課史料編纂室」となる	松江市教育委員会文化財課は市長部局（新設の歴史まちづくり部）に移管、まちづくり文化財課と改称（文化財課内室の史料編纂室も同時に移管）
4月1日		「市史編纂コラム第32回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕再考・まぼろしの松江城博覧会
4月7日		新聞記事掲載「近世城下町の変遷と松江城下町〈松尾信裕〉」	山陰中央新報
4月9日		新聞記事掲載「出雲地域の産物の特徴〈鳥谷智文〉」	山陰中央新報
4月18日	松江城	松江城伝来資料検討会	
4月19日	全般	松江市史講座	〔第1部〕出雲地域における産物の特徴について（鳥谷智文（近世史部会）） 〔第2部〕近世城下町の変遷と松江城下町（松尾信裕（松江城部会））
4月24日		尾道市視察対応（松江市史編纂について）	
4月26日	中世	中世史関連調査	和泉府中（西尾委員）
4月26日	近世	近世史小部会	郡村関係史料選定
5月5日		新聞記事掲載「松江城下町の空間設計〈安高尚毅〉」	山陰中央新報
5月5日	松江城	松江城関連調査	亀嵩城（西尾委員・岡崎委員）
5月8日		新聞記事掲載「知行国制度と出雲国〈西田友広〉」	山陰中央新報
5月10日	全般	松江市史講座	〔第1部〕知行国制度と出雲（西田友広（中世史部会）） 〔第2部〕松江城下町の空間設計と武家地・町人地の空間について（安高尚毅（絵図・地図部会））
5月11,12日	中世	中世史部会	〔議題〕通史編の内容検討など
5月15日		「市史編纂コラム第33回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕松江藩御台所を取材した明治の新聞記事
5月16日	松江城	松江城下町遺跡検討会	
5月26日		新聞記事掲載「松江の魅力広く発信 市史史料編4 中世Ⅱ（本多博之）」	山陰中央新報
5月31日、6月1日	近世	近世史部会	〔議題〕史料編Ⅲ・Ⅳの検討、通史編の検討など 〔議題〕①編纂体制、出版計画 ②平成25年度事業報告、平成26年度事業計画 ③各部会の報告 ④通史編（中世史）についての検討 ⑤松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
6月1日	中世	中世史部会	〔議題〕通史編の執筆構成・内容の検討など
6月1日	近現代	近現代史部会	〔議題〕史料編・通史編の検討など
6月2日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕通史編の原稿調整など
6月2日	松江城	松江城関連調査	松江城伝来資料調査（松江城天守、松江歴史館）
6月10日		「市史編纂コラム第34回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕国内最古の警察署建築（初代松江警察署）発見のとき
6月16日	松江城	松江城関連調査	松江歴史館（和田委員）
6月16日		新聞記事掲載「石が語る出雲国〈澤田順弘〉」	山陰中央新報
6月17日		新聞記事掲載「模範村とその時代〈竹永三男〉」	山陰中央新報
6月25日	原始古代	古代史部会	〔議題〕通史編の編集検討など
6月23日	近現代	近現代史料調査	玉湯町・宍道町
6月21日	全般	松江市史講座	〔第1部〕模範村とその時代（竹永三男（近現代史部会）） 〔第2部〕石が語る出雲国（澤田順弘（自然環境部会））
6月21, 22日	中世	石造物調査	清水寺（安来市）

期日	担当部会	内 容	備 考
7月3日		「市史編纂コラム第35回」掲載（ホームページ）	【タイトル】堀尾氏と三つの姓
7月4, 5日	中世	中世史関連調査	出雲府中（西尾委員）
7月5日	民俗	民俗部会	【議題】別編「民俗」の内容検討など
7月5～7日	近世	近世史料調査	（東谷委員・鳥谷委員・多久田委員）
7月9日		新聞記事掲載「朝山日乗－戦争と平和－〈原慶三〉」	山陰中央新報
7月9日	全般	松江市史部会長会議	【議題】① 各部会からの報告 ② 来年度の市史講座 講座の枠組みについて ③ 松江市史編纂委員会の議題について ④ 来年度事業の見込みについて ⑤ 市史編集委員会での提言を受けた史料集発刊についてなど
7月12, 13日	近世	近世史料調査	（東谷委員）
7月14日	松江城	松江城部会文献・歴史地理・建築グループ会	【議題】文献検討会
7月16日	松江城	松江城部会城郭史グループ会	【議題】別編「松江城」の検討
7月19日	全般	松江市史講座	〔第1部〕朝山日乗（原慶三（中世史部会）） 〔第2部〕お墓にみる繩文時代から弥生時代への移行（山田康弘（考古専門部会））
7月20日	原始古代	考古専門部会	【議題】通史編の原稿の検討など
7月28, 29日	近世	近世史料調査	廻船関係：福山市・広島市（大矢委員）
7月29～31日	松江城	石造物調査	市内を中心とする中世石造物（狭川氏・西尾委員・岡崎委員）
8月1日	全般	『松江市ふるさと文庫』16発行	「松江城再発見－天守、城、そして城下町－」西和夫
8月4日	近現代	近現代史料調査	山陰合同銀行史料
8月4日	松江城	松江城関連調査	松江城伝来資料調査
8月5日	近現代	近現代史料調査	忌部公民館史料
8月16日	松江城	松江城部会土木史グループ会	【議題】別編「松江城」の検討
8月18～22日		三谷権大夫家文書整理	山陰中央新報
8月20日		新聞記事掲載「松江城下町形成期の景観復元〈河原莊一郎〉」	（東谷委員・常松委員）
8月20～22日	近世	近世史料調査	【議題】史料編「近世IV」へ掲載する郡村関係史料の選定（小林委員・東谷委員・常松委員・多久田委員）
8月21日	近世	近世史部会郡村関係小部会	【タイトル】松江城下での不思議な話
8月21日		「市史編纂コラム第36回」掲載（ホームページ）	諸喰社史料
8月21日		史料調査	城下町形態の景観復元（基調報告、パネルディスカッション（松江城部会））
8月23日	全般	松江市史講座	【議題】別編「松江城」の検討
8月24日	松江城	松江城部会	松江城関連瓦調査
8月25日	松江城	松江城関連調査	史料管理方法の指導
9月4, 5日		三谷権大夫家文書整理	新開記事掲載「平安時代前期の災害と対外意識と山陰・出雲（大日方克己）」
9月12日			山陰中央新報
9月11, 12日	近現代	近現代史料調査	山陰合同銀行史料
9月17日		新聞記事掲載「中世出雲における政治拠点の変遷（川岡勉）」	山陰中央新報
9月19日		「市史編纂コラム第37回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江藩凶年にみる藩の通達そして捨子・身元不明者・乞食の実相
9月20日	全般	松江市史講座	〔第1部〕中世出雲における政治拠点の変遷（川岡勉（中世史部会）） 〔第2部〕9世紀の災害と対外意識と出雲・山陰（大日方克己（古代専門部会））
9月21日	中世	中世史部会	【議題】通史編の内容調整など
9月24, 25日		近現代史料調査	朝鈞公民館史料
9月27, 28日	原始古代	古代専門部会	【議題】通史編の編集検討など
10月	全般	松江市史編纂基本計画改訂（第3回改訂）	【議題】① 通史編の編集について ② 部会の今後などについてなど
10月4日	原始古代	考古専門部会	新開記事掲載「伝染病の大流行と信仰（喜多村理子）」
10月8日			山陰中央新報
10月9日	全般	松江市史編纂委員会	【議題】① 事業報告について ② 松江市史編纂状況について ③ 事業計画について ④ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
10月10日	自然環境	自然環境部会	【議題】通史編の編集、史料編の検討など
10月15日		新聞記事掲載「松江藩の財政について（伊藤昭弘）」	山陰中央新報
10月18日	全般	松江市史講座	〔第1部〕松江藩の財政について（伊藤昭弘委員（近世史部会）） 〔第2部〕伝染病の大流行と信仰（喜多村理子委員（民俗部会））
10月18, 19日	近世	近世史部会	【議題】史料編IIIの編集、史料編IV・通史編の検討など
10月27～29日	松江城	松江城出土陶磁器指導会	新開記事掲載「明窓 松江市史講座と市史編纂事業の紹介」
10月29日			山陰中央新報
10月30, 31日		近現代史料調査	朝鈞公民館文書調査
11月3日	近世	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料（東谷委員）
11月9日	中世	中世史部会	【議題】通史編の検討など
11月11日		新聞記事掲載「中世の経済と社会（長谷川博史）」	山陰中央新報
11月13日		新聞記事掲載「各種地図の変遷から見る松江の近代化（阿部志郎）」	山陰中央新報
11月15日		新聞記事掲載「明窓 松江城築城に富田城の瓦を再利用」	松江城伝来資料調査
11月15日	松江城	松江城関連調査	〔第1部〕中世の経済と社会（長谷川博史（中世史部会）） 〔第2部〕各種地図の変遷から見る松江の近代化（阿部志郎（絵図・地図部会））
11月15日	全般	松江市史講座	川辺地区・朝鈞公民館文書調査
11月18日		近現代史料調査	島根県立図書館等所蔵史料（鬼嶋委員）
11月23～26日	近現代	近現代史料調査	松江城石垣・石材調査（乘岡委員・先山委員）
11月24日		新聞記事掲載「屋根瓦から考える松江城〈乗岡実〉」	〔タイトル〕松江藩の切支丹類族の最後
11月24日	松江城	松江城関連調査	【議題】通史編の編集、史料編の検討など
11月27日		「市史編纂コラム第38回」掲載（ホームページ）	〔議題〕通史編原稿読合せなど
11月28日	自然環境	自然環境部会	新開記事掲載「「松江湖」の生き立ちと古環境（瀬戸浩二）」
11月30日	考古	考古専門部会	山陰中央新報
12月1日		新聞記事掲載「「中世出雲と国家的支配」を読む（川岡勉）」	亀高城調査（中井委員・西尾委員）
12月2～4日	松江城	松江城関連調査	山陰中央新報
12月4日		新聞記事掲載「「中世出雲と国家的支配」を読む（川岡勉）」	新聞記事掲載「近世の瓦を考える～山陰と山陽を比較して（乗岡実）」
12月10日		新聞記事掲載「松江の明治建築－発見と確認－（足立正智）」	山陰中央新報
12月11, 12日		近現代史料調査	高井家文書調査
12月17日		新聞記事掲載「まぼろしの神国博（能川泰治）」	山陰中央新報
12月14日	松江城	松江城部会	【議題】松江城査読検討会
12月20日	全般	松江市史講座	〔第1部〕神国大博覧会開催計画とその行方（能川泰治（近現代史部会）） 〔第2部〕松江の明治建築（足立正智（民俗部会））

期日	担当部会	内 容	備 考
12月20日	近現代	近現代史料部会	【議題】史料編・通史編の検討 など
12月24～28日	近世	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料（東谷委員）
12月25日	近世	近世史小部会	【議題】史料編IVに掲載する史料選定、通史編の執筆分担 など
12月25日	松江城	松江城関連調査	松江城瓦胎土分析調査
平成27年			
1月 5日		新聞記事掲載「肥前焼皿1200枚出土 松江城下町遺跡」	山陰中央新報
1月 5日		新聞記事掲載「藩主と深い信頼関係 松江城下町遺跡肥前焼出土」	山陰中央新報
1月 6日		新聞記事掲載「タイムスリップ松江発見伝1 松江城下町遺跡の障子堀」	山陰中央新報
1月 7日		新聞記事掲載「タイムスリップ松江発見伝2 松江城の祈禱札」	山陰中央新報
1月 8日		新聞記事掲載「タイムスリップ松江発見伝3 初代松江署庁舎」	山陰中央新報
1月 9日		新聞記事掲載「タイムスリップ松江発見伝4 旧田野医院」	山陰中央新報
1月10日		新聞記事掲載「明窓 松江城下町遺跡から出土した肥前磁器の皿」	山陰中央新報
1月11～13日	近世	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料（岸本委員）
1月19日	松江城	松江城部会文献・歴史地理・建築グループ会	【議題】文献検討会
1月20日		「市史編纂コラム第39回」掲載（ホームページ）	【タイトル】亀嵩城、決死の調査隊
1月21日		新聞記事掲載「松江の古寺と仏像－願主と仏師－〈的野克之〉」	山陰中央新報
1月22日		新聞記事掲載「中海・宍道湖の自然環境〈三瓶良和〉」	山陰中央新報
1月23日		新聞記事掲載「松江城下町遺跡出土の驚くほど優れた陶磁器〈大橋康二〉」	山陰中央新報
1月24日	全般	松江市史講座	【第1部】松江の古寺と仏像（的野克之（中世史部会）） 【第2部】中海・宍道湖の自然環境（三瓶良和（自然環境））
1月26日	松江城	松江城関連調査	松江城輿調査
1月26日	松江城	松江城部会文献・歴史地理・建築グループ会	【議題】絵図検討会
1月27、28日	近現代	近現代史料調査	山陰合同銀行史料調査
2月 1、2日	近世	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料（岸本委員）
2月 6日	松江城	松江城部会	【議題】松江城査読検討会
2月 7日	中世	中世史部会	【議題】通史編の検討 など
2月 9日	自然環境	自然環境部会	【議題】通史編の編集、史料編の検討 など
2月10～12日	近世	近世史料調査	島根県立図書館等所蔵史料（常松委員）
2月10日		新聞記事掲載「記録・絵図史料を通してみる松江城〈和田嘉宥〉」	山陰中央新報
2月13日		新聞記事掲載「江戸時代の農村－ひと・いえ・くらし〈常松隆嗣〉」	山陰中央新報
		パンフレット「松江市史 通史編自然環境・原始・古代 購入申込書」	
2月21日	全般	松江市史講座	【第1部】松江城郭施設の特色とその推移（和田嘉宥（松江城部会）） 【第2部】江戸時代の農村（常松隆嗣（近世史部会））
2月22日	松江城	松江城部会	【議題】別編の検討 など
2月23日	全般	松江市史部会長会議	【議題】①松江市史編纂状況、各部会からの状況報告 ②来年度予算について ③松江市史編集委員会の議題、日程調整について など
3月 9日		新聞記事掲載「中世の寺院と神社〈井上寛司〉」	山陰中央新報
3月 9日	近現代	近現代史小部会	【議題】史料編・通史編の検討 など
3月14日	松江城	松江城調査報告会	
3月17日		新聞記事掲載「戦後松江の公民館と新生活運動〈鬼嶋淳〉」	山陰中央新報
3月20日		新聞記事掲載「『松江市史』通史編1が発刊〈木下誠〉」	山陰中央新報
3月21日	全般	松江市史講座	【第1部】中世の寺院と神社（井上寛司（中世史部会）） 【第2部】戦後松江の公民館と新生活運動（鬼嶋淳（近現代史部会））
3月21日	近現代	近現代史部会	【議題】史料編・通史編の検討 など
3月21,22日	近世	近世史部会	【議題】史料編IIIの編集、史料編IV・通史編の検討 など
3月23日		『松江市史』史料編7「近世Ⅲ」発行	（第7回配本）
3月24,25日	近現代	近現代史料調査	川辺地区・高井家文書調査
3月26日	近現代	近現代史部会	【議題】史料編・通史編の検討 など
3月27日	松江城	松江城部会	【議題】松江城査読検討会
3月30日		『松江市史』通史編1「自然環境・原始・古代」発行	（第8回配本）
3月30日		「市史編纂コラム第40回」掲載（ホームページ）	【タイトル】古代出雲の中心地であった松江市域の新しい歴史像とその舞台となつた自然環境 -『松江市史』通史編 1 「自然環境・原始・古代」の発刊
3月31日		『松江市歴史叢書8』（松江市史研究6号）発行	
4月 1日		「市史編纂コラム第41回」掲載（ホームページ）	【タイトル】飢饉時における食料対策について
4月11日	松江城	松江城関連調査	松江城瓦・石垣調整会
4月13日	松江城	松江城関連文献検討会	
4月15日	民俗	民俗小部会	松江市史別編2「民俗」添付DVD映像の確認
4月17日		文化審議会に松江城天守国宝指定諮詢	
4月17日		新聞記事掲載「寄稿 松江藩の命運握った儒者精翁（岸本覚）」	山陰中央新報
4月17～20日	近世	近世史料調査	岸本委員
4月20日	近現代	近現代史小部会	
4月18日	近世	松江市史講座	【タイトル】幕末松江藩と雨森謙三郎（精翁）（岸本覚（近世史））
4月24日	松江城	松江城小部会	【議題】別編の検討 など
5月 7日	中世	中世史小部会	【議題】通史編の検討 など
5月 1日	全般	松江歴史館と松江市史編纂関係者との意見交換会	【議題】①松江市史編纂の経過報告 ②松江歴史館の現状と今後の展望について意見交換
5月 1日		「市史編纂コラム第42回」掲載（ホームページ）	【タイトル】文献史料から見る「松江城と松江城下町」その2
5月 7日	中世	中世史小部会	
5月 9日	全般	松江市史講座	「市民と語る松江の自然（シンポジウム）」 高安克己氏・澤田順弘氏・田坂郁夫氏・佐藤仁志氏
5月 9日	自然環境	自然環境部会	【議題】史料編「自然環境」編纂計画について ①各分野の内容・頁数の原案の検討 ②スケジュールの確認
5月10日	松江城	松江城査読検討会	
5月10日	原始古代	考古専門部会	【議題】出雲考古学のあゆみ編集打ち合わせ（初回）
5月15日		文化審議会が松江城天守国宝指定を文部科学大臣に答申	
5月16日	松江城	松江城関連調査	松江城瓦調査（山陰中・近世瓦研究会発足）
5月17日	松江城	松江城関連調査	松江城石垣調査
5月17日		小野家史料調査	島根町史編纂委員会であった小野啓次郎氏の関係史料

期日	担当部会	内 容	備 考
5月26日		松江歴史館と松江市史編纂関係者との意見交換会	〔議題〕松江歴史館の中・長期的運営プランについて意見交換
5月30日	近世	近世史部会	〔議題〕史料編「近世Ⅳ」および通史編について
5月30日	松江城	松江城査読検討会	
5月30~31日	近現代	近現代史部会	〔議題〕史料編、通史編について 〔議題〕① 編纂体制、出版計画（一部計画変更） ② 平成26年度事業報告、平成27年度事業計画 ③ 各部会の報告（事業報告、事業計画、調査・執筆・編集状況） ④ 「松江市史」通史編について ⑤ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題 ⑥ その他（松江市史研究執筆応募状況ほか）
5月31日	全般	平成27年度松江市史編集委員会	〔議題〕通史編について
5月31日	中世	中世史部会	〔議題〕通史編について 鬼鷲委員
6月1日	近現代	近現代史料調査	〔タイトル〕江戸時代松江市中のゴミ捨て場
6月1日		「市史編纂コラム第43回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕江戸時代松江市中のゴミ捨て場
6月3日		新聞記事掲載「松江裁判所事始め〈居石正和〉」	山陰中央新報
6月6日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江裁判所事始め（居石正和（近現代史部会））
6月8日	松江城	松江城文献史料検討会	〔議題〕① 前回の意見交換会の報告と今後の方針 ② 年表について ③ 「松江城築城に関する史料一覧」について ④ 写真史料について ⑤ その他
6月17日	松江城	松江城小部会	
6月19日	中世	中世史小部会	
6月24日	松江城	松江城部会城郭史G会	〔議題〕① 「松江市史」別編「松江城」の編集スケジュールの確認 ② 第2次原稿提出について（6月17日） ③ 松江城城郭呼称について ④ 松江城築城関係史料について ⑤ その他 平成27年度第1回松江城部会について（8月30日）等
7月1日		「市史編纂コラム第44回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕池尻家「御用留」（天明2年）－『史料編7近世3』より
7月2日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 部会員について ② 史料編の貢献について ③ 史料編の版組について
7月3日		「市史編纂コラム第45回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕統・中世松江の「筌」漁業
7月5日	松江城	松江城査読検討会	
7月8日	松江城	松江城天守国宝指定の官報告示、松江城関連調査	松江城天守地階醜調査
7月10日		新聞記事掲載「出雲世界のループ〈池淵俊一〉」	山陰中央新報
7月12日	松江城	松江城関連調査	松江城瓦調査（山陰中・近世瓦研究会）
7月15日		新聞記事掲載「松江城国宝化支える絵図・地図〈大矢幸雄〉」	山陰中央新報
7月18日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕出雲世界のループ一五・六世紀の意宇平野一（原始古代史部会）
7月24日	松江城	「松江城築城物語」に関する文献史料検討会	〔議題〕旧島根県史記載の「松江城築城物語」をベースに、それらの物語が他の文献史料にどれだけ記載されているかを整理
7月25日	近世	近世史小部会	〔議題〕通史編3「近世I」藩政史分野に関する打合せ
7月27~28日	近現代	近現代史料調査	山陰合同銀行調査
7月29日		公文書の管理にかかる協議始まる（総務課、史料編纂室）	松江市公文書の管理について（特に保存年限を過ぎた支所管公文書の評価・選別）
7月30日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 各部会からの報告 ② 編集委員会、歴史館との連絡会を受けて、今後の取り組み ③ 平成28~31年度仕様書の調整について ④ 平成28年度市史講座について ⑤ その他
7月30日		野津篤家史料調査（野津左馬助旧蔵史料）	旧島根県史編纂史料（引継文書、原稿の下書き等）
7月31日		『松江市ふるさと文庫』17発行	「松江の碑ー碑が語る松江の歴史ー」安部登
8月1日		「市史編纂コラム第46回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕終戦前の松江市
8月3日		「市史編纂コラム第47回」掲載（ホームページ）	85年ぶりの「新・松江城築城物語」
8月8日	松江城	松江城関連調査	松江城瓦調査（山陰中・近世瓦検討会）
8月10日	松江城	松江城関連調査	松江城写真検討会
8月21日		新聞記事掲載「城郭から見た堀尾氏の出雲支配〈中井均〉」	山陰中央新報
8月23日	松江城	松江城小部会	松江歴史館展示打合せ
8月24日		公文書の管理にかかる事例確認会（総務課、史料編纂室）	島根県公文書センターの事例
8月26~27日	近現代	山陰合同銀行調査	近現代史料調査
8月27日	近現代	近現代史小部会	〔議題〕史料編・通史編について
8月29日	絵図・地図	松江歴史館講演会	渡辺理絵氏「18世紀中頃の松江における屋敷と住人の関係性ー絵図と給帳と屋敷割帳を通じてー」
8月30日	松江城	松江城部会	〔議題〕① 近世史部会長との意見交換 ② スケジュール確認 ③ 各G会からの報告 ④ 原稿提出について ⑤ 松江城の古写真の紹介について ⑥ 松江城城郭呼称について ⑦ 松江城築城物語に関する文献資料（史）料整理について ⑧ 平成28年度松江市史講座について ⑨ その他
8月30日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕城郭から見た堀尾氏の出雲支配（中井均（松江城部会））
9月1日	松江城	松江城関連調査	松江城天守部材調査
9月1日		「市史編纂コラム第48回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕松江の町屋住宅事情ー大保恵日記に見る裏借屋のくらしー
9月3日	近世	近世史料調査	伊藤委員（大阪大学にて山中家文書調査）
9月8日		「市史編纂コラム第49回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕松江城天守幻視考
9月9日~10日	近世	近世史通史編小部会	〔議題〕通史編3「近世（一）」第1・2章の内容検討
9月12日	近世	中倉家古文書調査	近世古文書
9月13日	松江城	松江城関連調査	松江城瓦調査（山陰中・近世瓦研究会）
9月14日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 各部会からの報告 ② 松江市の公文書について ③ 平成28年度松江市史講座について ④ 松江市史編纂委員会の議題について
9月16日		新聞記事掲載「『神々の国、出雲』を再考する〈森田喜久男〉」	山陰中央新報
9月16日	松江城	松江城に関する文献史料検討会	〔タイトル〕出雲的世界の形成（森田喜久男（原始古代史部会））
9月19日	全般	松江市史講座	常松委員
9月20日	近世	近世史料調査	〔議題〕史料編・通史編について
9月24日	近現代	近現代史部会	能川委員・鬼鷲委員
9月25日	近現代	近現代史料調査	能川委員・鬼鷲委員
9月29日		新聞記事掲載「松江城天守 昭和初期の測量図発見」	山陰中央新報
9月30日		『松江市史』別編2「民俗」発刊	（第9回配本）

期日	担当部会	内 容	備 考
10月	全般	松江市史編纂基本計画改訂（第4回改訂）	
10月 1日		新聞記事掲載「松江歴史館の松江城天守再発見展〈木下誠〉」	山陰中央新報
10月 5～8日	松江城	松江城石材調査	先山委員
10月13日	松江城	松江城部会建築グループ会	〔議題〕① 松江城部会の経過報告 ② 編纂スケジュールの確認 ③ 執筆内容、執筆状況等の確認調整
10月16日		新聞記事掲載「松江藩松平家の女性たち〈石田 俊〉」	山陰中央新報
10月17日		新聞記事掲載「松江城 昭和の大修理映像 歴史館特別展で初公開」	山陰中央新報
10月17日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江藩松平家の女性たち（石田俊（近世史部会））
10月21日	民俗	民俗小部会	〔議題〕『松江市史』別編2「民俗」発刊 松江藩家老三谷家文書の整理
10月27～30日		三谷家文書調査	〔議題〕① 第二次締切分までの原稿査読 ② 年表の検討
11月 3日	松江城	別編「松江城」査読検討会	〔議題〕① 事業報告について ② 松江市史編纂状況について ③ 事業計画について ④ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
11月 4日	全体	平成27年度編纂委員会	
11月8～10日	近現代	近現代史料調査	鬼嶋委員
11月12日		近現代史料調査	野津左馬之助史料調査
11月12日		「市史編纂コラム第50回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕江戸時代松江の糞尿処理事情
11月13日		近現代史料調査	桑原家史料調査（八雲町）
11月14日		新聞記事掲載「松江城と城下町〈2〉〈松尾 寿〉」	山陰中央新報
11月14日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕尼子氏の滅亡と「御一家再興」戦争（中野賢治（中世史部会））
11月15日		新聞記事掲載「注目の一冊 西尾克己監修『国宝松江城 美しき天守』〈安部登〉」	山陰中央新報
11月16～17日		近世・近現代史料調査	中倉家史料調査（環境センター会議室）
11月29～30日	近世	近世史料調査	岸本委員
12月 8日	近現代	近現代史料調査	山陰合同銀行史料調査
12月 9日		新聞記事掲載「松江藩から松江県・島根県へ〈竹永三男〉」	山陰中央新報
12月12日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕明治維新後の松江市域－『島根県歴史（府県史料島根県）』に見る近代初頭の松江市域の変容－（竹永三男（近現代史部会））
12月19日	近現代	近現代史部会	〔議題〕① 史料編Iについて 1. 竹永部会長作業状況の報告 2. 編纂室作業状況の報告 ② 史料編IIについて 1. 現在の状況・課題 ③ 通史編について 1. 現在の状況 2. サンプル原稿の検討
12月19・20日	近世	近世史部会	〔議題〕① 史料編「近世IV」について ② 通史編「近世I・II」について（スケジュール確認、執筆内容確認、執筆要領、執筆者への依頼）
12月21日	松江城	松江城文献史料検討会	〔議題〕① 掲載史料の現在の状況について ② 掲載史料の翻刻編集の今後の進め方について ③ 年表について ④ その他
12月23日	松江城	別編「松江城」査読検討会	〔議題〕① 査読についての検討 ② 凡例（案）について ③ その他について
12月24日		「市史編纂コラム第51回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕『瀧川家代々記録』にみえる新屋（あたらしや）の一面
12月24～25日		近世・近現代史料調査	中倉家史料調査

平成28年

1月 1日		新聞記事掲載「堀尾吉晴ゆかり 3市町トップ対談」	山陰中央新報
1月 1日		新聞記事掲載「世界に誇る山陰の技」	山陰中央新報
1月 7日		新聞記事掲載「地図から読み解く近世の松江市域〈上杉和央〉」	山陰中央新報
1月 9日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕地図から読み解く近世の松江市域（上杉和央（絵図・地図部会））
1月11日	松江城	別編「松江城」査読検討会	〔議題〕① 査読についての検討 ② 凡例（案）について ③ その他について
1月15日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 各分野の新項目表について ② 見本をもとにした本の構成検討 ③ サンプル原稿について ④ DVDに入れる内容の検討
1月25日		「市史編纂コラム第52回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕編纂室のもう一つの仕事－古文書調査－
1月31日		新聞記事掲載「高城権八家過去帳を発見 謎の人物像「貴重史料」」	山陰中央新報
2月17日		新聞記事掲載「堀尾氏の城郭普請〈山上雅弘〉」	山陰中央新報
2月18日		新聞記事掲載「松江城 世界遺産目指す 他の国宝と「城郭郡」構成」	山陰中央新報
2月20日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕堀尾氏の城郭普請（山上雅弘（松江城部会））
2月21日	松江城	松江城部会	〔議題〕① 別編「松江城」の編集項目・全体スケジュールの確認 ② 各G会からの報告 ③ 原稿提出について ④ 施設（建物）呼称について ⑤ 口絵等写真について ⑥ 執筆に伴う追加調査について ⑦ 今後の編纂スケジュールについて ⑧ その他
2月22日	近世	近世史小部会	〔議題〕通史編「近世I」藩政改革担当打合せ
3月 1日		「市史編纂コラム第53回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕野津左馬之助先生と『松江市史』
3月 3日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 各部会からの報告 ② 来年度予算（内示）と出版計画・組織機構・部会担当者等について ③ 松江市史編纂体制について ④ 松江市史編纂委員会の議題と日程について ⑤ 今後の予定とその他報告
3月 3日	松江城	別編「松江城」査読検討会	〔議題〕① 査読についての検討 ② 凡例（案）について ③ その他について
3月 5日	近現代	近現代史部会	〔議題〕① 進捗状況について（史料編I・史料編II・通史編） ② 平成28年度の部会について
3月 8日		新聞記事掲載「松江城下の盆踊り〈永井 猛〉」	山陰中央新報

期日	担当部会	内 容	備 考
3月8日	松江城	「歴史遺産としての松江城」検討会	[議題] ① 「史跡松江城保存活用計画」の説明 ② 松江市公文書の状況説明 ③ 松江市史別編「松江城」第7章の章立ての変更について
3月12日	全般	松江市史講座	[タイトル] 松江の芸能・神楽と盆踊りー(永井猛(民俗部会))
3月14・15日	近世	近世史部会	[議題] ① 通史編「近世I・II」スケジュールについて ② 通史編執筆要領 ③ 執筆内容確認 ④ 執筆者への依頼について ⑤ 平成28年度編集委員会への通史編「近世I」の内容報告 ⑥ 平成28年度部会の開催予定について ⑦ その他
3月22~23日		近世・近現代史料調査	中倉家史料調査
3月24日		文書館関係: 松江市公文書にかかる協議 (総務課、史料編纂室)	支所管文書を中心とする松江市公文書の管理について
3月25日		『松江市歴史叢書』9(松江市史研究7号)発刊	
3月25日		新聞記事掲載「史料編纂室を課に格上げ」	山陰中央新報
3月25日		『松江市史』通史編2「中世」発刊 (第10回配本)	
3月28日	松江城	松江城文献史料検討会	[議題] ① 掲載史料の現在の状況について ② 追加史料について ③ その他
3月28~30日	近現代	近現代史料調査	能川委員 (第11回配本)
3月29日		『松江市史』史料編8「近世IV」発刊	松江城調査研究室は国宝化推進から調査研究を中心とする組織名に改称。松江城調査研究委員会は平成31年3月に委員構成を改編、市史松江城部会を発展的に引き継ぐ
4月1日		組織改編によりまちづくり文化財課より独立し史料編纂課設置、松江城調査研究室が内室となる	[タイトル] 初期松江城天守と千鳥破風
4月1日		『市史編纂コラム第54回』掲載 (ホームページ)	
4月2日		新聞記事掲載「島根半島の海岸地形－日本海側地域を代表する鬼の洗濯－(小暮哲也)」	山陰中央新報
4月9日	全般	松江市史講座	[タイトル] 松江市の海岸地形－日本海側地域を代表する鬼の洗濯板－(小暮哲也(自然環境部会))
4月14日	松江城	新聞記事掲載「松江城に幻の破風 千鳥城の別称 装飾の謎抛か」	毎日新聞
4月15日	松江城	新聞記事掲載「本当に松江城? 新発見 絵図の疑問から」	毎日新聞
4月15日	松江城	新聞記事掲載「松江城 千鳥破風あった?」	読売新聞
4月15日	松江城	新聞記事掲載「松江城に千鳥破風痕跡か 築城40年後絵図と一致」	山陰中央新報
4月19日		史料調査	野津左馬之助史料調査
4月22日		新聞記事掲載「『松江市史』通史編・中世の刊行にあたって〈井上寛司〉」	山陰中央新報
4月26日		新聞記事掲載「地名の謎を追う 「ニマ」「タキ」同音 字は多岐に」	朝日新聞
4月		『松江市歴史史料集』2-1「大保恵日記I」発刊	
5月6日	松江城	別編「松江城」査読検討会	
		パンフレット「松江市史 購入申込書」	
5月10日		新聞記事掲載「新しい松江の中世史像〈井上寛司〉」	山陰中央新報
5月11日		新聞記事掲載「松平不昧の茶室〈和田嘉宥〉」	山陰中央新報
5月12日		第1回近世城郭群世界遺産登録推進会議準備会に松江市からも参加	於 松本市立博物館(松本市、犬山市、松江市参加)
5月13日		新聞記事掲載「松江城 国宝5城で世界遺産に 3市が準備会」	山陰中央新報
5月13日		新聞記事掲載「3城 世界遺産へ準備会 近世城郭群登録を目指す」	信濃毎日新聞
5月14日	全般	松江市史講座	[シンポジウム] 新しい松江の中世史像(井上寛司・長谷川博史・原慶三(中世史部会))
5月16日		新聞記事掲載「松江城など国宝5城で世界遺産に」	山陰中央新報
5月16日		新聞記事掲載「国宝効果 51万人登閣 松江城天守指定答申1年」	山陰中央新報
5月17日		新聞記事掲載「『松江市歴史叢書9』発刊に寄せて〈西尾克己〉」	山陰中央新報
5月19日		『市史編纂コラム第55回』掲載 (ホームページ)	[タイトル] 松江藩のお家騒動・その1
5月21日	全般	平成28年度松江市史編集委員会	[議題] ① 編纂体制、出版計画 ② 平成27年度事業報告、平成28年度事業計画 ③ 各部会の報告(事業報告、事業計画、調査・執筆・編集状況) ④ 『松江市史』通史編について ⑤ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題 ⑥ その他(松江市史研究執筆応募状況ほか)
5月21日	自然環境	自然環境部会打ち合わせ	[議題] ① 原稿版組サンプルについて ② DVD掲載データについて ③ 今後の編纂スケジュールについて
5月21日	原始古代	原始古代史部会	[議題] 通史2「中世」刊行後の活動について
5月21日	中世	中世史部会	[議題] ① 編集委員会協議・確認事項を承けて ② スケジュールの確認・及び進捗状況 ③ 通史編の編集方針、編集計画の検討——編集委員会の報告・討論をふまえて
5月21日	近現代	近現代史部会	[議題] ① 執筆原稿の検討 ② 執筆要領について協議・決定 ③ その他
5月22日	近世	近世史部会	
5月23日		新聞記事掲載「記者リポート 松江城に千鳥破風はあったか」	山陰中央新報
5月26・27日		近世・近現代史料調査	中倉家史料調査
6月7・8日		近世・近現代史料調査	中倉家史料調査
6月7日		新聞記事掲載「松江藩政と家老〈三宅正浩〉」	山陰中央新報
6月7日	松江城	松江城小部会	
6月8日		新聞記事掲載「しまねの人 島根大教授 大日方克己さん」	朝日新聞
6月9日		新聞記事掲載「授業化計画」スタート 市内全小学校の6年生対象 天守の特徴など学ぶ」	山陰中央新報
6月11日	全般	松江市史講座	[タイトル] 松江藩政と家老(三宅正浩(近世史部会))
6月14日		『市史編纂コラム第56回』掲載 (ホームページ)	[タイトル] 新発見の出雲名物番付
6月16日	松江城	別編「松江城」査読検討会	
6月21日	松江城	松江城文献史料検討会	
6月25・26日	松江城	松江城部会城郭史グループ会	
6月24日		文書館関係: 鳥取県立公文書館へ視察	公文書管理について先進事例視察(和田、高橋)
6月29日	松江城	別編「松江城」査読検討会	

期日	担当部会	内 容	備 考
6月30日・7月1日		近世・近現代史料調査	中倉家史料調査・野津左馬之助史料調査
7月1日	松江城	松江城小部会	
7月3日	自然環境	自然環境部会DVD打ち合わせ	〔議題〕DVD掲載内容について ① 松江市内の地質柱状図集 ② 中海・宍道湖の湖底ボーリング資料および古環境解析用ボーリング資料 ③ 中海・宍道湖の水質年変化 ④ 気象関連のデータ
7月4日		新聞記事掲載「松江城飛躍のために 天守国宝化から1年 (1)登録者5割超える増加」	山陰中央新報
7月5日		新聞記事掲載「松江城飛躍のために 天守国宝化から1年 (2)観光客滞在いかに長く」	山陰中央新報
7月5日		新聞記事掲載「松江城廃城の危機救う 旧藩士らの活躍 小説に」	山陰中央新報
7月6日		新聞記事掲載「松江城飛躍のために 天守国宝化から1年 (3)史実積み重ね城活用を」	山陰中央新報
7月6日		新聞記事掲載「堀尾忠氏顕彰する学習会」	山陰中央新報
7月7日		新聞記事掲載「松江城飛躍のために 天守国宝化から1年 (4)吉崎が縁 他市町と結ぶ」	山陰中央新報
7月7日		文書館関係：松江市の公文書管理にかかる協議（総務課、史料編纂室）	総務課より、松江市でも「公文書等の管理に関する法律」に倣いたく、歴史公文書の選別と保管管理、活用等は史料編纂課に協力依頼できるか打診
7月8日		新聞記事掲載「松江城飛躍のために 天守国宝化から1年 (5)市民の愛着、誇り育んで」	山陰中央新報
7月8日	松江城	建物調査	武家屋敷調査
7月9日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕出雲考古学のあゆみ編集打ち合わせ
7月15日	松江城	建物調査	清原家
7月20日		新聞記事掲載「堀尾氏の出雲・隱岐支配〈佐々木倫朗〉」	山陰中央新報
7月22日	松江城	建物調査	小泉八雲旧居
7月23日	全般	松江市史講座	「堀尾氏の出雲・隱岐支配」 講師 佐々木 倫朗 委員（近世史部会）
7月24日	松江城	松江城小部会	第9章打ち合わせ
7月25日	絵図・地図	正保年間松江城下町絵図調査	川村博忠先生、和田嘉宥先生、大矢幸雄先生
7月28・29日		近世・近現代史料調査	野津左馬之助史料調査
8月1日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 各章（分野）の原稿提出状況および議題 ② 原稿版組サンプルについて ③ DVD掲載内容について ④ 今後の編纂スケジュールについて ⑤ その他（来年度松江市史講座について）
8月1日	近現代	近現代史小部会	
8月2日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 進捗状況、市史講座、編纂委員会等について ② 市職員長期休暇に伴う編纂室体制について
8月7日	松江城	松江城小部会	第9章打ち合わせ
8月9日		「市史編纂コラム第57回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕一枚の写真から始まった宍道氏研究
8月18日		新聞記事掲載「近世城郭と城下の空間設計を考える (堀田浩之)」	山陰中央新報
8月19日	近現代	近現代史部会執筆者会議	
8月20日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕近世城郭と城下の空間設計を考える一松江城と姫路城の事例 から一（堀田浩之（松江城部会））
8月21日	松江城	松江城部会	
8月28日		新聞記事掲載「国宝「玉石」は島根半島産 松江城築城時の 鎮め物」	山陰中央新報
9月1日		「市史編纂コラム第58回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕大名茶人・松平治郷と茶入「残月」
9月3日・4日	近世	近世史部会巡査	
9月6日		新聞記事掲載「国宝松江城天守鎮め物の玉石 上〈沢田順弘〉」	山陰中央新報
9月7日		新聞記事掲載「国宝松江城天守鎮め物の玉石 下〈沢田順弘〉」	山陰中央新報
9月10日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕出雲考古学のあゆみ編集打ち合わせ
9月14日		新聞記事掲載「ハーンをキーワードとした松観法(工藤泰子)」	山陰中央新報
9月16日		新聞記事掲載「松江城下町遺跡 進む陶磁器発掘調査（上） (小山泰生)」	山陰中央新報
9月17日		新聞記事掲載「松江城下町遺跡 進む陶磁器発掘調査（下） (小山泰生)」	山陰中央新報
9月17日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕戦後復興期における松江城観光振興—「松江国際文化観光都市建設法」成立を中心に一工藤泰子（近現代史部会）
9月25日		新聞記事掲載「松平直政ゆかりの両市長対談 手を携え国宝 天守を後世に」	山陰中央新報
9月29日	松江城	松江城部会小部会	
10月6日	全般	松江市史編纂委員会	〔議題〕① 事業報告について ② 松江市史編集状況について ③ 事業計画について ④ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
10月10日	松江城	松江城査読検討会	
10月13日		「市史編纂コラム第59回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕松江藩のお家騒動・その2 <殿様斎貴>
10月18日		新聞記事掲載「写真でたどる松江城とその周辺（和田嘉宥）」	山陰中央新報
10月19日～22日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
10月22日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕写真でたどる松江城とその周辺（和田嘉宥・伊藤孝一（松江城部会））
10月		『松江市歴史史料集』3「新番組列士録 上、中、下ノ上、下ノ下（全四冊）」発刊	
11月3日	原始古代	考古専門部会	〔議題〕出雲考古学のあゆみ編集打ち合わせ
11月7日・8日	近世	近世史部会史料調査	沢山委員
11月17日		新聞記事掲載「近世の海運と松江（中安恵一）」	山陰中央新報
11月19日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕近世の海運と松江（中安恵一（近世史部会））
11月20日	松江城	松江城査読検討会	
11月22日		新聞記事掲載「一枚の写真から始まった宍道氏研究 (堀田 信)」	山陰中央新報
11月22日		新聞記事掲載「潮流 市史の裾野」	中国新聞
11月25日		「市史編纂コラム第60回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕今この時も松江市の歴史の中のほんの一瞬
11月29日・30日		近世・近現代史料調査	桑原家史料調査
12月3日・4日	近世	近世史部会史料調査	岸本委員
12月10日・11日	近世	近世史部会	
12月13日	近現代	近現代史部会	
12月13日	自然環境	自然環境部会	

期日	担当部会	内 容	備 考
12月13日～15日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
12月14日		新聞記事掲載「松江市の歴史を地方行財政の視点から読み解く〈関耕平〉」	山陰中央新報
12月17日	全般	松江市史講座	【タイトル】財政運営と行政組織からみる松江市のあゆみ（関耕平（近現代史部会））
12月18日	松江城	松江城査読検討会	
12月19日・20日	近世・近現代	史料調査	米村家史料調査
12月20日	松江城	松江城部会小部会	
12月24日	松江城	松江城査読検討会	
12月26日		文書館関係：地域の歴史史料（古文書等）の収集・保管について歴史まちづくり部内協議	松江歴史館での受け入れが滞り、史料編纂課の調査に伴う古文書等の寄贈、寄託に対応できない状況が生じたため
12月28日		「市史編纂コラム第61回」掲載（ホームページ）	【タイトル】第1次松江市総合計画はどこ？
平成29年			
1月 4日		文書館関係：地域の歴史史料（古文書等）の収集・保管について	史料編纂課の調査に伴う地域の歴史史料（古文書等）の寄贈申し出に対し、史料編纂課でも独自に受け入れを始める（保管場所 穴道蔵古館）
1月13日	松江城	松江城部会執筆原稿協議	岡崎委員、松尾委員
1月14日～16日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
1月14日・15日	松江城	松江城石垣調査	乗岡委員
1月14日～16日	近世	近世史部会史料調査	岸本委員
1月15日	松江城	松江城査読検討会	
1月17日		新聞記事掲載「忘れられた民権家 高橋基一（竹永三男）」	山陰中央新報
1月17日		堀尾吉晴共同研究会発足	松江市、安来市、大口町（後に浜松市がオブザーバー参加）
1月18日		新聞記事掲載「松江市 安来市 愛知・大口町 吉晴共同研究会立ち上げ」	山陰中央新報
1月18日	松江城	松江城部会小部会	
1月20日		『ふるさと文庫』18発行	「古墳時代史にみる古代出雲成立の起源」池淵俊一
1月21日	全般	松江市史講座	【タイトル】松江市域の自由民権運動とその時代（竹永三男（近現代史部会））
1月23日		新聞記事掲載「ニュースのひと 福井将介さん」	山陰中央新報
1月31日		新聞記事掲載「しまねのひと 福井将介さん」	毎日新聞
2月 1日		「市史編纂コラム第62回」掲載（ホームページ）	【タイトル】ふるさと文庫40号の発刊にあたって
2月 4日～6日	近世	近世史部会史料調査	岸本委員
2月 7日	松江城	松江城部会小部会	
2月11日～13日	近世	近世史部会史料調査	岸本委員
2月13日	原始古代	考古専門部会	【議題】出雲考古学のあゆみ編集打ち合わせ
2月14日		新聞記事掲載「松江城の耐震化着手 市が17年度」	山陰中央新報
2月15日		新聞記事掲載「史跡松江城を掘る—地下に眠る松江城の歴史（岡崎雄二郎）」	山陰中央新報
2月18日	全般	松江市史講座	【タイトル】松江城を掘る—地下に眠る松江城の歴史—（岡崎雄二郎（松江城部会））
2月19日	松江城	松江城部会	
3月 1日		『ふるさと文庫』19発行	「石垣と瓦から読み解く松江城」乗岡実
3月 1日		『松江市歴史叢書』10（松江市史研究8号）発刊	
3月 3日		「市史編纂コラム第63回」掲載（ホームページ）	【タイトル】お殿様は松江城のどこに住んでいたのか？
3月 4日・5日	近世史	近世史部会	
3月 5日～8日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
3月 6日	自然環境	自然環境小部会	高安委員、澤田委員、横田委員
3月 9日	近現代史	近現代史部会	
3月13日・14日	近世史	近世史部会史料調査	東谷委員
3月14日・15日		史料調査	菅田庵史料調査
3月15日		新聞記事掲載「天皇に捧げられた品々と古代出雲（吉松大志）」	山陰中央新報
3月16日	全般	松江市史部会長会議	【議題】進捗状況と松江市史編集委員会等について
3月18日	原始・古代史	松江市史講座	【タイトル】松江市史から古代の出雲を考える（吉松大志（原始古代史部会））
3月22日	全体	公文書館・文書管理に関する意見交換会（松江市、松江市史編集委員会）	井上編集委員長、竹永部会長、吉山副市長、三島総務部長、黒田総務次長、藤原歴史まちづくり部長、花形歴史館事務局長、福田課長
3月25日	原始古代	考古専門部会	【議題】出雲考古学のあゆみ編集打ち合わせ
3月26日	松江城	松江城石垣調査	乗岡委員、先山委員
3月27日		絵図・地図	島根大学堀尾期松江城下町絵図調査
3月28日	近現代	『松江市史』史料編第9「近現代Ⅰ」発刊	（第12回配本）
4月 2日～4日	近世	近世史料調査	東谷委員
4月 4日		新聞記事掲載「創建当初の松江城天守 復元図めぐり研究者らバトル」	産経新聞
4月 5日		新聞記事掲載「堀尾期松江城下町の新たな見知〈大矢幸雄〉」	山陰中央新報
4月 6日		新聞記事掲載「松江城展示 各階にテーマ 市が基本計画」	山陰中央新報
4月 8日	全般	松江市史講座	【タイトル】堀尾期松江城下町の新たな見知～G I S分析による家臣団と雑賀衆・伊賀衆の配置～（大矢幸雄（絵図・地図部会））
4月14日		「市史編纂コラム第64回」掲載（ホームページ）	【タイトル】「駅々御本陣御間取絵図」
4月14日・15日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
4月18日	松江城	別編「松江城」第9章検討会	
4月18日・19日		近世史料調査	米村家史料調査
4月20日	近世	近世史料調査	多久田委員
5月11日		「市史編纂コラム第65回」掲載（ホームページ）	【タイトル】出雲地方の喫茶習慣についての一試論
5月16日		新聞記事掲載「江戸時代の玉造温泉〈渡辺浩一〉」	山陰中央新報
5月18日・19日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
5月20日	全般	松江市史講座	【タイトル】玉造温泉の近世（渡辺浩一（近世史部会））
5月20日・21日	近世	近世史部会	【議題】① 原稿完成後のスケジュール ② 執筆原稿の検討 ③ 近世II「節・項・見出し」内容等詳細案の検討
5月21日	全般	平成29年度松江市史編集委員会	【議題】① 編纂体制、出版計画 ② 平成28年度事業報告、平成29年度事業計 ③ 各部会の報告（事業報告、事業計画、調査・執筆・編集状況） ④ 「松江市史」通史編について ⑤ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題 ⑥ その他（松江市史研究執筆応募状況ほか）
5月21日	中世史	中世史部会	【議題】① 松江市史史料編の補遺について ② 松江市史の正誤表について ③ その他
5月22日	近世	近世史料調査	東谷委員
6月 8日		「市史編纂コラム第66回」掲載（ホームページ）	【タイトル】『松江市史』別編1「松江城」編集日記

期日	担当部会	内 容	備 考
6月10日～12日	近世	近世史料調査	東谷委員
6月14日	松江城	松江城査読検討会	〔議題〕① 進捗状況 ② 校正原稿の査読について ③ 第1回松江城部会の議題について ④ 岡崎先生提案のブックレットシリーズについて
6月14日		新聞記事掲載「松江商業会議所と商工業の展開〈伊藤康宏〉」	山陰中央新報
6月17日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江商工商会議所と商工業（伊藤康宏（近現代史部会））
6月20日・21日		史料調査	米村家・酒井家史料調査
6月23日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
6月24日～26日	近世	近世史料調査	東谷委員
7月10日		「市史編纂コラム第67回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕女流俳人石橋秀野の松江疎開
7月11日		新聞記事掲載「初期松江城天守 形態と千鳥破風（稻田 信）」	山陰中央新報
7月13日～14日	近世・近現代	史料調査	野津左馬之助史料調査
7月15日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕初期松江城天守の形態と千鳥破風（和田嘉宥・稻田信（松江城部会））
7月16日	松江城	松江城部会	〔議題〕① 別編「松江城」配布資料について ② 各G会からの報告 ③ 入校・初校の進捗状況と今後の校正スケジュールについて ④ 協議事項（口絵・序章第1節・用語解説） ⑤ 今後のスケジュールについて
7月25日～26日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
7月25日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 編纂スケジュールの確認 旅費の変更について ② 部門進捗説明 ③ 版組・口絵カラー割り付けなど ④ 参考文献 ⑤ 第2章6 半島における風の名称
7月29日・30日	近世	近世II小部会	〔議題〕① 通史編スケジュール ② 「通史編II」執筆原稿の検討 ③ その他
8月7日～8日	近世	近世部会史料調査	石田委員
8月9日	松江城	松江城小部会	
8月16日		新聞記事掲載「原始・古代から見る松江成立の基盤〈丹羽野裕〉」	山陰中央新報
8月19日	原始古代	松江市史講座	〔タイトル〕原始・古代から見る松江城成立の基盤（丹羽野裕（原始古代史部会））
8月24日		「市史編纂コラム第68回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕歴史史料と郷土愛
8月21日	近世	史料調査	山口薬局
9月4～5日	自然環境	松江城石垣調査	澤田委員
9月6～7日	近世	近世史料調査	東谷委員
9月7～8日	近現代	史料調査	野津左馬之助史料調査
9月8日		新聞記事掲載「山城の縄張り調査からみえるもの（山根正明）」	山陰中央新報
9月8日	全体	松江市史部会長会議	〔議題〕進捗状況と松江市史編纂委員会等について
9月11～15日	近現代	史料調査	鬼鷗委員
9月12～15日	近現代	史料調査	能川委員
9月13日	近現代	松江市史近現代史部会	〔議題〕①史料編「近現代II」について ②通史編「近現代」について
9月16日	松江城	松江市史講座	〔タイトル〕特色ある松江市内中世城館（山根正明（中世史部会））
9月23日～25日	近世	史料調査	東谷委員
9月27日～29日		堀尾公共同研究視察	
9月30日		『松江市ふるさと文庫』20発行	「松平不昧の茶室」和田嘉宥
10月5～6日		史料調査	川津公民館史料調査
10月6日		新聞記事掲載「水都松江の橋巡り① 北物門橋（殿町）」	山陰中央新報
10月10日	全般	平成29年度松江市史編纂委員会	〔議題〕①事業報告について ②松江市史編集状況について ③事業計画について ④松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題
10月16日		「市史編纂コラム第69回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕江戸中期、商人のお友達一人物と併句
10月20日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕①編纂スケジュールについて ②各章（分野）の原稿相互照合（すべての原稿の確認） ③各章間のページ割り振りの確定 ④参考文献の執筆基準について ⑤その他（来年度松江市史講座について）
10月25日		新聞記事掲載「松江の気象特性（谷永守）」	山陰中央新報
10月28～30日	近世	史料調査	東谷委員
10月28日	自然環境	松江市史講座	〔タイトル〕島根県（松江）の気象特性について（谷永守（自然環境部会））
11月9～10日	近現代	史料調査	川津公民館史料調査
11月9～10日		大町口視察受入（松江市史編纂事業について）	
11月18～19日	近世	近世史部会	〔議題〕①通史編Iスケジュール ②通史編II「節・項・見出し」原稿内容等の検討
11月25日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江市域の集落名称一本郷と口一（喜多村正（民俗部会））
12月1日	松江城	別編「松江城」査読検討会	
12月2日	松江城	第7回白潟地域歴史再発見楽習会	〔タイトル〕須田主殿と松江城研究－『松江市史』別編「松江城」の編集をとおして－
12月5日		新聞記事掲載「宍道湖・中海の水環境（清家泰）」	山陰中央新報
12月16日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕宍道湖・中海の水環境（清家泰（自然環境部会））
12月18日		「市史編纂コラム第70回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕バートン・ホームズの見た1922年の松江

平成30年

1月5・6日	松江城	別編「松江城」査読検討会	
1月11・12日		史料調査	川津公民館史料調査
1月18日		新聞記事掲載「唯一神道の普及と意宇六社の成立（小林准士）」	山陰中央新報
1月20日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕仏と神から見た近世（小林准士（近世史部会））
1月22日		「市史編纂コラム第71回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕松江城初代藩主・堀尾忠氏の発給文書について
2月6・7日		文書館関係：山口県文書館・山口市史編さん室へ視察	公文書管理について先進事例視察（小山、村角）
2月7・8日		文書館関係：松本市文書館へ視察	公文書管理について先進事例視察（稻田）
2月8・9日		史料調査	川津公民館史料調査
2月13日		新聞記事掲載「敗戦直後の松江における人びとの暮らし（鬼嶋淳）」	山陰中央新報
2月17日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕敗戦直後の松江における人々の暮らし（鬼嶋淳（近現代史部会））
2月18日	近現代	近現代史部会	〔議題〕① 史料編「近現代II」について ② 通史編「近現代」について ③ 来年度部会について

期日	担当部会	内 容	備 考
2月20・21日		史料調査	野津左馬之助史料調査
3月1日		『松江市歴史叢書』11(松江市史研究9号)発刊	
3月3・4日	近世	近世史部会	〔議題〕① 通史編近世Iについて ② 通史編近世IIについて
3月5日		「市史編纂コラム第72回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕松江城天守創建に関する祈祷札の発見(パート2)
3月8日	全般	松江市史部会長会議	〔議題〕① 松江市史編纂状況について ② 来年度予算(内示)と出版計画、事務局体制について ③ 松江市史編集委員会の日程、議案等について ④ 通史編「近現代」「終章」について ⑤ 公文書館について ⑥ その他
3月12・13日		史料調査	川津公民館史料調査
3月16日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 編纂スケジュールについて【資料 編纂スケジュール表】 ② 各章(分野)の原稿確認及び検討事項【資料 提出原稿】 ③ 各章のページ確定について ④ その他
3月16日		「市史編纂コラム第73回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕松江の「隠れ茶室」
3月20日		新聞記事掲載「松江城の調査・研究の現況と今後の展望(西尾克己)」	山陰中央新報
3月24日		『松江市史』別編1「松江城」発刊	(第13回配本)
3月24日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江城をめぐる諸問題と今後の展望—松江市史別編「松江城」の出版に併せて—(西尾克己・中井均・和田嘉宥・河原莊一郎(松江城部会))
3月25日		新聞広告「3月27日発売 松江市史 別編1松江城」	山陰中央新報
3月25日	松江城	松江城部会	〔議題〕別編「松江城」発刊について
3月25日	松江城	松江城調査報告会	〔タイトル〕石垣から考える松江城(乘岡実(松江城部会))
3月26日		新聞記事掲載「明窓 「松江市史 松江城」刊行」	山陰中央新報
3月26日		新聞記事掲載「謎が残る松江城「塩札」 市研究室専門官が解説」	山陰中央新報
3月30日		新聞記事掲載「『空っぽ』松江城 創建時体感を 6月まで展示品なし」	山陰中央新報
3月		『松江市歴史史料集』2-2「大保恵日記II」発刊	
3月		『松江市歴史史料集』2-3「大保恵日記III」発刊	
4月6日		新聞記事掲載「展示品搬出された松江城 狹 市が内覧会 狹間など見どころ説明」	山陰中央新報
4月11日		新聞記事掲載「松江市周辺の自然災害史(横田修一郎)」	山陰中央新報
4月14日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江市と周辺の自然災害史(横田修一郎(自然環境))
4月20日		文書館関係:歴史まちづくり部内協議	公文書と地域の歴史史料(古文書等)の調査・保存・管理、文書館について
4月21日	近世	近世史小部会(大阪)	〔議題〕① 執筆に関する基本事項 ② 常松・東谷委員原稿の査読及び内容調整、意見交換 ③ 出席先生方の原稿素読と意見交換 ④ その他 ⑤ 次回部会 など
4月26日		文書館関係:歴史まちづくり部内協議	公文書と地域の歴史史料(古文書等)の調査・保存・管理、文書館について
4月27日		文書館関係:総務課、史料編纂課協議	公文書と地域の歴史史料(古文書等)の調査・保存・管理、文書館について
5月7日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 編纂スケジュールについて ② 各章(分野)原稿の内校前最終確認及び検討事項 ③ その他
5月10日	原始古代	考古専門部会	『出雲考古学のあゆみ』発刊
5月10日		文書館関係:総務部、歴史まちづくり部両部長協議	公文書と地域の歴史史料(古文書等)の調査・保存・管理、文書館について
5月14日	全般	松江市史部会長会	〔議題〕① 4月1日からの体制変更 ② 松江市史編纂状況について ③ 通史編「近現代」「終章」について ④ 文書館について ⑤ その他
5月19日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江藩主松平宗衍・治郷二代の寵愛を受けた江戸詰藩士・萩野信敏 一天愚孔平伝(西島太郎(近世史部会))
5月22・23日		史料調査	北辰堂(旧・松江警察署)史料、野津左馬之助史料調査
6月		広告掲載「新刊のご案内 松江市史 別編1松江城 絶賛発売中」	今井書店の会員送付ハガキ
6月2~3日	近世	近世史部会	〔議題〕① 執筆に関する基本事項 ② 近世I原稿の査読・及び内容調整、意見交換 ③ 近世II原稿の査読・及び内容調整、意見交換 ④ 近世I付録 ⑤ その他 次回部会
6月3日	全般	平成30年度松江市史編集委員会	〔議題〕① 編纂体制、出版計画 ② 平成29年度事業報告、平成30年度事業計画 ③ 各部会の報告(事業報告、事業計画、調査・執筆・編集状況) ④ 『松江市史』通史編について ⑤ 松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題 ⑥ その他(松江市史研究執筆応募状況ほか)
6月3日	中世史	中世史部会	〔議題〕① 「中世史料集補遺」の原稿作成について ② 今後の部会活動について
6月3~4日	近現代	近現代史部会	〔議題〕① 史料編「近現代II」について ② 通史編「近現代」について ③ 今年度の部会等について ④ その他
6月6日		新聞記事掲載「世界遺産暫定リスト記載を」3市が文化庁に要望」	山陰中央新報
6月6日		新聞記事掲載「暫定リスト 国主導で 松江城などの世界遺産要望」	山陰中央新報
6月7日		新聞記事掲載「明窓 文化財保護行政のありかたについて」	山陰中央新報
6月7日		新聞記事掲載「松江市域における民芸運動の展開(吉儀和平)」	山陰中央新報
6月8日		文書館関係:総務部、財政部、歴史まちづくり部各次長協議	公文書と地域の歴史史料(古文書等)の調査・保存・管理、文書館について
6月11日		文書館関係:両副市長協議(総務部長、歴史まちづくり部長)	公文書と地域の歴史史料(古文書等)の調査・保存・管理、文書館について
6月11~12日		史料調査	北辰堂(旧・松江警察署)史料調査
6月16~17日	近世	近世史料調査	岸本委員
6月16日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江市域における民芸運動の展開とその担い手-出雲民芸紙と布志名焼を中心に-(吉儀和平(近現代史部会))
6月21日		文書館関係:市長協議(総務部長、歴史まちづくり部長)	公文書と地域の歴史史料(古文書等)の調査・保存・管理、文書館について
6月24日	自然環境	自然環境部会DVD打ち合わせ	〔議題〕① テスト版DVD最終チェックについて ② DVDデータの将来のあり方について ③ その他
6月29日		文書館関係:総務部、歴史まちづくり部両次長協議	松江市文書館検討委員会設置についての協議

期日	担当部会	内 容	備 考
7月4日		「市史編纂コラム第74回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江市域における気象観測と物産陳列所
7月9日		史料調査	山口薬局史料調査
7月9日		「市史編纂コラム第75回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江城の桐の階段
7月13日		著作権セミナー（鳥取市）	高橋専門調査員受講
7月14日		新聞記事掲載「出雲考古学のあゆみ 3年がかりで出版 県内考古学関係有志」	山陰中央新報
7月15日	近世	近世史部会	【議題】① 執筆に関する基本事項 ② 執筆者交代による頁割り ③ 近世II原稿調整 ④ 近世IIの口絵案 ⑤ 近世IIのコラムテーマ案 ⑥ 前回6月2・3日 近世II原稿の素読・及び内容調整、意見交換 ⑦ 次回部会
7月16日		新聞記事掲載「明窓 島根県の文化財行政について」	山陰中央新報
7月17日		新聞記事掲載「武家屋敷修復〈足立正智〉」	山陰中央新報
7月18日		文書館関係：総務課、史料編纂課協議	（総務部）文書管理改善スケジュール (歴まち部) 公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状、専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け、アーキビストの職務と遂行要件、松江市文書館検討委員会設置準備について
7月18～19日		史料調査	普門院文書・北辰堂（旧・松江警察署）史料調査
7月20～21日	自然環境	松江城石材調査	澤田委員
7月21日	全般	松江市史講座	【タイトル】武家屋敷の修理と復原（足立正智（松江城部会））
7月27日		新聞記事掲載「『出雲考古学のあゆみ』を読む〈岡部康幸〉」	山陰中央新報
8月8日		文書館関係：総務部、歴史まちづくり部両次長協議	（総務部）文書管理改善スケジュール (歴まち部) 公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状、専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け、アーキビストの職務と遂行要件、松江市文書館検討委員会設置準備について
8月9日		史料調査	雑賀公民館史料調査
8月16日		新聞記事掲載「弥生時代史に見る東アジアとの交流（松本岩雄）」	山陰中央新報
8月18日	全般	松江市史講座	【タイトル】弥生時代史にみる東アジアとの交流（松本岩雄（原始古代史部会））
8月22日		「市史編纂コラム第76回」掲載（ホームページ）	【タイトル】松江に暮らす庶民の記録「大保恵日記」紹介
8月23日		史料調査	雑賀公民館史料調査
8月24日		文書館関係：総務部、歴史まちづくり部両部長協議	（総務部）文書管理改善スケジュール (歴まち部) スケジュール表、公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状、専門的職員の配置場所と所管文書の仕分け、アーキビストの職務と遂行要件、松江市文書館検討委員会設置準備について
8月27～31日		国立公文書館研修（アーカイブズ研修I）	小山副主任受講
8月30日		新聞記事掲載「企画展「松江藩主松平治郷の藩政改革」上〈西島太郎〉」	山陰中央新報
8月31日		新聞記事掲載「企画展「松江藩主松平治郷の藩政改革」下〈西島太郎〉」	山陰中央新報
9月2日	松江城	松江城部会	【議題】① はじめに ② 各G会からの報告・・・（各G長） ③ 協議事項 ④ その他
9月4日		新聞記事掲載「莊園のしくみと下地中分〈西田友広〉」	山陰中央新報
9月4日		文書館関係：総務課、史料編纂課協議	文書管理改善スケジュールについて
9月11日		松江市議会で公文書館についての質問（吉儀敬子議員）	総務部長より公文書館の整備構想を今年度中に策定したい等答弁
9月12日		新聞記事掲載「松江市 公文書館新設へ 管理適正化 年度内に整備構想」	山陰中央新報
9月13日		史料調査	雑賀公民館史料調査
9月15日	全般	松江市史講座	【タイトル】莊園のしくみと下地中分（西田友広（中世史部会））
9月18日		文書館関係：総務課、史料編纂課協議	文書管理改善スケジュール、第1回文書館検討委員会資料について
9月19日		「市史編纂コラム第77回」掲載（ホームページ）	【タイトル】「松江城部会」ミニレポート
9月20日		史料調査	雑賀公民館史料調査
9月20日		文書館関係：総務部、歴史まちづくり部両部長協議	文書管理改善スケジュール、第1回文書館検討委員会資料について
9月21日		新聞記事掲載「御立派改革期の松江藩経済政策（伊藤昭弘）」	山陰中央新報
9月23日		機関誌記事掲載「公文書の「文書館」設置を」	新しい松江
9月29日	近世	松江歴史講演会	【タイトル】御立派改革期の松江藩経済政策（伊藤昭弘（近世史部会））
9月29～30日	近世	近世史部会	【議題】① 執筆に関する基本事項 ② 近世I ③ 近世II ④ 次回部会
10月3～5日	松江城	支城調査	赤名城調査 中井委員、松尾委員、乗岡委員
10月4日		新聞記事掲載「星上寺大餅行事の編成～中世から近現代まで〈喜多村理子〉」	山陰中央新報
10月8日		新聞記事掲載「活躍マルチな桑原羊次郎 研究者ら市内2カ所で企画展」	山陰中央新報
10月11日		新聞記事掲載「山陰中央新報社地域開発賞 2018年受賞者6人決まる（井上寛司さん）」	山陰中央新報
10月11日		新聞記事掲載「古代国府の実像－出雲国府の調査成果から〈佐藤信〉」	山陰中央新報
10月17～18日		史料調査	雑賀公民館史料調査
10月19日	全般	第1回松江市文書館（仮称）検討委員会	【議題】① 松江市における公文書と地域に所在する歴史史料（古文書等）の数量的現状 ② 公文書管理と文書館のイメージ ③ 文書管理改善スケジュール（案） ④ 意見交換
10月20日	民俗	松江市史講座	【タイトル】星上山大餅行事の変遷～近世から近現代へ（喜多村理子（民俗部会））
10月23日		新聞記事掲載「山陰中央新報社地域開発賞 きょう表彰式」	山陰中央新報
10月23日		新聞記事掲載「受賞者の横顔（井上寛司市史編集委員長）」	山陰中央新報
10月24日		新聞記事掲載「地域貢献活動 決意新た 地域開発賞表彰式」	山陰中央新報
10月24日		史料調査	山口薬局文書
10月25日		第1回松平治郷（不昧公）研究会	山陰中央新報
10月26日		新聞記事掲載「藩主・治郷の功績に光を 松江市研究会が発足」	山陰中央新報
10月28日		新聞記事掲載「松江市新設方針の文書館 規模や基準など検討へ」	山陰中央新報
10月31日		新聞広告掲載「国宝松江城を守り、伝えるキャンペーン」	山陰中央新報

期日	担当部会	内 容	備 考
11月3日		新聞記事掲載「松江城下町遺跡の発掘調査〈小山泰生〉」	山陰中央新報
11月3日	全般	松江市史講座	【タイトル】松江城下町の考古学－地面の下の松江城下町遺跡－（小山泰生（松江城部会））
11月9日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕① 編纂スケジュールについて ②添付DVDについて ③凡例について ④執筆分担一覧等について ⑤その他検討事項 ⑥その他
11月12日	全般	平成30年度松江市史編纂委員会	〔議題〕①事業報告について ②松江市史編纂状況について ③事業計画について ④松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題について
11月26日	全般	鳥取県立公文書館へ視察	公文書管理について先進事例視察（総務部総務課、史料編纂課職員）
12月6日		史料調査	山口薬局文書
12月10日～11日	松江城	支城（城下）調査	広瀬（富田）、三刀屋、三沢調査 松尾委員
12月12日		新聞記事掲載「明らかになった松江市の生物相〈佐藤仁志〉」	山陰中央新報
12月15日	全般	松江市史講座	【タイトル】松江の自然～見どころあれこれ～（佐藤仁志（自然環境）） 〔議題〕①研修会「鳥取県立公文書館の取り組み」 ②第1回の論点整理と新庁舎建設計画について ③「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議
12月20日	全般	第2回松江市文書館（仮称）検討委員会	「郷土のエンサイクロペディア 桑原羊次郎・桑原羊次郎・相見香雨研究会編」
12月20日		『松江市ふるさと文庫』21発行	月照寺調査 中井委員ほか（松江城部会）
12月26～27日	松江城	大名墓調査	
12月30日		新聞記事掲載「年間ベストセラーズ ③松江市史別編1松江城」	山陰中央新報
平成31年			
1月5日		新聞記事掲載「家康拠点に秀吉方築城か 駿府、浜松城に天守や櫓遺構」	山陰中央新報
1月5～6日	近世	近世史部会	〔議題〕①執筆に関する基本事項 ②近世I ③近世II ④次回部会
1月15日		新聞記事掲載「松江藩の年貢収納と行政機構〈東谷智〉」	山陰中央新報
1月19日	全般	松江市史講座	【タイトル】江戸時代中後期の郡・村政－「殿（しま）り合い」「御勝手御任せ」をめぐって－東谷智（近世史部会）
1月25日		新聞記事掲載「松江藩財務 民間にお任せ 市史部会が調査」	山陰中央新報
1月28日		新聞記事掲載「近代の礎築いた「歩く市長」福岡世徳 地元NPOが講演会」	山陰中央新報
1月29日		新聞記事掲載「島根町誌関連資料2千点 県立大生がデジタル化」	山陰中央新報
2月4日		第3回松江市文書館（仮称）検討委員会	〔議題〕「松江市文書館（仮称）整備構想（案）」の審議、答申案決定
2月8日		「市史編纂コラム第78回」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕松江の水上飛行機
2月6～7日		史料調査	雑賀公民館史料調査
2月13日		新聞記事掲載「50年かった中海干拓淡水化事業（徳岡隆夫）」	山陰中央新報
2月16日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕中海・宍道湖の干拓・淡水化事業の歴史的回顧（徳岡隆夫（自然環境））
2月18日		第2回松平治（不昧公）研究会	
2月19日		新聞記事掲載「松江城築城時の石垣発見 堀尾氏の工法手掛かり」	山陰中央新報
2月21～22日	近現代	近現代史部会	〔議題〕①通史編について ②史料編について
3月1日		松江市議会で公文書館についての質問（三島伸夫議員）	総務部長より、平成31年度中の公文書管理条例作成等答弁
3月13日～14日		史料調査	雑賀公民館史料調査
3月15日	自然環境	自然環境小部会	〔議題〕史料編「自然環境」第3校について
3月15日		『松江市歴史叢書』12（松江市史研究10号）発刊	
3月16日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江城下絵図とデジタルマップ－その構築・分析・活用まで－（渡辺理絵（絵図・地図部会））
3月19日		新聞記事掲載「市史講座 4月13日プラバホールで開講」	山陰中央新報
3月20日		『松江市ふるさと文庫』22発行	「出雲に来た渤海人－東アジア世界のなかの古代山陰と日本海域－」大日方克己
3月23日		松江城調査報告会	
3月24～26日	松江城	堀尾家石塔調査	高野山調査 西尾部会長、岡崎委員
3月25日		『松江市史』通史編3「近世I」発刊	（第14回配本）
3月25日		『松江市ふるさと文庫』23発刊	「石が語る松江城の物語」澤田順弘
3月28日	全般	松江市文書館（仮称）整備構想答申	松江市文書館（仮称）検討委員会井上寛司委員長より松浦正敬松江市長へ答申（同日付で松江市は行政計画として策定）
3月29日		新聞記事掲載「島根県立図書館「古文書を読む会」郷土史的魅力伝えて半世紀」	山陰中央新報
3月30～31日	近世	近世史部会	〔議題〕①執筆に関する基本事項 ②近世II ③（付録）年表 掲載項目の選定 ④その他 次回部会
4月1日		「市史編纂コラム#0」掲載（ホームページ）	〔タイトル〕第79回：『松江市史』から読み解く「大橋川」と「大橋」の名称由来（1）大橋川の名称由来編（2）推論：「大橋」の名称起源と斐伊川東流について
4月3日		新聞記事掲載「松江市の文書館整備構想 「利便性よい場所に」検討委答申」	山陰中央新報
4月13日	自然環境	松江市史講座	〔タイトル〕縄文～弥生時代の景観と遺跡（会下和宏（自然環境））
4月25日		新聞記事掲載「天皇陛下とハゼ談義 研究通し親交 元県職員・佐藤さん」	山陰中央新報
令和元年			
5月10日	近世	近世史小部会・史料調査	〔議題〕通史編「近世II」原稿調整、今後の予定について 史料調査：沢山委員
5月11日	近世	松江市史講座	〔タイトル〕近世松江の女・男・子ども（沢山美果子（近世史部会））
5月18日	全般	令和元年度松江市史編集委員会	〔議題〕①編纂体制・出版計画 ②平成30年度事業報告、令和元年度事業計画 ③各部会の報告（事業報告、事業計画、調査・執筆・編集状況） ④松江市史編纂基本計画の実施状況と今後の課題 ⑤その他（松江市史研究執筆応募状況ほか）
5月18日	自然環境	自然環境小部会	〔議題〕史料編「自然環境」第4校について

期日	担当部会	内 容	備 考
5月18日・19日	近世	近世史部会	〔議題〕①執筆に関する基本事項 ②近世II ③(付録)年表について ④その他 次回予定
5月18日・19日	近現代	近現代史部会	〔議題〕①史料編「近現代II」について ②通史編「近現代」について ③その他
5月20日		菅田庵櫻史料調査	
5月30日		「市史編纂コラム第80回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕富田城下の寺院について
6月2日		新聞記事掲載「出雲地方の喫茶習慣の歴史学ぶ 安来で講座」	山陰中央新報
6月5日		新聞記事掲載「松江城南側の石垣下 防空壕跡 全長35メートル」	山陰中央新報
6月5日	近世	近世史小部会	〔議題〕通史編「近世II」原稿調整、今後の予定について
6月6日・7日	近現代	史料調査	雑賀公民館史料調査
6月15日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕昭和恐慌と畜産業の展開－「米と繭」から「有畜農業」へ－(板垣貴志(近現代史))
6月25日		「市史編纂コラム第81回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕『『松江城を掘る』の刊行について』
6月		『松江市歴史史料集』4「御産献立控帳」発刊	
7月1日		『松江市史』史料編10「近現代II」発刊	(第15回配本)
7月1日		『松江市史』史料編1「自然環境」発刊	(第16回配本)
7月20日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕出雲に来た渤海人－東アジア世界のなかの古代山陰と日本海－(大日方克己(原始古代史部会))
7月27日・28日	近世	近世史部会	〔議題〕①執筆に関する基本事項 ②今後の予定 ③近世II原稿の調整(資料2) ④執筆原稿により協議 ⑤初校校正について ⑥その他 次回部会予定
7月29日		第3回松平治郷(不昧公)研究会	
7月		『松江市歴史史料集』2-4「大保恵日記IV」発刊	
8月17日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江藩の支城下町－広瀬・三刀屋・赤名(松尾信裕(松江城部会))
8月20日		「市史編纂コラム第82回」掲載(ホームページ)	〔タイトル〕藩主治郷(不昧公)と女性たち、その明暗－『御産献立控帳』に見る
8月23日	自然環境	自然環境部会	〔議題〕①史料編「自然環境」発刊について ②今後の活動・研究テーマ等
8月26日～30日		国立公文書館研修(アーカイブズ研修I)	村角専門調査員受講
9月14日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕続・源頼朝と出雲国(原慶三(中世史部会))
9月26～27日	近現代	史料調査	雑賀公民館史料調査
10月19日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江城跡の築城経緯と縄張り(山上雅弘(松江城部会))
10月20日	松江城	松江城部会	
11月3日・4日	近現代	近現代史部会	〔議題〕①原稿の調整 ②口絵について ③ルビ、参考文献、索引について
11月16日	自然環境	松江市史講座	〔タイトル〕島根半島の大地は日本海の底から引き上げられた:地層が記録する別の「くにびき」(酒井哲弥(自然環境部会))
11月24日	近世	近世史部会	〔議題〕通史編「近世II」原稿の調整
12月20日		和泉市教育委員会視察(文書館整備構想について)	
12月21日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江藩の縁組と相続戦略(石田俊(近世史部会))
令和2年			
1月15日～17日		国立公文書館研修(アーカイブズ研修II)	小山副主任受講
1月18日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕女たちの行商－恵雲の魚商人と大根島の花売りさん－(山本志乃(民俗部会))
2月14日	全般	松江市史編纂委員会	
2月15日	全般	松江市史講座	〔タイトル〕松江の水道敷設と水環境(大矢幸雄(絵図・地図部会))
2月21日		第4回松平治郷(不昧公)研究会	
3月3日	全般	松江市史部会長会	松江市史完結シンポジウムについて
3月20日		『松江市ふるさと文庫』24発刊	「西洋医学受容から衛生思想普及までの道のり－南蛮流医学からオランダ医学、そしてドイツ医学へ－」田野俊平、梶谷光弘
3月20日		『松江市ふるさと文庫』25発刊	「松江藩主松平家墓所－松江・月照寺に守り伝えられる近世大名墓－」全国大名墓研究会編著
3月21日	全般	松江市史講座(完結シンポジウム)	〔タイトル〕松江市史の完成と松江の未来へ(各部会長)
3月31日		『松江市歴史叢書』13(松江市史研究11号)発刊	
3月31日		『松江市史』通史編4「近世II」発刊	(第17回配本)
3月31日		『松江市史』通史編5「近現代」発刊	(第18回配本)

(敬称略)

これまでに刊行した松江市史付帯出版物

これまでに刊行した松江市ふるさと文庫

No.	タイトル	著者	発行年月	頁数
1	お殿様の御成り－近世松江藩主と本陣－	小林准士	平成18年2月	60頁
2	大根島のおいたちと洞窟生物	澤田順弘、新部一太郎、星川和夫	平成19年3月	51頁
3	松江藩の財政危機を救え－二つの藩政改革とその後の松江藩－	乾 隆明	平成20年2月	63頁
4	堀尾吉晴と忠氏－松江開府を成しとげた武将たち－	佐々木倫朗	平成20年3月	40頁
5	城下町松江の誕生と町のしくみ－近世大名堀尾氏の描いた都市デザイナー	松尾 寿	平成20年11月	120頁
6	堀尾吉晴－松江城への道－浜松、富田、松江城普請の軌跡－	山根正明	平成21年1月	118頁
7	松江市の指定文化財－未来へ伝える松江の文化遺産250－	「松江市の指定文化財」編集委員会	平成22年3月	246頁
8	京極忠高の出雲国・松江	西島太郎	平成22年2月	124頁
9	松江城下に生きる－新屋太助の日記を読み解く－	松原祥子	平成22年3月	63頁
10	松江市史への序章－松江の歴史像を探る－	井上寛司他18名	平成22年3月	138頁
11	松江藩校の変遷と役割	梶谷光弘	平成22年6月	104頁
12	決定版 見立番付を楽しむ	乾隆明、下房俊一	平成22年10月	115頁
13	雲陽秘記と松江藩の人々	田中則雄	平成23年3月	86頁
14	松江掃苔録－松江藩を支えた家と人－	青山侑市	平成24年3月	104頁
15	中世水運と松江－城下町形成の前史を探る－	長谷川博史	平成25年1月	90頁
16	松江城再発見－天守、城、そして城下町－	西 和夫	平成26年8月	124頁
17	松江の碑－碑が語る松江の歴史－	安部 登	平成27年7月	98頁
18	古墳時代史からみる古代出雲成立の起源	池淵俊一	平成29年1月	112頁
19	石垣と瓦から読み解く松江城	乗岡 実	平成29年3月	104頁
20	松平不昧の茶室－不昧が求めた茶の湯の空間－	和田嘉宥	平成29年9月	104頁
21	郷土のエンサイクロペディア 桑原羊次郎	桑原羊次郎・相見香雨研究会編	平成30年12月	58頁
22	出雲に来た渤海人－東アジア世界のなかの古代山陰と日本海域－	大日方克己	平成31年3月	100頁
23	石が語る松江城の物語	澤田順弘	平成31年3月	104頁
24	西洋医学受容から衛生思想普及までの道のり－南蛮流医学からオランダ医学、そしてドイツ医学へ－	田野俊平・梶谷光弘	令和2年3月	124頁
25	松江藩主松平家墓所－松江・月照寺に守り伝えられる近世大名墓－	大名墓研究会	令和2年3月	60頁

これまでに刊行した松江市歴史叢書

No.	テーマ	タイトル	著者	発行年月	頁数
1	京都・妙心寺派春光院（堀尾氏菩提寺）－堀尾氏関連の文献・石造物調査－	春光院に所在する来待石製石塔群について	岡崎雄二郎、西尾克己、稻田信、樋口英行、佐々木倫朗、松原祥子	平成19年12月	102頁
		春光院所蔵の堀尾氏関連文献史料について	佐々木倫朗、和田美幸、松原祥子、狩野真由、福井将介、樋口英行		
2	松江市史研究1号	新『松江市史』編纂の意義	井上寛司	平成22年3月	159頁
		第一次桂太郎内閣下の府県廃合計画と福岡世徳・松江市長の上京活動	竹永三男		
		島根県における鉄道敷設運動の出発	沼本 龍		
		堀尾吉晴・忠氏父子に関する基礎的考察	福井将介		
		松江藩主の居所と行動－京極・松平期－	西島太郎		
		松江東照宮と圓流寺伝来の石造物について－松江神社、圓流寺、鰐淵寺等に所在する石造物－	岡崎雄二郎、西尾克己、稻田信、椿真治、木下誠、松尾充晶、高屋茂男		
		將軍家を祀った東照宮と圓流寺	山根克彦		
3	松江市の近代化遺産（興雲閣特集I）	堀尾氏関係史料目録	福井将介	平成22年3月	106頁
		興雲閣の魅力	堀 勇良		
		建築史からみた興雲閣の位置づけ	足立正智		
		興雲閣の沿革	新庄正典		
		興雲閣貴顕室壁紙について	安部己団枝		
		興雲閣貴顕室壁紙の下張りについて	沼本 龍		
4	松江市史研究2号	資料 興雲閣の一部解体調査報告	松江市教育委員会文化財課	平成23年3月	106頁
		応仁・文明の乱と尼子氏－文書の声を聴く－	原 康三		
		島根県民俗学関連雑誌等目次総覧	山崎 亮		
		松江市史編纂日誌	史料編纂室		
		附 松江市史編纂基本計画	松江市史編纂検討委員会		
5	松江市史研究3号	宗教施設と宗教者身分からみた近世出雲の特徴－松江市域を中心に－	小林准士	平成24年3月	135頁
		絵図と測量図に見る大橋川の歴史	徳岡隆夫、高安克己、大矢幸雄		
		2000年代に島根半島沿岸域の定置網で漁獲された魚介類の季節変動および年変動	勢村 均		
		松江市沿岸海域の魚類	越川敏樹		
		島根県の弥生時代鉄器集成	池淵俊一		
		出雲の子持壺集成	池淵俊一		

		出雲国司補任表（稿）大宝元年～保元元年 島根県立図書館所蔵「桃家資料」－解題と目録－ 寛永期に2度作成された中国筋国絵図－寛永10、15 年出雲国絵図の比較－ 松江市史編纂日誌 松平直政論－西国における政治的位置－	大日方克己 宇野田尚哉 川村博忠 史料編纂室 三宅正浩	
6	松江市史研究4号	政府に報告された市内発見の古墳－『埋蔵物録』にみる松江の近代考古学－ 松江市域の横穴墓－意宇型横穴墓を中心として－ 「松江城及城下古図」の特徴とその表現内容 明治初年出雲地域における郡別産物の特徴 日本新八景の選定をめぐる諸運動と松江市 松江市史編纂日誌 松江における米騒動に関する史料紹介	渡辺貞幸 西尾克己、稻田信 渡辺理絵、大矢幸雄 鳥谷智文 長尾隼 史料編纂室 能川泰治	平成25年3月 118頁
		松江藩財政に関する覚書 白潟町屋の商人と町人地の変容－「松江白潟町絵図」の分析を中心として－	伊藤昭弘 大矢幸雄、渡辺理絵	
		明治期における伝染病の大流行と民間信仰 松江市所在の五輪塔・宝篋印塔一覧表（稿）	喜多村理子 松江石造物研究会	
		松江城の石垣の構造と年代 三ノ丸の特色とその推移について 松江平野の古環境(3)－県道城山北公園線（大手前通り）発掘調査に関連して(3)－	乗岡実 和田嘉有 渡辺正巳、瀬戸浩二	
		松江市史編纂日誌 尼子氏による出雲国成敗権の掌握 『土工記』にみる河川の維持管理と松江藩の藩政改革	史料編纂室 川岡勉 東谷智	
		19世紀中頃における松江・北堀町新橋の住人と空間構成 史跡松江城の発掘調査(1)－外曲輪（二之丸下ノ段）－	大矢幸雄、渡辺理絵 岡崎雄二郎	平成27年3月 128頁
		大崎下屋敷の拡張・整備と建築に関する考察 松江城の屋根瓦－山陰で活躍した瓦工人と城郭整備－ 遺跡から見た出雲府中 松江平野北部の平野発達史と古環境変遷史 松江の中世石塔訪問 松江市史編纂日誌	和田嘉有、安高尚毅 乗岡実 西尾克己、廣江耕二 瀬戸浩二、渡辺正巳、山田和芳、高安克己 狹川真一 史料編纂室	
9	松江市史研究7号	堀尾氏の出雲支配における支城について(3)－亀嵩城と三沢城－ 文献史料から見た松江城築城物語 松江城および周辺遺跡出土瓦の胎土分析について 松江市域の絵図目録（中間報告） 松江城下町遺跡における陶磁器の様相と編年について－17世紀代の資料を中心に－ 史跡松江城の発掘調査(2)－北惣門橋、御廊下橋跡－ 松江平野北部の平野発達史と古環境変遷史(2)－花粉分析から推定される古植生－ 松江城城郭呼称について 松江城古写真天守考 〈史料紹介〉「高城権八家過去帳」に見る高城権八家の系譜 松江市史編纂日誌	中井均 佐々木倫朗、福井将介 白石純 大矢幸雄 小山泰生 岡崎雄二郎 渡邊正巳、瀬戸浩二、山田和芳、高安克己 松江城部会 稻田信、福井将介 稻田信、内田文恵、小山祥子 史料編纂室	平成28年3月 128頁
		初期松江城天守の形態に関する試論－絵図、文献史料、天守に残された痕跡を通して－ 「正保城絵図」と「出雲国松江城絵図」に関する考察 出雲における中近世の瓦と松江城築城期の瓦 松江平野北部の平野発達史と古環境変遷史－法吉坡の形成と周辺の古植生－ 〈史料紹介〉「出雲名物番付」 松江市史編纂日誌 松江藩七里飛脚と本陣の機能 「堀尾古記」の検討	和田嘉有、稻田信 和田嘉有、稻田信 花谷浩 渡辺正巳、瀬戸浩二、奥中亮太 鳥谷智文 史料編纂課 大津瞳 佐々木倫朗、小山祥子	
		近世初期における松江城下町の空間的特性－「堀尾期松江城下町絵	大矢幸雄、渡辺理絵	
		松江城石垣の岩石とその原産地 〈史料紹介〉明治8年以前の城郭施設を描いた「旧松江城図面」と類似の絵画資料について	新宮敦弘、澤田順弘、古川寛子、乗岡実 和田嘉有、岡崎雄二郎、稻田信	
		松江城天守築城鎮宅の祈祷について 松平宣維室天岳院の立場と役割	大北哲也 石田俊	
11	松江市史研究9号			平成30年3月 152頁

		近世後期、松江藩領における小型廻船の活動 新出の商家文書紹介－両替商・桑原家と「志儀」－ 桑原羊次郎とその美術工芸研究	中安恵一 村角紀子 村角紀子		
12	松江市史研究10号	松江城郭絵図「出雲御本丸」について 白瀬天満宮と西岩坂村平林家 「客船帳」にみる城下町松江の廻船－町人地研究の基礎資料として蒐集－ 松江・善光寺に所在する来待石石塔群について 松江市史編纂日誌 「日吉の切通し」に関する考察と史料紹介 築上鉄道の創立と松江－明治後期の出雲地域－ 『松江市史』史料編「中世」補遺 鎌倉初期の出雲守護安達親長について－河内金剛寺所蔵『梵網經古述記卷下』紙背文書から－	和田嘉宥 喜多村理子 大矢幸雄 岡崎雄二郎・西尾克己・稻田信・高屋茂男 史料編纂課 多久田友秀 沼本 龍 中世史部会 堀江康史	平成31年3月	138頁
		『松江市史』編纂事業の成果と課題 出雲地方における御頭・伽藍頭-オコナイ系行事の検討－	松江市史編集委員会委員長井上寛司 喜多村理子		
		松江城の石垣刻印分布調査について(1)－中曲輪東面石垣－ 史跡松江城の発掘調査(3)－本丸土坑－ 松江城月見櫓下石垣と石材について 『松江市史』史料編11「絵図・地図」の「郡村図・地籍図」目録－中間報告以降の調査を受けて－ 松江・善光寺に所在する伝佐々木高綱五輪塔について 松江市文書館(仮称)の検討と整備構想 松江市史編纂事業のあゆみ	岡崎雄二郎・乗岡実・飯塚康行・徳永隆 岡崎雄二郎 徳永隆・澤田順弘・新宮敦弘 大矢幸雄 岡崎雄二郎・西尾克己・稻田信・木下誠・樋口英行 史料編纂課 史料編纂課		
		『松江市史』編纂事業の成果と課題 出雲地方における御頭・伽藍頭-オコナイ系行事の検討－	松江市史編集委員会委員長井上寛司 喜多村理子		
		松江城の石垣刻印分布調査について(1)－中曲輪東面石垣－ 史跡松江城の発掘調査(3)－本丸土坑－ 松江城月見櫓下石垣と石材について 『松江市史』史料編11「絵図・地図」の「郡村図・地籍図」目録－中間報告以降の調査を受けて－ 松江・善光寺に所在する伝佐々木高綱五輪塔について 松江市文書館(仮称)の検討と整備構想 松江市史編纂事業のあゆみ	岡崎雄二郎・乗岡実・飯塚康行・徳永隆 岡崎雄二郎 徳永隆・澤田順弘・新宮敦弘 大矢幸雄 岡崎雄二郎・西尾克己・稻田信・木下誠・樋口英行 史料編纂課 史料編纂課		
		『松江市史』編纂事業の成果と課題 出雲地方における御頭・伽藍頭-オコナイ系行事の検討－	松江市史編集委員会委員長井上寛司 喜多村理子		
		松江城の石垣刻印分布調査について(1)－中曲輪東面石垣－ 史跡松江城の発掘調査(3)－本丸土坑－ 松江城月見櫓下石垣と石材について 『松江市史』史料編11「絵図・地図」の「郡村図・地籍図」目録－中間報告以降の調査を受けて－ 松江・善光寺に所在する伝佐々木高綱五輪塔について 松江市文書館(仮称)の検討と整備構想 松江市史編纂事業のあゆみ	岡崎雄二郎・乗岡実・飯塚康行・徳永隆 岡崎雄二郎 徳永隆・澤田順弘・新宮敦弘 大矢幸雄 岡崎雄二郎・西尾克己・稻田信・木下誠・樋口英行 史料編纂課 史料編纂課		
		『松江市史』編纂事業の成果と課題 出雲地方における御頭・伽藍頭-オコナイ系行事の検討－	松江市史編集委員会委員長井上寛司 喜多村理子		
		松江城の石垣刻印分布調査について(1)－中曲輪東面石垣－ 史跡松江城の発掘調査(3)－本丸土坑－ 松江城月見櫓下石垣と石材について 『松江市史』史料編11「絵図・地図」の「郡村図・地籍図」目録－中間報告以降の調査を受けて－ 松江・善光寺に所在する伝佐々木高綱五輪塔について 松江市文書館(仮称)の検討と整備構想 松江市史編纂事業のあゆみ	岡崎雄二郎・乗岡実・飯塚康行・徳永隆 岡崎雄二郎 徳永隆・澤田順弘・新宮敦弘 大矢幸雄 岡崎雄二郎・西尾克己・稻田信・木下誠・樋口英行 史料編纂課 史料編纂課		

これまでに刊行した松江市歴史史料集

No.	テーマ	タイトル	発行年月	頁数
1	湯之助文書	1-1 湯之助文書(上)	平成19年2月	96頁
		1-2 湯之助文書(下)		
2	大保恵日記	2-1 大保恵日記I 文政九年十六日～天保七年八月二十五日	平成28年4月	126頁
		2-2 大保恵日記II 弘化五年(嘉永元年)【大保恵日記 二冊目 上】		
		2-3 大保恵日記III 嘉永二年【大保恵日記 二冊目 下】		
		2-4 大保恵日記IV 嘉永四年【大保恵日記 三冊目 上】		
3	新番組列土録	新番組列土録 上、中、下ノ上、下ノ下(全四冊)	平成28年10月	137頁
4	御産献立控帳	御産献立控帳－松江藩主松平家の料理方小田九藏の御祝レシピー	令和元年6月	74頁

これまでに刊行した松江城研究

No.	テーマ	タイトル	著者	発行年月	頁数
1	松江城研究報告会「松江城研究の最前线－わかったことこれからと－」	基調報告「松江城研究の最前线」	山根正明	平成24年3月	120頁
		分野別報告「松江城の縄張りについて」	山上雅弘		
		分野別報告「松江城天守と城郭施設について」	和田嘉宥		
		分野別報告「松江城下町遺跡の構造と町割り」	松尾信裕		
		堀尾氏の出雲支配における支城について(1) －三刀屋尾崎城－	中井 均		
		松江平野の古環境(1) －県道城山北公園線発掘調査に関連して(1)－	渡辺正巳、瀬戸浩二		
		【史料翻刻・解題】『(竹内右兵衛書つけ)』	和田嘉宥		
		松江城天守創建に関わる祈祷札について	稻田 信、内田文恵、居石由樹子		
2	再発見の祈祷札	松江城祈祷札の樹種同定及びウイグルマッチングによる年代測定	渡辺正巳	平成25年3月	126頁
		「奉転読大般若經六百部武運長久延」祈祷札付着の紙片について	安部己団枝		
		松江城下町絵図と城下町の建設	水田義一		
		松江城下町遺跡の土質試験	河原莊一郎		
		松江平野の古環境(2) －県道城山北公園線(大手前通り)発掘調査に関連して(2)－	渡辺正巳、瀬戸浩二		
		「武家屋敷」創建時の姿を探る	足立正智		
		松江城城郭施設の推移について	和田嘉宥		
		堀尾氏の出雲支配における支城について(2) －赤名瀬戸山城－	中井 均		
		満願寺城跡の発掘調査について	岡崎雄二郎		
		尼子家復興戦における佐陀江と満願寺城	山根正明		
		松江城の空間構成をめぐる研究視点の提言	堀田浩之		
		【史料翻刻・考察】『御城内惣間数』	和田嘉宥		

ホームページ掲載「松江市史編纂コラム」一覧

【松江市史ホームページ】<http://www1.city.matsue.shimane.jp/bunka/matsueshishi/>

(松江市史編纂事業終了に伴う変更あり)

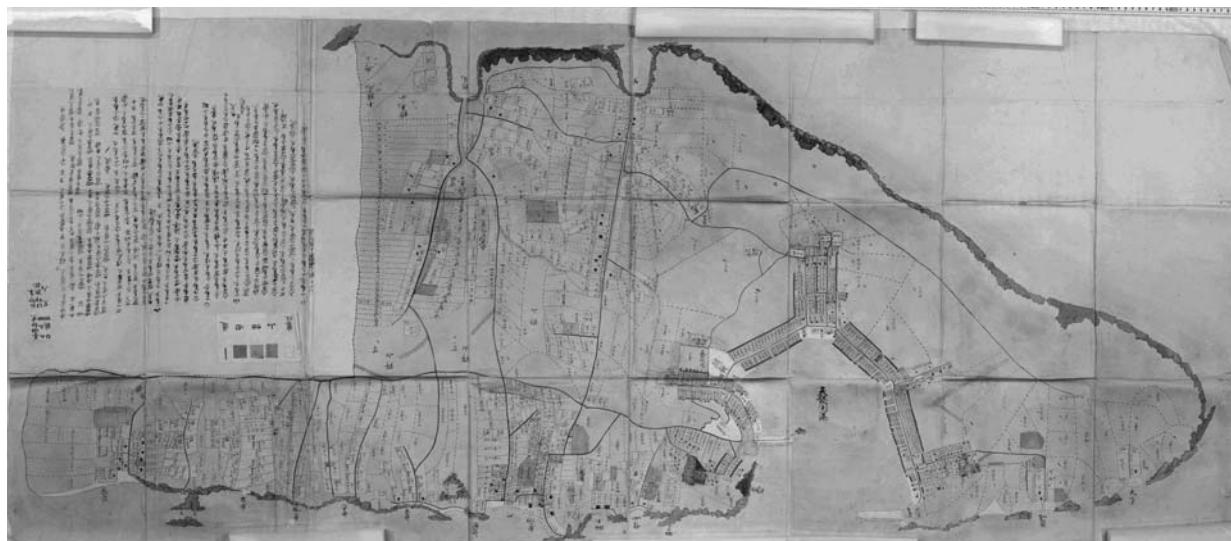
タイトル・執筆者	掲載日
第1回：堀尾但馬の子孫・堀尾方善の後半生（史料編纂室：福井将介）	平成22年10月1日
第2回：銀山と松江藩との借金バトル（史料編纂室：内田文恵）	平成22年11月1日
第3回：上空に現れる謎の物体（史料編纂室：和田美幸）	平成22年12月1日
第4回：松江制服図鑑明治編-私立中学修道館の巻-（史料編纂室：居石由樹子）	平成23年1月5日
第5回：石切丁場に残る残念石（松江城部会：山根正明）	平成23年2月1日
第6回：明治時代のシラウオ缶詰工場～宍道湖・中海の豊かな水産資源と松江の商工業～（史料編纂室：沼本龍）	平成23年3月2日
第7回：伊能測量を機に正確な地図を作った松江藩の人々（絵図・地図部会：乾隆明・面谷明俊）	平成23年4月1日
第8回：佐太神社の神在祭（民俗部会：品川知彦）	平成23年5月2日
第9回：床几山の水道施設と外灯（松江城部会：足立正智）	平成23年6月1日
第10回：中世松江の「筌(うけ・せん)」漁業（中世史部会：西田友広）	平成23年7月1日
第11回：松江藩土松原基と『消暑漫筆』（近世史部会：宇野田尚哉）	平成23年8月1日
第12回：七類の大敷網（自然環境部会：越川敏樹）	平成23年9月1日
第13回：東京出雲学生会（近現代史部会：竹永三男）	平成23年10月3日
第14回：松江城下町商家の営業計画（近世史部会：渡辺浩一）	平成23年11月3日
第15回：図解で知る近代化以前の山陰漁業（近現代史部会：伊藤康宏）	平成23年12月1日
第16回：美保関町七類の「鉈盗られ物語」のこと（民俗部会：酒井董美）	平成24年1月4日
第17回：伊能忠敬第八次測量隊の足跡をたどる（絵図・地図部会：面谷明俊・乾隆明）	平成24年2月1日
第18回：『(竹内右兵衛書つけ)』について（松江城部会：和田嘉育）	平成24年3月1日
第19回：国内最古の人物埴輪セット一石屋古墳一（原始古代部会：西尾克己）	平成24年4月1日
第20回：江戸時代の中海・宍道湖水運の主役「渡海船」（近世史部会：多久田友秀）	平成24年5月1日
第21回：気象の記録あれこれ（自然環境部会：田坂郁夫）	平成24年6月1日
第22回：松江市指定文化財（建造物）武家屋敷（松江城部会：足立正智）	平成24年7月2日
第23回：まぼろしの松江城博覧会（修正版第32回を参照）（松江城部会：山根正明）	平成24年8月1日
第24回：大庭梨について-松江藩主から徳川將軍家への献上品-（史料編纂室：福井将介）	平成24年10月1日
第25回：松江城創建に関わる祈祷札の発見（史料編纂室長：稲田信）	平成25年1月15日
第26回：松江開府を成し遂げた堀尾家に関わる石塔群-高野山奥之院-（史料編纂室：木下誠）	平成25年2月25日
第27回：中世宍道湖の汀線調査見聞録（史料編纂室：福井将介）	平成25年4月1日
第28回：松江城下町遺跡検討会が開催されました（史料編纂室長：稲田信）	平成25年7月21日
第29回：一生寄記-ある足軽の手記-（史料編纂室：内田文恵）	平成25年9月5日
第30回：文献史料から見る『松江城・松江城下町』（史料編纂室：石塚晶子）	平成26年1月22日
第31回：松江藩士の幕末維新期の記録（史料編纂室：北村久美子）	平成26年3月7日
第32回：再考・まぼろしの松江城博覧会（山根正明）	平成26年4月1日
第33回：松江藩御台所を取材した明治の新聞記事（史料編纂室：和田美幸）	平成26年5月15日
第34回：国内最古の警察署建築（初代松江警察署）発見のとき（史料編纂室長：稲田信）	平成26年6月10日
第35回：堀尾氏と三つの姓（史料編纂室：福井将介）	平成26年7月3日
第36回：松江城下での不思議な話（史料編纂室：福井将介）	平成26年8月21日
第37回：松江藩凶年時にみる藩の通達そして捨子・身元不明者・乞食の実相（史料編纂室：内田文恵）	平成26年9月19日
第38回：松江藩の切支丹類族の最後（史料編纂室：内田文恵）	平成26年11月27日
第39回：亀嵩城、決死の調査隊（史料編纂室：稲田信）	平成27年1月20日
第40回：古代出雲の中心地であった松江市域の新しい歴史像とその舞台となった自然環境 -『松江市史』通史編1「自然環境・原始・古代」の発刊-（史料編纂室：木下誠）	平成27年3月30日
第41回：飢饉における食料対策について（史料編纂室：和田美幸）	平成27年4月1日
第42回：文献史料から見る「松江城と松江城下町」その2（史料編纂室：石塚晶子）	平成27年5月1日
第43回：江戸時代松江市中のゴミ捨て場（史料編纂室：内田文恵）	平成27年6月1日
第44回：池尻家「御用留」（天明2年）-『史料編7近世3』より-（史料編纂室：北村久美子）	平成27年7月1日
第45回続：中世松江の「筌」漁業（中世史部会：西田友広）	平成27年7月3日
第46回：終戦前の松江市（史料編纂室：高橋真千子）	平成27年8月1日
第47回：85年ぶりの「新・松江城築城物語」（史料編纂室長：稲田信）	平成27年8月3日
第48回：松江の町屋住宅事情-大保惠日記に見る裏借屋のくらし-（史料編纂室：小山祥子）	平成27年9月1日
第49回：松江城天守幻視考（史料編纂室長：稲田信）	平成27年9月8日
第50回：江戸時代松江の糞尿処理事情（史料編纂室：内田文恵）	平成27年11月12日
第51回：「瀧川家代々記録」にみえる新屋（あたらしや）の一面（史料編纂室：和田美幸）	平成27年12月24日
第52回：編纂室のもう一つの仕事-古文書調査-（史料編纂室：和田美幸）	平成28年1月25日
第53回：野津左馬之助先生と『松江市史』（史料編纂課長：稲田信）	平成28年3月1日
第54回：初期松江城天守と千鳥破風（史料編纂課長：稲田信）	平成28年4月1日
第55回：松江藩のお家騒動・その1（史料編纂課：内田文恵）	平成28年5月19日
第56回：新発見の出雲名物番付（松江市史編集委員・近世史部会：鳥谷智文）	平成28年6月14日

第57回：一枚の写真から始まった宍道氏研究（史料編纂課長：稲田信）	平成28年8月9日
第58回：大名茶人・松平治郷と茶入「残月」（史料編纂課：小山祥子）	平成28年9月1日
第59回：松江藩のお家騒動・その2＜殿様斎貴＞（史料編纂課：内田文恵）	平成28年10月13日
第60回：今この時も松江市の歴史の中のほんの一瞬（史料編纂課：岩町紀子）	平成28年11月25日
第61回：第1次松江市総合計画はどこ？（史料編纂課：村角紀子）	平成28年12月28日
第62回：ふるさと文庫40号の発刊にあたって（史料編纂課長：稲田信）	平成29年2月1日
第63回：お殿様は松江城のどこに住んでいたのか？（史料編纂課：福井将介）	平成29年3月3日
第64回：「駅々御本陣御間取絵図」（史料編纂課：北村久美子）	平成29年4月14日
第65回：出雲地方の喫茶習慣についての一試論（史料編纂課長：稲田信）	平成29年5月11日
第66回：『松江市史』別編1「松江城」編集日記（史料編纂課：石塚晶子）	平成29年6月8日
第67回：女流俳人石橋秀野の松江疎開（史料編纂課：内田文恵）	平成29年7月10日
第68回：歴史史料と郷土愛（史料編纂課：岩町紀子）	平成29年8月24日
第69回：江戸中期、商人のお友達・人物画と俳句（史料編纂課：和田美幸）	平成29年10月16日
第70回：バートン・ホームズの見た1922年の松江（史料編纂課：村角紀子）	平成29年12月18日
第71回：松江城初代藩主・堀尾忠氏の発給文書について（史料編纂課：福井将介）	平成30年1月22日
第72回：松江城天守創建に関わる祈祷札の発見（パート2）（史料編纂課長：稲田信）	平成30年3月5日
第73回：松江の「隠れ茶室」（史料編纂課長：稲田信）	平成30年3月16日
第74回：松江市域における気象観測と物産陳列所（史料編纂課：小山祥子）	平成30年7月4日
第75回：松江城の桐の階段（史料編纂課長：稲田信）	平成30年7月9日
第76回：松江に暮らす庶民の記録「大保恵日記」紹介（史料編纂課：内田文恵）	平成30年8月22日
第77回：「松江城部会」ミニレポート（史料編纂課：石塚晶子）	平成30年9月19日
第78回：松江の水上飛行機（史料編纂課：高橋真千子）	平成31年2月3日
第79回：『松江市史』から読み解く「大橋川」と「大橋」の名称由来－大橋川の名称由来編－付録：「田町」町名考（松江市歴史まちづくり部次長：稲田信）	平成31年4月1日
第80回：推論：「大橋」の名称起源と斐伊川東流について（松江市歴史まちづくり部次長：稲田信）	平成31年4月1日
第81回：富田城下の寺院について（松江城部会長：西尾克己）	令和元年5月30日
第82回：『松江城を掘る』の刊行について（史料編纂課：石塚晶子）	令和元年6月25日
第83回：藩主治郷（不昧公）と女性たち、その明暗－「御産献立控帳」に見る－（史料編纂課：内田文恵）	令和元年8月20日
第84回：明治8年以前の松江城古写真と現在（松江市歴史まちづくり部次長：稲田信）	令和元年12月15日
第85回：松江の歴史文化を踏まえた文化財行政の将来ビジョン－市史編纂事業の成果を活かす－（松江城調査研究室専門企画員：藤井一）	令和元年12月25日
第86回：松江市における文書管理改善の歴史（昭和60年度～平成12年度）（史料編纂課：小山祥子）	令和元年12月27日

【表紙絵図の解説文】

「出雲国島根郡第六十五区美保関絵団面」(鶴鶴修一家蔵) 72.0×171.0 公図1-1

袋には墨書「大字美保関全図 三葉」とある。道は朱筋、田は黄色、畠は茶色、山は萌黄色に描かれた彩色地図で、墓地や櫓畠、無税地、石地（瘦せ地）などの区別あるが、色調はやや薄い。地目ごとに振られた番号が一筆ごとに記載されている。右下には土地の番号と地名との関係が記してある。美保関港付近の屋敷地と思われる区画は規則的に区切られている。この地図は、江戸期の描写方法を一部に残しており、さらに凡例の区分方法や色彩からみて明治6年から8年頃に作製された「地引絵図」で、島根県知事へ提出した控え図（写し）と思われる。



「出雲国島根郡第六十五区美保関絵団面」(鶴鶴修一家蔵) (全体図)

松江市歴史叢書13

松江市史研究 11号

2020年（令和2年）3月31日発行

編集 松江市歴史まちづくり部史料編纂課

発行 松江市

〒690-8540 島根県松江市末次町86番地

印刷 渡部印刷株式会社

〒690-0874 島根県松江市中原町192